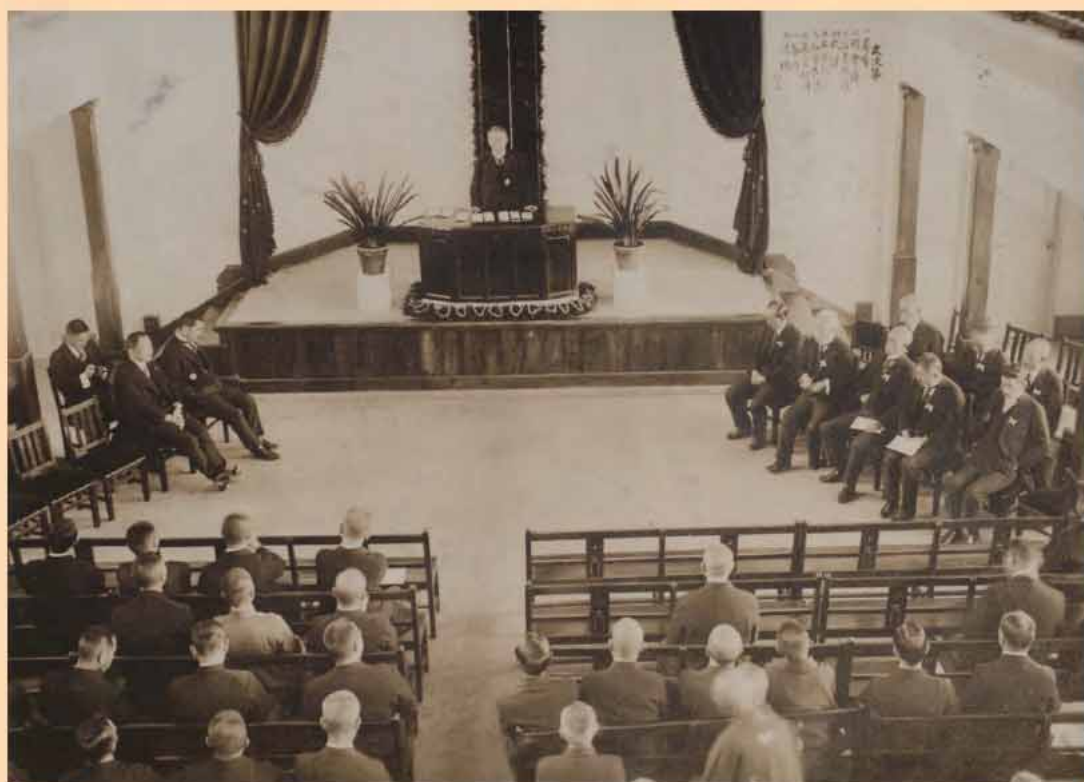


葵

50号 平成28年度



目 次

静岡県立中央図書館なつかしの風景

創立 90 周年を迎えて	静岡県教育委員会教育長 木苗 直秀	1
継ぎ、そして拓く	静岡県立中央図書館長 河原崎 全	2
静岡県立中央図書館 90 周年記念事業について		3
1 記念事業概要 2 部会別事業内容 3 記念事業一覧 4 記念事業報告 5 回想録		
6 沿革史 付属資料1 子ども図書研究室の歩み 付属資料2 “静岡県立中央図書館「葵文庫」活用事業”について		
7 略年表 8 歴代館長一覧		
I 当館の概要		60
1 沿革 2 平成 28 年度静岡県立中央図書館基本方針・事業体系 3 組織図		
4 職員 5 予算 6 資料 (1) 収集基本方針 (2) 資料概要		
II 事業報告 (平成 27 年度)		69
1 静岡県の図書館をめぐるこの 1 年 (平成 27 年度)		70
(1) 図書館をめぐる社会情勢と本県の動き (2) 静岡県立中央図書館の今後のあり方をめぐって		
(3) 県内市町の新図書館設置の動き (4) 静岡県図書館大会、関係団体関係事業等の開催		
2 利用状況統計		73
(1) 静岡県立中央図書館利用状況 (2) 協力貸出 (3) レファレンス		
(4) 静岡県視聴覚ライブラリー貸出状況 (5) 歴史文化情報センター利用状況		
3 図書館資料充実状況		76
(1) 図書資料 (2) 視聴覚資料・電子資料・マイクロフィルム等		
4 図書係		78
(1) 図書資料の充実 (2) 視聴覚資料の充実 (3) 図書館利用状況		
(4) 予約・リクエスト・相互貸借 (含協力貸出) (5) 子ども図書研究室		
(6) グランシップ県立図書館コーナー「えほんのひろば」 (7) 静岡県視聴覚ライブラリー (8) その他		
5 新聞雑誌係		85
(1) 逐次刊行物の充実 (2) 情報提供の充実 (3) その他		
6 一般調査係		87
(1) レファレンスサービス (2) 市町立図書館などへの支援		
(3) 特別取扱資料等の保存と公開 (4) その他の関連事業		
7 地域調査係		92
(1) 地域資料の充実 (2) 提供情報の充実 (3) 資料展示		
(4) 市町立図書館への支援 (5) 地域資料のデジタル化		
8 企画係		94
(1) 図書館職員研修 (2) 利用者からの意見 (3) イベント等 (4) 大人の読書推進事業		
(5) 図書館サポーター (6) 職場体験学習等 (7) 図書館広報 (8) ムセイオン静岡		
(9) 浙江図書館友好提携 (10) 市町立図書館等受取サービス		
付属資料 平成 27 年度「静岡県立中央図書館利用者アンケート」集計結果		
9 振興係		116
(1) 市町立図書館振興 (2) 関係団体との連携 (3) 協力車事業		
(4) 平成 27 年度 静岡県図書館大会		
10 総務係		120
(1) 図書館協議会		
11 管理係		121
(1) 施設設備の維持管理 (2) 施設利用状況		
12 健康医療情報サービス		122
(1) サービス内容 (2) 関連事業		
13 歴史文化情報センター		123
(1) 県史編さん資料の保存・整理・公開 (2) 利用状況		
14 資料紹介 戦前の静岡県史資料等 (その 2)		124
III 施設及びサービス案内		130
1 図書館配置図 2 施設の概要 3 閲覧室案内図 4 利用案内 (平成 28 年度)		
総目次 (41 号～49 号)		136
表紙	静岡県立葵文庫記念写真帖「開館式記念ノ一」	

静岡県立中央図書館なつかしの風景(県立英文庫時代 1925~1969)



大正 14(1925) 年 10 月に徳川家達卿(前列中央)が来館された時の集合写真。初代館長(前列左端)や作詞家の野口雨情(後列右端)などの姿も見える。



昭和 5(1930) 年、昭和天皇行幸の様子。当館の貴重書を閲覧された。右は貞松館長(当時)



開館当初の外観。当時は静岡市追手町のお堀端に立地していた。



堀の北側から見た英文庫の外観。左が本館、右隣には空襲で焼けてしまった講堂を見ることができる。



開館当初の館内風景。



開館当初の館内風景。児童室の様子。英文庫には小学校が隣接しており、児童の利用も多かった。

静岡県立中央図書館なつかしの風景(県立中央図書館時代 1970~2015)



移転当時の外観。当時は県立美術館設立前で、エントランス付近には大きな池があった。



昭和 61(1986)年夏季特別対策中の館内風景。現在のブラウジングには文庫本等が読める軽読書室があった。



平成 16(2004)年 6 月、子ども図書研究室オープン時の風景。左が鈴木善彦教育長、右が岩崎功館長(ともに当時)



平成 21(2009)年 8 月 11 日に発生した駿河湾地震発生直後の書庫の被害状況。



閲覧室の様子(平成 28(2016)年 1 月現在)



エントランス付近の外観(平成 28(2016)年 1 月現在)



創立 90 周年を迎えて

静岡県教育委員会教育長 木 苗 直 秀

静岡県立中央図書館は、大正 14(1925)年の「静岡県立葵文庫」創立から 90 周年を迎えました。県民の皆様並びに関係の皆様へ深く感謝申し上げます。

さて、情報技術が急速に進展した現在、インターネット利用の普及に加え、移動端末で時と場所を選ばず情報を取得、発信できる環境が実現しました。世界的に「電子書籍元年」ともいわれた平成 22(2010)年以降、新たな情報メディアや情報機器を活用した新たなライフスタイルが浸透してきています。

その一方で、従来の紙の本のよさも改めて見直されています。重みや手ざわりなど五感を通じて人間の思考や想像に働き掛ける読書は、子どもの成長に特に重要な役割を果たすものと考えられます。

県教育委員会では、個人として自立し、人との関わり合いを大切にしながら、よりよい社会づくりに参画し行動する「有徳の人」の育成を基本目標とした静岡県教育振興基本計画『「有徳の人」づくりアクションプラン第 2 期計画』に基づき、学校、家庭、地域や関係諸機関等との連携・協働のもと、社会総がかりで有徳の人づくりを目指す施策を展開しています。読書については、県民の皆様が生涯を通じて本に親しむ「読書県しずおか」の構築に向け、平成 26 年に「静岡県子ども読書活動推進計画（第二次中期計画）」を策定しました。

第二次中期計画では、静岡県の子どもたちが、自主的に読書活動を行い、生涯を通じて本に親しむ習慣を身につけることを目指しています。そのために、世代を超えて読書の素晴らしさを伝える親子読書の推進や、子どもの頃から本に親しむ習慣を身につけるための年代別ガイドブック「本とともにたち」の作成、高校生年代が自主的に読書に親しむ気運を醸成する「静岡県高等学校ビブリオバトル」の開催など、成長過程に応じた「読書環境の整備」「読書機会の提供」「読書活動の啓発」に努めています。

社会の変化に伴い公共図書館に対する要求は多様化しています。県立中央図書館では、「有徳の人」をめざす県民の学習意欲に応える知のインフラ（社会資本）として、県民文化の発展や地域の振興に寄与するため、「調べる、考える、解決する」を合言葉に、蔵書を活用して県民の学習や研究を支援するレファレンスサービスの充実、市町立図書館への支援の充実、静岡県に関わる資料や情報の積極的な収集とデジタル化による情報発信など、機能の高度化を推進してまいりました。

さらに、遠方から利用される方や仕事などで平日に来館できない方の便宜を図るため、平成 28 年 4 月から祝日開館をスタートしました。このほか、インターネットで県立中央図書館の本を予約し近くの市町立図書館で受け取ることができるサービスなど、県内どこからでも利用しやすい環境の整備に取り組んでいます。

県立中央図書館は、県民の皆様が知識や情報を入手する地域の情報センターの役割を担い、蔵書の充実を基盤に、職員の専門性を高め、県民の皆様へ信頼され親しまれる生涯学習の拠点として、本を通じた学びの機会をさらに充実してまいります。今後とも皆様方の御理解と御支援をお願い申し上げます。



つな 継ぎ、そして拓く

静岡県立中央図書館長 河原崎 全

このたび、県立中央図書館は創立 90 周年を迎えることができました。これもひとえに県民並びに関係機関の皆様の御理解と御協力の賜物であり、深く感謝申し上げます。

当館は、大正 14 (1925) 年 4 月、県庁東側に「静岡県立葵文庫」として開館いたしました。江戸幕府の旧蔵書を含む約 22,000 冊の資料、16 人の職員での始まりでした。人の一生においても 90 歳と言えば、容易に想像できない長い時間の中に様々な出来事が連続しているわけですが、当館におきましても、実に多くの歴史を経てきています。今年には戦後 70 年目の年でしたが、太平洋戦争中には書籍を疎開させたり、昭和 20 年 6 月の空襲では講堂などを焼失、加藤忠雄文庫長は決死の防火で蔵書を守ったりという苦難もありました。歴史の半ばである昭和 45 (1970) 年には、現在の谷田の丘に移転し、静岡県立中央図書館として、専門書を中心とした資料収集と高度なレファレンスサービスの充実、市町村立図書館(室)の支援、読書推進などを業務の核として新たにスタートいたしました。この間、県民の皆様の生涯学習の拠点として、時代とともに変化していく図書館の在り方に応えるべく、運営してまいりました。

さて、10 年前の平成の大合併によって新しく誕生した自治体の多くが、現在まちづくりの第二段階に入っています。そこでの図書館は、住民主体の市民協働のまちづくりに不可欠なものとして期待されるわけですが、経済状況がなかなか好転しない中、取り巻く状況は年々厳しさを増しています。資料費や専門職員の確保、施設の老朽化・狭隘化、時代の変化に対応したサービスなど多くの課題がありますし、運営形態に対する様々な考え方も話題になっているところです。当館においても、現施設の立地場所、老朽化・狭隘化等によって県民の皆様に御不便をおかけしており、心苦しきには大なるものがあります。そうした中で、80 周年以降、健康医療情報コーナーの設置、「葵文庫」の全ページ電子化とインターネット公開といったサービスの向上を図ったり、図書館講座(「葵レク」)や講演会、展示を積極的に実施することによって生涯学習の啓発を図ったりしてきました。また、浙江図書館との友好提携締結や草薙・東静岡地域の大学・文化施設による「ムセイオン静岡」の設立といった他館・地域の他施設との連携も進めているところです。

既に、百という次の大きな節目に向かっての新たな歩みが始まっています。本県唯一の県立図書館であることから、県域サービスの拡充を現在の大きなテーマの一つとしています。平成 28 年度からは、遠隔地からの利用の便宜を図るため、祝日開館やインターネット予約による市町村立図書館等受取サービスを始めます。市町村立図書館への支援にも力を入れ、最寄りの市町村立図書館を利用している多くの県民の皆様に対しても、間接的ではありますが、一層充実したサービスを展開していきます。また、当館をより多くの皆様に御利用いただくよう、広報にも力を入れていきたいと思っています。

結びになりますが、この機会に、社会教育の中の図書館の意義を問い直して当館の使命を再確認するとともに、県内図書館のリーダーとして、時代に対応した図書館づくり、県内各図書館のさらなる活性化への支援、「読書県しずおか」づくりへの寄与に励んでいきたいと思っています。今後とも皆様方の変わらぬ御支援をお願い申し上げます。

静岡県立中央図書館創立 90 周年記念事業について

1 記念事業概要

静岡県立中央図書館は、大正 14(1925)年 4 月、本県における教育の普及、文化の向上を図るため、「静岡県立葵文庫」として駿府城内(現在の静岡市クリエイター支援センター敷地内)に創設された。その後、昭和 45(1970)年には、県文化センター構想に基づき現在の地に移転し、本年は創立 90 周年にあたる。そこで、県民の文化活動・生涯学習の拠点としての図書館活動をさらに広く理解していただくため、各種記念事業を行うこととした。

記念事業は平成 26 年度に創立 90 周年記念事業準備委員会を組織し、職員が 3 つの部会「記念事業部会」「『葵』90 周年記念号部会」「予算・渉外部会」に分かれ準備を行い、平成 27 年度は同実行委員会として各種事業(「記念事業一覧」を参照)を開催した。

また、平成 27 年度は、徳川家康公薨去四百年の記念の年でもあり、家康公ゆかりの地である静岡市・浜松市ほか県内周辺市町で地域の魅力向上と活性化を目的に記念事業が推進された。そこで当館では、徳川家康公顕彰 400 年の趣旨を採り入れて創立 90 周年記念事業を計画し、県内の公共図書館でも各種イベント展示等を開催した。

2 部会別事業内容

(1) 記念事業部会

ア 記念講演会・講座

(ア) 創立 90 周年記念・大人の読書推進事業「ふじのくにブックレクチャー」

・平成 27 年 10 月 18 日(日) 静岡大学名誉教授 小和田哲男氏

演題:「本を読んで天下を取った家康一家康の読書遍歴を追う」(参加者 370 人)

(イ) 大人の読書推進事業・図書館講座「大人のたしなみセミナー」

・平成 27 年 9 月 12 日(土) 久能山東照宮博物館副館長 小林一哉氏

演題:「エンペラー家康の駿府外交」(参加者 112 人)

(ウ) 図書館講座「葵レク」

・平成 27 年 8 月 30 日(日) 戦国時代の城址講座 (公財)日本城郭協会学術委員会副委員長

加藤埋文氏

演題:「徳川幕府の城一天下政権の築城」(参加者 135 人)

・平成 27 年 10 月 31 日(土) 貴重書講座 葵文庫の会 田中文雄氏

演題:「葵文庫の大正と昭和」(参加者 61 人)

イ 企画展示

(ア) 徳川氏関連図書特集展示

(イ) 上村翁旧蔵浮世絵集展示

(ウ) 徳川家康公顕彰 400 年記念巡回展示

ウ 記念品の配布

県立中央図書館を身近に感じていただくため、当館所蔵資料の浮世絵を絵柄にしたオリジナル・ブックカバーを作成し来館者に配布した。

(2) 『葵』90 周年記念号部会

平成 28 年度発行の静岡県立中央図書館報『葵』を 90 周年記念号とし、当館 90 年の略年表や元中央図書館長、職員等による寄稿、創立 90 周年記念事業の内容等をまとめた。

(3) 予算・渉外部会

歴代館長、平成 17 年度以降の図書館勤務者、県内図書館、図書館関係者等に 90 周年記念事業の概要やイベントの内容を通知するなどの渉外業務を行った。

3 記念事業一覧

(1) 講演会・講座

	演題・講師	日時・会場
ふじのくに ブックレクチャー	「本を読んで天下を取った家康 —家康の読書遍歴を追う—」 小和田哲男氏(静岡大学名誉教授)	平成27年10月18日(日)午後2時～3時30分 静岡県立大学 大講堂
大人の たしなみセミナー	「エンペラー家康の駿府外交」 小林一哉氏(久能山東照宮博物館副館長)	平成27年9月12日(土)午後2時～3時30分 静岡県立中央図書館 講堂
葵レク	戦国時代の城址講座 「徳川幕府の城—天下政権の築城—」 加藤理文氏(公益財団法人日本城郭協会 学術委員会副委員長)	平成27年8月30日(日)午後2時～3時30分 静岡県立中央図書館 講堂
葵レク	貴重書講座 「静岡県立葵文庫の大正と昭和」 田中文雄氏(葵文庫の会)	平成27年10月31日(土)午後1時30分～3時 静岡県立中央図書館 会議室

(2) 企画展

	展示資料	期間・会場
徳川氏関連図書 特集展示	①「三河松平氏時代」 ②「家康公の生涯」 ③「幕政時代の静岡県」 ④「幕末維新时期～そして現代」	①平成27年6月10日～6月29日 ②平成27年10月1日～10月29日 ③平成27年12月1日～12月27日 ④平成28年3月1日～3月29日 静岡県立中央図書館 閲覧室
上村翁旧蔵浮世絵 集展示	①冬(5/11～25) 「千代田之大奥元旦二 度目之御飯」、「千代田之大奥園中の雪」 ②新春(5/26～6/8) 「千代田之大奥節 分」、「千代田之大奥歌合」 ③春(6/10～22) 「千代田之大奥雛拝 見」、「千代田之大奥御花見」 ④梅雨(6/23～7/6) 「千代田之大奥花菖 蒲」、「千代田之大奥神のくるひ」 ⑤夏(7/8～19) 「千代田之大奥七夕」、 「千代田之大奥入浴」 ⑥秋(7/21～8/3) 「千代田之大奥観菊」、 「千代田之大奥月見宴」	平成27年5月11日～8月3日 静岡県立中央図書館 閲覧室
徳川家康公顕彰400 年記念巡回展示	徳川関連本、パネル等の展示(葵文庫の 説明、家康と静岡の関係紹介)	平成27年 ①7月23日～8月10日 静岡市立清水中央図書館 ②8月12日～8月20日 三島市立図書館 ③8月22日～9月1日 浜松市立中央図書館 ④9月3日～10月18日 静岡県立中央図書館

(3) 記念品

	作成部数	配布時期
クリアファイル	1,000部	平成27年4月～12月
浮世絵ブックカバー	1,000部	平成27年10月～11月

4 記念事業報告

(1) 記念講演会

ア ふじのくにブックレクチャー

「本を読んで天下を取った家康 一家康の読書遍歴を追う」

講師：静岡大学名誉教授 文学博士

小和田 哲男（おわだ てつお）氏

日時：平成27年10月18日（日）午後2時～3時30分

会場：静岡県立大学大講堂

徳川家康顕彰400年と当館創立90周年に合わせ、「徳川家康と読書」をテーマに開催された。当日は、県内各地から歴史や徳川家康に興味関心のある方が多く集まり、370人の参加があった。

講演は、徳川家康が幼少期から晩年にかけて、どのような本をどのような形で読み、それを自分の天下取りにどう生かしていこうとしていたのか、という内容のお話であった。そして、家康が読んだとされる書物の内容や、それを家康に教えた人物にスポットを当て、具体的な事例を紹介していただいた。

家康は駿府の地で人質になっていたことで有名だが、その時代に臨済寺の和尚雪斎から多くの教えを受けたことにも触れられた。当時家康が学んだとされる「武経七書」は、一般的には兵法書と言われているが、家康はそこからリーダー論も学んでいたのではないかという持論も展開された。

講演中、多くの参加者の関心を集めたのは、家康が占い好きであったというエピソードである。当時は科学的な状況だけで戦いを仕掛けていたのではなく、神仏も頼りにしていたこと、家康が教えを受けた当代一の易者と言われた閑室元信には、合戦の日取りを占わせていたという記録も残っていることなどが紹介された。

また、家康の一番の愛読書として『貞観政要』と『吾妻鏡』が紹介された。家康はこれらを藤原惺窩や林羅山から学んでいたが、単なる学問として学ぶだけではなく、政治の場にうまく生かす読み方をしていたと具体例を挙げながら説明していただいた。

最後に家康が展開した現代につながる素晴らしい事業として、散佚の恐れがある書籍の書写と出版事業が紹介された。家康は散佚の恐れがあると判断した書籍を3部書写し、朝廷、江戸幕府、所蔵者で持つように複製を作っており、この取り組みから万一の際にも書籍を後世に残したいという家康の熱意が

感じられるとのことである。出版事業については、伏見で展開した「伏見版」は、家康が関ヶ原の戦いで勝つ前年である慶長4年から始まっており、当時から自身が天下を取っていく将来を見据えていたことや、武断政治的な時代から文治の世に持っていきたいという考えが感じられること、晩年に駿河で展開された「駿河版」からも、騒乱の世が終わり文治政治の世になったということ意識していたことが感じられると紹介された。

講演中は熱心に聴講する参加者の姿が多くみられた。アンケートには「家康公が本、書籍の継承事業に取り組んでいたことを知って感動しました。」「楽しいお話だった。家康が天下を取れた要因の一つは書物からくる知性だと感じた。」などの感想が多数寄せられた。

小和田哲男氏 講演会
本を読んで天下を取った家康
—家康の読書遍歴を追う—

徳川家康という人、誰、誰にも
負けず、本など読んでいても寝たどな
かたのどは本を奪ってでも読むが
が、読む目的は本としてではなく、
多く、本から多くの教訓を得ていた。
その中でも『武経七書』といっ
たのが家康の愛読書である。林羅山
が家康に教えたのは、よく本を
読んでいながらだったという教訓が
家康に家康の読書遍歴を追う

小和田哲男氏
静岡大学名誉教授

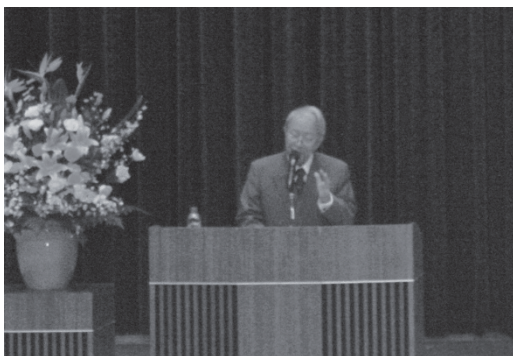
PROFILE
1943年 静岡県浜松市生まれ
1972年 静岡県立大学文学部中文学科卒業
1975年 静岡県立大学文学部中文学科専攻 博士課程修了
1977年 静岡県立大学文学部中文学科専攻 博士課程修了
1978年 静岡県立大学文学部中文学科専攻 博士課程修了
1980年 静岡県立大学文学部中文学科専攻 博士課程修了
1981年 静岡県立大学文学部中文学科専攻 博士課程修了
1982年 静岡県立大学文学部中文学科専攻 博士課程修了
1983年 静岡県立大学文学部中文学科専攻 博士課程修了
1984年 静岡県立大学文学部中文学科専攻 博士課程修了
1985年 静岡県立大学文学部中文学科専攻 博士課程修了
1986年 静岡県立大学文学部中文学科専攻 博士課程修了
1987年 静岡県立大学文学部中文学科専攻 博士課程修了
1988年 静岡県立大学文学部中文学科専攻 博士課程修了
1989年 静岡県立大学文学部中文学科専攻 博士課程修了
1990年 静岡県立大学文学部中文学科専攻 博士課程修了
1991年 静岡県立大学文学部中文学科専攻 博士課程修了
1992年 静岡県立大学文学部中文学科専攻 博士課程修了
1993年 静岡県立大学文学部中文学科専攻 博士課程修了
1994年 静岡県立大学文学部中文学科専攻 博士課程修了
1995年 静岡県立大学文学部中文学科専攻 博士課程修了
1996年 静岡県立大学文学部中文学科専攻 博士課程修了
1997年 静岡県立大学文学部中文学科専攻 博士課程修了
1998年 静岡県立大学文学部中文学科専攻 博士課程修了
1999年 静岡県立大学文学部中文学科専攻 博士課程修了
2000年 静岡県立大学文学部中文学科専攻 博士課程修了
2001年 静岡県立大学文学部中文学科専攻 博士課程修了
2002年 静岡県立大学文学部中文学科専攻 博士課程修了
2003年 静岡県立大学文学部中文学科専攻 博士課程修了
2004年 静岡県立大学文学部中文学科専攻 博士課程修了
2005年 静岡県立大学文学部中文学科専攻 博士課程修了
2006年 静岡県立大学文学部中文学科専攻 博士課程修了
2007年 静岡県立大学文学部中文学科専攻 博士課程修了
2008年 静岡県立大学文学部中文学科専攻 博士課程修了
2009年 静岡県立大学文学部中文学科専攻 博士課程修了
2010年 静岡県立大学文学部中文学科専攻 博士課程修了
2011年 静岡県立大学文学部中文学科専攻 博士課程修了
2012年 静岡県立大学文学部中文学科専攻 博士課程修了
2013年 静岡県立大学文学部中文学科専攻 博士課程修了
2014年 静岡県立大学文学部中文学科専攻 博士課程修了
2015年 静岡県立大学文学部中文学科専攻 博士課程修了
2016年 静岡県立大学文学部中文学科専攻 博士課程修了
2017年 静岡県立大学文学部中文学科専攻 博士課程修了
2018年 静岡県立大学文学部中文学科専攻 博士課程修了
2019年 静岡県立大学文学部中文学科専攻 博士課程修了
2020年 静岡県立大学文学部中文学科専攻 博士課程修了
2021年 静岡県立大学文学部中文学科専攻 博士課程修了
2022年 静岡県立大学文学部中文学科専攻 博士課程修了
2023年 静岡県立大学文学部中文学科専攻 博士課程修了
2024年 静岡県立大学文学部中文学科専攻 博士課程修了
2025年 静岡県立大学文学部中文学科専攻 博士課程修了

日時 10月18日(日)
14:00～15:30
会場 静岡県立大学大講堂
(静岡市駿河区谷田 52-1)
定員 600人(要事前申込・先着順)
入場 無料

申込みは電話、メール、FAX、ウェブ。
本日は県立中央図書館が主催です。
高年、少人数、遠方参加者をお迎えします。

主催 静岡県立大学 静岡県立中央図書館
後援 静岡県立大学文学部 静岡県立中央図書館
協賛 静岡県立大学文学部 静岡県立中央図書館
お問い合わせ 054-243-4111
Eメール: owada@ipc.shizuoka.ac.jp

問い合わせ先
静岡県立中央図書館
〒420-8501 静岡市駿河区谷田52-1
TEL: 054-243-4111
FAX: 054-243-4112
Eメール: central@ipc.shizuoka.ac.jp



イ 大人のたしなみセミナー 「エンペラー家康の駿府外交」

講師：久能山東照宮博物館副館長 小林 一哉（こばやし かずや）氏

日時：平成 27 年 9 月 12 日（土） 午後 2 時～3 時 30 分

会場：静岡県立中央図書館講堂

徳川家康にスペイン国王フェリペ 3 世から送られた「西洋時計」のレプリカが完成した直後という良いタイミングで、家康と西洋時計についてお話しいただいた。

カトリックとプロテスタントがそれぞれ世界に進出していく中で、家康がウィリアム・アダムスを側近に据えて、スペインを追放してイングランドやオランダとの貿易を希求する姿を語っていただいた。駿府が当時の外交の拠点であった事実を改めて示していただき、地域の歴史に対する理解を深める講演となった。

会場には、112 名の受講者が集まり、「初めて聞くことが多く、非常に興味深かった。」「西洋時計がもたらした家康外交、歴史が分かった。」といった感想が多数寄せられた。



ウ 葵レク 戦国時代の城址講座「徳川幕府の城」

講師：日本城郭協会学術委員会副委員長 加藤 理文（かとう まさふみ）氏

日時：平成 27 年 8 月 30 日（日） 午後 2 時～3 時 30 分

会場：静岡県立中央図書館講堂

昨年好評だった加藤氏の城址講座を今年も開催した。前半では家康の城作りの特徴について「徳川系城郭は、広域に城郭網を連動させ、必要な城へと兵力を集中できるようにした。また、誰が入っても城の能力をフルに発揮できるよう同一の構造で築城された」など明快に語っていただいた。後半では、駿府城について、家康の隠居城として、東海道からの眺めや富士山とのコントラストを意識し、大御所の権勢を示すための城として築かれたことをお話いただき、現存しない駿府城に思いをはせる講演会となった。



当日は雨にも関わらず、135 名の受講者が集まり、講師の話に熱心に耳を傾けた。受講者からは「詳しく説明され、大変良かった。」「本講師の連続講座を作って欲しい。」といった感想が多数寄せられた。

エ 葵レク 貴重書講座「静岡県立葵文庫の大正と昭和」

講師：葵文庫の会 田中 文雄（たなか ふみお）氏

日時：平成 27 年 10 月 31 日（土）午後 1 時 30 分～3 時

会場：静岡県立中央図書館会議室

平成 27 年 10 月 31 日、当館 3 階会議室にて葵文庫の会 田中文雄氏を講師に迎え貴重書講座を開催した。本年度の講座は、創立 90 周年事業の一環となるため、「静岡県立葵文庫の大正と昭和」と題し、当館の前身である静岡県立葵文庫の歴史をテーマとするものになった。以下に同講座の概要を紹介する。

◇ ◇ ◇

貴重書講座で葵文庫と言うと、貴重書の葵文庫と思われるかもしれないので、タイトルは静岡県立葵文庫とし、今回は図書館についての話である。貴重書が全くないのもさびしいので、いくつか展示している。講演終了後またご覧いただければと思う。徳川宗家第 16 代徳川家達氏直筆の葵文庫の扁額もある。今は貴重書庫に保管しているが、かつては館長室、当初は閲覧室に飾られていた。



徳川家達氏直筆の葵文庫の扁額

葵文庫は、昭和 45 年に現在地に移転したのを機に県立中央図書館へ名称が変わった。今年 90 周年となる県立図書館の歴史の中でちょうど折り返しの年である。県庁近くにあった葵文庫は移転 1 年前に閉鎖されている。（注：図書館法により昭和 31 年 11 月に県立中央図書館葵文庫と名称変更した。）

今回の講演は、葵文庫の創立前後と、空襲の頃にスポットを当てる。

県立葵文庫の建物について

静岡県立葵文庫は、県庁お堀端の現クリエイター支援センター（旧青葉小学校）の一角にあった。現在地に移転した後の葵文庫の建物は、静岡市に図書館がなかったこともあり、静岡市立図書館として使用された。跡地には記念碑が立っている。葵文庫の建物の様子を知るため、市立図書館時代の建物を「あ



おぼ 創立三十周年記念誌（青葉小学校）」や個人提供の写真で紹介する。昭和5年天皇行幸時の写真もアルバムとして当館に残っているので、これも紹介する。県立図書館時代と市立図書館時代の建物は、外見はあまり変わっていないが、中は改修している。県立では設計図を保存していないが、静岡市役所には改修の際の図面が保存されていて、情報公開制度によりデータの提供を受けた。

葵文庫の創立へ

大正8年8月、関屋貞三郎知事が県立図書館設立を決意し、その後大正10年3月道岡秀彦知事が「葵文庫趣意書並計画概要」を発表、同11月に設立を県会に提案、議決された。11年11月に静岡県立葵文庫の設立が国より認可、12年12月起工、13年10月に竣工している。10月30日には初代文庫長貞松修蔵氏が就任し、司書以下の職員を任用している。11月10日より開館準備の事務を開始し、同日から日誌が始まりその中には「同日を以て本文庫記念日と定む」と記載されているが、現在その日に関して特に祝っていない。日誌には、当時秋田県立図書館に



紀州徳川家徳川頼貞氏寄贈の駿河版『群書治要』

司書として勤めていた加藤忠雄氏（後の文庫長）へ打電、帽子掛け納入、ストーブ設置などの記述がある。この年には、徳川幕府旧蔵の和漢洋書3,387冊が、静岡学問所、静岡師範学校を経て葵文庫に移管された。これが現在の特殊コレクションとしての葵文庫である。（その後、東大や一橋大に分けているので現在と数が違っている。）他に静岡中学校所蔵の和漢洋書が移管、静岡県教育会附設静岡図書館の図書雑誌が寄贈され、関口壮吉氏より父隆吉氏（静岡県第3代県令・初代県知事）収集の図書、文書、記録類である久能文庫（2,058冊）が寄贈された。14年3月には隆吉氏の次男で広辞苑の編集者として有名な新村出氏から駿河御譲本『春秋公羊伝 上下』を寄贈されている。また、開館後の昭和3年11月に紀州徳川家第6代当主徳川頼貞氏より駿河版『群書治要』47冊の寄贈を受けている。

葵文庫の設立費17万円のうち14万2千円は寄付で賄われ、残額2万8千円が県費で支出されている。最も多い5万円を寄付してくれたのは、四日市市生まれで静岡電気鉄道株式会社専務をしていた熊沢一衛氏であった。もともとは県の社会事業にと寄付された5万円であったが、図書館設立は社会事業であろうということで図書館設立に使用された。その後熊沢氏は昭和4年に四日市市へ図書館を寄付し、その建物は現在国の登録有形文化財となっている。葵文庫は大正14年の建物なので残しておけば文化財になっていたかもしれないので残念に思う。他に徳川家達氏（徳川宗家第16代当主）が3万円、徳川慶光氏（慶喜氏の孫）が2万円、渋沢栄一氏（実業家）、大川平三郎氏（渋沢氏の甥 富士製紙社長）が1万5,000円、植村澄三郎氏（札幌麦酒社長）が1万円、さらに静岡市からも2,000円の寄付を得ている。

葵文庫の開館

大正14年3月28日の開館式には現在の掛川市出身の岡田良平文部大臣が祝辞を述べ、徳川家達氏、関屋貞三郎元知事が祝電を打っている。この祝電は今も資料として保管されており、関屋元知事は祝電の中で多額の寄付をした熊沢氏への感謝の辞を述べている。4月1日に蔵書約2万2,000冊、職員16名で開館となった。その後昭和11年に初代貞松文庫長が退職し、囑託となったが、昭和15年に加藤忠雄文庫長が就任するまでは文庫長は不在で、館長事務取扱職が置かれていたため、加藤氏が第2代の文庫長であった。昭和12年に元文庫長の貞松氏が中心となり、フランス人ショメール編さんの百科全書を邦訳した『厚生新編』を活字化して復刻頒布している。

学習院大学の青木祐一助教は、当時の葵文庫が持つ「機能としてのアーカイブズ」の意義について、「①「久能文庫」および幕府旧蔵の書籍や文書・記録類が蔵書・コレクションの基礎となっていたこと ②郷土資料として文書・記録類が積極的に収集・保存・公開されていたこと ③郷土資料展覧会によって資料保存の重要性が訴えられていたこと ④図書館への公文書の移管と保存・公開が提唱されていたこと」の4点にまとめている¹⁾。この論文の中では「現在においても未だに県立のアーカイブズ機関をもたない静岡県にとって、戦前の葵文庫が果たした「機能としてのアーカイブズ」の存在意義は大変大きかったと言えるだろう」と述べて、公文書館のない静岡県の現状を指摘している。

また、今では考えられないが、当時は本を借りるのにお金が必要だった。本県内に住所をもち、使用料3円を納めた上に、①年齢20歳以上で直接国税3円以上を納めている者 ②年齢17歳以上で①の者の保証がある者 ③官公吏、学校職員、のどれかに該当する必要があるがあった。使用料の3円は必要であるが官公吏などは納税条件において優遇されていたようだ。

貴重書の疎開と静岡空襲

昭和20年度の事務室日誌で数えたところ、1月3日から3月6日の間に空襲警報が44回あった。3月6日に春日町及び市立一中に爆弾が投下されたためか、翌7日に加藤文庫長が貴重書疎開先調査のため安倍郡玉川村方面に出張している。その後、8日貴重図書疎開荷造手配、9日文庫長貴重書疎開先調査のため龍爪山方面出張、18日貴重書疎開美和第二、第三国民学校分運搬、19日貴重書疎開北沼上国民学校分運搬、20日貴重書疎開庵原郡西奈村平山古林金一宅運搬など、3月中に貴重書を7か所に疎開させている。どの貴重書が疎開したのか記録がなく分からないが、現在の葵文庫や久能文庫ではないかと考えられる。5月23日午前0時半ごろ敵機来襲、焼夷弾投下され、市中3か所火災発生するも葵文庫は無事だった。6月8日、12日加藤文庫長図書疎開のため美和村に出張。これは貴重書と書いていないので、貴重書の次の段階として参考図書つまり辞典類だったかと思われる。6月13日(県庁)秘書課及庶務課より図書疎開し来る、とある。葵文庫の図書が疎開しているのにおかしな話だが、県庁よりこちらの方が安全だと思ったのだろう。

6月20日静岡大空襲があったが、その様子については昭和20年6月19日の宿直日誌に詳しい。後で配布資料を読んでいただきたい。後に加藤元文庫長が「戦時下のことなど」と題し、回想している²⁾。その中に「毎晩のように日本の中小都市が消えて行き、葵文庫でも蔵書の疎開を考えねばならなくなった。(略)職員総掛りで荷造りをし、縁故をたよって中藁科、竜爪山麓の平山など、安全と思われる地方へ分散疎開した。運搬のトラックなど得られないので、職員が手分けしてリヤカーで運んだ。この第一次疎開は、貴重図書を主とし、日常生活には必要のない、羽織や袴のようなものであった。」とある。上手な例えである。何かなければ羽織や袴などは着ない。戦争中でも図書館は開館していたが、これらの貴重図書は普段の利用者には関係ないものでもあるし、守らなければならない、と。「(昭和20年6月19日の晩)火災は全市にひろがり、その火に照らされてB29の低空を飛ぶ姿もよく見えた。葵文庫も多くの焼夷弾をうけたが、三方を火に囲まれた書庫を焼かないようにと見廻ると、木製の書庫は熱くなっていた。玄関にあった防火水槽の水をバケツにくんで、書庫の通路に捲き、湿度を保つように努めた。夜明け方になると、市中の火はまだ燃えさかっていたが、B29の影は見えなくなり、蔵書



は奇跡的に助かった。空襲の間を見て逃げようとしたが、城代橋は落ち、中濠の水の上では焼夷弾が燃えていたし、四方火に囲まれて、逃げるに逃げられず、防火活動をしたことが、書庫に火を入れないで済んだのかもしれない。それを単身踏み留まって七万の蔵書を守り抜いたなど新聞にデカデカ書きたてられ、聊か面映ゆい気持ちが、しないでもなかった。」これは6月25日の新聞に『独力7万冊救う』と記事になっていたことを受けている。

また、葵文庫では昭和18年に発見された登呂遺跡の出土品も預かっていた。加藤文庫長は戦後静岡県文化財保護審議会の会長も務めており、後に登呂遺跡の遺物のうち建築材などの大きなものは収納場所がなく外に置いていたので焼けてしまったが、屋内に置いたものや防火水槽の中に入れてあったものは助かった旨の記述をしている。そして「然し若し先見の明といふのがあったなら、あの貴重建造物の一片をさへ焼きはしなかったのに」と、遺物が焼けてしまったことへの悔恨を述べている³⁾。しかし、致し方のないことだったと思う。

さて、日誌の方に戻ると、空襲の後6月24日に被害調査書提出、7月1日より事務開始となっている。空襲から10日しか経っていないのにすごいことだ。7月7日清水市焼夷弾攻撃さる、火災全市に被害甚大の様態、と記載されているが、その一週間後の14日には「文庫長清水市立図書館復興問題につき清水市出張」とある。フットワークが素晴らしい。8月15日ポツダム宣言条項受諾の記載の後には「あゝ」と書いてある。そのような感情の記述はここだけである。昭和21年4月17日文庫長疎開貴重図書の件にて静岡市北沼上国民学校及び庵原郡西奈村平山古林金一宅へ出張とあり、この頃になって落ち着いてきて資料を受け取りに行けるようになったようだ。

◇ ◇ ◇

開館90周年の本年、静岡県立葵文庫の歴史についてさまざまな資料・記録からうかがい知ることができ、大変有意義であったと思う。開館当初と戦時中という厳しい時代を支えた先人たちの努力のもとに現在の静岡県立中央図書館があるということを忘れず、100周年へと歩みを進めていきたい。

- 1) 「静岡県立葵文庫とその事業—アーカイブズの観点から」研究年報59輯、2013年3月、学習院大学文学部、99-117p
- 2) 「戦時下のことなど」葵 静岡県立中央図書館報5号、1975年11月、静岡県立中央図書館、32p
- 3) 「遺物を焼く」郷土文化3号、昭和24年9月、静岡県郷土文化研究会、27-28p



(2) 企画展示

徳川家康公顕彰 400 年記念に併せて、当館の歴史・資料を紹介することを目的とし、ア 徳川氏関連図書特集展示、イ 上村翁旧蔵浮世絵集（千代田の大奥・富士山等）展示、ウ 徳川家康公顕彰 400 年記念巡回展示を行った。

ア 徳川氏関連図書特集展示

閲覧室入口の特集展示棚において実施した展示の概要は、以下のとおりである。

(ア) 「三河松平氏時代」 6 月 10 日（水）～6 月 29 日（月）

松平親氏公に始まる徳川家の祖先とともに、同時代の静岡県域に君臨した今川氏に関連する資料も展示した。

展示資料例：『戦国時代の徳川氏』煎本増夫／著（新人物往来社）当館請求記号 210.47/11

(イ) 「家康公の生涯」 10 月 1 日（木）～10 月 29 日（木）

徳川家康公一代に関連する資料を展示した。

展示資料例：『徳川家康（上）』山路愛山／著（岩波書店）080/113-4

(ウ) 「幕政時代の静岡県」 12 月 1 日（火）～12 月 27 日（日）

秀忠公以降の幕政期において、現静岡県域に封建・配置された藩（大名）、旗本・御家人、代官、遠国奉行に関する資料を展示した。

展示資料例：『鬼平と出世 旗本たちの昇進競争』山本博文／著（講談社）081.06/117/1607



(エ) 「幕末維新时期～そして現代」 3 月 1 日（火）～3 月 29 日（火）

慶喜公、当館にゆかりの深い家達公を中心に、幕末維新时期の激動の時代を伝える資料、及び徳川家後裔の人々に関する資料を展示した。

展示資料例：『徳川慶喜 将軍家の明治維新』松浦 玲／著（中央公論社）081.06/115/397

イ 上村翁旧蔵浮世絵集（千代田の大奥・富士山等）展示

閲覧室入口横の「しずおかの貴重書コーナー」において実施した展示の概要は、以下のとおりである。

(ア) 「千代田之大奥」 5 月 11 日（月）～8 月 3 日（月）。約 2 週間ごとに浮世絵を入れ替えた。

徳川家に関連した浮世絵ということで、楊州周延作の千代田之大奥シリーズから選んで展示をした。

展示資料：『千代田之大奥元旦二度目之御飯』K915-108-031-003・『千代田之大奥園中の

雪』 K915-108-031-004

『千代田之大奥節分』 K915-108-031-005 ・ 『千代田之大奥歌合』 K915-108-031-006

『千代田之大奥雛拝見』 K915-108-031-008 ・ 『千代田大奥御花見』 K915-108-031-009

『千代田の大奥花菖蒲』 K915-108-031-012 ・ 『千代田の大奥狝のくるひ』 K915-108-031-013

『千代田之大奥七夕』 K915-108-031-014 ・ 『千代田之大奥入浴』 K915-108-031-015

『千代田の大奥観菊』 K915-108-031-016 ・ 『千代田の大奥月見宴』 K915-108-031-017

(イ) 「群書治要」 9月1日(火)～9月29日(火)

江戸幕府の治世の参考にするため、徳川家康が日本で最初の銅活字本として出版した本書を展示した。

展示資料：『群書治要』 K074/1



(ウ) 「富士山」 2月5日(金)～3月7日(月)

富士山が描かれている浮世絵を選んで展示をした。

展示資料：『駿河国富士山絵図』 S089. 2/157 ・ 『富士三十六景はこねの湖すい』

K915-108-021-021 ・ 『竜華寺より富士を望む図』 S294. 2/18 ・ 『富岳百景』 S089. 7/1

ウ 徳川家康公顕彰 400 年記念巡回展示

徳川家康公顕彰 400 年にあたり、第3回家康公検定の実施にあわせて当館が所蔵する徳川関連本の巡回展示を行った。

会場：静岡市立清水中央図書館・三島市立図書館・浜松市立中央図書館・静岡県立中央図書館

展示資料例：『駿府の大御所徳川家康』 小和田 哲男／著（静岡新聞社） S289/ト 3-28

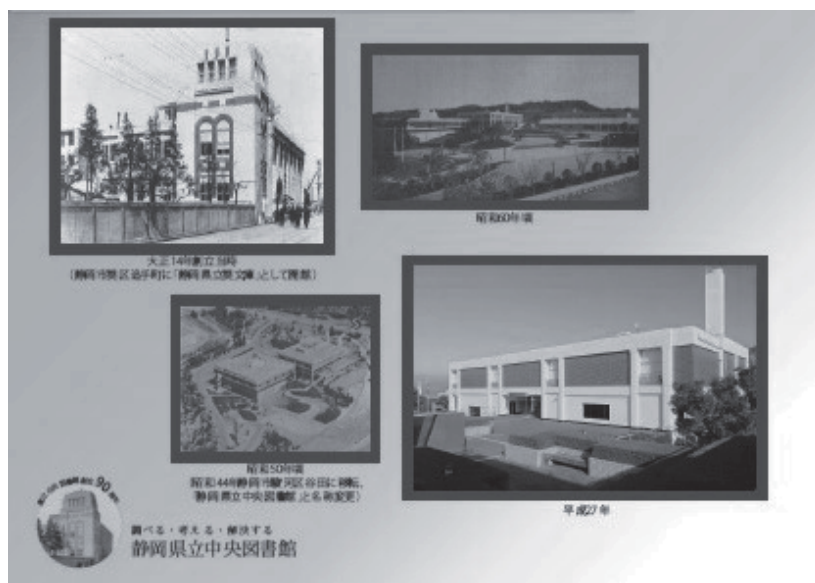


(3) 記念品

創立 90 周年記念として、当館の変遷を表す写真を使用したオリジナルクリアファイル及び当館所蔵の徳川家康に関連する浮世絵を使用したブックカバーを作成し、記念イベント参加者及び来館者に配布した。

ア クリアファイル

- ・配布期間 平成 27 年 4 月～平成 27 年 12 月
- ・印刷枚数 1,000 枚
- ・サイズ A 4



「大正 14 年創立当時」「昭和 60 年頃」「昭和 50 年頃」「平成 27 年」
の静岡県立英文庫及び静岡県立中央図書館

イ ブックカバー

- ・配布期間 平成 27 年 10 月 18 日 (日)
平成 27 年 10 月 24 日 (土) ～ 11 月 8 日 (日)
- ・印刷枚数 1,000 枚
- ・サイズ A 4



【孟齋画『元龜三年十二月味方ヶ原戦争之図』】

5 回想録

図書館新時代の幕開け 60周年の頃

鈴木 嘉弘

(元静岡県立中央図書館長)

「還暦を機に新たな第一歩を」これは『県立中央図書館 60周年記念 葵 20号』(昭和 61年 2月)の三浦孝一県教育長の巻頭の辞である。

私は昭和 60年 4月、県立中央図書館長を任命された。学校図書館のことは、学校現場・県教育委員会での担当として、ささやかながら少しは経験があるが、公立図書館は全く初めてだったので戸惑いが大きかった。

幸い参考資料はすぐ手の届くところにあるし、周りはその道の専門家ばかり、日本図書館協会関係の資料、日野市・浦安市・置戸町・東京都・滋賀県などなどの先進例などから、おぼろげながら私なりの公立図書館・県立図書館像が形成されてきた。

特に強く感じたのは、①生涯学習社会の到来で、図書館が生涯学習の拠点として重要視されてきており、各地でその利活用が活発になってきていること。②県立図書館は市町村図書館の支援機能を果たすべきこと。③それに対して、静岡県の現状はまだまだきわめて不十分な状態にあること、であった。

県立中央図書館は、昭和 45年、県の文化センター建設構想の一環として、市中心部から郊外の現在地に新築移転し、調査研究のための図書館を標榜してその充実に努めていたが、二線図書館としての活動は必ずしも十分ではなかった。

4月下旬の県図書館協会総会では、県立図書館一県一が市町村図書館のことを考えてくれないという強い声が噴出、私は「県全体の図書館振興をどうするか」も大きな課題だと強く受け止めた。

幸い、松井哲前館長が「今後の静岡県立中央図書館の在り方」について県立中央図書館協議会に諮問しており、11月にはその答申があった。その主旨は次のとおりである。

県立図書館は知的情報活動の中核機関として、また市町村図書館のための図書館及び生涯学習の拠点として、多様化する学習ニーズに応える資料の収集、情報の検索の迅速化とレファレンス機能の充実を進め、県民の期待に応える必要がある。そのため、市町村図書館等関係機関と連携を深めるとともに、職員の使命感の高揚、専門性の向上に努めること。

当時県立中央図書館の蔵書は約 28万冊、逐次刊行物は 4,865タイトル、入館者数約 15万人、個人貸出し約 2万 6,000冊、専門的レファレンス約 3,000件であった。(『静岡県立中央図書館要覧 昭和 61年度』による) また県内市町村図書館は、21市は全部設置済みだが、町村は 54町村中 12町村のみ、残りの 40町村は公民館図書室などをもち、読書施設の全くないのは 2村だった。近 13年(昭和 49~61年度)の推移は、設置数は 1.5倍だが、資料費は 4.3倍、蔵書冊数は 3.2倍、貸出冊数は 3.6倍、と急増していたが、職員数は 1.45倍でしかなかった。(『丸善ライブラリーニュース No.146』による)

60年度は、創立 60周年記念事業のいくつかの講演会・展示会に追われたが、館内基盤の確立として、①月 1回の館内研修会 ②司書と指導主事別々の研修会 ③県内情報共有のための図書館関係新聞切り抜き掲示板設置などとともに、県図書館協会として『目でみる・静岡県図書館白書' 85—いまと、これからをめざして—』をまとめ、県全体の図書館の現状を整理、今後の図書館行政や図書館運営に資するようにしたが、これは関係者に予想以上に喜ばれ、全国公共図書館協議会関東ブロックでも大きな話題になった。

61年度は図書館協議会の答申のさらなる具現化として、70年度に向けての県教育委員会の「静岡県教育中期計画」の中に、「図書館を生涯学習の拠点と位置づけ、その整備、充実に努める」主旨を盛り込んだ。

県立中央図書館としてはこれらの施策に対応するため全館体制で取り組み、全職員が具体案を提出、小委員会で整理検討、「静岡県公共図書館振興対策」として、3項目（市町村図書館の整備・充実、県立図書館の整備・充実、県民読書推進と図書館利用促進）9区分、20事業にまとめた。

しかし、その後の社会教育課・財務当局との折衝は難航を極め、最終的には新規振興策は次の6事業となった。

- 1 施設整備事業 1億1,325万円
 - 1) 国庫補助対象図書館への補助
 - 2) 上記以外の新・増・改築図書館への工事・備品購入費 1件2,000万円以内
- 2 図書整備事業 750万円
蔵書冊数5,000冊未満の図書館などへ 250万円以内 5年間
- 3 図書館整備計画推進事業 375万円
図書館整備推進計画会議設置・運営の経費 25万円以内 2年間
- 4 職員研修 100万円
新任・中堅・館長研修・実務研修等
- 5 図書館システム研究会 100万円
公立図書館のシステム・ネットワークの整備促進研究
- 6 図書館での講座への補助 150万円
補助率1/2 1件10万円限度

振興策が発表されてからの市町村の動きは目覚ましく、図書館未設置町村のうち100m²以上の施設を有しない町村の全部が何らかの整備充実に取り組み、中には建設する以上は国庫補助で大きなものを用意的な市町村もあり、施設設備では5年間で国庫補助16、県単補助25、図書整備28に及んだ。（『丸善ライブラリーニュース No.146』による）

当時、国庫補助による建設は全国市町村の1%程、その年間20~25館のうち4~5館を本県が占めるということで、関プロでも静岡県はどういうことをやっているのと言われたのを覚えている。また、私も宮沢宏県社会教育課長とともに趣旨説明に多くの市町村を訪問したが、この策定作業を通じて、館内の市町村図書館振興と県立図書館の在り方についての共通認識が深まるとともに、担当課の県教委社会教育課や市町村図書館との連携が強まったことも大きな収穫だったと思う。

62年度は図書館振興策の具現化が行われ、私どもはそれを「図書館元年」と称した。市町村図書館の振興のために、事業課が中心となって支援・助言に大童になるとともに、資料課は市町村図書館との相互貸借の改善等、整理課は郷土資料目録の完成と増加目録の刊行準備等、総務課はOAコーナーの設置や各種文書の磁気フィルム化等を行った。

さらに県図協では、図書館大会準備委・相互貸借小委の設置並びに郷土資料総合目録の作成推進等、理事会・専門委員会中心の運営も軌道にのり、活動内容も豊富になった。その間、久保田道夫次長のリーダーシップのもと、事務局である中央図書館の職員の熱心な研究と労を惜しまぬ積極的な活動には本当に頭の下がる思いだった。また、先進国アメリカでの図書館経験のある林省吾県教育次長のご理解や館長会での講演も大きな推進力となった。

しかしこれらはまだ出発点である。私は『葵 21号』（昭和62、3）に次のように書いた。

「図書館が真に生涯学習の拠点たり得るためにはどうすればよいのか、（中略）『ヒトは学ぶことによって人間になる』という、人間の尊厳と学習の本来の意義を根底に据えた上で、ふれあいの場、やすらぎの場、コミュニティの場としてのあり方を探って行かねばならぬだろう。本館にはそれらに直ちに対応できるだけの蓄積はまだ充分にはない。正に『任重くして道遠し』である。しかし、それだけに、私たちはやり甲斐のあるよい時期に巡り合わせたものと、ますます決意を強くしているところである」と。

私は、県立中央図書館3年間は本当に充実していたと心から感謝し、今でも子供の読書活動や学校図書館などに関わり、半分現役のつもりで動いている。

「2世紀」にわたる勤務 —静岡県立中央図書館勤務回想記—

鈴木 善彦

(元静岡県教育長・元静岡県立中央図書館長)

1 20世紀：着任当初の県立中央図書館

僕の県立中央図書館勤務は1998年から2001年までの4年間。

着任したての日々、真っ先に思い出すのは、草薙駅からあの丘陵の坂道を昇り降りした通勤路のこと。朝は一步一步の足取りが重く、夕方は、スキップするがごとく軽快だった。今思うと、それは地形のためばかりではなかったろう。

学校をホームグラウンドとしてきた僕にとって、図書館勤務は青天の霹靂、転職にも値した。読書家でもないし、何よりも、図書館のことを知らない。ましてや、図書館の管理や運営については全くの素人であった。「私もそうでしたから」、前任館長の言葉も大きな救いにはならなかった。しかも、時間は容赦がない。当然のこととして、館長として年度初めの事業計画や運営方針等を内外に発信する仕事が目白押し。特に、県図書館協会会長としての所信表明等、手に汗しながら会議や執筆の任務を遂行する苦難の日々が続いた。着任当初のきつかったこと。

窮地に一筋の光明があった。図書館は、生涯学習の拠点といわれる。迷えるものが学ぶにはこれに優る場所はない。何より、一級の資料が50万点以上も揃っている。そして、一級の司書、職員も何十人といる。その業務には、レファレンスという相談体制も整い、難問にも必ず助言してくれる。閲覧室に赴けば、それぞれの目的を持って来館する利用者の学ぶ姿勢が満ち満ちている。さらに、協力車に同乗して市町村図書館等を訪ねれば、地域住民を支える最前線の図書館サービスに触れることができる。小さな図書館のすぐれたサービスに触れて、今こそ学ばねば、心底そう思った。気持ちが高じて司書資格の通信教育にも挑戦。大苦戦したが勉強にはなった。

県立中央図書館の存在意義とは何か、日々の業務を通し、これは新米館長にとって特に重要なテーマとなった。いわゆる、「二線図書館」として市町村図書館等をバックアップし、県民の図書館サービスを保障するという意義も理解できる。また、蔵書にふさわしい生涯学習の拠点機能を発揮することも使命といえよう。さらに、資料を保存管理する任務も大事だ。図書館を学ぶほど、その難易度は高くなった。県立中央図書館の存在意義を理解するには、有度山から県下360°の視野で、県民の暮らしを観察することが必要だと思うようになった。また、耐用性・耐震性とも絡み、水面下に模索される新図書館構想も館長にとっての重要な課題であると判明してきた。重要課題山積。新米だから、などと許されるポストでないことがじわじわと実感されてきた。我が教職生涯、20世紀の締めくくりは緊張の日々となった。

2 21世紀：逆風と順風の中、動き出す図書館

図書館勤務3年目、21世紀を迎え、世界中の興奮が館にも届いた。前世紀の総括は多分野にわたって紙面を飾り、新しい世紀への期待も多彩に論壇をにぎわせた。立花隆の『21世紀 知の挑戦』、曾野綾子『二十一世紀への手紙』などはベストセラーとして広く読まれた。同時に、我が国図書館界にとっても極めて重要な時代を迎えた、と僕には映った。端的に言えば、それぞれの館が、時代を反映した図書館への「逆風と順風」をいかに舵取り、運営するか、という点で。

「逆風」。前世紀末からのバブル崩壊は自治体の財政を圧迫し、その影響は図書館にも及んだ。特に、資料費の削減や人件費抑制のためのアウトソーシングの導入などは、図書館サービスを支える基盤を揺るがした。県立図書館も例外ではなく、県財政当局からは資料費のシーリング方式（削減）や指定管理運営の検討が求められた。資料費は数年分だけでも3割の減が見込まれた。年間6,000万円を切る額に落ち込むことになる。

この逆風にいかに立ち向かうか、館長の新たな試練といえた。いや、館長だけでなく、図書館職員全員がこの試練を我がこととして受け止めてくれた。うなだれていても始まらない、県立図書館にふさわ

しいサービス向上の知恵を出そう、行動する図書館を県民に示そう。会議も幾度となく開いた。職員から素晴らしいアイデアが次々に出る。図書館・書庫ツアー、資料検索IT講座、開館時間のフレックス化、年末・年始の開館、児童書収集、障がい者実習受入れ等々。大半は職員が自前で立案・実施してくれた。館長が呼び掛けた市町村図書館への要請訪問や短期派遣、人事交流などにも職員は手を挙げてくれた。県立図書館はにわかには動き出した。

当然のこととして、勤務の負担が心配されたが、交代制や、志願制も含め、何とか乗り切ろうという職員の高い士気が実践を支えた。本当に頭が下がった。また、職員の高度で配慮されたサービスを抛り所に、指定管理は図書館に馴染まない、という論拠にも館長として確信が持てた。逆風の中で、図書館が、職員が、活気づいた、僕の目にはそう映った。

本来、図書館には隠すものはない。図書館協議会には資料費の削減とともに、蔵書の少ないことも、耐震の脆弱さも、利用者からの苦情も、そして、職員の頑張りも報告しよう。事実を基に、図書館の在りかたを協議していただこう。協議会は委員の驚きも誘発しながら活発化し、熱い議論が交わされた。「こりゃ、何とかせにゃあ、いかん」、そんな声も委員から出た。

「順風」。厳しい状況の中で動き出した県立図書館に一陣の順風が吹き出した。2000年秋、協議会委員草谷桂子さんの呼びかけに呼応し、「県立図書館サポーター・ネットワーク」が立ち上がり、資料費確保をはじめ、県立図書館の充実こそ県下図書館への支援体制につながる、という趣旨を掲げて署名運動が始まった。賛同団体29、賛同人124人が手弁当で県立図書館を支えるべく精力的に活動し、なんと1万4,000人余の署名を集めてくれたのだ。そして、杉田教育長と石川知事への直訴へと活動は展開された。

このことが、その後の資料費確保と県立図書館を核とした本県図書館サービスの改善につながったことは言うまでもない。(その経緯は『図書館雑誌 2001年8月号』にも書かせていただいた。) 図書館の充実は、職員はもとより、市民利用者も行政もマスコミも共通の願いだ、その共通認識に立って、事実から出発し、可能な方策・政策を積み重ねていくことこそが大切だ、と一連の出来事から僕は学んだ。

むすびにかえて

2000年、超党派により「子ども読書年」が衆参両院で可決され、いわば、おとなたちの21世紀への決意が宣言された。これは、前世期の戦争の惨禍を悔みながら平和と人権を希求するおとなたちから、明日を担う子どもたちへの贈り物ともいえた。翌年以降、「子ども読書活動推進法」、「同推進計画」、「文字・活字文化振興法」などが相次いで制定され、まさに、我が国図書館界への順風が世論となって勢いを増した。おそらくは、有史以来の順風だ。また、資料費削減に代表される図書館への逆風も、知恵や行動で順風に転じうることを県立中央図書館史は実証してくれた。さらに、各学校での朝読書、市町図書館や読書サークル、文庫など幅広い読書活動が県下に展開され、「読書県しずおか」は名実ともに認知されていった。

しかし、風もやがて止む。文化は意識のないところには醸成されない。せつかくの法律ですらたちまち空文と化す。この好機を生かすのはやはり図書館の充実を持続的に願う人々の意識にかかる。その意味からも、図書館は人、だ。僕が図書館を去ってからも、図書館職員や行政担当者、そして、利用者の英知が結集されて県立図書館を支え、サービスを充実させてきた事実を見てきた。

僕は「2世紀」にわたる県立中央図書館勤務から、図書館は人、文化を育むための関係者の鋭敏な意識と協働の大切さを、特に学んだ気がしている。

あらたな図書館の時代のなかで

天野 忍

(元静岡県立中央図書館長)

1 中国浙江図書館と友好提携を結び、文化交流を推進する。

平成 19 (2007) 年は、静岡県と中国浙江省が友好提携 25 周年を迎える記念の年であった。3 月には、浙江省から 143 名の代表団が来静し、県内各地で交流を展開。静岡県に 224 冊の書籍が寄贈され、一般閲覧に供するため、県立中央図書館に排架となった。これで、1998 年以來の寄贈と合わせ、「浙江省文庫」は総計 1,556 冊を数えた。

静岡県では、交流の一環として海外技術研修員を招聘。9 月から翌年 2 月までの半年間、浙江図書館職員の俞月麗 (ユウユエリ) さんが来館された。一児の母で単身赴任、図書館での実務研修のほか、県内各地の公立図書館にも出向き、両国図書館の共通する課題やシステムの違いなど、多くを体得して帰国された。真摯な研修姿勢に、本館職員も大きな感銘を受け、両館の友好提携の必要性が叫ばれた。

10 月、杭州市で開催の静岡県・浙江省友好提携 25 周年の記念式典に、静岡県から 1,400 名が参加。浙江省長からは、挨拶のなかで図書館の友好提携に向けた取組が紹介された。この記念式典に合わせ、静岡県図書館協会主催の「杭州・上海図書館視察研修旅行」に 13 名が参加。館蔵資料の多さで知られる上海図書館を表敬訪問、浙江図書館では、友好提携を結ぶための前段として、意向書に調印することとなった。

平成 20 (2008) 年 3 月、友好提携の締結に向けた具体的協議をすすめるため、職員 2 名とともに浙江図書館を訪問。本館所蔵の「淳化閣帖」を提示し、浙江図書館館蔵本との比較研究や我が国における展示会の企画などを提案。書籍の交換をとおして、県立中央図書館「浙江省文庫」と浙江図書館「静岡文庫」の充実を図る、などを検討した。その結果、書籍交換が具体化し、現在に至っている。省内各地の図書館を訪問、いずれも多くの家譜資料や「四庫全書」などの古籍管理に意を配り、熱心に職員がその保存・修復にあたっていた姿が印象的であった。中国は、まさに書の国であり、古籍を大切にしようとする姿勢は、本館が所蔵する貴重書の保存・活用に大きな刺激となった。

平成 21 (2009) 年 2 月、浙江図書館の朱海閔 (ジューハイミン) 館長を団長とする交流団 7 名が来館、友好提携が締結された。その内容は、資料の交換、「浙江省文庫」・「静岡文庫」に交換資料を排架、展示会の開催、代表団の相互訪問などである。朱団長以下、静岡滞在の間、県立大学の学生・教員との意見交換にも臨み、県内各地の図書館を精力的に視察された。意見交換会では、さまざまな意見が交わされ、要望も出されたが、なかでもお互いの情報サービス提供の充実がポイントとなった。

現在、両館では、定期的な図書交換が行われ、それぞれの文庫が充実している。「浙江省文庫」は 2,000 冊を数え、多くの人々の利用に供されている。

平成 28 (2016) 年 2 月、浙江図書館を訪れる機会があり、元研修生の俞さんにもお会いし、立派な活躍ぶりに接して懐かしさを覚えた。「静岡文庫」では、地域の情報や統計などに関する書籍が、学者や留学生などに広く利用されているという。

2 図書館の耐震工事を進め、貴重書の保存と活用を図る。

県立中央図書館では、昭和 45 (1970) 年の建設から多年が経過し、狭隘化に伴う建替えの議論が高まり、喫緊の課題として耐震工事の必要性が叫ばれるなど、多くの課題が山積していた。そのなか、静岡県の財政事情もあり、耐震工事をを行い、建物をリニューアルして活用を図ることとなった。

図書館は、いわば不特定多数の利用者が集う場所である。東南海地震の発生は、避けられない状況下にあるなか、耐震工事がなされていない図書館では、多くの人的被害が想定された。耐震工事と開館業務をいかに両立させるか、狭隘な施設をいかに有効活用していくか、安全性と利便性をいかに確保していくかなど、多くの課題が山積していた。

これに加え、保存のために掛川の静岡県総合教育センターで管理している貴重書をどうするか、課題となっていた。貴重書の研究者からは、「総合教育センターが県立中央図書館から遠隔の地にあり、図書資料の利用が思うに任せず、利用しづらい」との声が上がっていた。

これらの多くの課題をいかに進めていくか、職員の多くの智慧を集め、議論を重ねていくなかで、今日に見る姿となったのである。

現在、本館では、所蔵資料の企画展示が行われ、2階のギャラリーでは、静岡県埋蔵文化財センター所蔵の貴重な資料が展示されている。近隣の大学では、これらの資料を活用した授業も展開され、大きな効果を上げている。

3 官民連携の文化事業をとおして

平成20年度は、本館における情報発信の在り方がより具体化した年であり、そのモデル事業として、9月、静岡県立美術館の県民ギャラリーにおいて、「徳川家康と静岡」展が開催された。

本県には、徳川家康に関わる歴史や文化遺産が多く残されている。家康に関わる貴重書を所蔵する本館と県立美術館、家康関係の歴史資料を所蔵する久能山東照宮、國學院大學が連携協力して展示会や講演会などを企画、これに國學院大學院友会が記念事業の一環として財政支援を行う形で進められた。静岡新聞などの報道機関により、広く県民を対象に広報し、短期間ながらも思わぬ反響を呼び、約1,700名もの来場者を数えることができ、盛況であった。

それぞれの機関が持てる資産を提供し合い、相乗効果を狙った本事業は、平成18年度より本館と県立大学・県立美術館・県埋蔵文化財研究所の4機関が推進する「文化の丘」づくりの精神とも合致したものであった。事業を進めるにあたり、展示品の選定や目録の作成、会場の設定など、他機関との連携・協力の作業のなかで、いわゆる官民連携への戸惑いといったものが次第に払拭されていったことも、大きな成果となった。

「進化を続ける県立図書館に感謝」

草谷 桂子

(静岡図書館友の会・元静岡県立中央図書館協議会委員)

草薙のバス通りから県立図書館に向かうときに歩く自然豊かなプロムナードが大好きです。四季折々に違う表情を見せるこのなだらかな坂道を何度上ったことでしょうか。文庫活動や書評の仕事をしている私にとって「子ども図書研究室」は過去の資料と新しい情報の両方に出会える貴重な場所です。大人の新刊情報コーナーも現在の社会がどうなのかを判断するヒントがいっぱいです。

今やヘビィ・ユーザーとなった私ですが、県立図書館と深く関わるようになったのは1998年に県立中央図書館協議会委員を拝命してからです。当時、静岡市内の図書館の発展を願う会に複数入っていたのですが、県立中央図書館は専門的なことを調べにたまに行く程度で正直さほど関心がありませんでした。協議会委員になって初めて県立図書館の課題や長年にわたるさまざまな試行錯誤、取り組みを知ることになりました。協議会委員在任は12年でしたが、その後もサポーターとして県立図書館の発展を願っての取り組みを何度かしましたので、この機会に「県立図書館の発展を願う活動について」の体験を書かせていただこうと思います。

始まりは、委員就任の依頼に見えた当時の鈴木善彦館長の「委員の条件は、遠慮なく自由に意見を述べてもらうこと」のひとことでした。第1回協議会は膨大な資料が用意され、図書館の現状と課題が包み隠さず示されました。職員数、資料費、貸し出し資料数などが全国から見ても軒並みワーストの上位にあること。市町村ごとの図書館格差がひとめでわかる資料もありました。会ではどの委員からも熱い

意見が続出しました。その日、静岡新聞の記者がずっと会議を傍聴し、翌日写真入りの「貸し出し資料数、全国ワースト4」「新時代の対応必至」というタイトルの記事になりました。

その後、図書館側も私たちがいくつかの取り組みをすることになります。県立図書館の課題と「やる気」を知った私たちは2000年秋、知事、教育長、図書館長あてに「資料の充実・児童書収集・司書職採用」など11項目の入った要望書を提出しました。その期間わずか2か月でしたが1万4千余名の署名と、賛同団体29、賛同人124名が集まりました。

幸い、次の年2名の司書職採用があり、7,000万円だった資料費が1億円になり、また「子ども読書習慣づくり総合推進事業費」も1,000万円計上されました。それまでゼロだった児童書も次の年から収集対象になり、以後、グランシップ内県立図書館コーナーに子どもの本の部屋設置（2003年）、県立中央図書館内の「子ども図書研究室」設置（2004年）に繋がっていきました。

また県立中央図書館協議会としても私が委員在任中の2002年に県教育長あてに、「県立図書館の充実について」の「新館早期整備・資料費確保」など6項目の意見書を提出しています。

いま日本の図書館は人も資料費も削られ危機に直面しています。民間運営に移行する図書館もある中、静岡県立図書館はいつも「図書館のありよう」について公共ならではの明快な理念をもち直営運営を堅持して頑張ってくれています。しかし行革の流れの中で人件費も資料費も予算が減り続けていることに危機感を持ち、静岡図書館友の会として23の関連団体の賛同を得て、2014年11月に再び、教育長に提言書を提出しました。

図書館・県教委・議員さんなどの頑張りと働きかけももちろんあったと思いますが、納税者である利用者の声は何よりの後方支援になると思ったのです。

幸いにも資料費が7,350万円から8,500万円にアップし、書庫整備事業費として1,100万円という予算が付きました。提言書はA4・10ページで、「静岡県立中央図書館の使命と目標」とその実現のための具体策を述べ、下記の3点を必要項目として挙げました。

- I 県立図書館機能を発揮できる直営体制の維持と施設の充実
- II 県立図書館にふさわしい十分な資料費・運営費の確保
- III 専門性のある職員体制による継続的な運営

提言書には「県立図書館の歴史」「現在の県立図書館の状況と特色」「協力貸出し数と資料費の推移表」「他県との比較表」「全国図書館友の会作成の私たちの図書館宣言とその解説」を資料として添付しました。この提言書を作成する作業から、私たちは現在の県立図書館や全国の図書館の状況と課題をより深く学んだように思います。この過程で現場の職員からも統計や歴史など多くをご教示頂き、その専門性を大変心強く思いました。

静岡県立図書館は公共図書館の基本理念を押さえたうえで進化し続けていると思います。その頑張りに感謝して、後方支援としての取り組みを何度かさせて頂いたことは本当に幸せで貴重な体験でした。

この度は開館90周年とのこと、関係の皆様のためご努力に心から感謝しお祝い申し上げます。静岡県の文化のバロメーターともいえる県立中央図書館の更なる発展をお祈り申し上げます。

6 沿革史

(1) 近代図書館へのあゆみ

本県における近代的図書館設立の最初の企画は、明治19年第3代県令となった関口隆吉氏が、欧米風の公開図書館を久能山に設立しようと企図したところにある。

氏は自己の蔵書を中心にその計画を進めたが、同22年不慮の列車事故で5月逝去された。このため、近代的図書館設立計画は実現を見ずに終わったが、その蔵書2,058冊は、のちに葵文庫が設立された際遺族から寄贈され、特殊コレクション久能文庫となった。

明治40年、私立丁未図書館が安西1丁目の瑞光寺内に約2千冊の図書をもって開設された。同寺の住職柴田普門、医師松岡友吉、静岡県静岡市立静岡商業学校三浦元利の3氏の尽力によるものであった。これが静岡付近における最初の公開通俗図書館となった。

明治43年、静岡市教育会が付設事業として通俗図書館を開設すると、丁未図書館は閉館となり、その蔵書は通俗図書館に寄贈された。しかし、同館も9月に静岡県教育会附設図書館が静岡市城内に設立されると、これに合併された。この図書館は、その後大正13年の静岡県立葵文庫設立を契機に閉館し、その蔵書（和漢書8,308冊、雑誌763冊）は静岡県立葵文庫に引き継がれた。

(2) 静岡県立葵文庫の創立

大正8年8月、関屋貞三郎氏が本県知事に任命された。この年静岡市に旧制の高等学校設立が決定し、図書館設立の気運も高まりつつあった。

時あたかも、篤志家の熊沢一衛氏は本県社会事業に5万円の寄附を申し出ていた。関屋知事はこれを基に、当地の文化と縁の深い徳川家の記念事業として県立図書館の設立を決意した。その創設費を15万円と予定し、大部分は寄附に仰ぐこととして渋沢栄一氏にはかった。そして同氏の斡旋尽力により、徳川家を始めその縁故者の賛助を得た。

大正10年3月、関屋知事のあとを受けて就任した道岡秀彦知事は、関屋知事の計画を踏襲して「葵文庫設立趣意書並計画概要」を発表した。

曰く「図書館は民衆教化の一大機関にして学校教育の達成並に社会教育の振興上極めて重要な施設なるは今更縷説する迄もなし……茲に於て静岡市に県立図書館を建設して県下各図書館の中核となし相提携して調査研究の便と読書趣味の涵養とに質し且つは又県に因ある偉人傑士其他の文書等をも蒐集して温故知新俯仰感憤の便ともなさんとす。……」

大正10年11月、県立図書館設立費17万円を2か年継続事業として県会に提出しその議決を得た。翌大正11年11月17日設立認可を得て設計に着手し、関東大震災後の大正12年12月起工、翌大正13年10月静岡県立葵文庫が竣工した。葵文庫の名称は、徳川家の記念事業として出来た図書館であること、蔵書中に幕府旧蔵のものが多数入っているところから、徳川家の家紋に因んでつけたものである。

初代文庫長には貞松修蔵氏が就任し、11月10日より図書収集等開館準備を開始した。よってこの日を葵文庫の記念日とした。大正14年3月28日開館式を挙げる。以後3日間記念の図書展覧会及び第一回文化講座を開催した。この講座の中で、京都帝国大学図書館長新村出氏（関口隆吉氏子息）は、「葵文庫の歴史的背景と其将来」と題し、駿河文庫を中心に府中学問所に触れ、近世近代文化史上における輝かしい静岡について述べられ、駿河御譲本の『春秋公羊伝上、下』2冊を寄贈された。

かくして大正14年4月1日、静岡県立葵文庫は開館した。当時蔵書は静岡師範学校より移管された『厚生新編』の稿本をはじめ、幕府の蕃書調所（後に洋書調所・開成所と改称）、昌平坂学問所、林家旧蔵の和漢洋の図書3,887冊、静岡中学で所蔵していた和漢洋書3,614冊、県教育会附設図書館

の蔵書、さらに関口隆吉氏の久能文庫の他、寄贈されたものに新たに購入した約3千冊を加え2万2千冊で、職員は文庫長以下16名であった。

(3) 昭和初期の葵文庫

こうして開館した葵文庫は、その使命を公衆に図書を閲覧させることとし、館内閲覧、貸出、巡回文庫、講座の4点を事業の基本として活動を開始した。昭和4年には、郷土の生んだ鴻儒山梨稲川の百年祭記念事業として『山梨稲川集』全4冊を刊行した。

昭和5年5月28日から一週間、本県の民情、特に産業及び教育等の実状視察のため天皇陛下の行幸があった。その第1日目の28日、陛下は当文庫に行幸された。明治以来地方の公私立の図書館に行幸があった例はなく、当文庫はその最初の光栄に浴することとなった。

当日、陛下は予定より約5分程早く御到着、しばし御休憩ののち貞松文庫長が当文庫の沿革と現況を御説明し、終って目録室・天覧図書陳列室を御見学、最後に屋上で市街を展望され、予定の時刻午後4時50分次の商品陳列所に向かわれた。

なお、この行幸を記念して8月、蕃書調所及びその後身である開成所の旧蔵本中、重複する洋書を東京帝国大学に129冊、東京外国語学校に86冊を移譲した。

昭和8年11月開館10周年記念式典を挙行、その記念事業として同10年『厚生新編』の複本を作成した。

また、昭和8年に図書館令が改正され、中央図書館制度の導入により県内図書館を指導する権限が付与された。当文庫も静岡県中央図書館に指定され、県内各地に出向いて町村図書館の運営や蔵書の整理、整理技術等の講習会の開催や図書館用品の斡旋をしたりしながら、中央図書館として県内図書館の指導育成に努めた。

(4) 戦時下の葵文庫

昭和12年の日中戦争の勃発により、物心ともに暗い戦争の時代に入り、図書館もまた時局の推移にともない戦争への協力の度合いが強化されていった。

国防思想陣の強化、銃後精神の確立、国民精神作興のため、図書が国論の統一と国策の徹底に利用され、図書館の機能が利用されることになった。

昭和14年末、国民精神総動員文庫の巡回が始まり昭和16年5月には翼賛文庫の貸出しが開始され、7月には『青年読書指導目録』が発行された。

一方、思想対策上あるいは防諜上の取締りにより、主に社会科学・自由主義関係図書を中心に発禁、没収、閲覧禁止扱いとなるものが増加した。また、この年の6月から出版用紙が割当配給制になったので、出版事情が悪化し、管内図書館に対する新刊書の優先配給の仕事も中央図書館の任務となった。たとえば、大正15年7月以来毎月発行してきた館報『葵文庫ト其事業』は、昭和15年7月から紙質を落し隔月発行となり、昭和18年10月25日発行の第183号をもって中断した。

昭和16年12月、戦争は太平洋戦争へと拡大し、戦時体制は一層強化された。この年5月の日本図書館協会総会では、文部大臣諮問の「大東亜共栄圏建設即応スベキ国民読書指導ノ方策如何」及び協会提出の「国民必読図書群ノ制定並ニ普及ニ関スル件」に就いて、協議が行われている。同じく中央図書館長会議では、特に読書指導者の獲得錬成と読書会運営の問題について協議された。国民思想指導に基づく読書指導が図書館最大の任務となったのである。

昭和19年2月、文部省と大政翼賛会主催のもとに、富士郡西山本門寺において読書指導者思想錬成講習会が開催され、本県でも昭和17年6月に、当文庫講堂において戦時読書指導者協議会が行われた。その他、展覧会や講演も国体、時局、軍事に関するものに限られた。

戦局は次第に悪化し、図書館員は応召され工場などへ徴用された。建物の接収なども行われ休館状態に陥った図書館もあった。また、空襲爆撃を受け、貴重な蔵書とともに館舎も焼失したところも数多かった。当文庫でも、本土爆撃の危険が迫った昭和20年3月、貴重図書を市外7カ所に疎開した。6月19日事務室日記は次の如く記している。

「20日零時頃ヨリ午前3時半マデB29多数（約110機ト大本営ヨリ発表サル）静岡市来襲、油脂、エレクトロン、小型爆弾ヲ混投、全市火災ニ包マル……宿直加藤文庫長初期防火ニ努力シタルモ四圍ノ火勢漸ク猛烈トナリ、本館便所ニ迄燃エタルタメ烈風ヲ伴ヒ、危険セマリタルヲ以テ小使中村夫婦ヲ武徳殿ニ避難セシム。事務室ヨリ東校ノ火ハ便所ニ又講堂裏ノ火ハ講堂便所ニ燃エ移リ、烈風火ヲ煽リ火勢ハ次第ニ猛烈トナリ、加藤文庫長ノ努力及バズ、遂ニ如何トモスル能ハズ、講堂及ビ小使室兩便所及物置ヲ烏有ニ帰ス、然レドモ本館及書庫ヲ残シ得タルハ不幸中ノ幸ナリ、全市火災ハ午前4時頃下火トナリ漸次鎮火ス……………」

蔵書は貸出中の通俗図書約1,500冊を焼失したが、書庫が無事であったので、基本図書の焼失をまぬがれた。まことに不幸中の幸であったといえよう。

8月15日、太平洋戦争は日本の無条件降伏によって終結した。

(5) 戦後の葵文庫

昭和21年疎開してあった貴重図書を回収し、新刊書の配給、不用図書活用のための交換会の開催、天体望遠鏡による観望会の開催等、戦後の新しい活動を開始した。

昭和23年に米軍は戦時中の閲覧禁止図書の解除を行う一方、国粹主義、軍国主義的出版物の没収等、思想取締りの干渉もしたが、アメリカの図書館事情を紹介し、戦後日本の図書館発展に寄与する面も多分にあった。

昭和25年新しく図書館法が公布され、文化立国が声高に叫ばれ、図書館は一層重要性を増してきた。新図書館法の要点は従来の図書のみの図書館ではなく、視聴覚資料までも備え付けて教養・調査研究に役立ち、地域社会のレクリエーションセンター、インフォメーションセンターとして幅広い奉仕をなすことなどにあった。

当館もまたその趣旨に添うべく、図書の利用以外に講演会、座談会、映画会、幻灯会、レコード鑑賞会、音楽会、展覧会、子供会、読書指導、その他年度が下るとともにスクエアダンス、中南米音楽コンサート、英語の歌を歌う会等実に広範な活動を行っている。先に発足した視聴覚ライブラリーの資料も教育事務所を通じて学校、青年団、町内会、職域団体、子供会などに貸出し利用された。

なお、昭和23年占領軍総司令部民間情報局によって設けられていた静岡CIE図書館は、講和条約発効後アメリカ文化センターと改称し、米大使館の手によって運営されていたが、昭和28年1月、日米文化センターと改称、日米の共同経営に移され、葵文庫分館として運営されることになった。当時日本では入手し難い外国図書を豊富に持ち、また視聴覚資料も備え付けられ、日米文化の交流と本県文化の向上に果たした役割は大きい。

昭和32年6月、相談室を開設して手紙、電話によるレファレンスを受け付け、遠隔地の人々の利用を図った。

昭和35年それまで県の広報課と社会教育課で行っていた移動文化館は、当館において運営されることとなり、館外読書活動は貸出文庫に加えて幅広く積極的に行われることになった。翌昭和36年、自動車文庫あおい号が誕生した。また、家庭における読書の推進をはかるため「茶の間ひととき読書運動」の展開や、遠洋漁業に従事する人々の余暇利用のため、船員文庫が設置された。同文庫は漁船一隻あたり30～50冊を貸出し、遠く南太平洋やアフリカ東岸で操業する漁船員をなぐさめた。

その他、館内行車として郷土研究講座や本を読み合う会を毎月一回開催した。こうして、昭和40年1月それらの運動を根として第1回県読書大会が静岡市青葉小学校を会場として開催され、800名が参加した。

(6) 県立中央図書館の開館

図書館の移転新築に対する要望は昭和30年頃から起った。位置が道路の三叉路に当り、戦後の交通量の激増にともない、騒音甚しく、環境として不適當であり、全体的に30余年を経て老朽化し、県立図書館としての新しい活動をするにそぐわないというのであった。

設立当時一大偉容を誇り、葵文庫設立趣意書並計画概要に「市街の喧騒と遠ざかり図書館の位置として好適の地なり」とあるのを思えば今昔の感に堪えない。

昭和38年、県は「教育文化の振興」を県政の重点施策とし、この年よりの継続事業として、静清の中間地区である草薙に大規模な「県文化センター」の建設を企図して建設準備委員会を設置、基本計画の策定を開始した。

委員会は神奈川、京都など他府県の文化施設8カ所の視察を行い、その結果等を検討し構想をまとめた。それは、センターを構成する施設を図書館、美術館兼博物館、体育館、音楽ホールとし、それらの施設が相互に有機的な連携をもち、文化エリアとしての機能をもつようにするというものであった。

図書館の性格については、産業資料、地方行政資料、郷土資料などの充実やレファレンス・サービスの充実、さらに二線図書館として県内地方図書館に対する援助の強化を目的とし、利用者は一般成人を対象とするなど、いわゆる調査研究を中心とした資料図書館を目指したものであった。

昭和40年度には園地の設計と体育館建設に着手し、広報課内に新たに文化センター建設準備室が設置された。

これに対して、教育委員会は、昭和40年10月より、当館を中心に新図書館研究委員会を設けて、新図書館構想策定のための調査研究に入った。

翌昭和41年8月、企画調整部長より図書館の意見聴取があり、研究委員会ではその成果である「新図書館の望ましい姿」を付して、新図書館については重大な関心を持っている旨、教育長名で回答した。

昭和42年9月、県会において議決を得、12月着工。昭和44年50万冊収蔵可能な書庫をはじめ、視聴覚モデルルーム、レクチャールーム、その他各種集会室をもつ鉄筋コンクリート地上3階、地下1階、延面積8,056平方メートルの新図書館が完成した。総工費は4億8,500万円であった。

昭和44年6月30日、駿府城の一角で昭和の激動期を生きてきた静岡県立中央図書館葵文庫が、その45年の歴史に終止符を打って閉館し、新図書館への移転作業に入った。7月、県文化センター設置条例が制定され、長い間県民に「葵文庫」の名称で親しまれてきたが、新図書館は、装いも新たに静岡県立中央図書館と称することになった。8月、静岡市谷田の新図書館に移転し開館の準備に入った。

昭和45年4月18日、静岡県文化センターを開所、静岡県立中央図書館の開館式を挙行了。式は竹山祐太郎知事をはじめ、国・県会議員・市町村長及び教育・文化・その他各方面の関係者約500名が参集して行われ、20日から一般公開された。

(7) 新生図書館の5年

新図書館は「資料図書館として、いわゆる読書の間から調査研究の間として、積極的かつ能動的に、県民生活の向上に資する学術・文化活動に対応した産業・行政・郷土資料を中心とした情報を

まず提供しなければならない」とする初代館長高林静夫氏のもとに各種業務を開始した。

館内組織も昭和33年から続いた庶務課・整理課・奉仕課の3課制から、庶務課・資料課・整理課・事業課の4課制に改編され、職員も葵文庫時代の35名から43名に増員された。4課には、資料収集とレファレンス・サービスを中心業務とする資料課と、展示・集会事業等の施設運営と読書普及・視聴覚資料の収集を中心業務とする事業課が新設された。また、主に資料収集とレファレンス業務について司書を補完するために指導主事制度が導入された。

資料図書館をめざした新図書館の大きな特色は、逐次刊行物の収集とレファレンス・サービスの充実にあった。情報量とその速さにおいて、図書は雑誌を中心とする逐次刊行物に遠く及ばない。この観点に立てば、資料図書館として情報センターをめざす当館が、逐次刊行物の収集に努めるのは当然であったといえよう。昭和43年度購入雑誌65タイトルは、50周年を迎えた昭和50年度には580タイトルにのぼり、全国27位から都立中央(1,600)・愛知県立図書館(672)に次いで第3位となった。

また、県立図書館として県民全体に対するサービスを考えた場合、当然第一にあげられるのはレファレンス・サービスである。葵文庫時代の昭和42年度の統計では、利用案内を除いたレファレンス件数は641件、うち来館70%、電話23%、文書7%(44通)である。これに対して昭和50年度は1,677件、来館18%、電話77%、文書5%(84通)である。来館70%という数字は、葵文庫が多分に市民図書館的要素を持っていたことを示すものであり、逆に電話・文書の82%は、県立図書館への脱皮を示す数字といえよう。

こうした中で貸出文庫活動も変化し、活動を移動図書館の巡回にしぼり、従来の自動車文庫の配本車的性格を読書普及的性格に改め、図書館未設置地域を重点地区として10町村を対象に読書普及、文化活動の振興をねらって巡回活動を行った。巡回時には一町村一カ所に長時間駐車し、合同読書会、茶の間ひととき読書懇談会、視聴覚資料利用のための集会などを開いた。

昭和49年4月、各課に2係をおく1課2係制がしかれ、庶務・管理・閲覧・調査相談・図書・逐次刊行物・普及・視聴覚の8係が設けられ組織が整備された。しかし、前年のオイルショックは図書館運営にも大きな打撃となった。

資料購入費は図書館にとって生命の糧である。昭和45年度の資料費3千3百万円は葵文庫時代の約6倍にあたり、これは都立日比谷・埼玉県立熊谷図書館に次いで全国第3位であった。これによって以後、年平均1万4千冊の増加をみたが、オイルショックは資料費を半減させ、3千万円台を回復するには昭和53年まで待たなければならなかった。こうした中で昭和50年11月、創立50周年記念事業が行われた。前年、昭和45年より刊行されてきた『文化』にかわって旧名に復した館報『葵』の特集号で、小島毅館長は、「調査相談(レファレンス)が中枢的業務となってきたことは、創業の方策の一つの発展と評価できるが、2次資料の作成・専門資料の系統的・継続的収集、県内利用網の確立などが今後の課題である」と5年間の活動を総括した。

(8) 60周年を迎えて

創立50周年からの10年は、低成長の時代であり、資料費の低迷が続き、再び県立図書館としての役割が問われた時期である。

その中で県図書館協会との協力のもとに資料出版事業を開始し、昭和51年10月最初の出版として、幻の書といわれた『静岡県政史話』を復刻出版した。次いで昭和53年3月県下全図書館が所蔵する郷土資料をまとめた『静岡県郷土資料総合目録』を出版して、事業を軌道に乗せた。

また、当館長年の懸案であった蔵書目録刊行事業も昭和54年度より開始し、昭和55年11月その第1冊を刊行して以来、昭和60年度で6冊目を数えるに至った。

60周年という、人間ならば還暦を迎えた昭和60年、記念事業を行う一方、技術革新と情報メディアの著しい発達の中で、県立中央図書館協議会（会長岡本弘之）より、「今後の静岡県立中央図書館の在り方」について答申を受けた。それは、従来からいらわれている資料及びレファレンス機能のより一層の充実と利用促進の上に、コンピューターの導入による業務の効率化、迅速化と各種図書館とのネットワークシステムの形成を求めるものであった。

(9) 70周年（平成7年度）まで

60周年から70周年を迎えるまでの間には、昭和62年度からの静岡県図書館振興策の実施、平成2年度の静岡県で初めての全国図書館大会の開催、さらに、平成3年度から3ヵ年計画で図書館の電算化に向けての作業の開始と平成6年3月の電算システム稼動（館報「葵」26号～28号）など、当館及び静岡県の図書館にとって大きなうねりがあった10年間であった。

特に、静岡県公立図書館振興対策は、静岡県の図書館元年と言われ、その後の静岡県の図書館発展に大きな影響を与えた。

平成7年には、70周年を迎え、記念展示や講演会を開催した。

(10) 80周年（平成17年度）まで

70周年から80周年の間は、平成10年5月に「静岡県生涯学習情報提供システム（愛称マナビット）」のインターネット化により、県立図書館の所蔵情報が検索可能となり、10月には静岡県立中央図書館ホームページがオープンした。さらに平成16年3月には電算システムの更新により、「静岡県横断検索システム（愛称：おうだんくん）」の構築や、5月にはインターネットによる予約・貸出し延長など新サービスの提供が実施された。

また、平成10年度からは本格的な改革に着手し、平成12年度には館内全職員参加のもと、静岡県立中央図書館中期計画を策定した。これにより、開かれた図書館、信頼される図書館、成長し続ける図書館を基本理念として、改革が計画的、持続的に実施された。県立図書館サポーターネットワークの支援等もあり、資料費の増額も実現した。

平成11年3月には、静岡県コンベンションアーツセンター（グランシップ）内にグランシップ情報ラウンジ・県立図書館コーナーを開設し、芸術関係の雑誌の閲覧やビデオテープの貸出を実施した。

平成13年4月より、児童図書の購入を開始し、平成15年4月県立図書館コーナーの移転に伴い、絵本を排架、貸出やおはなし会を開始した。

平成14年1月から7月の間地震対策緊急工事のため休館した。閲覧室及び書庫の図書の箱づめや再排架作業は膨大なものであった。また、その間は休館中のサービスとして静岡県女性総合センター（現静岡県男女共同参画センター）「あざれあ」に県立図書館コーナーを開設した。

平成14年6月には、2度目の全国図書館大会（2003年度開催）の要請があった。静岡県図書館協会臨時理事会等を経て同年7月10日正式決定し、2003年度の全国図書館大会は急遽本県開催となった。開催までの準備期間は1年余りであったが、従来の3日間の大会期間を2日間の開催としボランティアの集会を設定するなど静岡の特色を出して、2千4百人を超える関係者が一堂に会した大会となった。

平成13年12月「子どもの読書活動の推進に関する法律」の施行、平成14年8月「子ども読書活動の推進に関する基本的な計画について（通知）」をうけて、静岡県は平成16年1月に「静岡県子ども読書活動推進計画－読書県しずおかをめざして－」を公表した。これに基づき、平成16年6月18日には、子どもの読書活動推進のために市町村図書館や児童書研究者等へのサービス支援を目的と

して、県立中央図書館に「子ども図書研究室」を開設した。

平成17年度、創立80周年記念事業を実施した。

(11) 90周年（平成27年度）まで

80周年から90周年の10年は、平成17年度の電算システム更新後、ホームページの全面更新、静岡県横断検索システム「おうだんくん」、Web個人サービス（インターネットによる予約および貸出延長）、新メールマガジンの開始から始まった。その後の5年ごとのシステム更新で、平成22年度はWebサイトの全面リニューアルを行い、平成27年度はクラウドシステムとなり、電算室のスペースも縮小した。

平成19年度は、中国浙江図書館からの研修員を受け入れ、「姉妹図書館締結の意向書」を浙江図書館にて調印、平成21年「友好提携書」を当館にて締結した後は、資料の交換を継続して行っている。

平成21年3月11日、県立中央図書館、県立美術館、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所及び静岡県立大学との4機関による「文化の丘づくり事業推進に関する協定」の提携は「ムセイオン静岡」と名付けた活動となり、その後6機関から11機関へ増加している。

施設の老朽化に伴い、新館建設が喫緊の課題であるなか、平成21年に耐震補強工事、平成24年に大規模改修工事を行い、一部書庫の整備も進んだ。「あすなる県立図書館収蔵庫」へ移動していた葵文庫、久能文庫を始めとする貴重資料は、平成21年9月25日に本館へ里帰りし、新たに整備した新収蔵庫へ納めた。また、慢性的な書庫の狭隘化を緩和させるため、平成22～23年度は緊急雇用事業による書庫の最適化や、資料移動による書庫の再編を進め、平成27年度は集密書架を2か所に設置した。

閲覧室では、既設のビジネスコーナーに加え、平成23年7月より健康医療情報コーナーを開設した。

平成11年3月にオープンした「グランシップ情報ラウンジ・県立図書館コーナー」は、平成15年4月1日より2階へ移転し「グランシップ県立図書館コーナー」とし、これまでの雑誌とビデオのほか、主に絵本を排架したが、平成18年4月には「えほんのひろば」の愛称をつけ、平成20年度より絵本のための排架とした。

平成16年6月に開設した子ども図書研究室は、平成22年度に著者記号の3文字化を行い、大規模改修工事にあわせてレイアウトを変更した。また、平成26年度より夏から秋にかけて日曜開放を行っている。

平成27年度、創立90周年を迎え、記念事業を実施した。

子ども図書研究室の歩み

県立中央図書館子ども図書研究室は、子どもの読書活動推進のために、市町立図書館や児童書研究者等へのサービス支援を目的として平成 16 年 6 月 18 日に開室した。ここでは、開室までの経緯と開室してから現在までの変遷、現在の研究室の実施事業について報告する。

1 開室までの経緯

静岡県立中央図書館	子どもと読書を取り巻く状況
<p><u>大正 14 年 4 月 1 日</u> 「静岡県立葵文庫」開館</p> <p><u>平成 12 年度</u> 児童書の収集検討、児童書に関する情報収集を開始</p> <p><u>平成 13 年度</u> 児童書の収集を開始</p> <p><u>平成 15 年 4 月</u> 静岡県コンベンションセンターグランシップ 2 階で絵本の閲覧と貸出を開始 児童書全点収集を開始</p> <p><u>平成 16 年 1 月</u> 「静岡県子ども読書活動推進計画―読書県しずおかをめざして―」</p> <p><u>平成 16 年 6 月 18 日</u> 子ども図書研究室開室</p>	<p><u>平成 11 年 8 月</u> 「子ども読書年に関する決議」国会採択</p> <p><u>平成 12 年</u> 「子ども読書年」</p> <p><u>平成 13 年 12 月</u> 「子どもの読書活動の推進に関する法律」施行</p> <p><u>平成 14 年 8 月</u> 「子ども読書活動の推進に関する基本的な計画」について（通知）」</p>

2 子ども図書研究室の開室（平成 16 年 6 月 18 日）

(1) 静岡県立中央図書館基本方針

県立中央図書館は、「県民の生涯学習の拠点としての図書館、市町立図書館のための図書館及び資料情報センターとしての図書館」として、県民の教育及び文化の向上に資する。

(2) 設置目的

子どもの読書活動推進のために、市町立図書館や児童書研究者等を支援する。

(3) 基本方針

- ・ 子ども図書資料及び研究用資料の収集、保存
- ・ 調査研究への支援（レファレンス）
- ・ 市町立図書館（室）への支援、協力
- ・ その他、読書活動の推進に対する支援

(4) 場所

静岡県立中央図書館インフォメーション棟 1 階 ※入室は中学生を除く 15 歳以上

(5) 開室から現在まで

期 日	主なできごと
平成 16 年 6 月 18 日	<p>子ども図書研究室開室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープン記念講演会「子どもの読書活動を支える大人の役割」 講師：国際子ども図書館長 富田美樹子 氏 ・「子ども図書研究室だより」創刊 ・「子ども図書研究室講演会」開始 ・「子ども図書研究室講座」開始（～平成 21 年） ・「一日えほんとしょかん」実施（平成 16 年、17 年）
平成 18 年 6 月 29 日	<ul style="list-style-type: none"> ・職員在室日の変更 （火・水・金曜日の午後 1 時～5 時→火～金曜日の午後 2 時～5 時） ・子ども図書研究室書庫を閉架書庫から開架書庫へ変更
平成 19 年 4 月 1 日	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の配架方法の変更 直近 2 年分刊行の資料を発行年ごとにまとめて配架。 ・図書館システム更新に伴い、子ども図書研究室 Web サイトの公開開始
平成 21 年 6 月 平成 22 年 1 月	<ul style="list-style-type: none"> ・耐震工事（工事に伴い 6 月から平成 22 年 5 月まで閉室） ・「新刊児童図書巡回展示研修会」開始
平成 22 年 9 月	<ul style="list-style-type: none"> ・研究室資料の背ラベルの図書記号（著者表示）を変更（2 文字→3 文字） ・団体利用受付の開始
平成 23 年 2 月 7 月	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活性化交付金（住民生活に光をそそぐ交付金）により、貸出用資料の購入及び大型紙芝居の購入 ・大規模改修工事（工事に伴い 2 月と 3 月を閉室） ・レイアウト変更 ・テーマ絵本貸出開始
平成 24 年 4 月 1 日 6 月 20 日	<p>リニューアルオープン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども図書研究室の一部複本資料の個人貸出を開始（開始当初約 1 万冊） ・「新刊サロン」開始
平成 26 年 6 月	<ul style="list-style-type: none"> ・開室 10 周年記念事業として、展示「絵本で知る世界の国々—IFLA からのおくりもの」を開催
平成 26 年 7 月 20 日 ～10 月 26 日	<ul style="list-style-type: none"> ・日曜日 9 時～15 時において、15 歳以下の子どもにも子ども図書研究室の一部開放を試行。全 15 回の開放、延べ 366 人の利用。
平成 27 年 7 月 19 日 ～11 月 8 日	<ul style="list-style-type: none"> ・日曜日の 10 時～16 時において、15 歳以下の子どもに子ども図書研究室の一部開放を試行。全 17 回の開放、延べ 464 人の利用。

3 所蔵資料

(1) 調査研究用・保存用資料

ア 全点収集資料

- ・平成 14 年以前については、当館が選定した児童書 + α
- ・平成 15 年以降については、児童書の全点（コミック、ゲーム攻略本、学習参考書を除く）
- ・対象：0 歳から中学生まで
- ・貸出は行わない（協力貸出は可能だが貸出先の館内閲覧のみ、子どもの利用不可）

イ 外国語児童書

- ・受賞作品（コールデコット賞、ケイト・グリーナウェイ賞、ニューベリー賞、カーネギー賞）
- ・海外で翻訳出版されている日本の作品

ウ 雑誌

- ・子ども向け雑誌（「おひさま」「News がわかる」など）
- ・研究用雑誌（「CHILDREN & LIBRARIES」「子どもの文化」など）

エ 研究用図書（県内の子ども読書活動推進計画、『児童文学者人名事典』など）

※一般資料としても所蔵あり

(2) 貸出用資料

ア 絵本：グランシップ県立図書館コーナー「えほんのひろば」で貸出

イ 絵本以外：子ども図書研究室で貸出

ウ 2階閲覧室（一般開架）にも一部児童書の所蔵あり

- ・参考図書コーナー
- ・地域資料コーナー（静岡県出身作家の著作）

(3) 蔵書冊数

30, 236 冊（平成 16 年度末）→87, 110 冊（平成 27 年度末）

4 実施事業（平成 27 年現在）

(1) 子ども図書研究室講演会（年 1 回）

(2) 「子ども図書研究室だより」の発行（年 4 回発行）

(3) 当館 Web サイトやメールマガジンでの情報提供

（展示リスト、大型絵本リスト、子どもの本に関する雑誌目次情報、県内イベント情報など）

(4) 新刊児童図書巡回展示研修会

県内市町立図書館及び学校図書館における児童図書資料の充実及びその選書に携わる職員の資質向上を図るため、県立中央図書館が全点購入している新刊児童図書のうち、約 1,000 冊（約 3 か月分）を研修会場で現物展示するとともに、選書に関する研修を行い、参加者の相談に応じる。

(5) 新着児童図書を語る会「新刊サロン」（年 4 回開催）

県立中央図書館が全点購入している新刊児童図書のうち、直近 1 か月間に受け入れた図書（新着図書）について、参加者間で自由に語り合う。

(6) 展示

- ・テーマ展示（講演会関連資料、課題図書など）
- ・季節の展示（「一番新しいクリスマスとお正月の本」「入園・入学の本」など）

(7) テーマ絵本貸出し

テーマ（「日本の昔話」「誕生日」など）ごと 20 冊 1 組をまとめて県内図書館、学校などへ貸出

(8) 団体利用

グループでの事前申込による利用

(9) その他

- ・視察・見学対応
- ・運営相談等
- ・静岡県教育研究会学校図書館研究部静岡県良書選定委員会に対する支援
- ・選定した児童書のうちの絵本以外の複本分を貸出開始（平成24年4月～）
- ・日曜日に小中学生（乳幼児は保護者同伴）の入室を試行（平成26年～）

子ども図書研究室開室当時の様子

資料課 図書係長（開室当時） 栗山 章子

90周年おめでとうございます。県立中央図書館（以下「県立」）には平成10年4月から平成18年3月まで勤務しました。初めての転勤の上、それまでの幼稚園教諭からの転職でずいぶんと戸惑いました。事務書類の書き方は知らず、コンピューター三昧の日々で、パニック状態でした。

県立には、視聴覚ライブラリーがあり、16ミリフィルム、ビデオテープなどの豊富な視聴覚資料を所蔵して団体に貸し出すほか、中部地区高等学校の視聴覚資料を保管していました。しかし、視聴覚資料の技術の変革により利用が減ったことから、中部地区高等学校の視聴覚資料の保管貸出業務が撤退し、視聴覚ライブラリーも専任職員はいなくなりました。県立でも個人を対象とする文化的教養的なビデオテープの収集と貸出が始まり、まもなく、収集の中心はDVDに移行していきました。DVDは保管場所も少なくなくて済み、テープのような故障もありませんでした。そんな中で、16ミリフィルムの片づけが始まり、当時の澤野係長と劣化したフィルムが発する酢酸臭の中で、不要なものをコンテナに詰め込んだことを思い出します。あまりの埃と匂いで「シャワーに入りたいほど」と言ったら、図書館に宿直用のシャワー室があることがわかり、使えるようにしてもらえました。この場所に、後に子ども図書研究室ができるとは、この時は予想もしていませんでした。

そのような時、子どもの読書活動の重要性と価値が認識され、平成11年に「子ども読書年に関する決議」が国会で採択され、国を挙げて支援するため、平成12年を「子ども読書年」とすることが決定しました。当時、県立では児童サービスを行っていませんでしたが、以前、児童書巡回をしていた頃使われていた児童書が地下室の倉庫にうずたかく積まれていましたので、少しカビ臭かった本を運び出し、一冊ずつ拭きながら資料の確認作業をしました。その中で、廃棄するものと、保存するものを分け、蔵書にするよう作業を進めました。

平成13年「子ども読書活動に関する法律」が施行されました。県立では児童書の購入予算がつき、発行部数が少なく、廃版になりやすい絵本や、保存することになった児童書以外の選書・購入作業が始まりました。子どもの本の購入は一般書の購入と同じとはいかず、いろいろと悩むことも多かったのですが、最も記憶に残っているのは、絵本の図書記号の問題です。記号を作者にするのか、絵を描いた人にするのか、市町ではさまざまでした。岐阜県立図書館や東京子ども図書館を視察したり、児童サービスに力を入れている図書館を見学して話を聞いたりした結果、県立にふさわしい方法として、絵本の記号は絵を描いた人に決めました。

絵本は複数冊購入し、直接の児童サービスなどで活用したいという意見がありました。施設や体制の問題もあり本館内での直接の児童サービスは不可能でしたが、グランシップの通路脇の空間に絵本を閲覧できるスペースを設置できることになりました。予算に限りがあり、必要に応じて移動できるようにするため、絵本を並べる棚は当時980円くらいのいわゆる3段ボックスを使用し、床はカーペットを敷き詰め、靴は脱いであがり、座って子どもを抱きながら本を読めるようにしました。始めは近くの親子連れが中心でしたが、口コミで、電車で来館する人も増えていきました。その後、週1回は本館の職員が勤務し、読み聞かせをすることも始め、賑やかな空間となりました。

平成16年に制定された「子ども読書活動推進計画―読書県しずおかをめざして」に背中を押され、子どもの読書活動向上のため、研究用として多くの児童書や参考図書を収集し、「子どもと本とを結ぶ活動」に関わる方々を支援することを目的として「子ども図書研究室」が設置されることになりました。開室の作業は急ピッチで進められました。設置場所は以前、視聴覚ライブラリーがあったところ、そして絵本と児童書を収納する場所は16ミリフィルムのあった倉庫と決定。書架はどんなものがいくつ必要か本日中に決めてほしいと言われ、あたふたしました。ほかにも、書架をどこに配置するのか、他に必要なものは何か、平成15年から全点購入をスタートした絵本と児童書をどのように配架し、どのように来館者や市町に提供するのかなど、ハード面ソフト面を決定し、実施しなければいけないことが山積みでした。通常業務をしつつ、短期間での開室準備作業は、勤務時間内で終了できる内容ではありませんでしたが、その時々々に最善の方法を考え、取り入れようとみんなで知恵を出し合い、多くの方の助けと支えがあって進めることができました。

子ども図書研究室は平成16年6月18日開室と決まり、「子ども図書研究室」の看板は、当時の恩田館長に書いていただきました。当日は、国際子ども図書館長の富田美樹子氏に「子どもの読書活動を支える大人の役割」と題して講演していただき、図書館の講堂は満員でした。

開室した後もすべてを手探り状態で進める中、県内の図書館を巡回した際、「選書に苦勞する」、「研修費用が少ないので遠くまで講演会に出かけられない」という声を聞きました。そのため、川根町や富士川町などに、新しく選定した絵本や児童書をコンテナで運び入れ、一日ゆっくりと読んでもらえるように「一日えほんとしょかん」を計画、実施しました。

開室1周年記念講演の講師を探していた時期に参加した研修会で、大月(間崎)ルリ子氏にお会いし、子ども図書研究室の運営について助言をいただくことができたばかりか、講演もお引き受けいただくことができました。大月氏は、絵本の翻訳や家庭文庫の主宰をされており、講演ではストーリーテリングもしてくださるということで、講堂ではなく会議室でしたが、満員でお断りするほどでした。

現在の子ども図書研究室は、子どもたちに開放する日もあると聞いています。県立に常設の児童室を設置し、直接子どもたちにきちんとした児童サービスを行い、その結果を研究室にフィードバックし、市町の図書館の支援や県内の子どもの読書活動の推進に生かしていくことは、私がいた頃にやりたかったことでした。「思い」は今後に託しましょう。

図書館に8年、多くの方と出会い、楽しく過ごせた時間でした。ありがとうございました。これからの子ども図書研究室のますますの活躍を祈願しております。

付属資料 2

“静岡県立中央図書館「葵文庫」活用事業”について

静岡県立中央図書館では、徳川氏の駿府移封に伴い静岡にもたらされた江戸幕府旧蔵資料「葵文庫」を所有している。この度、平成 21 年から 23 年にかけての雇用創出事業“静岡県立中央図書館「葵文庫」活用事業”により、葵文庫全タイトルのマイクロ化・デジタル化が完了したため、その事業成果を取りまとめ報告する。



【図】デジタルライブラリーにて公開された葵文庫『論語』

1 趣旨

“静岡県立中央図書館「葵文庫」活用事業”は、平成 21 年度より 3 年計画で、葵文庫全タイトルのマイクロフィルムとデジタル画像データを作成し、また作成したデジタル画像データをデジタルライブラリーにて登録・公開した事業である。当館が所蔵する葵文庫を閲覧による劣化から防ぎ、資料の恒久的保存を図るとともに、一層の利活用を図ることを目的として計画された。

2 経緯

当館では貴重書の修理保存計画について、調査課によるマイクロ化事業の年次計画のほか、全課職員を交えたワーキンググループ「資料修理保存検討委員会」により 5 ヵ年

計画を策定していた。ただし、毎年の予算内で行える範囲はごく少数であり、資料の経年劣化が懸念されていた。そのような中、本庁より「緊急雇用事業」の情報が寄せられたため、担当課でこの基金を使った修理保存を検討することとなった。

「雇用創出事業」は、平成 19 年前後より発生した世界的な金融危機を受け、国の交付金「緊急雇用創出事業」を財源とし、県の経済産業部就業支援局雇用推進課が設置した基金である。予算枠として大きな額が扱える一方、緊急雇用職員による作業となるなど、いくつかの要件を満たす必要があった。そこで、この基金を活用した貴重書の保存について担当課で検討したところ、「マイクロフィルム作成」「デジタル画像作成」「電子複製・製本資料の作成」「ネガフィルムのポジ化」「デジタルカメラによるカラー撮影」などの候補が挙がった。それらの中から、「緊急雇用創出事業」の要件をみだし、かつ緊急雇用職員による作業であっても一定の品質を保てること、作成物の長期活用が見込まれ、また既存の計画の延長線上にある点などを踏まえ、葵文庫全タイトルのマイクロ化・デジタル化事業として計画することとなった。この計画を取りまとめ提出したところ、審査により「雇用創出事業」として予算がつき、“静岡県立中央図書館「葵文庫」活用事業”が行われることとなったのである。

3 作業内容

作業は、まず葵文庫全点のマイクロフィルムを作成し、その後にマイクロからスキャナを使用してデジタル画像データを作成する手順で行った。

(1) マイクロフィルムの作成

葵文庫全点をマイクロフィルムに撮影した。その際、すでにマイクロ化されていた資料や複本は対象外とした。ほか、

- ・ 綴じがきついなど、撮影に際し損傷が予想される資料は、貴重書修復の専門的技術・経験を有する業者が解体したのちに撮影し、その後に綴じ直した。
- ・ アンカット本は、アンカットのページ箇所を記録してからカットを行ったなど、貴重書の保存と現状維持にも留意した。

(2) デジタル画像データの作成

作成したマイクロフィルムをスキャニングし、デジタル画像データを作成した。

まず、デジタルデータの形式を取り決めた。先行事例や実績のある図書館等への聞き取り調査を参考に、容量と長期保存性、可逆性、再生可能性等のバランスを考慮し、また実際にテストスキャニングした結果などを踏まえ、提供用と保存用に分けて複数のフォーマットを採用することとした。具体的には、マイクロフィルムからのスキャニングによるデジタル化では、保存用として TIFF 形式（非圧縮・白黒 2 値・400dpi）を、提供用として PDF（200dpi）形式を採用した。また、マイクロフィルムは白黒であり、朱書きやカラーページはそのままでは判別できないため、それらがある資料は、

原本から直接 TIFF 形式（保存用・24bit カラー）と jpeg 形式（提供用・低圧縮・24bit カラー・400dpi）で撮影・デジタル化を行うこととした。

なお、一部の資料は既にデジタル画像が作成されていたが、解像度や形式を統一するため、原則それらも再度デジタル化を行った。また、搬送による資料の破損を防ぐため、撮影は原則、貴重書庫前室を改修した暗室で行い、大型機材が必要なもののみ館外持出とした。おって、初年度は静岡県総合教育センターからの貴重書移転があったため、既存のマイクロフィルムからのスキャニングによるデジタル化を中心に行いながら、カラー撮影を数点行い、その結果を2年目以降のカラー撮影に反映させた。

併せて、画像データと共に、書誌情報、容量、画像数、マイクロフィルム番号、DVD番号、その他メタデータ、さらに『しずおかの貴重書』等の解説文などを備えた、デジタルデータ目録の作成も依頼し、データ管理や検収の用に供した。

最終的な作業実績は下記のとおりである。

年度	冊数	総タイトル数	委託費 (税込)	作成データ数	主な作業内容	成果品
平成21	933	536	14,332,500 円	約25万 コマ	・マイクロフィルムからのデジタル画像データ作成	35mm マイクロフィルム（ネガ・ポジ）、 データ DVD、 データ HDD
平成22	1105	201	9,292,500 円	約10万 コマ	・資料のマイクロフィルム撮影、 デジタル画像データ作成	
平成23	670	188	12,285,000 円	約10万 コマ	・資料撮影によるカラーデジタル画像データの作成	
合計	2708	925	35,910,000 円			

【表】 葵文庫活用事業における作業実績

(3) 検収

マイクロフィルム及びDVD-ROM、電子データ、目録等の納品後に、検収として画像の撮影結果確認のほか、トリミング状態、数量、撮影対象、容量、書誌情報その他付与メタデータの確認等を行った。特に地図などの大型資料は、画像の焦点や、地名など細かな文字の可読性や綴じ目の写りなどで問題が発生しやすいため、画像の品質も含め検収を行った。

(4) デジタルライブラリーでの公開

デジタルライブラリーの構築に際して、業務システム更新が同時期にあったため、業務システムの仕様にデータの登録作業、容量の確保等を盛り込み、システム更新の中でこれらの作業を行うこととした。よって、データの登録等は原則的にシステム業

者が行い、職員はその修正等のみ行うこととなった。ほか、デジタルライブラリーの書誌データには以前に作成したデータベース用のメタデータを流用するなど、職員の労力が少なくなるよう留意した。

ただし実際には、図書館とシステム業者のデジタルライブラリーに対する見解の違いや、システムの仕様による制限、図書館の要望とシステム業者の実装方法に差異があるなど、システム業者との調整不足の点も見受けられた。そのため、職員による登録作業も少なからず発生し、電子データが納品されてから登録・修正・公開されるまで時間がかかる要因にもなってしまった。

4 成果と課題

本事業の効果として、利用者が貴重書を目にする機会が増え、利用が促進されたことが挙げられる。図書館に来館せずにデジタルライブラリー上で藝文庫を閲覧できるようになり、利便性が向上したほか、デジタルライブラリーがマスメディア等に取り上げられ、登録資料を広くPRすることができた。その結果、掲載・放映での使用許可申請件数が大きく増加することとなった。また国立国会図書館関西館「公共図書館におけるデジタルアーカイブ推進会議」で事例発表も行うなど、図書館界からも先進的な事例として反響があった。

課題としては、検索が分かりにくい点や、資料の解説が不足している点、また資料に興味を持ってもらうためのアプローチが不十分である点などが挙げられる。これらの問題点も踏まえ、今後もデジタルライブラリーの活用を図っていきたい。

7 略年表

年	月	静岡県立中央図書館	年	月	県内図書館等
			明治 5年		三島神社内に書籍縦覧所開場
			明治 6年		富士郡大宮町に開化講設置
			明治10年		沼津書籍館設立
			明治11年	1月	静岡県立書籍館、県立師範学校附属として開館（無料）
			明治16年		田方郡塚本村に私立観光文庫設立
			明治19年		関口隆吉氏久能文庫企画
			明治21年	8月	沼津尋常小学校に沼津文庫開館
			明治35年	9月	浜松青年同志会、私立浜松青年書籍館設置 → 私立浜松図書館 → 市立
			明治40年	9月	私立丁未図書館設立（静岡市安西 瑞光寺）
			明治42年	9月	浜名郡新津小学校に新津村立図書館設立
			明治43年	9月	静岡県教育会附設図書館設立
			明治43年		静岡市教育会、市第二尋常小学校内に通俗図書館開設
			明治45年	1月	田方郡上大見小学校に八岳文庫設置 → 八島文庫
			大正 2年	7月	磐田郡三川小学校に三川村立図書館設立
			大正 2年	10月	駿東郡玉穂不二文庫設立 → 不二文庫
			大正 3年	4月	小笠郡西山口小学校に西山口図書館設立
			大正 3年	9月	田方郡戸田小学校に戸田文庫設立 → 戸田小学校児童文庫
			大正 4年	1月	田方郡土肥町に土肥文庫設立
			大正 4年	3月	三島町立図書館設立 → 市立
			大正 4年	8月	大正記念町立伊東図書館設立 → 市立
			大正 4年	10月	熱海町立図書館設立 → 市立
			大正 4年	12月	村立葦山文庫設立
			大正 4年		御即位記念須山村立図書館設立
			大正 5年	3月	村立千代田図書館設立 → 静岡市立千代田
			大正 5年	5月	焼津町立焼津尋常小学校附属図書館設立 →市立
			大正 6年	4月	駿東郡北郷文庫設立
			大正 6年	5月	田方郡小室村立大正記念図書館設立
大正8年	8月	関屋知事、県立図書館設立を決意す			
			大正 9年	10月	浜名郡曳馬図書館設立 → 浜松市立曳馬
			大正 9年		浜名郡伊佐見村立図書館設立
大正10年	3月	「葵文庫設立趣意並計画概要」を発表	大正10年	1月	浜名郡蒲村立図書館設立 → 浜松市立蒲
大正10年	11月17日	徳川家の記念事業として渋沢栄一氏等の寄附を得て、県立図書館設立を県会に提案議決、設立費17万円	大正10年	7月	雄踏村立図書館設立 → 町立
大正11年	11月	静岡県立葵文庫設立認可	大正11年	4月	賀茂郡稲生沢村立図書館設立
			大正11年		揚原文庫設立

年	月	静岡県立中央図書館	年	月	県内図書館等
			大正11年	12月	下田町立図書館設立 → 市立
大正12年	12月	起工	大正12年	4月	浜松高等工業学校（静岡大学）図書館設置
大正13年	10月	竣工	大正13年	1月	浜名郡白脇図書館設立 → 浜松市立白脇
大正13年	10月30日	貞松修蔵静岡県立葵文庫初代文庫長就任 開館準備事務を開始	大正13年	6月	新居町図書館設立 → 町立
大正13年	11月	静岡師範学校保管の徳川幕府旧蔵の和漢洋図書、静岡中学校所蔵の和漢洋図書、文庫に移管	大正13年	10月	静岡高等学校（静岡大学）図書館設置
大正13年		静岡県教育会附設図書館の図書全部が寄贈される、同館は閉鎖			
大正13年		関口壯吉氏より、父隆吉の蔵書久能文庫を寄贈			
大正14年	3月	新村出氏より駿河御譲本春秋公羊伝（上、下）2冊寄贈	大正14年	2月	浜名郡村立知波田図書館設立
大正14年	4月1日	静岡県立葵文庫開館（蔵書22,000冊、職員16名）	大正14年		浜名郡富塚図書館設立 → 浜松市立富塚
			大正14年	10月	県、「町村図書館設置要項並町村図書館準則」公布
			大正14年	11月	志太郡村立小川図書館設立 → 焼津町立小川児童
大正15年	7月	館報「葵文庫ト其事業」創刊			
大正15年	7月	田中光顕氏より、大法炬陀羅經卷18、1冊寄贈			
			昭和 2年	11月	駿東郡小山町立図書館設立
昭和3年	11月3日	徳川頼貞氏、駿河版群書治要巻1-50（4,13,20欠）47冊を寄贈			
昭和4年	6月	山梨稲川百年祭記念事業として、山梨稲川集全4冊を刊行	昭和 4年	1月	三ヶ日図書館設立 → 中央公民館図書室
			昭和 4年	3月	志太郡大洲村立図書館設立
			昭和 4年	4月	志太郡青島町立図書館設立
			昭和 4年	7月	大宮町立図書館設立 → 富士宮市立
昭和5年	5月28日	昭和天皇陛下本県御巡幸第1日目、県立葵文庫に行幸、稀覯書等を天覧	昭和 5年	4月	磐田郡村立井通共愛図書館設立
昭和5年	8月	蕃書調所、開成所旧蔵本中重複する洋書を、東京帝国大学、東京外国語学校に移譲			
			昭和 6年	9月	清水市立図書館設立
			昭和 7年	11月	静岡県図書館協会発足
昭和8年	9月	改正図書館令により、静岡県立葵文庫が本県の中央図書館に指定される	昭和 8年	5月	「静岡県図書館協会々報」創刊
昭和8年	11月1日	10周年記念式典を挙行			
昭和9年	2月	寺崎乙次郎氏蔵書寄贈、斗南文庫と命名			
昭和10年	9月	厚生新編復本完成	昭和10年	9月	静岡県、「図書館令施行細則」「町村立図書館設置経営要項」公布
昭和11年	3月	貞松修蔵文庫長退任、星子政雄文庫長事務取扱			
昭和11年	6月	相京伴信文庫長事務取扱			
昭和11年	12月	内山真竜等、遠州国学者の文献収蔵			
昭和12年	8月30日	シヨメールの百科全書を邦訳した厚生新編を復刻頒布			
昭和14年	9月	七沢甚喜文庫長事務取扱			
昭和14年	12月	国民精神総動員文庫の巡回を始める			
昭和15年	7月	加藤忠雄文庫長に就任			
昭和15年	8月	大浜公園に海浜文庫開設			
昭和16年	5月	翼賛文庫貸出開始			

年	月	静岡県立中央図書館	年	月	県内図書館等
昭和17年	6月	本文庫において、戦時読書指導協議会を開催			
			昭和19年	2月	読書指導者思想錬成講習会、於西山本門寺
			昭和19年	3月	決戦読書指導研究会、於焼津東小学校
			昭和19年	5～6月	決戦下勤労者教育のための読書指導者懇談会 東（沼津商工会議所）・中（葵文庫）・西部 （浜松市立図書館）で開催
昭和20年	3月	貴重図書を外7カ所に疎開	昭和20年		静岡薬学専門学校図書館設置 → 静岡薬科大学 → 静岡県立大学附属図書館
昭和20年	6月20日	静岡大空襲 戦災により、講堂及び付属木造箇所を焼失	昭和20年	6月	浜松大空襲により浜松市立図書館建物焼失
			昭和20年	7月	清水市立図書館、空襲で全館全蔵書焼失
昭和21年		県立葵文庫にCIE読書室設置	昭和21年	4月	佐野一夫、私立富士文庫設立。一般に無料公開 → 昭和62年3月31日閉館
昭和21年		清水真一氏（島田市）より十糶屈折赤道儀式望遠鏡の寄贈を受け屋上に天文室を設置、天文研究会発足（～昭和38年）	昭和21年	10月	静岡県読書文化協会発足
			昭和22年	3月	県立静岡農業専門学校（静岡大学）図書館設置
			昭和23年	4月	静岡県議会図書館開館
			昭和23年	7月	静岡市公会堂にCIE図書館開館 → アメリカ文化センター → 日米文化センター（昭和28年1月）
			昭和24年	5月	磐田市立図書館設立
昭和25年	12月	県視聴覚ライブラリーを県立葵文庫内に設置	昭和25年	5月	大須賀町立町民図書館設立 → 町立
			昭和25年	5月	気賀町立図書館設立 → 細江町立
			昭和25年	7月	舞阪町立図書館設立
			昭和26年	2月	浜松短期大学図書館設置
			昭和26年	4月	吉原市立図書館設立 → 富士市立中央
			昭和26年	6月	静岡県図書館協会再発足
			昭和26年	9月	町立掛川図書館設立 → 市立
			昭和26年	10月	島田市立図書館設立
			昭和27年	3月	清水市立図書館開館
			昭和27年	4月	沼津市立図書館沼津文庫設立
			昭和27年		県移動文化館発足（静岡県教育委員会社会教育課）～35年
			昭和27年		静岡県市立図書館協議会発足
			昭和27年		富士川町立図書館設立 → 中央公民館図書室
昭和28年	4月1日	日米文化センターが県立葵文庫に併置	昭和28年	1月	日米文化センター発足
			昭和29年	7～8月	文部大臣委嘱図書館専門職員講習 会場静岡大学
			昭和30年	11月	日本大学国際関係学部図書館開館
昭和31年	3月	加藤忠雄文庫長退任	昭和31年	11月	市立焼津図書館、図書の家庭配達制度を実施
昭和31年	4月	岡谷潔文庫長就任			
昭和31年	11月1日	図書館法に基づき静岡県立中央図書館葵文庫と名称変更			
昭和32年	3月	岡谷潔館長退任	昭和32年	6月	浜松市社会教育課内に移動文化館（BM）誕生
昭和32年	4月	山本松市館長就任	昭和32年	10月	熱海市立図書館、巡回文庫「お茶の間図書館」活動を開始
昭和32年	6月	相談室を開設			

年	月	静岡県立中央図書館	年	月	県内図書館等
昭和33年	2月	館報「葵」第1号発行	昭和33年	5月	島田市立図書館、公民館等7ヵ所に巡回文庫開設
昭和33年	9月	課制を導入し、庶務課、整理課、奉仕課を設置			
昭和35年	3月	山本松市館長退任	昭和35年	4月	森町立図書館設立
昭和35年	4月	岡本滋館長就任	昭和35年	10月	静岡県読書推進運動協議会結成
昭和35年	9月	本を読み合う会発足	昭和35年	12月	佐野記念館三島市立図書館開館
昭和36年	4月	自動車文庫「あおい号」開始			
昭和36年	9月	茶の間ひととき読書運動開始			
昭和36年		郷土研究講座、船員文庫始まる			
昭和36年	10月	静岡県立中央図書館 大井文庫図書目録 発行			
			昭和37年	4月	東海大学附属図書館清水分館開館
			昭和37年	5月	雄踏町立図書館開館（中央公民館内）
			昭和37年	10月	沼津市立駿河図書館開館
昭和38年	3月	岡本滋館長退任	昭和38年	6月	三島市立図書館、館外貸出・団体貸出開始
昭和38年	4月	今泉勇館長就任			
昭和38年	9月	文化センター建設準備委員会を設置し、基本計画の策定を開始			
			昭和39年	6月	沼津市立駿河図書館、沼津文庫の蔵書を市立第一小学校より移管
			昭和39年	10月	浜松市立図書館に社会教育課内のBM配属される
昭和40年	3月	今泉勇館長退任	昭和40年	1月24日	第1回静岡県読書大会開催（静岡市）
昭和40年	4月	小林篤館長就任	昭和40年	12月5日	第2回静岡県読書大会開催（静岡市）
昭和40年	10月	館内に新図書館研究委員会を設け、研究討議するとともに、移転準備のための資料設備等を実施			
昭和41年	8月	「新図書館の望ましい姿」を付し、企画調整部の意見聴取に回答	昭和41年	1月	静岡英和女学院短期大学図書館設置
			昭和41年		常葉女子短期大学（常葉学園短期大学）図書館設置
			昭和41年	4月	静岡県立大学短期大学部附属図書館開館
			昭和41年	11月	伊東市立図書館、伊東郷土研究会を組織
			昭和41年	11月4日	第3回静岡県読書大会開催（浜松市）
昭和42年	4月	日米文化センターを、静岡県日米協会に移管	昭和42年	1月	静岡女子大学附属図書館設置 → 静岡県立大学
昭和42年	12月26日	文化センター基本計画に基づき、新図書館建築着工	昭和42年	4月	熱海市立図書館開館
			昭和42年	9月	明治百年記念郷土資料展（県内11会場巡回展示）
			昭和42年	10月15日	第4回静岡県読書大会開催（沼津市）
昭和43年	3月	静岡県立中央図書館葵文庫 現代詩ライブラリー目録 昭和43年3月31日現在 発行			
昭和43年	3月	静岡県立中央図書館葵文庫 郷土資料目録 昭和43年3月31日現在 発行	昭和43年	7月	財団法人裾野市鈴木育英図書館開館
			昭和43年	8月	近世文書解説講習会（～昭和46年）（静岡県図書館協会）
			昭和43年	9月	静岡大学附属図書館開館
			昭和43年	11月17日	第5回静岡県読書大会開催（清水市）
昭和44年	3月	静岡県立中央図書館葵文庫 久能文庫目録 発行	昭和44年	4月	聖隷学園浜松衛生短期大学図書館開館
昭和44年	3月18日	新図書館完工	昭和44年	8月	藤枝市立図書館設立

年	月	静岡県立中央図書館	年	月	県内図書館等
昭和44年	3月	小林篤館長退任	昭和44年	11月9日	第6回静岡県読書大会開催（磐田市）
昭和44年	4月	高林静夫館長就任	昭和44年	12月	静岡市立図書館設立 → 静岡市立中央
昭和44年	6月30日	県立中央図書館蔵文庫を閉館、新館移転作業を開始			
昭和44年	7月12日	静岡県文化センター設置条例が制定され、静岡県立中央図書館と名称変更			
昭和44年	8月1日	新館移転を完了、開館準備事務を開始。静岡県文化センターの組織及び運営に関する規則（以下「組織運営規則」という）が制定され、庶務課、資料課、整理課、事業課の4課を設置			
昭和45年	3月20日	静岡県立中央図書館協議会条例及び静岡県文化センター使用料条例を制定	昭和45年		袋井市立図書館設立
昭和45年	4月	静岡県立中央図書館蔵 江戸幕府旧蔵図書目録 発行	昭和45年	11月	御殿場市立図書館設立
昭和45年	4月18日	静岡県文化センター開所、静岡県立中央図書館開館式を挙げる。20日から一般、開館時間：9時～17時、日曜日休館、貸出冊数・期間：2冊・15日	昭和45年	11月6日	第7回静岡県読書大会開催（静岡県立中央図書館）
昭和45年	7月20日	館報「文化」1号 発行			
昭和46年	5月23日	日曜日開館開始（開館時間：9時～16時 閲覧室、展示室の利用に限る）	昭和46年	1月	常葉学園短期大学附属図書館之山文庫開館
昭和46年	6月	産業技術資料協議会発足 → 平成13年6月解散	昭和46年	3月	沼津市立駿河図書館、「図書館郷土資料叢書」を刊行
昭和46年	7月1日	「地方史静岡」創刊号発行 → 第29号（平成13年4月25日発行）	昭和46年	4月	沼津工業高等専門学校図書館開館
			昭和46年	4月	天竜市立図書館開館
			昭和46年	4月	浜北市立図書館設立
			昭和46年	5月	磐田市立図書館、茶の間読書運動市内全小学校で実施
			昭和46年	5月	浜北市立図書館、茶の間ひととき読書推進運動開始
			昭和46年	9月	藤枝市立図書館、藤枝市茶の間ひととき読書連絡会発足
			昭和46年	11月1日	第8回静岡県読書大会開催（富士市）
昭和47年	4月	文化センター建設事務所廃止、園地管理が図書館の所管になる	昭和47年	4月	常葉学園短期大学之山文庫分館開館
昭和47年	11月	学制百年記念展開催	昭和47年	4月	静岡大学附属図書館浜松分館開館
			昭和47年	7月	掛川市立図書館開館
			昭和47年	9月	宗教法人世界救世教松風文庫開館
			昭和47年	9月	財団法人培本塾附属図書館開館
			昭和47年	11月1日	第9回静岡県読書大会開催（天竜市）
			昭和47年	11月	磐田市立図書館、農協あおぞら文庫10カ所開設
			昭和47年		島田市榛原地区、広域市町村圏組合事業移動図書館開始。市内ステーション10カ所。これにともない島田市立図書館、巡回文庫ステーションを縮小
			昭和47年		静岡子どもの本を読む会発足
昭和48年	3月	高林静夫館長退任	昭和48年	7月	吉田町中央公民館図書室開館
昭和48年	4月	小島毅館長就任			
昭和49年	3月	静岡県立中央図書館郷土資料目録2 昭和43年4月～昭和49年3月 発行	昭和49年	2月22日	第10回静岡県読書大会開催（静岡県立中央図書館）
昭和49年	4月1日	組織運営規則の一部改正により、各課に2係制を導入 貸出、複写の受付を16時30分まで（日曜日は15時）とする	昭和49年	3月	公共図書館業務に関する現状と勤務の改善について（陳情）
昭和49年	7月	七夕豪雨により園地一部崩壊	昭和49年	4月	浜松市立南図書館設立

年	月	静岡県立中央図書館	年	月	県内図書館等
昭和49年	9月	静岡県立中央図書館・館報「葵」1号発行			
			昭和49年	11月17日	第11回静岡県読書大会開催（三島市）
			昭和49年		静岡県市立図書館協議会、図書館網策定研究委員会設置
昭和50年	11月	50周年記念事業を行う	昭和50年	3月	浜北市立図書館、地域家庭文庫開設
昭和50年	11月10日	50周年を記念して「50年のあゆみ」を発行	昭和50年	11月7日	第12回静岡県読書大会開催（掛川市）
昭和51年	4月	「レファレンス」創刊（No.1：昭和51.4－No.204：平成3.3）→「県立中央図書館だより・レファレンス」（No.205：平成5.4－No.243：平成8.7）→「静岡県立中央図書館だより」（No.244：平成8.9－No.325：平成22.4）→「文化の丘・静岡県立中央図書館だより」（No.326：平成22.6－）	昭和51年	4月	下田市立下田図書館開館
			昭和51年	6月	小山町立小山図書館開館
			昭和51年	10月	県図書館協会出版事業を開始、「静岡県政史話」を復刻出版
			昭和51年	11月5日	第13回静岡県読書大会開催（静岡市）
			昭和52年		小笠町中央公民館図書室開館
			昭和52年	4月	大井川町中央公民館図書室開館
			昭和52年	5月	浜岡町原子力広報研修センター図書室開館
			昭和52年	11月10日	第14回静岡県読書大会開催（富士宮市）
昭和53年	3月	小島毅館長退任	昭和53年	3月15日	「静岡県郷土資料総合目録 昭和50年3月31日現在」（静岡県立中央図書館、静岡県図書館協会編）静岡県図書館協会発行
昭和53年	4月	宗知信館長就任	昭和53年	4月	浜松短期大学図書館開館
昭和53年	11月	静岡県行政資料目録 昭和52年度刊行分 発行	昭和53年	4月	浜松市立城北図書館設立
昭和53年	12月	宗知信館長退任	昭和53年	4月	長泉町民図書館設立
			昭和53年	4月	「静岡県の図書館」（静岡県図書館協会）創刊
			昭和53年	7月	沼津市立駿河図書館駅北分室（インバシプラザ4階）開設
			昭和53年	11月15日	浜松医科大学附属図書館開館
			昭和53年	11月9日	第15回静岡県読書大会開催（浅羽町）
			昭和53年	12月20日	「静岡県史蹟名勝天然記念物調査報告1－3巻 復刻版」静岡県図書館協会発行
昭和54年	1月	堀通雄教育次長が館長を兼務	昭和54年	4月	豊田町立西公民館図書室開館
昭和54年	4月	渡辺悦郎館長就任	昭和54年	4月	浜松市立西図書館設立
			昭和54年	5月	藤枝市立図書館開館
			昭和54年	8月	大須賀町立図書館開館
			昭和54年	11月13日	第16回静岡県読書大会開催（焼津市）
			昭和54年	12月1日	「静岡県管内全図 復刻版」静岡県図書館協会発行
昭和55年	2月	静岡県行政資料目録 昭和53年度刊行分 発行	昭和55年	4月	浜松市立積志図書館設立
昭和55年	11月	静岡県立中央図書館蔵書目録の刊行開始。静岡県立中央図書館蔵書目録 第3巻 自然科学・工業・産業 昭和54年3月31日現在 発行	昭和55年	4月	常葉学園大学附属図書館開館
			昭和55年	4月	榛原町民文化センター図書室開館
			昭和55年	11月	富士市立西図書館開館
			昭和55年	11月	伊東市立伊東図書館開館

年	月	静岡県立中央図書館	年	月	県内図書館等
			昭和55年	11月14日	第17回静岡県読書大会開催（清水市）
昭和56年	2月	静岡県行政資料目録 昭和54年度刊行分 発行	昭和56年	4月	浜松市立中央図書館開館
昭和56年	3月	渡辺悦郎館長退任	昭和56年	4月	水窪町山村開発センター図書室開館
昭和56年	4月	石川嘉延教育次長が館長を兼務	昭和56年	10月	東海大学女子・商経短期大学部図書館開館
昭和56年	4月	貸出冊数を3冊とする	昭和56年	11月	御殿場市立図書館開館
昭和56年	9月	西村二郎館長就任	昭和56年	11月12日	第18回静岡県読書大会開催（御殿場市）
昭和56年	11月	静岡県立中央図書館所蔵 古文書目録 発行	昭和56年	11月20日	「静岡県郷土資料総合目録 追加版1 昭和54年12月31日現在」 静岡県図書館協会編・発行
昭和57年	3月	静岡県立中央図書館蔵書目録 第1巻 総記・哲学・歴史 昭和56年3月31日現在 発行	昭和57年	4月	浜松市立東図書館設立
昭和57年	3月	静岡県行政資料目録 昭和55年度刊行分 発行	昭和57年	10月27日	第19回静岡県読書大会開催（浜北市）
昭和58年	2月	静岡県立中央図書館所蔵 児童文学研究書目録 昭和52年12月現在 発行	昭和58年	4月	静岡県社会福祉協議会社会福祉資料室開館 → 福祉情報センター
昭和58年	3月	静岡県立中央図書館蔵書目録 第2巻 社会・科学 昭和57年3月31日現在 発行	昭和58年	4月	浜松市立北図書館設立
昭和58年	4月	書庫出納を16時30分まで（日曜日は15時）とする	昭和58年	10月27日	第20回静岡県読書大会開催（静岡市）
昭和58年	5月	久能文庫展・講座開催	昭和58年	10月	島田市立図書館開館
昭和58年	11月	第1回葵文庫展・講座開催			
昭和59年	3月	静岡県立中央図書館蔵書目録 第4巻 芸術・語学・文学 昭和58年3月31日現在 発行	昭和59年	2月1日	「静岡県水産誌 復刻版」 静岡県図書館協会発行
昭和59年	3月	西村二郎館長退任	昭和59年	4月	浜松市立南陽図書館設立
昭和59年	4月	松井哲館長就任	昭和59年	5月	三ヶ日町中央公民館図書室開館
昭和59年	5月	日本の現代詩展・講座開催	昭和59年	7月18日	静岡市立中央図書館開館
昭和59年	9月	関口家文書追贈（近藤啓吾氏仲介）	昭和59年	8月	新居町立図書館開館
昭和59年	11月	第2回葵文庫展・講座開催	昭和59年	10月30日	第21回静岡県読書大会開催（三島市）
昭和60年	3月	松井哲館長退任	昭和60年	4月	静岡県立大学短期大学部図書館設置
昭和60年	3月	静岡県立中央図書館蔵書目録 第5巻 旧分類図書・洋書 昭和59年3月31日現在 発行	昭和60年	4月	清水町立図書館開館
昭和60年	3月	静岡県行政資料目録 昭和56年1月～昭和59年12月 発行	昭和60年	6月	焼津市立図書館開館
昭和60年	4月	鈴木嘉弘館長就任	昭和60年	11月1日	第22回静岡県読書大会開催（焼津市）
昭和60年	4月1日	組織運営規則の一部改正により、庶務課を総務課に改正及び静岡県視聴覚ライブラリー設置を制定	昭和60年	11月	富士川町中央公民館図書室開館
昭和60年	6月	60周年記念近代歌人・静岡県現代歌人展・講座開催			
昭和60年	11月6日	県立中央図書館協議会から「今後の県立中央図書館の在り方」について答申			
昭和60年	11月	60周年記念葵文庫・久能文庫展・講座開催			
昭和61年	3月	静岡県立中央図書館新聞雑誌目録 昭和60年改訂 発行	昭和61年	3月1日	「目で見る・静岡県図書館白書'85-いまと、これからをめざして-」（静岡県図書館協会）発行
昭和61年	4月	日曜日の閉館時間を17時とする	昭和61年	4月～	「静岡県新総合計画」の策定、（昭和61～70年度）（静岡県）
昭和61年	4月～	静岡県公共図書館振興対策のとりまとめ	昭和61年	4月	浅羽町立図書館設立
昭和61年	9月5日	浙江省友好代表団来館	昭和61年	4月	相良町立図書館開館
昭和61年	10月23日～24日	関東地区都県立図書館副館長会議（会場：静岡市）	昭和61年	4月	函南町中央公民館図書室開館
昭和61年	11月5日～14日	静岡県立中央図書館所蔵雑誌展	昭和61年	4月	大東町北公民館図書室開館

年	月	静岡県立中央図書館	年	月	県内図書館等
昭和61年	11月11日～18日	葵文庫・久能文庫展・講座開催	昭和61年	7月	菊川町立図書館菊川文庫開館
			昭和61年	8月14日	静岡市立追手町図書館開館（静岡市役3階） → 閉館（平成16年）
			昭和61年	10月30日	第23回静岡県読書大会開催（浜松市）
			昭和61年	11月	本川根町民文化会館図書室開館
			昭和61年	11月	伊豆長岡町文化センター図書館開館
			昭和61年	11月	由比町中央公民館図書室開館
昭和62年	3月	「葵文庫」碑建立（葵文庫跡地）	昭和62年	1月	静岡英和女学院短期大学図書館開館
昭和62年	3月31日	特許関係資料が発明協会静岡県支部へ移転	昭和62年	3月	「静岡県教育中期計画」の策定（S61～70） （静岡県教育委員会）
昭和62年	11月19日～20日	関東地区都県立図書館運営研究会（静岡市）	昭和62年	3月31日	私立富士文庫閉館
昭和62年	11月20日	静岡県立中央図書館郷土資料目録 昭和60年 9月30日現在 発行	昭和62年	4月	静岡県立大学附属図書館開館
			昭和62年	4月	静岡県、公立図書館整備振興策の策定・発足 （S62年～H3年）
			昭和62年	4月	富士市立東図書館開館
			昭和62年	4月	引佐町立図書館設立
			昭和62年	4月	静岡市の図書館を考える会発足
			昭和62年	5月	図書館システム研究会設置（静岡県教育委員会）
			昭和62年	10月27日	第24回静岡県読書大会開催（富士市）
昭和63年	3月1日	図書館利用規程を改正し、市町村立図書館等 への協力貸出を充実	昭和63年	3月	「身近に図書館を」－公立図書館の振興のため に－（昭和62年静岡県図書館システム研究会 報告書）静岡県図書館システム研究会発行 （事務局：静岡県教育委員会）
昭和63年	3月	鈴木嘉弘館長退任	昭和63年	4月	静岡学園短期大学図書館開館
昭和63年	4月	石田徳行館長就任	昭和63年	4月	常葉学園浜松大学附属図書館開館
昭和63年	4月1日	組織運営規則の一部改正により、事業課が振 興課に、普及係が協力係に変更	昭和63年	4月14日	天城湯ヶ島町立図書館天城文庫開館
昭和63年	7月1日	生涯学習情報コーナー開設	昭和63年	6月7日	松崎町立図書館開館
昭和63年	8月	協力車試行運行	昭和63年	6月	静岡競輪場ライブラリー開館
昭和63年	10月13日～14日	関東地区市区町村図書館運営研究会（伊豆長 岡町）	昭和63年	6月	図書館専門職員の養成等に関する要望（県立 大学・常葉大学）
昭和63年	11月	JLA事務局長より県教育長へ平成2年度・全国 図書館大会の開催要請・了承	昭和63年	7月	袋井市立図書館新館開館
			昭和63年	9月	市制百年を機に県都静岡の図書館をよくする 会発足
			昭和63年	10月29日	第25回静岡県読書大会開催（袋井市）
			昭和63年		図書館を考える磐田市民の会（1986年発足） 「新しい磐田市民の図書館をめざして」刊行
平成元年	3月	静岡県立中央図書館蔵書目録 第6巻 増加 の部 昭和62年3月31日現在 発行	平成元年	3月	「くらしに図書館を」－よりよい住民サー ビスを目指して－（昭和63年度静岡県図書館シ ステム研究会報告書）静岡県図書館システム 研究会発行（事務局：静岡県教育委員会）
平成元年	4月	協力車運行の制度化	平成元年	3月1日	「ね！おはなしよんで－読み聞かせの手引 き・0歳から6歳までの絵本」（親子読書推進 協議会）発行
平成元年	5月20日	「よみたい絵本・そろえたい絵本－これから 選定をするために」県立中央図書館編・発行	平成元年	3月29日	富士宮市立中央図書館開館
平成元年	6月	資料相互貸借協定の締結・発効	平成元年	4月1日	南伊豆町立図書館開館
平成元年	10月17日～22日	初代県知事・関口隆吉関係資料展	平成元年	5月25日	「目で見る・静岡県図書館白書'89－いま と、これからのめざして－」（静岡県図書館 協会）発行
平成元年	10月	「図書館だより」創刊（No.1：平成1.10－ No.42：平成5.3） → 「県立図書館だ より・レファレンス」	平成元年	5月29日	第1回静岡県図書館振興大会が県立中央図書 館を会場に開催される

年	月	静岡県立中央図書館	年	月	県内図書館等
平成元年	10月	静岡県立中央図書館久能文庫目録 増補改訂版 発行	平成元年	6月	佐久間町立図書館開館
平成元年		全国図書館大会に向けて、準備会・分科会検討委員会設置、基本事項・本県運営の分科会構成等 検討、本県案作成	平成元年	7月1日	静岡市立薬科図書館開館
			平成元年	7月17日	湖西市立図書館開館
			平成元年	8月12日	大仁町立図書館開館
			平成元年	10月	静岡県図書館協会資料相互貸借協定の締結・発効
			平成元年	11月	芝川町中央図書館開館（条例未制定）
			平成元年	11月10日	第26回静岡県読書大会開催（富士川町）
			平成元年	12月	湖西市と新居町で自治体間での相互利用開始
平成2年	1月	未設置町村自治体関係職員等研修会（静岡会場・新居町・菊川町） 県・日図協共催	平成 2年	3月1日	「静岡県郷土資料総合目録 新版」（静岡県図書館協会編）静岡県図書館協会発行
平成2年	3月	石田徳行館長退任	平成 2年	4月	常葉学園富士短期大学附属図書館開館
平成2年	4月	石割忠夫館長就任	平成 2年	4月	蒲原町立図書館設立 ← 中央公民館図書室
平成2年	3月	静岡県立中央図書館蔵書目録 総索引（図書昭和62年3月31日現在、雑誌・新聞 平成元年3月31日現在）発行	平成 2年	4月18日	富士市立富士文庫開館
平成2年	3月	静岡県行政資料目録 昭和60年1月～平成元年12月 発行	平成 2年	6月	町民センターおかべ図書室開室
平成2年	3月	静岡県立中央図書館所蔵静岡県関係地区目録発行	平成 2年	8月	舞阪町立図書館設立
平成2年	4月	全国図書館大会 第1回実行委員会	平成 2年	8月	龍山村立図書館開館
平成2年	5月	全国図書館大会 第1回運営委員会	平成 2年	9月	土肥町立図書館設立
平成2年	10月24日～26日	全国図書館大会（第76回静岡大会）「'90年代の図書館を考える－図書館法制定40周年を迎えて－」開催（参加者1800人）	平成 2年	9月	細江町立図書館開館
			平成 2年	10月	「目で見ると・静岡県白書'90－いまとこれからをめざして－」（静岡県図書館協会）発行
			平成 2年	10月20日	「静岡県の図書館ガイド－全国図書館大会記念－」（静岡県図書館協会）発行
			平成 2年	11月28日	第27回静岡県読書大会開催（大仁町）
平成3年	3月	静岡県立中央図書館蔵書目録 第7巻 1987.4－1989.3 発行	平成 3年	3月20日	「よみたい絵本。そろえたい絵本－これから選定をするために－」（静岡県図書館協会絵本目録委員会編）静岡県図書館協会発行
平成3年	3月	静岡県行政資料目録 昭和60年1月～平成2年12月 発行	平成 3年	3月30日	「参考図書リスト－これから選定をするために－」（静岡県図書館協会参考図書目録委員会編）静岡県図書館協会発行
平成3年	4月	電算導入3ヵ年計画開始（概要設計等）	平成 3年	4月	竜洋町立図書館開館
平成3年	7月	静岡県図書館関係新聞記事索引 昭和52年1月～平成2年12月 発行	平成 3年	4月1日	戸田村立図書館開館
平成3年	9月	関口隆吉氏 孫・関口久能氏の「甥姪の会」から久能氏の7回忌に「久能文庫目録 増補改訂版」を復刊（平成3年9月1日発行）し寄贈いただく	平成 3年	7月20日	大須賀町立図書館開館
			平成 3年	10月1日	長泉町立図書館開館
			平成 3年	10月14日	第2回静岡県図書館振興大会開催（静岡県立中央図書館）
			平成 3年	10月26日	第28回静岡県読書大会開催（舞阪町）
			平成 3年	11月1日	豊田町立図書館開館
			平成 3年	11月	裾野市民文化センター図書室開館
平成4年	3月	静岡県立中央図書館新聞雑誌目録 平成3年度新版 発行	平成 4年	4月	聖隷クリストファー看護大学図書館開館
平成4年	3月	静岡県行政資料目録 昭和60年1月～平成3年12月 発行	平成 4年	4月	浜松市立南図書館開館
平成4年	3月	石割忠夫館長退任	平成 4年	4月	富士フェニックス短期大学図書館開館

年	月	静岡県立中央図書館	年	月	県内図書館等
平成4年	4月	渡瀬祥光館長就任	平成 4年	4月	小山町立図書館設立
			平成 4年	6月	静岡精華短期大学附属図書館開館
			平成 4年	7月21日	静岡市立南部区図書館開館
			平成 4年	7月	磐田市立・豊田町立・竜洋町立図書館間で相互貸借についての業務提携が成立（福田町を含め広域利用が開始）
			平成 4年	7月	東伊豆町立図書館設立
			平成 4年	8月	春野町立図書館開館
			平成 4年	8月	島田・藤枝・焼津・大井川・岡部町で「志太地区3市2町図書館協議会委員交流会」が発足
			平成 4年	10月	第1回（平成4年度）静岡県図書館大会（図書館振興大会と読書大会を合併）開催（菊川文化会館）
			平成 4年	11月	大井川町立図書館設立
			平成 4年	12月	清水市立中央図書館設立
平成5年	3月	静岡県立中央図書館蔵書目録 第8巻 1989.4-1991.3 発行	平成 5年	3月	「静岡県図書館協会60年のあゆみ」（静岡県図書館協会）発行
平成5年		静岡県・浙江省友好提携10周年を記念し、「浙江省寄贈文庫コーナー」を開設	平成 5年	3月28日	富士宮市立西富士図書館開館
平成5年	5月20日～21日	平成5年度関東地区公共図書館協議会総会及び研究発表会開催（浜松市）	平成 5年		「静岡県教育中期計画後期推進計画（平成5～7年度）」（静岡県教育委員会）
			平成 5年	5月	県女性総合センター「あざれあ図書館」開館
			平成 5年	6月	磐田市立図書館新築開館
			平成 5年	7月24日	浜岡町立図書館開館
			平成 5年	7月	沼津市立図書館開館
			平成 5年	9月	細江町立図書館が町内2校の小学校図書室に利用者端末機を設置
			平成 5年	10月18日	第2回（平成5年度）静岡県図書館大会開催（富士宮市民文化会館）
平成6年	3月29日	電算システムによる業務を開始、電算導入に伴い、図書館等利用規程を改正	平成 6年	4月	静岡産業大学図書館開館（磐田市）
平成6年	3月	静岡関係雑誌記事索引 平成5年3月現在 発行	平成 6年	5月	厚生総合図書館開館（沼津市）
平成6年	3月	静岡県行政資料目録 昭和60年1月～平成5年6月受入分 発行	平成 6年	6月	子どもの本の研究資料館「遊本館」開設
平成6年	3月	渡瀬祥光館長退任	平成 6年	6月	賀茂村中央公民館図書室設置
平成6年	4月	中村信也館長就任	平成 6年	6月	川根町立図書館開館
平成6年	4月1日	組織運営規則の一部改正により、総務課、企画振興課、資料課、調査課の4課に変更	平成 6年	7月20日	裾野市立鈴木図書館開館
平成6年	4月1日	貸出冊数・期間を5冊・22日とする	平成 6年	10月24日	第3回（平成6年度）静岡県図書館大会開催（竜洋町なぎの木会館）
平成7年	3月	静岡県立中央図書館蔵書目録 第9巻 1991.4-1994.3 発行	平成 7年	1月	静岡県内大学等の附属図書館懇談会（静岡大学附属図書館）
平成7年	10月1日～11月29日	静岡県中央図書館創立70周年記念 特別展示「県立葵文庫・中央図書館70年のあゆみ」	平成 7年	2月	第1回図書館づくり交流会開催
平成7年	11月27日	静岡県立中央図書館創立70周年記念特別講演会「書物と静岡」山口昌男氏（静岡県立中央図書館）	平成 7年		静岡県「新世紀創造計画（1995～2004）」発表
平成7年	11月16日～17日	関東地区公共図書館協議会市町村立図書館運営研究会（静岡県伊豆長岡町）	平成 7年		県立・県図書館協会・市立図書館協議会の研修を一つに体系化し実施
平成7年	12月1日～H8年1月30日	静岡県立中央図書館創立70周年記念 特別展示「温故知新」、研究発表（「静岡学問所・沼津兵学校ゆかりの人々と明治期の教科書」（松本泉）、「葵文庫に見る英米地理書について」（大庭穰治）「館蔵浮世絵の紹介」（田中文雄））	平成 7年	4月15日	森町立図書館開館
			平成 7年	10月4日	富士市立中央図書館開館
			平成 7年	10月23日	第4回（平成7年度）静岡県図書館大会開催（島田市民総合施設プラザおおるり）

年	月	静岡県立中央図書館	年	月	県内図書館等
			平成 7年		東海大学附属図書館沼津分館と沼津市立図書館オンライン化、相互貸借開始
平成8年	1月	静岡県立中央図書館郷土資料目録、昭和60年10月～平成7年3月 発行	平成 8年	4月	静岡県生涯学習情報システム（愛称マナビット）運用開始に伴い静岡県郷土資料総合目録データベースの検索が可能となる（平成14年3月廃止）
平成8年	3月	中村信也館長退任	平成 8年	4月23日	静岡市立西奈図書館開館
平成8年	4月	真杉慶夫館長就任	平成 8年	6月1日	修善寺図書館開館
平成8年	10月17日～18日	関東地区都県立図書館協議会会長会議（静岡市・清水市）	平成 8年	7月7日	豊岡村図書室開館
			平成 8年	7月7日	水窪町文化会館図書室移転
			平成 8年	8月	沼津市・熱海市・伊東市図書館相互利用協定締結
			平成 8年	8月	沼津市・清水町・南伊豆町・戸田村図書館相互に直接貸出可能となる
			平成 8年	10月28日	第5回（平成8年度）静岡県図書館大会開催（沼津市民文化センター）
			平成 8年	12月1日	三島市立図書館中郷分館サービス開始（仮開館）
平成9年	1月31日	静岡県立中央図書館蔵書目録 第10巻 分類編・索引編（一般資料 1994.4～1996.3 郷土資料 1995.4～1996.3） 発行	平成 9年	4月	東部4市3町（沼津・三島・御殿場・裾野・清水・長泉・小山）が広域利用開始
平成9年	4月	貸出時間を16時45分までとする	平成 9年	4月1日	菫山町立図書館開館
平成9年	7月	郷土資料総合新着情報（年4回）を発行、静岡県図書館協会加盟館に配付。所蔵館情報を収集しマナビットで提供開始。（平成13年まで）	平成 9年	4月15日	浜松市立可新図書館開館
平成9年	9月	静岡県立中央図書館外国語図書目録 1997年4月現在 発行	平成 9年	4月22日	静岡市立長田図書館開館
平成9年	11月	関東地区公共図書館協議会整理部門研究集会（熱海市）	平成 9年	4月30日	三島市立図書館開館
平成9年	12月	静岡県立中央図書館蔵書名索引 1987.4～1997.3 発行	平成 9年	5月	松崎町立図書館開館（条例未制定）
			平成 9年	10月27日	第6回（平成9年度）静岡県図書館大会開催（アクティビティ浜松）
			平成 9年	11月	静岡県大学図書館協議会を設立し、平成7年発足の静岡県内大学附属図書館長懇談会を解消
			平成 9年		静岡市立図書館所蔵情報のCD-ROM化実施
平成10年	3月	真杉慶夫館長退任	平成10年	3月	静岡市立図書館蔵書目録CD-ROM「本の玉手箱」の作成、頒布開始
平成10年	4月	鈴木善彦館長就任	平成10年	4月1日	引佐町立図書館増改築後開館
平成10年	4月1日	組織運営規則の一部改正により、資料課地域資料係が調査課地域調査係に、調査課逐次刊行物係が資料課新聞雑誌係に、調査課調査相談係が、一般調査係に変更	平成10年	4月	常葉大学教育学部生涯教育科司書課程開講（昼・夜間）
平成10年	4月1日	開館時間を金曜日に限り20時までとする	平成10年	5月1日	静岡県生涯学習情報システム（愛称マンビット）インターネット化
平成10年	5月	マナビットのインターネット接続	平成10年	7月1日	雄踏町立図書館新館開館
平成10年	6月21日	静岡新聞に毎週日曜日、「静岡県立中央図書館・お答えします」を連載開始	平成10年	11月2日	第7回（平成10年度）静岡県図書館大会開催（ホテルセンチュリー静岡）
平成10年	9月	図書館協力ハンドブックPLUM 発行（以後、毎年発行）			
平成10年	10月1日～2日	全国公共図書館研究集会参考事務分科会（熱海市）			
平成10年	10月30日	静岡県立中央図書館HPがオープン。「葵文庫（江戸幕府旧蔵図書）」目録の全タイトルを、和漢書は英訳、洋書は和訳し全資料の表紙と表題紙を画像データ化し、一部は全データ化した。そのほかの貴重資料もデジタルアーカイブし、ホームページに掲載した			
平成10年	12月	静岡県内市町村図書館所蔵新聞雑誌総合目録平成10年版 発行			
平成10年	12月	年末年始（12月29日・30日・1月2日・3日）9～17時開館の試行を実施			

年	月	静岡県立中央図書館	年	月	県内図書館等
平成11年	1月1日	閲覧カウンターを、レファレンスカウンターと、貸出・返却カウンターに分け、従来の受付を貸出・返却カウンターとし、閲覧室内のレイアウト及び利用システムの変更を行った	平成11年	7月21日	吉田町立図書館開館
平成11年	1月1日	インターネット利用者用開放端末2台を設置した	平成11年	10月18日	第8回（平成11年度）静岡県図書館大会開催（グランシップ）
平成11年	3月	静岡県立中央図書館蔵書目録 第11巻 分類編・索引編（一般資料・郷土資料 1996.4-1998.3）発行			
平成11年	3月13日	グランシップ情報ラウンジ・県立図書館コーナーを開設			
平成11年	3月13日	県立中央図書館閲覧室とグランシップ情報ラウンジ・県立中央図書館コーナーにて、個人貸出用ビデオの貸出（3点8日間）開始			
平成11年	4月1日	歴史文化情報センターが、県教育委員会文化課から県立中央図書館に移管			
平成11年	4月1日	歴史文化情報センター内で静岡県史収集資料のデータベース化及び公開継続			
平成11年	4月1日	コイン式コピー機を導入、複写料金を1枚30円から20円に変更。貸出冊数を5冊から10冊へ。県外在住者への貸出を可能とする。手荷物等の館内持ち込みを可能とする。貸出延長の電話での受付を開始。			
平成11年	5月1日	遠隔地域在住の県民に対して、個人貸出資料を市町村立図書館を経由して返却できる制度を開始			
平成11年	6月16日	インターネットでのレファレンス受付開始			
平成11年	7月1日	雑誌（1999年1月号からの一般雑誌）の個人貸出開始			
平成11年	11月1日	県庁県民サービスセンターに図書返却ボックスを設置			
平成12年	1月	「しずおか情報ネットワーク整備事業」による、CD-ROM版「デジタル葵文庫」作成「デジタル葵文庫」インターネット提供開始	平成12年	2月15日	三ヶ日町立図書館開館
平成12年	1月	インターネット利用者端末を8台に増設	平成12年	4月1日	静岡文化芸術大学図書館・情報センター開館
平成12年	3月	「富士山資料データベース」インターネット提供開始	平成12年	8月	富士市立中央図書館開館
平成12年	3月	静岡県立中央図書館新聞雑誌目録 平成11年改訂新版（付・静岡県内市町村図書館所蔵新聞雑誌目録 平成11年版）発行	平成12年	8月19日～20日	「子ども読書年フェスティバル in しずおか」が、ツインメッセしずおかで開催される
平成12年	4月1日	水～金曜日までの開館時間を19時までとする	平成12年	10月30日	第9回（平成12年度）静岡県図書館大会開催（グランシップ）
平成12年	4月1日	雑誌個人貸出資料の市町村図書館での返却が可能になる			
平成12年	4月1日	静岡県関係記事論文と郷土雑誌目次がインターネットで検索できるようになる			
平成12年	5月1日	電子資料（CD-ROM）閲覧と図書の付録CD-ROMの貸出開始			
平成12年	5月29日	静岡新聞連載「静岡県立中央図書館・お答えします」終了			
平成12年	6月	「浮世絵データベース」インターネット提供開始（東大との連携）			
平成12年	8月	静岡県内市町村図書館所蔵新聞雑誌総合目録 平成12年版 発行			
平成12年	10月1日	大活字本の購入提供開始			
平成12年	10月	静岡県内各教育委員会から発行されている副読本一覧目録「静岡県立中央図書館所蔵静岡県関係副読本目録」を発行し、静岡県図書館協会加盟館に配付した			
平成12年	11月	お答えします総集編 発行			
平成12年	12月1日	県教育委員会への教育関係資料の情報提供開始			
平成13年	2月15日	個人貸出資料の返却図書館に「静岡県女性総合センター（あざれあ）図書室」が加わる	平成13年	6月	掛川市立中央図書館新館開館
平成13年	3月	静岡県視聴覚ライブラリー視聴覚資料目録 平成12年12月31日現在 発行	平成13年	7月	浜北市立図書館新館開館
平成13年	4月	児童図書の購入開始	平成13年	11月5日	第10回（平成13年度）静岡県図書館大会開催（グランシップ）
平成13年	4月	郷土資料の「調査案内データベース」をインターネットに公開			

年	月	静岡県立中央図書館	年	月	県内図書館等
平成13年	5月	第1回静岡県自費出版大賞 応募作品展を開始			
平成13年	6月	静岡県立中央図書館所蔵子どもが使える郷土資料図書目録 発行			
平成13年	7月	静岡県立中央図書館所蔵東海道関係図書目録発行			
平成13年	8月	静岡県内市町村図書館所蔵新聞雑誌総合目録平成13年版 発行			
平成13年	10月	静岡県郷土史研究団体リスト 発行			
平成13年		利用者懇談会の実施			
平成13年		中学生の職場体験受け入れ			
平成14年	1月1日～7月	資料棟地震対策緊急整備工事のため休館	平成14年	1月	小笠町立図書館開館
平成14年	2月18日	地震対策緊急整備工事着工 休館中のサービスとして、静岡県女性総合センター「あざれあ」県立図書館コーナーを開設	平成14年	2月23日	静岡県読み聞かせネットワーク設立総会（あざれあ）
平成14年	3月	鈴木善彦館長退任	平成14年		静岡県総合教育センター図書室が地域住民への貸出開始
平成14年	4月	恩田征弥館長就任	平成14年	4月	浜松市立中央図書館駅前分室をフォルテビル4階に開設
平成14年	5月	インターネット図書システム（旧マナビット）の提供開始	平成14年	5月	浅羽町立図書館が工事のため休館（平成15年4月まで）
平成14年	5月31日	地震対策緊急整備工事完成	平成14年	7月15日	静岡県読み聞かせネットワークだより「読み聞かせじょうずのフージーちゃん」創刊
平成14年	6月13日	県女性総合センター「あざれあ」県立図書館コーナーを閉鎖	平成14年	7月	福田町立図書館開館
平成14年	8月1日	地震対策緊急工事終了、県立図書館業務を再開	平成14年	10月	静岡大学附属図書館及び浜松分館が日曜・祝日も開館
平成14年	8月1日	図書・雑誌の貸出数を20冊、ビデオ等の貸出期間を22日、電子複写コピー料金を1枚10円にする	平成14年	10月28日	第11回（平成14年度）静岡県図書館大会開催（グランシップ）
平成14年	8月	児童書の協力貸出開始			
平成14年	8月	ホームページ情報発信を拡充 ・調査案内データベースに静岡新聞掲載「お答えします」、レファレンス事例等を追加 ・児童書、視聴覚資料、外国語図書の検索を可能に ・検索結果に帯出区分（貸出可能かどうか）を追加 ・「新着図書情報検索」の提供			
平成14年	9月	静岡県図書館協会加盟館に、静岡県立中央図書館所蔵の郷土資料の全書誌データとアプリケーションを収録したCD-ROMを配付、以後作成の書誌データはHPから配信			
平成14年	9月	静岡県内市町村図書館所蔵新聞雑誌総合目録平成14年版 発行			
平成14年	10月12日	葵文庫、久能文庫、特別取扱資料の一部を静岡県総合教育センター内「あすなる県立図書館収蔵庫」に移動、同センター「図書コーナー」で月一回の閲覧開始			
平成14年	10月	特定テーマに関する資料や情報を探するための手順をまとめた「静岡県立中央図書館 パスファインダー」（A4版）を作成（以後、随時作成）			
平成14年		歴史文化情報センターで小中学校への出張授業実施			
平成15年	4月1日	グランシップ内で情報ラウンジ・県立図書館コーナーが移転、グランシップ県立図書館コーナーとして再開、絵本の個人貸出開始	平成15年	4月1日	市町村合併により清水市立中央図書館 → 静岡市立清水中央図書館に名称変更
平成15年	4月	「静岡県立中央図書館数値目標」決定	平成15年	4月	河津町文化の家（町立図書館）開館
平成15年	4月	メールマガジン開始	平成15年	4月	静岡市立北部図書館開館
平成15年	5月	草柳大蔵コーナー設置	平成15年	4月	浅羽町立図書館閲覧室拡張工事終了に伴い開館
平成15年	7月2日	ビジネスコーナー設置	平成15年	10月	静岡産業大学情報センターが藤枝校に設立され、新たに図書館が市民に一般公開される

年	月	静岡県立中央図書館	年	月	県内図書館等
平成15年	9月	静岡県内市町村図書館所蔵新聞雑誌総合目録平成15年版 発行(以後、静岡県内新聞雑誌総合目録としてインターネット対応に移行となる)	平成15年		浜岡町立図書館書庫増設工事
平成15年	11月27日～28日	第89回 全国図書館大会(静岡大会)開催			
平成16年	3月18日	新電算システムに移行し、ホームページ全面リニューアル、「静岡県横断検索システム(愛称:おうだんくん)」、静岡県内新聞雑誌総合目録の稼働。また、静岡県内郷土資料目録の稼働により郷土資料の書誌データのダウンロードが可能となった	平成16年	1月	「静岡県子ども読書活動推進計画『読書県しずおか』をめざして」公表
平成16年	3月26日	子ども図書研究室講演会「子どもの読書活動の推進をめざして」(荒井督子氏)	平成16年	4月1日	伊豆市発足に伴い、中伊豆町立中央公民館図書室と天城湯ヶ島町立図書館天城文庫が条例設置図書館に → 伊豆市立中伊豆図書館、伊豆市立天城図書館開館
平成16年	3月	恩田征弥館長退任	平成16年	4月1日	市町村合併により修善寺図書館 → 伊豆市立修善寺図書館に名称変更
平成16年	4月	岩崎功館長就任	平成16年	4月1日	市町村合併により土肥町立図書館 → 伊豆市立土肥図書館に名称変更
平成16年	5月	WEB個人サービス(インターネットによる予約・貸出延長)提供開始	平成16年	4月1日	御前崎市の発足に伴い、浜岡町立図書館 → 御前崎市立図書館に名称変更
平成16年	5月	静岡県内新聞雑誌総合目録のインターネットによる修正等講習会開催(以後、毎年開催)	平成16年	4月1日	富士市立西図書館安全対策のため休館(平成16年11月1日まで)
平成16年	6月	静岡県立中央図書館所蔵子どもが使える郷土資料図書目録 改訂2版 発行	平成16年	6月13日	静岡市立清水興津図書館開館
平成16年	6月	新メールマガジン発行(趣向登録が可能)	平成16年	7月22日	浜松市立はまゆう図書館開館
平成16年	6月18日	子ども図書研究室開室。オープニングセレモニーと記念講演会「子どもの読書活動を支える大人の役割」(富田美樹子氏)	平成16年	9月17日	静岡市立御幸町図書館開館
平成16年	6月18日	子ども図書研究室開館時間:火～金曜日の13時～17時は職員在室、その他の曜日・時間は施設開放とし職員は随時対応	平成16年	11月2日	富士市立西図書館仮設館に開館
平成16年	6月18日	子ども図書研究室だより 創刊	平成16年	11月22日	第12回(平成16年度)静岡県図書館大会開催(グランシップ)
平成16年	7月	図書館活用・ビジネスセミナー開始(平成19年度まで)			
平成16年	12月	来館キャンペーン「知ればなるほど!県立中央図書館」			
平成16年	12月	閲覧室案内図インターネット公開			
平成16年	12月18日	開館中のブックポストの利用を可能にする			
平成17年	2月	静岡県点字図書館と共催による視覚障害者サービス担当者会議を開催	平成17年	1月17日	市町村合併により菊川町立図書館菊川文庫 → 菊川市立図書館菊川文庫に名称変更
平成17年	4月1日	県で初、司書職採用による職員2名を配置	平成17年	1月17日	市町村合併により小笠町立図書館 → 菊川市立小笠図書館に名称変更
平成17年	4月	雑誌最新号の貸出開始日の明示を平成17年1月から3月の施行を経て実施	平成17年	3月19日	金谷町立金谷図書館開館
平成17年	4月	創立80周年記念・ミニ展示(平成18年3月まで毎月更新)	平成17年	4月1日	市町村合併により賀茂村中央公民館図書室 → 西伊豆町中央公民館図書室に名称変更
平成17年	4月	高精細画像「世界四大洲新地図帳」をインターネット公開	平成17年	4月1日	市町村合併により伊豆長岡町立図書館 → 伊豆の国市長岡図書館に名称変更
平成17年	5月	高精細画像「御巡行御道筋絵図」をインターネット公開	平成17年	4月1日	市町村合併により韮山町立図書館 → 伊豆の国市立韮山図書館に名称変更
平成17年	5月14日	新聞のCD-ROMパソコン機の設置と閲覧開始	平成17年	4月1日	市町村合併により大仁町立図書館 → 伊豆の国市立中央図書館に名称変更
平成17年	6月1日	館内にブックカートとかごを常備	平成17年	4月1日	市町村合併により戸田村立図書館 → 沼津市立戸田図書館に名称変更
平成17年	6月	オリジナルブックカバーを作成し、来館者に配布(平成18年3月まで毎月更新)	平成17年	4月1日	市町村合併により大須賀町立図書館 → 掛川市立大須賀図書館に名称変更
平成17年	6月14日	「葵文庫」木製扁額レプリカ(天竜林業高校より寄贈)引き渡しセレモニー開催	平成17年	4月1日	市町村合併により大東町北公民館図書室 → 掛川市立大東北公民館図書室に名称変更
平成17年	6月27日	子ども図書研究室開室1周年記念講演会「今を生きる子どもと本」(間崎ルリ子氏)	平成17年	4月1日	市町村合併により袋井市立図書館 → 袋井市立袋井図書館に名称変更
平成17年	9月1日	「しずおか」の貴重書(伊豆文学フェスティバル実行委員会、静岡県立中央図書館編)発行	平成17年	4月1日	市町村合併のより浅羽町立図書館 → 袋井市立浅羽図書館に名称変更
平成17年	9月3日～11日	創立80周年記念特別展示「葵文庫・久能文庫～貴重書に見る日本と世界」開催	平成17年	4月1日	市町村合併により磐田市立図書館 → 磐田市立中央図書館に名称変更
平成17年	9月4日	創立80周年記念講演会「葵文庫洋書にみる東西文明交流史」開催	平成17年	4月1日	市町村合併により福田町立図書館 → 磐田市立福田図書館に名称変更

年	月	静岡県立中央図書館	年	月	県内図書館等
平成17年	9月5日～16日	静岡県庁21階展望ロビーにて、特別展示「貴重書『葵文庫』と古地図の世界」開催	平成17年	4月1日	市町村合併により竜洋町立図書館 → 磐田市立竜洋図書館に名称変更
平成17年	11月6日	創立80周年記念「図書館文化祭」開催	平成17年	4月1日	市町村合併により豊田町立図書館 → 磐田市立豊田図書館に名称変更
平成17年		歴史文化情報センターより譲り受けた、新聞製本版の提供を開始	平成17年	4月1日	市町村合併により豊岡村図書室 → 磐田市立豊岡図書館として開館（条例制定）
平成17年		個人情報保護法に関連し、個人情報を含む資料について一部袋とじ等の処理を行う（平成27年緩和）	平成17年	4月1日	松崎町立図書館（条例制定）
			平成17年	4月23日	子ども読書の日・特別講演会開催（県読書推進運動協議会、静岡県、県読みきかせネットワーク共催）
			平成17年	5月5日	市町村合併により島田市立図書館 → 島田市立島田図書館に名称変更
			平成17年	5月5日	市町村合併により金谷町立金谷図書館 → 島田市立金谷図書館に名称変更
			平成17年	7月1日	市町村合併により天竜市立図書館 → 浜松市立天竜図書館に名称変更
			平成17年	7月1日	市町村合併により浜北市立図書館 → 浜松市立浜北図書館に名称変更
			平成17年	7月1日	市町村合併により春野町立図書館 → 浜松市立春野図書館に名称変更
			平成17年	7月1日	市町村合併により龍山村図書館 → 浜松市立龍山図書館に名称変更
			平成17年	7月1日	市町村合併により佐久間町立図書館 → 浜松市立佐久間図書館に名称変更
			平成17年	7月1日	市町村合併により水窪町文化会館図書室 → 浜松市立水窪図書館として開館（条例制定）
			平成17年	7月1日	市町村合併により舞阪町立図書館 → 浜松市立舞阪図書館に名称変更
			平成17年	7月1日	市町村合併により雄踏町立図書館 → 浜松市立雄踏図書館に名称変更
			平成17年	7月1日	市町村合併により細江町立図書館 → 浜松市立細江図書館に名称変更
			平成17年	7月1日	市町村合併により引佐町立図書館 → 浜松市立引佐図書館に名称変更
			平成17年	7月1日	市町村合併により三ヶ日町立図書館 → 浜松市立三ヶ日図書館に名称変更
			平成17年	9月20日	市町村合併により本川根町民文化会館図書室 → 川根本町文化会館図書室に名称変更
			平成17年	10月11日	市町村合併により相良町図書館 → 牧之原市立相良図書館に名称変更
			平成17年	10月11日	市町村合併により榛原町民文化センター図書室 → 牧之原市立榛原図書館として開館（条例制定）
			平成17年	10月17日	第13回（平成17年度）静岡県図書館大会開催（グランシップ）
平成18年	1月5日	「図書館間協力における現物貸借で借り受けた図書の複製に関するガイドライン」策定に伴い「他館借受図書複写申込書」様式を設定	平成18年	2月6日	複合施設「くれないどる芝楽」内に芝川町中央図書館移転（条例制定）
平成18年	1月	雑誌・ビデオ・DVD・朗読CDの購入希望用紙設置	平成18年	3月31日	市町村合併により蒲原町立図書館 → 静岡市立蒲原図書館に名称変更
平成18年	2月1日	資料複写申込書の様式変更	平成18年	4月1日	掛川市立大東図書館開館
平成18年	3月	『図書館のビジネス支援 はじめの一步』作成	平成18年	9月	静岡産業大学図書館と磐田市立図書館が相互貸借資料および個人返却資料の搬送を開始
平成18年	3月	岩崎功館長退任	平成18年	10月1日	浜松市立図書館合併前旧システムを統合、個人貸出冊数及び貸出期間を統一ICタグによる管理・サービスを開始
平成18年	4月	天野忍館長就任	平成18年	10月1日	浜松市立城北図書館移転新築開館窓口業務を民間委託、ビジネス支援サービス開始
平成18年	4月1日	司書職で採用の職員2名を追加配置	平成18年	10月	浜松大学附属図書館が静岡県公共図書館等の資料相互貸借に関する協定に加盟
平成18年	4月	静岡大学附属図書館と相互貸借資料および個人返却資料の搬送を試行で開始	平成18年	11月	浜松市立中央図書館駅前分室に県内初の指定管理者制度導入
平成18年	4月	グランシップ県立図書館コーナー名称に「えほんのひろば」を加える 木曜日午後のおはなしかい開始を14時30分から15時に変更	平成18年	11月6日	第14回（平成18年度）静岡県図書館大会開催（グランシップ）
平成18年	4月	子ども図書研究室の開室日時を火～金曜日の14～17時に変更			

年	月	静岡県立中央図書館	年	月	県内図書館等
平成18年	5月	図書館活用・ビジネスセミナーの開催（平成19年3月まで）			
平成18年	5月26日	子ども図書研究室講座第1回開催			
平成18年	6月	グランシップ県立図書館コーナー「えほんのひろば」毎週火曜日に「0さいからのおはなしかい」を実施			
平成18年	6月	子ども図書研究室書庫を閉架書庫から開架書庫へ			
平成18年	6月28日	子ども図書研究室講演会「「読み聞かせ」から「ひとり読み」へ」（宮川健郎氏）			
平成18年	6月	県庁東館ギャラリーにて子ども図書研究室の活動等展示紹介			
平成18年	7月	「日経アーキテクチュア」による耐震性能に関するアンケート調査の実施			
平成18年	8月	県民の日イベント事業として、オリジナルブックカバー作成・配布			
平成18年	8月	草柳大蔵氏取材資料展示			
平成18年	8月	「静岡県子ども読書フェスティバル」を静岡県読み聞かせネットワークと共催			
平成18年	9月	「えほんのひろば」にて「ちょっとおにいさんおねえさんむけの絵本」を排架			
平成18年	10月～11月	「ブラティスラヴァ世界絵本原画展」協力展示			
平成18年	10月21～29日	「図書館文化祭」開催			
平成18年	11月24・25日	「関東地区都県立図書館副館長会議」を静岡市ベガサート等を会場に開催			
平成18年	12月2日～1月17日	子ども図書研究室講座第2回 土曜コース・平日コース（各2回連続）開催			
平成18年		「調べる、考える、解決する…県立中央図書館」のキャッチフレーズ、県広報アドバイザーの提案を採用			
平成18年		新しい時代に対応した図書館サービスの具体的な展開を図るため、第2次中期計画を策定			
平成18年		近隣4機関（県立中央図書館、県立大学、県立美術館、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所）が協同して情報発信していこうとする会合を設置			
平成18年		音声読み上げソフト「ヨメール」の設置、カウンターへ耳マークと筆談用紙の設置			
平成18年		国立国会図書館から貸出しを受けた資料の複写が可能になる			
平成18年		新着図書コーナーを再編成し、一般資料・地域資料・視聴覚資料・新規受け入れ雑誌を展示			
平成18年		静岡県読書ガイドブック「本とともにだち」編集へ参加			
平成18年		ブラング文庫新聞コレクション静岡県内刊行分のマイクロフィルム223枚を購入			
平成18年		ウェブページ上で簡単横断検索機能の提供を開始			
平成19年	4月1日	司書職で採用の職員1名を追加配置	平成19年	3月1日	県立中央図書館と静岡市立図書館の共催による「公立図書館ビジネス支援サービス研修」開催
平成19年	4月	「子ども図書研究室だより」の発行が毎月→隔月になる	平成19年	4月1日	県民センター岡部図書館（条例制定）→岡部町立図書館に名称変更
平成19年	4月11日	カラーコピーの提供開始	平成19年	4月18日	県図書館協会の総会において、日本建築専門学校図書館の加盟が承認、私立の専門学校としては初の加盟館となる
平成19年	4月	当館HP内に子ども図書研究室HPを開設	平成19年	6月29日	図書館協議会にて、静岡市立図書館への指定管理者制度の試行導入が一旦白紙に戻し、非常勤嘱託員へ切り替えによる正規職員の削減を図る方針が示される
平成19年	5月28日	館内案内テープを更新、閉館予告を30分前と5分前に流す	平成19年	8月1日	市役所の建替え計画に伴い、熱海市立図書館が東京電力熱海営業センターの3～5階に移転して開館、同時に市民ボランティアを導入する
平成19年	6月28日	子ども図書研究室講演会「グリム童話とアンデルセン童話のうそと真実の姿」（宮下啓三氏）	平成19年	8月5日	第7回静岡県子ども読書フェスティバル開催
平成19年	7月2日	マイクロフィルムの複写料金を70円から50円に改正	平成19年	8月7日	静岡県読書推進フォーラム開催

年	月	静岡県立中央図書館	年	月	県内図書館等
平成19年	9月18日	浙江図書館員1名を静岡県海外技術研修員として受入（平成20年2月22日まで）	平成19年	10月15日	第15回（平成19年度）静岡県図書館大会開催（グランシップ）
平成19年	10月26日	「静岡県立中央図書館と浙江図書館に関する姉妹図書館締結の意向書」を浙江図書館にて調印	平成19年	11月28日	県図書館協会と県教育委員会の共催による公立図書館等職員研修のひとつとして、県外視察が行われ、山梨県の富士河口湖生涯学習交流館を訪問
平成19年		学校図書館司書教諭研修への講師派遣開始			
平成19年		書庫狭隘化に伴い、書庫内の壁面に書架増設			
平成20年	3月3～8日	浙江省図書館調査団（県立図書館職員3名）が訪中	平成20年	2月29日	静岡大学附属図書館、学術機関リポジトリの試験公開開始
平成20年	3月31日	全国視聴覚教育連盟から脱退	平成20年	3月	静岡県立大学附属図書館が故岡村昭彦氏の蔵書を集めた「岡村文庫」を開設
平成20年	4月9日	総合案内カウンター内にAEDの設置	平成20年	3月1日	県読書推進運動協議会・県立図書館共催の特別講演会「落語は想像力で楽しめる～落語の未来は読書にかかっている!?～」開催
平成20年	4月	歴史文化情報センターで県史編纂資料インターネット公開開始、遠隔地コピーサービスを開始する	平成20年	3月25日	富士市立図書館の在り方検討委員会が「指定管理者制度の導入は行わない」とする報告書を提出
平成20年	4月	子ども図書研究室の資料を最新2年分について発行年ごとまとめて排架する	平成20年	4月1日	市町合併により西伊豆町立中央公民館図書館→西伊豆町立図書館（条例制定）に名称変更
平成20年	4月	えほんのひろばの資料を絵本のみとし、ビデオテープを本館へ移す	平成20年	4月1日	市町村合併により川根町民文化会館図書室→島田市立川根図書館に名称変更
平成20年	6月18日	子ども図書研究室講演会「すばらしい翻訳・困った翻訳 - 絵本の翻訳ウラ話」（灰島かり氏）	平成20年	4月1日	静岡大学附属図書館、学術機関リポジトリの正式公開開始
平成20年	6月	両カウンターにコミュニケーションボードの設置	平成20年	4月4日	富士市立西図書館が「富士交流プラザ」内に移転開館
平成20年	7月	歴史文化情報センターでインターネット「くずし字解説講座」開始	平成20年	4月20日	富士市立中央図書館大淵分室開室
平成20年	9月	県立中央図書館、県立美術館及び國學院大学院友会静岡県中部支部が連携して「徳川家康と静岡」展を開催	平成20年	4月	静岡県立大学附属図書館がAVライブラリーを改装しリニューアルオープン
平成20年	11月8日	図書館文化祭を実施、館長講演会等を行う	平成20年	5月	静岡県教育委員会が「県・市町子どもの読書活動推進担当者連絡会」発足させる
平成20年		職場体験学習（生徒）事業化開始	平成20年	6月2日	浜松医科大学附属図書館、学術機関リポジトリの正式公開開始
			平成20年	6月13日	静岡市立中央図書館麻機分館開館
			平成20年	7月23日	沼津市立図書館協議会が「指定管理者制度の導入は行わない」旨の答弁
			平成20年	9月1日	下田市立図書館と沼津市立図書館が「図書館資料相互利用に関する協定」締結
			平成20年	10月1日	浜松市立中央図書館駅前分室移転
			平成20年	10月25日	静岡県読書推進フォーラムが三島市民文化会館で開催
			平成20年	10月27日	第16回（平成20年度）静岡県図書館大会開催（グランシップ）
			平成20年	11月	合併により県内38市町の中で図書館未設置町は函南町と川根本町の2町となる
			平成20年	11月1日	市町合併により由比町立中央公民館図書館→由比生涯学習交流館図書館に名称変更
			平成20年	11月1日	市町合併により大井川町立図書館→焼津市立大井川図書館に名称変更
			平成20年	11月5日	市町合併により富士町立中央公民館図書室→富士市立中央図書館富士川分室に名称変更
			平成20年	12月25日	浜松市立図書館協議会で他の図書館への指定管理者制度の導入拡大を見送る考えを示す
			平成20年		浜松医科大学附属図書館、学外の地域医療従事者への図書貸出開始
			平成20年		子どもの読書活動推進担当連絡会が発足、静岡県子ども読書アドバイザー養成講座開催
平成21年	1月31日	歴史文化情報センターで「資料に学ぶ静岡県の歴史」刊行	平成21年	1月1日	市町合併により岡部町立図書館→藤枝市立岡部山図書館岡部分館に名称変更
平成21年	2月23日～28日	浙江図書館交流代表団が来静、県内図書館の視察及び当館との情報交換などを行う	平成21年	2月28日	藤枝市立駅前図書館が「B i v i 藤枝」内に開館
平成21年	2月24日	「静岡県立中央図書館と浙江図書館との友好提携書」を当館にて締結	平成21年	4月	静岡大学附属図書館が入退館管理システムおよび書庫入出管理システムを導入

年	月	静岡県立中央図書館	年	月	県内図書館等
平成21年	3月11日	県立中央図書館、県立美術館、財産法人静岡県埋蔵文化財調査研究所及び静岡県立大学の4機関による「文化の丘づくり事業推進に関する協定」を締結	平成21年	5月	浜松学院大学が高校生への閲覧サービスを開始
平成21年	3月31日	静岡県視聴覚ライブラリー連絡協議会の解散	平成21年	5月	県教育委員会が「県・市町子どもの読書活動推進担当者連絡会」を開催
平成21年	3月	天野忍館長退任	平成21年	8月	聖隷クリストファー大学図書館が新図書館システムを導入
平成21年	4月	土屋光永館長就任	平成21年	8月	県教育委員会が「県子ども読書アドバイザー養成講座」を開講
平成21年	6月23日	子ども図書研究室講演会「赤ちゃんの発達と絵本」（榊原洋一氏）	平成21年	8月11日	早朝に発生した地震により、1館が半日休館、5館が終日休館
平成21年	7月～9月末	耐震補強工事のため休館	平成21年	9月5日	静岡市立中央図書館美和分館開館
平成21年	9月25日	葵文庫、久能文庫ほか、特別取扱資料の一部を静岡県総合教育センター内「あすなる県立図書館収蔵庫」から当館収蔵庫に移動			
平成21年	10月10日	国民文化祭協賛事業 講演会「人の動きから見た静岡藩の求心力」（樋口雄彦氏）開催（県立美術館講堂）			
平成21年	10月15日	歴史文化情報センターで「関口隆吉関係書簡集」刊行			
平成21年	10月	インフォメーション棟設備を資料棟に移設し開館（耐震補強工事は継続、夜間開館及び一部のサービスは休止）			
平成21年	10月	平成22年度予算は「事業仕分け」の結果により7%削減			
平成21年	10月	「しずおかの貴重書（改訂版）」の発行			
平成21年	10・11月	国民文化祭協賛事業として「江戸から明治へ静岡の貴重書と初代県知事関口隆吉展」開催（県立美術館・グランシップ）			
平成21年	11月3日	国民文化祭協賛事業 講演会「関口隆吉と静岡県政」（上野秀治氏）開催（グランシップ）			
平成21年	11月	緊急雇用創出事業による県内歴史資料所蔵状況等の調査開始（平成22年度まで）			
平成21年	11月17日	高圧ケーブルの交換に伴う休館（～23日）			
平成21年	12月	「文化の丘づくり事業推進に関する協定」にグランシップ及び県舞台芸術センター（SPAC）が参画、「ムセイオン静岡」と改称			
平成21年		緊急雇用創出事業による「葵文庫活用事業」開始（平成24年度まで）			
平成21年		静岡県子ども読書アドバイザー企画認定委員会の委員に参加			
平成21年		新収蔵庫・書庫8（旧電気室）・書庫9（旧車庫）の設置と子ども図書研究室書庫の拡張、書庫6を書庫6・7に分割、貴重書庫を貴重書庫1に、旧収蔵庫を貴重書庫2に名称変更			
平成21年		利用者用トイレの改修、多目的トイレの設置			
平成22年	1月27日	新刊児童図書巡回展示・研修会開始	平成22年	2月	静岡福祉大学附属図書館が焼津市立図書館と相互貸借開始
平成22年	2月1日	「ムセイオン静岡」発行	平成22年	3月	市町合併により芝川町立中央図書館 → 富士宮市立芝川図書館に名称変更
平成22年	2月25日	インフォメーション棟耐震補強工事完了	平成22年	3月23日	市町合併により湖西市立図書館 → 湖西市立中央図書館に名称変更
平成22年	2月25日	県庁内で「移動県立中央図書館」実施	平成22年	3月23日	市町合併により新居町立図書館 → 湖西市立新井図書館に名称変更
平成22年	4月1日	法務文書課所属の歴史的な文書閲覧室サービス機能を歴史文化情報センターに移転	平成22年	4月	静岡大学附属図書館がラーニング・コモンズスペースや情報端末を用意したセミナールーム等を設ける
平成22年	4月1日	システム更新・耐震補強工事による休館（～5月31日）	平成22年	5月	浜松市立中央図書館内に県内市町初の学校図書館支援センターが設置される
平成22年	5月1日	図書館システム・県図書館ネットワークシステムを更新、「おうだんくんシステム」と呼称し ポータル、コミュを追加、「おうだんくん」を「おうだんくんサーチ」に名称変更	平成22年	7月	島田市立島田図書館移転計画を含む、「島田市中心市街地交流拠点施設基本計画」が完成

年	月	静岡県立中央図書館	年	月	県内図書館等
平成22年	5月1日	静岡県関係資料及び雑誌の名称を、地域資料・地域雑誌に変更	平成22年	7月～9月	静岡文化芸術大学図書館・情報センターが「ユニバーサルデザイン絵本コンクール2010」を開催
平成22年	6月1日	耐震補強工事および電算システム入替作業が終了、直接サービス再開。携帯電話からレファレンスの申込及び事例検索が可能になる。葵文庫、久能文庫等の貴重書が、事前申込により本館で随時閲覧可能	平成22年	8月	第37回全国学校図書館研究大会開催（静岡市）
平成22年	6月18日	子ども図書研究室講演会「子どもの発達とわらべうた」（木村はるみ氏）	平成22年	8月28日	「第10回静岡県子ども読書フェスティバル」パートⅠが日本平動物園等を会場に開催
平成22年	6月	全生産より関口隆吉・山岡鉄舟関係書簡9点を寄贈	平成22年	9月	「日本学校図書館学会」静岡県支部が発足
平成22年	6月～12月	「国民読書年2010！しずおか」事業実施、記念フォーラム及び館内企画展・講演会を開催	平成22年	10月18日	第18回（平成22年度）静岡県図書館大会開催（グランシップ）
平成22年	6月	「浙江省文庫と你好上海万博」と題して資料の展示と関連講演会を開催	平成22年		「ふじのくに3776友好訪中事業」により、県図書館協会の土屋会長と県読書推進運動協議会の鈴木会長が浙江省図書館を訪問
平成22年	7月	歴史文化情報センターで県史資料デジタル画像をインターネットで公開			
平成22年	7月	「地域資料ちいさなコーナー」開始			
平成22年	9月1日	「葵文庫」の約半数の全文がウェブ上で閲覧可能となる			
平成22年	9月	子ども図書研究室の団体利用受付開始			
平成22年		静岡文化芸術大学ユニバーサルデザイン絵本コンクール審査委員への参加			
平成22年		緊急雇用事業により、書庫最適化事業及び閲覧室雑誌架増設と整理を実施（平成23年度まで）			
平成22年		レファレンス研修「出前講座」の事業化			
平成22年		レファレンス協同データベース事業への事例登録開始			
平成22年		貴重書庫1を書庫3に、貴重書庫2（旧収蔵庫）を貴重書庫に名称変更し、一部の貴重書を新たに増設した収蔵庫へ整理しなおす併せて旧書庫3・6～8を書庫6～9に名称変更。書庫9に16ミリフィルムを移動			
平成22年		「住民生活に光をそそぐ交付金」による資料購入、空調・上水道・防火扉の工事、講演会開催およびAVブース等備品整備（平成23年度まで）			
平成22年		児童資料の背ラベル変更。著者記号を1桁から3桁に変更（平成23年度末作業終了）			
平成23年	1月1日	視聴覚モデルルームを会議室に、レクチャールームを講堂に名称変更	平成23年	1月	浜松市立流通元町図書館開館
平成23年	1月8日	貴重書常設展示コーナー設置	平成23年	2月	磐田市立豊岡図書館、移転後、業務開始
平成23年	2月1日	当館デジタルライブラリーが国立国会図書館デジタルアーカイブポータル(PORTA)から検索可能となる	平成23年	2月26日	「第10回静岡県子ども読書フェスティバル」パートⅡが県立中央図書館にて開催
平成23年	2月4日	「健康医療情報コーナー」プレオープン	平成23年	3月15日	県東部を震源とする地震により、富士宮市立図書館や富士市立中央図書館の建物に被害
平成23年	2月24日	国立国会図書館関西館「公立図書館におけるデジタルアーカイブ推進会議」にて事例報告	平成23年	3月23日	富士宮市立芝川図書館移転開館
平成23年	3月31日	土屋光永館長退任	平成23年	3月	静岡県が「子ども読書活動推進計画」の第2次計画を策定
平成23年		歴史文化情報センターで「幕末・明治初期の文化財紹介」をインターネット公開	平成23年	4月	御殿場市が図書館サービスの一部を市の第3セクターに委託
平成23年		利用者用ロッカー室内に監視カメラ設置	平成23年	6月	浜松市が地区館に順次指定管理者制度を導入していく計画を示す
平成23年	4月1日	谷野純夫館長就任	平成23年	8月	静岡市で図書館協議会が図書館の管理運営形態は直営がふさわしいとの報告書を提出
平成23年	5月～11月	電子書籍関連プロジェクト研究調査実施	平成23年	9月	掛川市が雑誌スポンサー制度を導入
平成23年	6月16日	子ども図書研究室講演会「子どもと昔話」（藤井いづみ氏）	平成23年	10月24日	第19回（平成23年度）静岡県図書館大会開催（グランシップ）
平成23年	7月9日	健康医療情報コーナーを開設、併せて講演会「医療を医学と言葉と文学」（海堂尊氏）開催	平成23年	10月29日	富士宮市立図書館ICシステム導入

年	月	静岡県立中央図書館	年	月	県内図書館等
平成23年	7月	テーマ絵本貸出開始	平成23年	10月	常葉学園大学付属図書館改修、ラーニングスペース、キャレルスペース等整備
平成23年	7月	歴史文化情報センターで県内古文書調査の収集資料をインターネット公開開始	平成23年	11月26日	第10回静岡県子ども読書フェスティバル講演会開催
平成23年	7月～10月	電子図書館体験プロジェクト実施	平成23年		島田市が島田図書館の移転予定先施設の工事に着手
平成23年	8月4～7日	夏休み子ども図書スペシャル実施	平成23年		島田市が雑誌スポンサー制度を導入
平成23年	9月	東日本大震災で被災した岩手県山田町立図書館に職員2名を派遣	平成23年		順天堂大学保健看護学部図書館が県図書館協会に加盟
平成23年	9月10日	ふじのくに文化の丘フェスタ開催「ふれあいカフェ とも」（授産所製品等の販売）を期間中設置	平成23年		厚生保育会厚生総合図書館が県図書館協会より退会
平成23年	9月～10月	「電子書籍端末展示会」を開催	平成23年		浜松医科大学附属図書館が東日本大震災被災地区の医科大学・病院への文献提供を開始
平成23年	11月29日～12月2日	関東・甲信越静岡地区図書館地区別研修（静岡市）	平成23年		磐田市が雑誌スポンサー制度を導入
平成23年	12月	静岡県舞台芸術センター（SPAC）による「おほなし劇場」を毎月第4日曜日に開催開始	平成23年		図書館未設置の函南町が図書館建設工事に着手
平成23年		協力車の4・8月運行停止			
平成23年		書庫の狭隘化状況を鑑み、資料保存検討委員会で検討、加除式JISや県立図書館目録など1,116冊を除籍	平成23年		静岡理科大学附属図書館改修、ラーニングコモンズ設置
平成23年		書庫最適化事業によりK分類図書を書庫9に、一般資料を書庫1～3に、地域資料を書庫5・6に移動			
平成23年		雑誌の書庫出納に関する統計を開始			
平成24年	1月	「まちの保健室」実施	平成24年	4月1日	静岡県立大学附属図書館改修、ラーニングコモンズ設置
平成24年	1月26日	デジタルライブラリーに「葵文庫」約1,100冊の画像を追加	平成24年	4月1日	浜松医科大学附属図書館が常葉医療専門学校図書室と合併
平成24年	2月1日～3月15日	閲覧室等空調設備、資料棟屋上防水、防火設備等改修、非常用照明設備、分電盤改修等大規模改修工事のため休館	平成24年	4月1日	常葉大学付属図書館同一学校法人下の大学統合に伴い名称変更 常葉大学附属図書館静岡瀬名図書館 常葉大学附属図書館浜松図書館 常葉大学短期大学部附属図書館之山文庫
平成24年	3月16日	大規模改修工事が終了、リニューアルオープン	平成24年	4月	浜松市が積志図書館・西図書館に指定管理者制度を導入
平成24年	3月16日	国立国会図書館歴史的音源サービスの提供開始	平成24年	4月	社会福祉法人厚生保育会厚生総合図書館が閉室、県図書館協会から脱退
平成24年	4月1日	子ども図書研究室がリニューアルオープン、児童書約1万冊（複本）の直接貸出開始	平成24年	4月	御殿場図書館が図書館サービスの一部を市の第3セクターに委託
平成24年	4月	5年ぶりに司書職1名採用される	平成24年	6月	焼津市立図書館が雑誌スポンサー制度を導入
平成24年	6月	一般向けの図書館講座を「葵レク」と総称、年間24回の予定で実施	平成24年	6月	静岡大学が金沢大学・名古屋大学と「学習支援促進のための三大学連携事業に関する協定」を締結
平成24年	6月1～28日	県立学校連携展示（科学技術高校）	平成24年	7月～9月	「大切な人に贈る1冊—県民メッセージコンテスト」開催
平成24年	6月20日	「おうだんくんサーチ」がスマートフォンに対応、静岡県公報と県民サービスセンターの情報も検索対象に加わる	平成24年	8月9日	静岡産業大学図書館改修、アクティブラーニングのためのスペース開設
平成24年	6月20日	新着児童図書を語る会「新刊サロン」の開始	平成24年	8月	静岡市図書館協議会が図書館の管理運営形態は直営がふさわしいとの報告書提出
平成24年	7月7日	埋蔵文化財センター常設展開始、「古代からの贈り物—発掘調査から知る静岡県の歴史」開設	平成24年	9月22日	島田市立島田図書館が移転開館、「読書通帳」の導入
平成24年	7月～9月	「ふじのくにBookダービー」とパネル巡回展示開催	平成24年	10月	牧之原市立図書館が雑誌スポンサー制度を導入
平成24年	7月20日	子ども図書研究室講演会「子どもの科学の本を知る」（塚原博氏）	平成24年	10月29日	第20回（平成24年度）静岡県図書館大会開催（グランシップ）
平成24年	8月	歴史文化情報センターで「授業の種」をインターネット公開開始	平成24年	12月1日	第1回静岡書店大賞の受賞作品発表
平成24年	8月4～5日	夏休み子ども図書スペシャルⅡ開催	平成24年	11月1日	伊豆の国市立図書館と三島市立図書館が相互貸借利用協定締結
平成24年	9月27日～11月1日	文化の丘フェスタ開催			
平成24年	11月25日	大人の読書講演会「五十歳を超えて作家になるということ」（百田尚樹氏）			

年	月	静岡県立中央図書館	年	月	県内図書館等
平成24年		「静岡県関係住宅地図目録」改訂			
平成25年	3月	「葵文庫」全925タイトル2,708冊の電子化完了・公開	平成25年	2月	聖隷クリストファー大学に新図書館開館
平成25年	7月	第18回N I E 全国大会静岡大会の開催に合わせて、新聞の活用を啓発する展示を開催	平成25年	4月7日	函南町立図書館開館
平成25年	7月19日	子ども図書研究室講演会「かわいだけが子どもの本？」(清水真砂子氏)	平成25年	4月	岡出山図書館岡部分室 → 藤枝市立岡部図書館として移転、開館
平成25年	8月6～10日	夏休み子ども図書ウィーク開催	平成25年	4月	旧島田図書館が島田図書館分館として開館
平成25年	9月8日	大人のたしなみセミナー講演会「ボーカロイドがめざしたもの」(剣持秀典氏)	平成25年	4月	牧之原市立榛原図書館がリニューアル開館
平成25年	11月30日	大人のたしなみセミナー講演会「猿猴庵『絵本駱駝具誌』を読む」(木下直行氏)	平成25年	4月	浜松市立東図書館・南図書館・北図書館・南陽図書館・浜北図書館が指定管理者制度を導入
平成25年	10月2日	「ムセイオン」6機関協定締結	平成25年	4月	浜松市立天竜図書館が「子どもの読書活動優秀実践図書館」として文部科学大臣表彰を受ける
平成25年	12月8日	ブックレクチャー講演会「編集者血風録！本はいかにして創られるか」(見城徹氏)	平成25年	4月	常葉大学附属図書館静岡水落図書館が開館
平成25年		「教職員初任者研修」の社会体験研修の受入開始	平成25年	4月	浜松医科大学付属図書館がラーニングコモンズを開設
			平成25年	5月	島田市立島田図書館が「読書通帳」の1冊目を使い切った利用者を「読書通帳多読賞」として表彰
			平成25年	9月25日	静岡文化芸術大学図書館情報センター学術リポジトリ構築・公開
			平成25年	10月28日	第21回(平成25年度)静岡県図書館大会開催(グランシップ)
			平成25年	11月1日	富士市と静岡市が「市立図書館の相互利用に関する協定」を締結
			平成25年	12月5日	第2回静岡書店大賞の受賞作品発表。図書館員も投票に参加。
			平成25年	12月27日	県内公共図書館共同での電子図書館運営に関する検討報告書を提出
平成26年	2月14日	県内公共図書館協同での電子図書館運営に関する検討報告書を受理	平成26年	4月	浜松市は新たに7館指定管理者制度導入
平成26年	2月23日	富士山関係資料デジタルライブラリー66点公開	平成26年	4月	静岡文化芸術大学図書館情報センターで学生証・教職員証・利用者カードのICカード化
平成26年		「地域学習に役立つ図書リスト」作成(平成16年発行「子どもが使える郷土資料図書目録改訂2版」の改訂)	平成26年	10月1日	静岡大学附属図書館浜松分館リニューアルオープン、多文化交流エリア等整備
平成26年	6月15日	歴史文化情報センターで「伊豆歴史散歩」をインターネット公開	平成26年	11月1日	浜松市立中央図書館が浜松市文化遺産デジタルアーカイブ一般公開
平成26年	6月18日	「子ども図書研究室」が開室10周年	平成26年	12月8日	第22回(平成26年度)静岡県図書館大会開催(グランシップ)
平成26年	6月19～20日	関東地区公共図書館協議会総会・研究発表大会(静岡市)	平成26年	12月4日	第3回静岡書店大賞発表(学校図書館に携わる人が投票に参加)
平成26年	6月22日	子ども図書研究室開室10周年講演会「絵本がつなぐ世界の人びと」(依田和子氏)			
平成26年	7月	国立国会図書館デジタル化資料送信サービスの館内利用開始			
平成26年	7月20日～10月26日	子ども図書研究室の一部を日曜日開放(9～12時、13～15時)			
平成26年	8月2日～11月25日	グランシップ工事休館のため「えほんのひろば」を本館小集会室Aにて開室			
平成26年	8月5～10日	夏休み子ども図書ウィーク開催			
平成26年	9月6日	ブックレクチャー「里山の楽しみ方」(今森光彦氏)			
平成26年	9月20日	大人のたしなみセミナー「古文書からみた静岡の地震・津波」(磯田道史氏)			
平成26年	10月25日～11月9日	文化の丘フェスタ開催			
平成26年	12月10日～平成27年1月26日	「インターネット予約による市町立図書館等受取サービス」5館試行(富士宮市立中央、函南町立、磐田市立中央、浜松市立中央、歴史文化情報センター)			
平成26年		「静岡県関係地図目録」・「静岡県内住宅地図目録」・「静岡県内地形図目録」・「静岡県の絵葉書(第一期)目録」を改訂、新たに「静岡県史全35巻目次」を作成			
平成26年		書庫狭量化対策のため、地域資料の複本の3冊目以降を除籍			

年	月	静岡県立中央図書館	年	月	県内図書館等
平成26年		歴史文化情報センター内に「大人の読書」コーナー設置			
平成27年	2月15日	大人のたしなみセミナー「ビブリオバトル」開催	平成27年	1月14日	静岡福祉大学附属図書館バリアフリー文庫設置
平成27年	3月4日	藤原明徳氏より「宮田日記」寄贈される	平成27年	3月	日本大学国際関係学部図書館編集による「昭和30年ころの伊豆と富士山上田彦次郎ガラス転板写真」発行
平成27年	3月31日	谷野純夫館長退任	平成27年	3月	浜松医科大学附属図書館でラーニングcommons増設
平成27年	4月1日	河原崎全館長就任	平成27年	3月1日	裾野市立鈴木図書館雑誌スポンサー制度導入
平成27年	4月24日～5月10日	図書館電算システム更新作業による休館。デジタルライブラリーの機能強化	平成27年	4月1日	三島市立図書館雑誌スポンサー制度導入
平成27年	4月	貴重書庫横の元県史保管室に、書庫10より16ミリフィルムを移動	平成27年	4月1日	静岡県立大学看護学部の移転に伴い、静岡県立大学短期大学部附属図書館の名称に「静岡県立大学附属小鹿図書館」が併記される
平成27年	5月	『静岡県の絵葉書 第1期』5,094枚をデジタルライブラリーで公開	平成27年	4月	小山町立図書館が指定管理者制度導入
平成27年	5月	地域資料の小説・児童書の背ラベル変更。図書記号を数字からカナ3文字に	平成27年	4月	浜松医科大学附属図書館で時間外業務の外部委託開始
平成27年	6月2日	「山梨県立図書館と静岡県立中央図書館との富士山関係資料に関する連携協定」締結	平成27年	4月20日	三島市立図書館レファレンスコーナー入口にICゲート設置
平成27年	6月25日	子ども図書研究室講演会「日本の昔話の変遷ー桃太郎を中心にー」（石井正己氏）	平成27年	5月1日	磐田市立図書館でいわたデジタルアーカイブ一般公開開始
平成27年	7月19日～11月8日	子ども図書研究室の一部を日曜日開放（10時～12時、13時～16時）	平成27年	7月1日	焼津市立図書館は公民館図書室でのサービス拡大、全館をオンラインで結ぶ
平成27年	8月	静岡県発行の行政資料電子データの収集・デジタルライブラリーで公開	平成27年	7月24日	静岡市立清水中央図書館で徳川文庫（慶喜家コレクション）デジタル資料公開
平成27年	8月6～11日	夏休み子ども図書ウィーク開催	平成27年	11月9日	第23回（平成27年度）静岡県図書館大会（グランシップ）
平成27年	9月1日	郵送による利用者登録開始	平成27年	11月1日	静岡市立図書館雑誌スポンサー制度導入
平成27年	9月12日	大人のたしなみセミナー「エンペラー家康の駿府外交」（加藤理文氏）	平成27年	12月3日	第4回静岡書店大賞発表
平成27年	10月1日	「インターネット予約による市町立図書館等受取サービス」4館先行導入（富士宮市立中央、函南町立、磐田市立中央、浜松市立城北）	平成27年		徳川家康公顕彰400年関連巡回展示（県内3か所の図書館）
平成27年	10月18日	ブックレクチャー「本を読んで天下を取った家康ー家康の読書遍歴を追うー」（小和田哲男氏）			
平成27年	11月3日	大人のたしなみセミナー「脳を知って、脳を活かす」（池谷裕二氏）			
平成27年	10月24日～11月8日	文化の丘フェスタ開催			
平成27年		徳川家康公顕彰400年における取組として徳川関連図書・浮世絵展示、ブックカバー作成を行う			
平成28年	2月	書庫狭隘化に伴い、旧車庫と館外奉仕室に集密書架設置、書庫10、書庫11とし、貴重書庫横の書庫を書庫12とする			

8 歴代館長一覧

	氏名	図書館の名称	職名	在任期間	着任年度	在任期間
1	貞松 修蔵	静岡県立葵文庫	文庫長	大正13年 10月30日 ~ 昭和11年 3月	1924	11年5月
2	星子 政雄	静岡県立葵文庫	文庫長事務取扱	昭和11年 3月 ~ 昭和11年 5月	1936	3月
3	相京 伴信	静岡県立葵文庫	文庫長事務取扱	昭和11年 6月13日 ~ 昭和14年 9月5日	1936	3年3月
4	七澤 甚喜	静岡県立葵文庫	文庫長事務取扱	昭和14年 9月 ~ 昭和15年 6月	1939	10月
5	加藤 忠雄	静岡県立葵文庫	事務取扱・文庫長	昭和15年 7月 ~ 昭和31年 3月	1940	15年9月
6	岡谷 潔	静岡県立中央図書館葵文庫	社会教育課長・文庫長	昭和31年 4月 ~ 昭和32年 3月	1956	1年
7	山本 松市	静岡県立中央図書館葵文庫	館長事務取扱	昭和32年 4月 ~ 昭和35年 3月	1957	3年
8	岡本 滋	静岡県立中央図書館葵文庫	館長	昭和35年 4月 ~ 昭和38年 3月	1960	3年
9	今泉 勇	静岡県立中央図書館葵文庫	館長	昭和38年 4月20日 ~ 昭和40年 3月	1963	2年
10	小林 篤	静岡県立中央図書館葵文庫	館長	昭和40年 4月 ~ 昭和44年 3月	1965	4年
11	高林 静夫	静岡県立中央図書館葵文庫 静岡県立中央図書館	館長	昭和44年 4月 ~ 昭和48年 3月	1969	4年
12	小島 毅	静岡県立中央図書館	館長	昭和48年 4月 ~ 昭和53年 3月	1973	5年
13	宗 知信	静岡県立中央図書館	館長	昭和53年 4月 ~ 昭和53年 12月31日	1978	9月
14	堀 通雄	静岡県立中央図書館	教育次長兼館長	昭和54年 1月1日 ~ 昭和54年 3月	1979	3月
15	渡辺 悦郎	静岡県立中央図書館	館長	昭和54年 4月 ~ 昭和56年 3月	1979	2年
16	石川 嘉延	静岡県立中央図書館	教育次長兼館長	昭和56年 4月 ~ 昭和56年 8月	1981	5月
17	西村 二郎	静岡県立中央図書館	館長	昭和56年 9月 ~ 昭和59年 3月	1981	2年7月
18	松井 哲	静岡県立中央図書館	館長	昭和59年 4月 ~ 昭和60年 3月	1984	1年
19	鈴木 嘉弘	静岡県立中央図書館	館長	昭和60年 4月 ~ 昭和63年 3月	1985	3年
20	石田 德行	静岡県立中央図書館	館長	昭和63年 4月 ~ 平成2年 3月	1988	2年
21	石割 忠夫	静岡県立中央図書館	館長	平成2年 4月 ~ 平成4年 3月	1990	2年
22	渡瀬 祥光	静岡県立中央図書館	館長	平成4年 4月 ~ 平成6年 3月	1992	2年
23	中村 信也	静岡県立中央図書館	館長	平成6年 4月 ~ 平成8年 3月	1994	2年
24	真杉 慶夫	静岡県立中央図書館	館長	平成8年 4月 ~ 平成10年 3月	1996	2年
25	鈴木 善彦	静岡県立中央図書館	館長	平成10年 4月 ~ 平成14年 3月	1998	4年
26	恩田 征弥	静岡県立中央図書館	館長	平成14年 4月 ~ 平成16年 3月	2002	2年
27	岩崎 功	静岡県立中央図書館	館長	平成16年 4月 ~ 平成18年 3月	2004	2年
28	天野 忍	静岡県立中央図書館	館長	平成18年 4月 ~ 平成21年 3月	2006	3年
29	土屋 光永	静岡県立中央図書館	館長	平成21年 4月 ~ 平成23年 3月	2009	2年
30	谷野 純夫	静岡県立中央図書館	館長	平成23年 4月 ~ 平成27年 3月	2011	4年
31	河原崎 全	静岡県立中央図書館	館長	平成27年 4月 ~	2015	

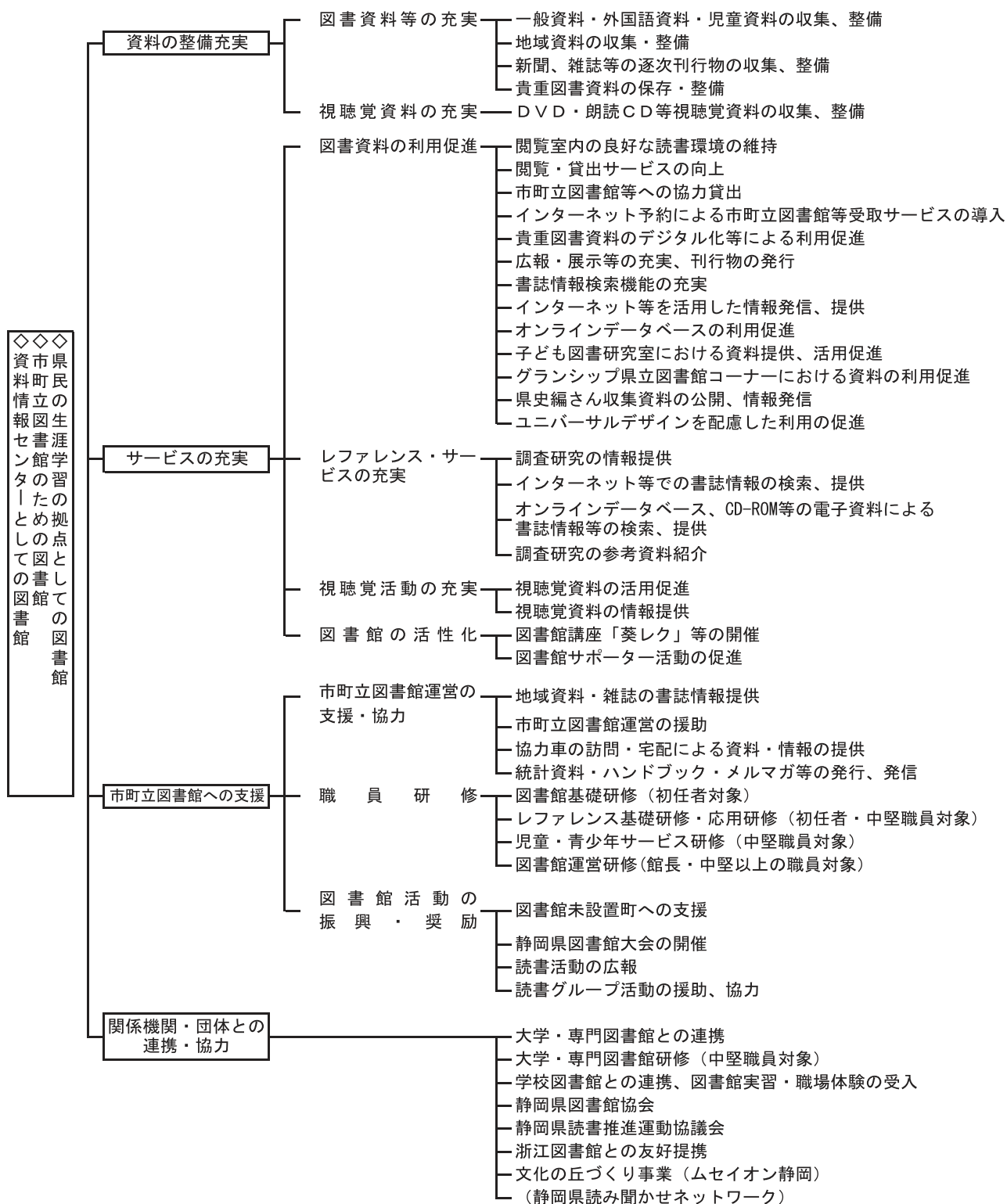
I 当館の概要

1 沿 革

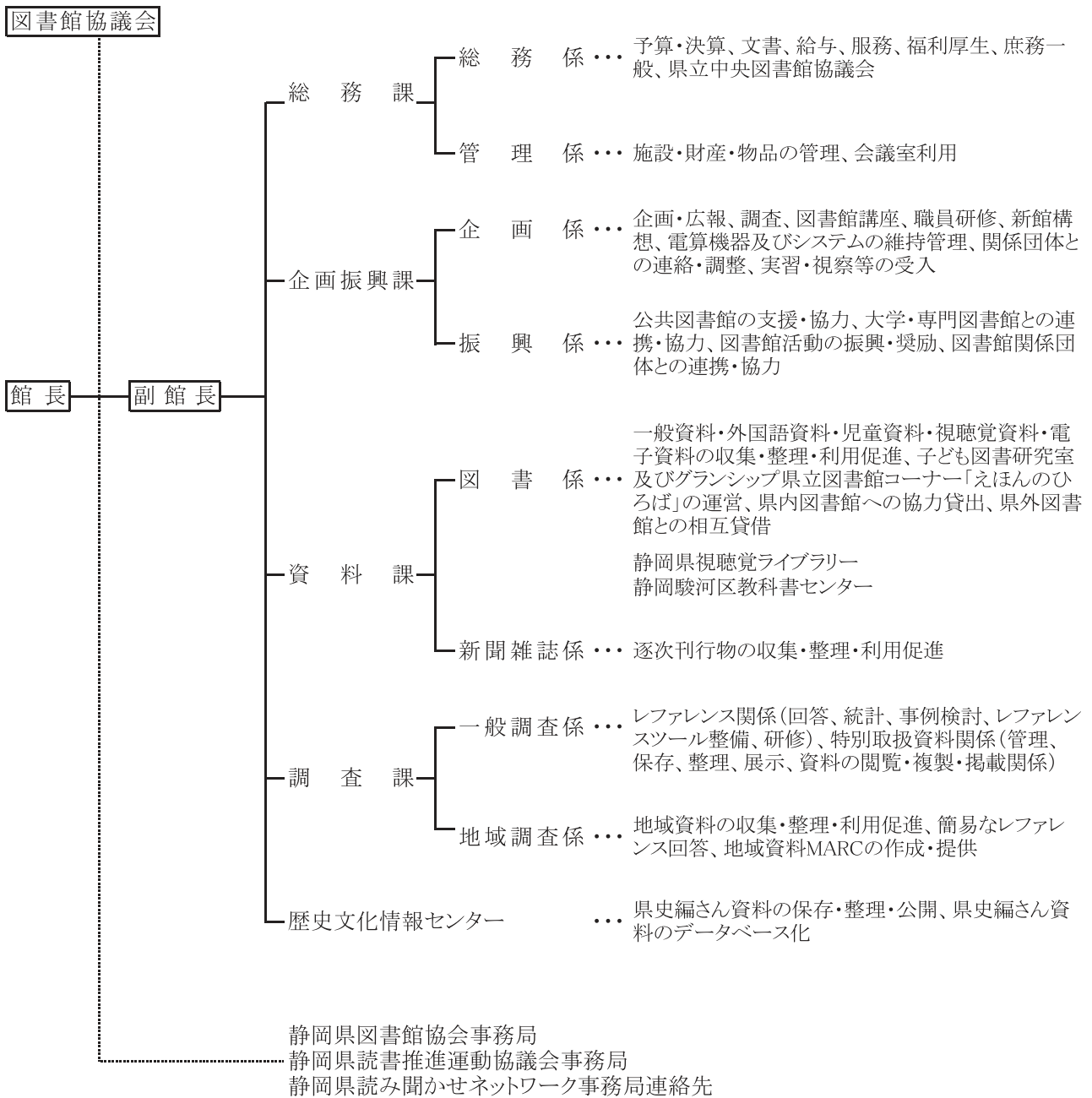
大正10年11月17日	徳川家の記念事業として渋沢栄一氏等の寄附を得て、静岡県立図書館設立を県会に提案議決。設立費17万円
大正13年10月	竣工
大正13年10月30日	貞松修蔵初代館長就任。開館準備事務を開始
大正14年4月1日	「静岡県立葵文庫」開館（蔵書約22,000冊、職員16名）
昭和3年11月3日	徳川頼貞氏、駿河版『群書治要』47冊を寄贈
昭和4年6月	山梨稲川百年祭記念事業として、『山梨稲川集』全4冊を刊行
昭和5年5月28日	昭和天皇陛下本県御巡幸第1日、静岡県立葵文庫に行幸、稀覯書等を天覧
昭和8年9月	改正図書館令により、葵文庫が本県中央図書館に指定
昭和8年11月1日	10周年記念式典を挙行
昭和12年8月30日	ショメールの百科全書を邦訳した『厚生新編』を復刻頒布
昭和20年6月20日	戦災により、講堂及び付属木造箇所を焼失
昭和25年12月	「県視聴覚ライブラリー」を静岡県立葵文庫内に設置
昭和28年4月1日	「日米文化センター」が静岡県立葵文庫に併置
昭和31年11月1日	図書館法に基づき、「静岡県立中央図書館葵文庫」と名称変更
昭和33年9月	課制を導入し、庶務課、整理課、奉仕課を設置
昭和36年4月	自動車文庫「あおい号」誕生、「茶の間のひととき読書」運動開始
昭和38年9月	文化センター建設準備委員会を設置し、基本計画の策定を開始
昭和42年4月	「日米文化センター」を静岡県日米協会に移管
昭和42年12月26日	文化センター基本計画に基づき、新図書館建築着工
昭和44年3月18日	新図書館完工
昭和44年6月30日	静岡県立中央図書館葵文庫を閉館、新館移転作業を開始
昭和44年7月12日	「静岡県文化センター設置条例」が制定され、「静岡県立中央図書館」と名称変更
昭和44年8月1日	新館に移転を完了、開館準備事務を開始 「静岡県文化センターの組織及び運営に関する規則（以下「組織運営規則」という）」が制定され、庶務課、資料課、整理課、事業課の4課を設置
昭和45年3月20日	「静岡県立中央図書館協議会条例」及び「静岡県文化センター使用料条例」を制定
昭和45年4月18日	県文化センター開所、静岡県立中央図書館開館式を挙行。20日から一般公開
昭和49年4月1日	「組織運営規則」の一部改正により、各課に2係制を導入
昭和50年11月10日	50周年を記念して『50年のあゆみ』を刊行
昭和60年4月1日	「組織運営規則」の一部改正により、庶務課を総務課に改正及び「静岡県視聴覚ライブラリー」設置を制定
昭和60年11月6日	静岡県立中央図書館協議会から「今後の県立中央図書館の在り方」について答申
昭和63年3月1日	「図書館利用規程」を改正し、市町村立図書館等への協力貸出を充実
昭和63年4月1日	「組織運営規則」の一部改正により、事業課を振興課に、普及係を協力係に変更
平成元年4月20日	静岡県立中央図書館協力車の運行開始
平成6年3月29日	電算システムによる業務を開始 電算導入に伴い、図書館等利用規程を改正
平成6年4月1日	「組織運営規則」の一部改正により、総務課、企画振興課、資料課、調査課の4課に変更
平成10年4月1日	「組織運営規則」の一部改正により、資料課地域資料係を調査課地域調査係に、調査課逐次刊行物係を資料課新聞雑誌係に、調査課調査相談係を一般調査係に変更 閉館時間を、毎金曜日に限って午後8時まで延長
平成10年10月1日	Webサイトの開設（蔵書検索、貴重書、浮世絵、絵図等）
平成11年3月13日	グランシップ情報ラウンジ・県立図書館コーナーを開設
平成11年4月1日	歴史文化情報センターを、静岡県教育委員会文化課から静岡県立中央図書館に移管
平成12年4月1日	閉館時間を、毎水曜日、木曜日、金曜日について午後7時までに変更
平成12年6月1日	「デジタル葵文庫」インターネット提供開始
平成14年1月1日	資料棟地震対策緊急整備工事・特別整理のため、静岡県立中央図書館休館
平成14年2月18日	資料棟地震対策緊急整備工事着工。休館中の県民サービスとして、県女性総合センター「あざれあ」県立図書館コーナーを開設
平成14年5月31日	地震対策緊急整備工事完成
平成14年6月13日	県女性総合センター「あざれあ」県立図書館コーナーを閉館
平成14年8月1日	静岡県立中央図書館業務を再開（地震対策緊急整備工事・特別整理終了） 葵文庫、久能文庫、特別取扱資料の一部を静岡県総合教育センター内「あすなろ県立図書館収蔵庫」に移動。10月12日から同センター「図書館コーナー」で閲覧開始

平成15年4月1日	グランシップ内で情報ラウンジ・県立図書館コーナーが移転、グランシップ県立図書館コーナーとして再開
平成15年7月2日	ビジネスコーナーを設置
平成15年11月27日	平成15年度第89回全国図書館大会静岡大会開催（～28日） 大会テーマ「創めよう！図書館の世紀～知・人・夢づくり～」
平成16年3月18日	新電算システムに移行し、「横断検索」等を開始（第3期システム稼働）
平成16年6月18日	子ども図書研究室を開設
平成17年4月1日	創立80周年記念事業を年間にわたり展開
平成19年9月18日	浙江図書館職員を静岡県海外技術研修員として受入れ（～平成20年2月22日）
平成19年10月26日	「静岡県立中央図書館と浙江図書館に関する姉妹図書館締結の意向書」を浙江図書館にて調印
平成21年2月24日	「静岡県立中央図書館と浙江図書館との友好提携書」を当館にて締結
平成21年3月11日	静岡県立中央図書館、静岡県立美術館、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所及び静岡県公立大学法人静岡県立大学と4機関による「文化の丘づくり事業推進に関する協定」を締結。21年度には2機関の参加により6機関で「ムセイオン静岡」として事業推進
平成21年7月1日	インフォメーション棟耐震補強工事着工。3か月間工事のための休館（～9月30日）。その後、工事及び工事に伴う関係作業のため一部開館（10月1日～平成22年3月30日）
平成21年9月25日	葵文庫、久能文庫、特別取扱資料の一部を静岡県総合教育センター内「あすなろ県立図書館収蔵庫」より当館に移動
平成22年2月25日	インフォメーション棟耐震補強工事完成
平成22年5月1日	図書館電算システムの更新及び当館Webサイトの全面リニューアル（第4期システム稼働） 静岡県関係資料及び雑誌の名称を、郷土資料、郷土雑誌から、それぞれ地域資料、地域雑誌に変更
平成22年6月1日	耐震補強工事及び関連作業と電算システム更新作業をすべて終え、リニューアルオープン。 また、携帯電話からレファレンスの申込及び事例検索が可能に。 葵文庫、久能文庫等の貴重書が、事前申込みにより本館で随時閲覧可能に。
平成22年6月	「国民読書年」関連イベントを実施（～12月）
平成22年9月1日	「葵文庫」所蔵資料の約半数の全文が、インターネットから閲覧可能に。
平成23年1月8日	貴重書常設展示コーナー設置
平成23年2月1日	国立国会図書館デジタルアーカイブポータル（PORTA）と連携し、当館デジタルライブラリーが、PORTAから検索可能に。
平成23年5月	電子書籍関連プロジェクト実施（～11月）
平成23年7月9日	健康医療情報コーナーを新設・記念イベント開催
平成23年11月29日	平成23年度関東・甲信越静岡地区図書館地区別研修開催（～12月2日）
平成24年1月26日	「葵文庫」所蔵資料のインターネットの全文閲覧を1,102冊（204タイトル）追加
平成24年2月1日	閲覧室等空調設備工事、資料棟屋上防水工事、防火設備等改修工事非常用照明設備工事、分電盤改修工事等大規模改修工事及び特別整理のため、休館（3月15日まで）
平成24年3月16日	閲覧室等空調設備工事等大規模改修工事完了、国立国会図書館歴史的音源サービスの提供開始
平成24年4月1日	子ども図書研究室の一部複本資料の個人貸出を開始
平成24年6月	図書館講座「葵レク」開始
平成24年6月20日	おうだんくんサーチバージョンアップ
平成24年7月	「大人の読書」推進 大切な人に贈る1冊「県民メッセージコンテスト・ふじのくにBookダービー」開催（～9月）
平成24年7月7日	静岡県埋蔵文化財センター常設展示開始
平成25年3月28日	「葵文庫」所蔵資料の全ページ電子化・公開
平成25年4月	歴史文化情報センター「授業の種」公開
平成26年2月	富士山関係資料デジタルライブラリー公開
平成26年7月	国立国会図書館デジタル化資料送信サービスの館内での利用を開始
平成27年4月1日	創立90周年記念事業を年間にわたり展開
平成27年6月2日	山梨県立図書館と「富士山関係資料に関する連携協定」を締結
平成27年8月	静岡県に関する行政資料の電子データ収集・デジタルライブラリーで公開

2 平成28年度静岡県立中央図書館基本方針・事業体系



3 組織図



4 職 員

	館 長	河 原 崎 全
	副 館 長	小 柳 津 康 雄
総 務 課	総 務 課 長 (兼)	小 柳 津 康 雄 (副館長)
	主 幹 兼 総 務 係 長	古 知 純 子
	主 幹 兼 管 理 係 長	山 内 勉
	主 任	杉 田 雄 祐
	主 査	松 井 紀 人
	主 事	前 島 み な み
企 画 振 興 課	企 画 振 興 課 長	前 田 雅 人
	企 画 係 長	梶 弘 幸
	振 興 係 長	八 木 麻 美
	主 査	向 山 可 奈
	主 査	佐 野 加 代 子
	主 査	永 井 満 美
	指 導 主 事	青 木 俊 明
	指 導 主 事	酒 井 恵 梨 奈
	主 任	首 藤 貴 光
資 料 課	資 料 課 長	宮 崎 靖 子
	図 書 係 長	青 山 滋 乃
	新 聞 雑 誌 係 長	高 塚 恵 子
	主 査	児 玉 匡 史
	主 査	三 枝 春 奈
	主 査	仲 本 由 加
	主 査	大 塚 真 紀
	主 査	安 田 宏 美
	指 導 主 事	渥 美 直 久
	主 任	宮 原 織 絵
	司 書	眞 子 み な
	技 能 員	加 藤 桂 子
調 査 課	調 査 課 長	所 康 俊
	一 般 調 査 係 長	鈴 木 啓 介
	主 幹 兼 地 域 調 査 係 長	牧 田 佳 子
	主 査	鈴 木 由 美
	主 査	山 本 桂 子
	主 査	大 村 床 子
	主 査	太 田 夏 子
	主 任	増 田 曜 子
	主 任	渡 辺 勝
情 報 セ ン タ ー 歴 史 文 化	指 導 主 事	松 井 君 貴
	主 任	中 嶋 郁 夫
	主 任	大 林 元

5 予 算

(単位:千円)

事業名	28 予算額	説 明
県立中央図書館管理運営費	87,440	・図書館の利用者サービスの充実を図るための経費 ・県立中央図書館の利用者に快適な読書環境を提供するための、施設等維持管理に要する経費
県立中央図書館資料充実費	85,000	図書及び逐次刊行物の購入・製本・補修等、資料整備充実に関する経費
「読書県しずおか」づくり 総合推進事業費	3,200 (587)	大人の読書活動推進を図るための経費
合 計	175,640 (173,027)	

※ () 内は図書館が行う事業の予算で内数

6 資 料

(1) 収集基本方針

ア 一般資料

県立図書館の蔵書構成の基本となる一般図書の収集については、調査研究用の参考図書類を中心に全分野にわたり幅広く整備を図る。

イ 児童資料

中学生までを対象とした児童図書を全点（コミック、ゲーム攻略本、学習参考書を除く）収集する。特に選定された児童図書は、さらに1部収集する。なお、15歳から18歳未満対象（YA）の図書についても選書及び収集に配慮する。

ウ 地域資料

県立図書館としての基本的役割である県全域の地域資料の収集については、地域の文化遺産としての歴史的資料、現在の地域社会理解のための参考資料の収集強化を図る。また、地域資料の中核となる静岡県関係の歴史、地誌、人物、民俗、文学等の一般資料や県及び各市町が刊行する地方行政資料を積極的に収集する。

エ 逐次刊行物

学術雑誌、業界誌、官公庁広報及び一般教養雑誌など逐次刊行物の充実に努める。地域雑誌の収集にも留意する。

オ 視聴覚資料

優れた映像や音響への要求が高まる中で、文化的、教養的内容のものを収集する。その収集については、特に静岡県及び図書館に関するもの並びに資料の芸術性、記録性、効用性を考慮する。

カ 外国語資料

県民（在住外国人を含む）の国際理解や日本理解及び生涯学習を援助し、また外国語を通しての読書及び基本的な調査研究の機会を提供する目的で収集する。

※留意事項

資料の収集に当たっては、国立国会図書館、市町立図書館及び各種関係機関との機能を考慮している。

(2) 資料概要

ア 図書資料

(ア) 一般資料

・総記、哲学、歴史、社会科学、自然科学、工学、産業、学術、言語、文学など各分野の図書

(イ)行政資料

- ・法令集、判例集、官報、国会及び各委員会議事録、官公庁刊行物
- ・都道府県刊行物(統計年鑑、調査報告書など)
- ・静岡県刊行物(公報、議会議事録、統計書、調査報告書など)
- ・県内自治体刊行物(公報、要覧、統計書、例規集など)

(ウ)地域資料

- ・静岡県に関する資料
- ・静岡県出身者、在住者の著作
- ・静岡県刊行物(統計書、調査報告書など)
- ・県内自治体刊行物(要覧、統計書、例規集など)

(エ)参考図書

- ・各分野における辞典、事典、ハンドブック、便覧、年鑑、索引、目録など

(オ)外国語資料

- ・辞典、事典などの基本参考図書
- ・日本関連図書(日本語著作の外国語版を含む)
- ・その他の一般図書

(カ)児童資料

- ・絵本
- ・児童書(コミック、ゲーム攻略本、学習参考書を除く)

イ 新聞・雑誌等

- ・一般紙(誌)・学会誌などの専門誌、研究機関や大学の紀要・研究報告、会社・研究所の研究技報
- ・静岡県内発行の新聞・雑誌・広報
- ・静岡県公報、県議会議事録

ウ 視聴覚資料等

- ・DVD ・朗読CD ・ビデオテープ ・CD-ROM ・マイクロフィルム

エ 歴史文化情報センター資料

- ・新県史編さんのために収集した古文書、新聞等の複写及びマイクロフィルム

オ 静岡県視聴覚ライブラリー(団体貸出用)

- ・16mm フィルム ・ビデオテープ ・DVD ・LD ・スライド ・8mm フィルム
- ・カセットテープ

※オンラインデータベース

- ・ルーラル電子図書館
- ・ヨミダス歴史館(読売新聞)
- ・聞蔵Ⅱビジュアル(朝日新聞)
- ・静岡新聞データベース plus 日経テレコン
- ・第一法規法情報総合データベース
- ・近代新聞検索
- ・官報情報検索サービス
- ・CiNii
- ・医中誌Web
- ・地方公共団体総覧

カ 特殊コレクション等

(ア) 特殊コレクション

資料名	受入時期	旧所蔵／寄贈者	概要
葵文庫	大正 13	静岡師範学校	<ul style="list-style-type: none"> 江戸幕府の旧蔵書で、和漢書 1,261 冊、蘭・仏・英・独などの洋書 2,325 冊の 3,586 冊からなる（『江戸幕府旧蔵書目録』（葵文庫）（昭和 45 年 4 月 18 日発行）による）。 明治元年府中（静岡）藩成立の時、駿府城内に設けられた学問所の蔵書となり、静岡師範学校を経て当館の所蔵となり、昭和 45 年「葵文庫」と名づけられた。
久能文庫	大正 13 昭和 4 昭和 56 昭和 59 平成 27	関口壮吉 関口隆克	<ul style="list-style-type: none"> 第 3 代静岡県令（初代県知事）関口隆吉収集の図書・文書・記録類 835 部 2,454 冊からなる。 図書は徳川氏関係及び軍事・外交・農業を中心とする。 文書は三条実美・大久保利通・伊藤博文・勝海舟・山岡鉄舟など多数の名士書簡を含む。 隆吉収集の図書は、その没後、久能山東照宮に保管され、当館設立の議が決定された大正 10 年に県に「久能文庫」として寄贈された。
上村順太郎 蒐集浮世絵	昭和 11	上村五郎	<ul style="list-style-type: none"> 上村順太郎が集めた江戸時代から明治までの浮世絵（錦絵）など版画類約 5,100 枚

(イ) 主な本県ゆかりの貴重資料

資料名	受入時期	旧所蔵／寄贈者	概要
山梨稲川遺稿類	昭和 2 昭和 9	田中光顕 戸塚 幸 米山梅吉	<ul style="list-style-type: none"> 山梨稲川の遺稿・書簡など 103 点からなる。
内山真龍関係文献	昭和 11	徳川家達他 7 人	<ul style="list-style-type: none"> 内山真龍関係の軸 6 幅と和書 2 冊 軸のうち遠州国学者関係書翰集 2 幅は、国学者の真龍宛書翰等 113 点を収録。
大井文庫	昭和 15	大井 博	<ul style="list-style-type: none"> 静岡浅間神社の神主大井家の資料約 1,600 点、神道・国学・郷土関係を中心とする。

(注) ^{やまなしとうせん}〔山梨稲川〕(1771～1826) 漢学者、詩人。明和 8 年に庵原郡西方村（現静岡市清水区）に生まれる。稲川の号は 1811 年、駿府稲川村（現静岡市駿河区）に居を移したことによる。稲川の学問の特徴は「音韻論に先鞭をつけたもの」と内藤湖南は「先哲の学問」の中で評した。また門人を中心に漢詩の結社「楽山吟社」を主宰した。

^{うちやままなつ}〔内山真龍〕(1740～1821) 国学者。元文 5 年に豊田郡大谷村（現浜松市天竜区）に生まれる。1762 年賀茂真淵に入門、真龍と称す。真龍の国学史上の功績はその研究著述のほか、遠江、三河、駿河、信濃等 135 人に及ぶ門人を教育したことにより、特に遠州国学の基礎を築いたことである。

参考文献：『静岡県歴史人物事典』

Ⅱ 事業報告（平成 27 年度）

1 静岡県の図書館をめぐるこの1年（平成27年度）

(1) 図書館をめぐる社会情勢と本県の動き

ア 電子書籍・電子図書館(デジタルアーカイブ)の現状と図書館

平成22年が「電子書籍元年」といわれてから、市場における電子書籍は、タブレット端末やスマートフォンの普及に伴い徐々に拡大しているが、平成25年度の電子書籍の売り上げは出版市場全体の6%程度である。図書館界でも、全国の公共図書館約3,200館のうち、電子書籍を導入している図書館は33館で、全体の約1%である。都道府県立図書館で電子書籍を導入しているのは秋田県と山梨県の2県のみである。ベストセラーや新刊本の少なさ及び著作権の問題から、提供館は思ったほど増えていないのが現状である。

電子書籍の運営方法については、図書館システムとは別の閲覧パッケージで運用されている場合が多い。閲覧方法はパソコン（Windows・Mac）、スマートフォン（iOS・Android）から専用ウェブサイトにてIDによるログインを行い、ストリーミング（ネットに接続した状態）で閲覧する形式が主体で、閲覧期間制限が設けられている。公共図書館における電子書籍は、著作権等の問題がクリアされ出版点数が大幅に増えていけば、一気に普及する可能性もあるため、今後の動向を注視していく必要がある。

その一方で、電子図書館(デジタルアーカイブ)については、全国でユニークなデジタルアーカイブの公開が増えている。例えば、国立国会図書館では、著作権者の了承を得た小説、ノンフィクション及び実用書など約900点をデジタル化し、館内端末での閲覧を可能としている。岩手県立図書館では、宮沢賢治や石川啄木関係の資料をデジタル化した、「イーハトーブ岩手電子図書館」が、大阪府立中之島図書館では、郷土玩具を描いたおもちゃ絵画家、川崎巨泉の作品をデジタル化した「人形洞文庫」がそれぞれ公開される等、各地で特徴あるデジタルアーカイブが設置されている。

県内においても、静岡県立中央図書館が、江戸幕府旧蔵書の「葵文庫」、初代静岡県知事関口隆吉の旧蔵書の「久能文庫」、元陸軍大佐上村順太郎が収集した「浮世絵コレクション」、富士山に関する絵図・古文書を集めた「富士山関係資料」、戦前の絵葉書、県内の絵地図・御城図等をデジタルアーカイブ化し、Webサイト上に公開している。

また、静岡市立清水中央図書館では「徳川文庫―慶喜家コレクション―」資料の一部、浜松市立中央図書館では図書館・博物館・美術館所蔵の浜松市関連資料をデジタル化した「浜松市文化遺産デジタルアーカイブ」、熱海市では市で所蔵する郷土資料の一部をデジタル化した「熱海市立図書館デジタルライブラリー」、磐田市では貴重な資史資料をデジタル化した「いわたデジタルアーカイブ」、富士市立図書館では郷土資料の一部がデジタル化され、それぞれ公開される等、地域資料のデジタルアーカイブ化が県内図書館に急速に広がりつつある。

静岡県立中央図書館では、県内図書館のデジタルアーカイブ化された貴重資料、地域資料等との連携を図るため、平成28年3月に県内図書館の合同デジタルライブラリー「ふじのくにアーカイブ」を構築した。

イ 指定管理者制度をめぐる現状

平成15年9月に地方自治法が改正され、指定管理者制度が導入された。この制度は民間団体（民間企業、特殊法人、NPO法人、地域団体等）を指定管理者として指定し、公の施設の管理を代行させることができるというものである。

公立図書館においても法改正後、図書館の管理、運営を指定管理者に代行させる事例が増えつつある。全国の県立図書館では、平成26年までに5館が運営又は施設管理部分を業務委託や指定管理者に代行させているが、直営館が主体である。

その一方で、全国の市区町村立図書館においては、平成27年導入予定の館まで含め、471館で指定管理者に運営管理を代行させる状況となっている。

指定管理者の受託者は、民間企業が全体の75%を占め、NPO法人が10%、公益社団法人が12%、

その他が3%となっている。民間企業の中でも、株式会社図書館流通センターが全国178館の業務委託、256館の指定管理者を請け負っており、全国の図書館運営の一翼を担う存在となりつつある。

なお、民間企業の運営を大胆に取り入れた例として、佐賀県武雄市立図書館があげられる。武雄市立図書館はレンタルビデオチェーン「TSUTAYA」や「蔦屋書店」を運営するカルチュア・コンビニエンス・クラブを指定管理者とし、図書館カードとポイントカードを統合し、カフェチェーン「スターバックス」を出店させるなど、様々な改革が注目され、全国から多くの視察者が訪れている。

このカルチュア・コンビニエンス・クラブは、宮城県多賀城市、岡山県高梁市、山口県周南市でも同様な店舗展開を計画しているが、現運営館の不適切な選書や本の並べ方が独自の「ライフスタイル分類」になっている等、利用者の不満も多く、山口県周南市では、カルチュア・コンビニエンス・クラブが計画する市立図書館建設に反対する住民運動も起こっている。

また、平成27年10月には神奈川県海老名市で、株式会社図書館流通センターとカルチュア・コンビニエンス・クラブの共同事業体を指定管理者とした市立中央図書館が新たに開館した。同共同事業体は、愛知県小牧市でも指定を受け、新館計画を進めていたが、建設の是非をめぐる住民投票の結果、反対が多数となったため、小牧市は同共同事業体との間で結んでいたアドバイザリー契約を解消した。

カルチュア・コンビニエンス・クラブや株式会社図書館流通センター等の民間企業が指定管理者として市町立図書館運営に関わっていく流れは、今後も加速していくことが予想される。

県内においても、浜松市が平成26年から中央図書館、城北図書館、天竜区内図書館を除く16図書館（分室1含む）が、株式会社図書館流通センター等の指定管理者による運営となり、平成27年には小山町立図書館も新たに指定管理者による運営となった。

指定管理者制度の導入には、民間ならではの柔軟な事業展開や、効率的な運営といった利点がある。その一方で、事業の継続性への懸念やコスト重視に傾いた場合の職員の労働環境等の変化等も指摘されている。各自治体の実情に即して、今後も検討が続けられていくだろう。

(2) 静岡県立中央図書館の今後のあり方をめぐって

ア 県立の役割と利活用

図書館を取り巻く環境の変化や、市町村合併による市町立図書館の充実を背景に、県立図書館のあり方が改めて問い直されている。以前から、県立図書館はどのようなサービスを行い、どのような役割を果たすべきかが全国各地で議論されてきた。

県内においては、平成23年に県教育委員会に「県立図書館のあり方検討委員会」が設置され、県立図書館の役割として、「生涯学習社会実現のための図書館」、「県民サービスと機能の高度化」、「市町立図書館支援」が強調され、専門性を維持して市町立図書館との役割分担を明確にすべきであるという方針が示された。すなわち、市町立図書館では扱わないような専門書をそろえ、高度な情報サービスを提供することが重要であるとされた。

また、利活用面では、インターネットを活用した非来館者サービスの拡大により、利便性を高めることが重視された。具体的には、インターネットを通じて直接予約した県立図書館資料を、市町立図書館で受け取ることができる「市町立図書館等受取サービス」が実施の方向で議論された。

議論の結果、平成26年には、市町立図書館等5館の協力を得て試行が実現し、平成27年には、新システムに合わせた市町立図書館4館による先行導入が始まり、平成28年からは市町立図書館等11館による本格導入が実施される予定である。

イ 山梨県連携、ムセイオン静岡連携への期待

図書館界では以前から、他県の図書館や様々な団体との連携協力が進められている。

平成25年6月に富士山が世界文化遺産に登録されたが、その登録過程において、静岡県と山梨県との間に強い協力体制が構築された。富士山の世界文化遺産登録を契機に、山梨県立図書館と静岡県立中央図書館が協同して富士山の文化振興に貢献しようという機運が高まった結果、平成

27年6月に山梨県立図書館と静岡県立中央図書館が協同して、富士山の自然、文化を国内外に情報発信するため、両館の間で「山梨県立図書館と静岡県立中央図書館との富士山関係資料に関する連携協定」が締結された。今後は山梨県立図書館と静岡県立中央図書館との間で、富士山関係資料を相互に活用できる環境を整えていく予定である。

また、他団体との連携においては、静岡県立中央図書館では以前から、草薙・東静岡地域の6つの文化教育機関（県立大学、美術館、図書館、埋蔵文化財センター、SPAC、グランシップ）の自主協同組織である「ムセイオン静岡」による連携を進めている。平成27年には、「ふじのくに文化の丘フェスタ2015」を合同で広報し、連携事業として「ふじのくに文化の丘フェスタスタンプラリー」を実施し、期間中には多くの県民の参加があった。平成28年3月に、文化教育機関である「ふじのくに地球環境史ミュージアム」が新規開館したことから、今後「ムセイオン静岡」への加盟を働きかけ、連携の拡大を図っていく予定である。

(3) 県内市町の新図書館設置の動き

ア 市町立図書館数の推移（各年度4月1日現在）

年 度	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
市立図書館（本館）	21	20	22	24	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23
同（分館）	19	20	24	36	50	51	52	56	59	60	60	60	60	60
町立図書館	31	34	31	22	12	13	14	12	10	10	10	10	11	11
合 計	71	74	77	82	85	87	89	91	92	93	93	93	94	94

※静岡県図書館協会加盟館数は、県立1、市町立94、町立図書室1、大学・専門31、合計127館（分館を含む）

イ 新図書館設置の動き

浜松市立都田図書館は平成28年4月1日の開館に向けて準備が進められた。

(4) 静岡県図書館大会、関係団体関係事業等の開催

ア 第23回静岡県図書館大会

「伝えよう図書館の力 広げよう新たな可能性」を総合テーマに、11月9日、静岡県コンベンションアーツセンター“グランシップ”において887人の参加者を集めて大会が開催された。午前の全体会では「人とまちの未来のために～図書館でできること、図書館ができること～」をテーマにしたライブトーク、午後は6分科会で報告・研修・討議が行われた。

県単位の図書館大会としては、規模や構成においてたいへん充実した内容を備えており、県外からの参加者も増加している。本県の図書館協会においては、長年、県と市町等が連携協力して事業運営がなされており、図書館大会は市町立図書館や大学専門図書館、学校関係や関係団体を含めた、多くの委員によって企画運営されている。そうした協同作業が本県図書館界の大きな力となっている。

イ 読書関係団体の実施事業

静岡県読み聞かせネットワークは、「ふじのくに文化の丘フェスタ2015」期間中の11月8日に、小学館から北川 吉隆氏、福音館から中村 悠子氏、こぐま社から関谷 裕子氏、偕成社から千葉 美香氏を招き、静岡県立中央図書館において、講演会「すべての子どもたちに読書の喜びを～点字つき絵本ができるまで～」、3月27日には翻訳家伏見 操氏の講演会「子どもの本を訳すこと～作品と作家との出会い、そして～」を開催した。

静岡県読書推進運動協議会は、静岡県立中央図書館を会場として、2月13日に「人生を絵本とともに～大人にこそ絵本を！～」と題し、常葉大学短期大学部日本語日本文学科助教の宮本 淳子氏による講演会を開催した。

こうした各団体の活動が本県読書活動の裾野を広げ、図書館を支えている。一方で団体の運営は年々厳しいものとなっている。連携協力の強化により発展的な活動が望まれる。

2 利用状況統計

(1) 県立中央図書館利用状況

平成27年度 開館日数・入館者数・新規登録者数・貸出人数・貸出数

上段：本館 下段：グランシップ県立図書館コーナー「えほんのひろば」

年・月	開館日数	入館者数		新規登録者数	貸出人数	貸出数			
		人数	一日平均			図書(冊)	雑誌(冊)	視聴覚(点)	合計
27・4	21	11,709	558	122	1,639	6,838	733	374	7,945
	24	789	33	8	118	845	8	0	853
27・5	20	12,935	647	186	1,586	6,813	813	341	7,967
	26	2,398	92	15	119	808	15	3	826
27・6	28	18,014	643	244	2,196	9,071	968	418	10,457
	26	1,070	41	24	181	1,260	10	10	1,280
27・7	28	17,650	630	322	2,242	9,347	959	389	10,695
	26	1,189	46	25	204	1,342	18	18	1,378
27・8	30	24,737	825	290	2,513	10,823	1,023	422	12,268
	27	1,277	47	22	212	1,418	18	21	1,457
27・9	26	17,353	667	177	2,073	8,727	860	387	9,974
	25	1,042	42	23	213	1,348	22	8	1,378
27・10	28	18,939	676	243	2,316	9,953	1,064	441	11,458
	28	991	35	20	215	1,495	27	6	1,528
27・11	27	17,546	650	195	2,244	9,667	961	419	11,047
	27	1,308	48	18	240	1,757	22	9	1,788
27・12	25	13,064	523	146	2,229	9,552	1,038	375	10,965
	23	824	36	12	186	1,301	10	10	1,321
28・1	20	11,722	586	114	1,758	8,225	953	429	9,607
	22	838	38	22	183	1,409	9	6	1,424
28・2	23	15,055	655	164	2,124	9,428	1,022	516	10,966
	26	1,204	46	24	235	1,975	11	12	1,998
28・3	28	14,518	519	140	2,135	9,161	974	543	10,678
	28	1,310	47	21	218	1,500	30	14	1,544
小計	304	193,242	636	2,343	25,055	107,605	11,368	5,054	124,027
	308	14,240	46	234	2,324	16,458	200	117	16,775
合計		207,482		2,577	27,379	124,063	11,568	5,171	140,802

平成27年度末有効登録者数 71,296

26年度	314	206,038	654	2,241	25,979	112,902	11,873	5,712	130,487
小計	320	12,520	39	198	2,004	12,727	139	33	12,899
合計		218,558		2,439	27,983	125,629	12,012	5,745	143,386

平成26年度末有効登録者数 68,719

※貸出人数、貸出数には継続貸出を含む。また、Webからの継続貸出を含む。

※入館者数には「子ども図書研究室の一部開放」の入室者を含む。(参照p79)

※本館は業務システム更新に伴い、平成27年4月24日～5月10日の間、閉館した。

(2) 協力貸出

(単位:点)

年・月		27 ・ 4	5	6	7	8	9	10	11	12	28 ・ 1	2	3	合計
市立 図書館	図 書	386	367	419	501	530	445	407	396	357	382	505	499	5,194
	雑 誌	52	31	57	44	28	29	55	49	23	30	33	42	473
	視 聴 覚	7	0	0	0	0	4	4	2	0	0	0	0	17
町立 図書館	図 書	29	60	45	71	49	62	46	56	39	59	88	63	667
	雑 誌	4	6	6	5	8	3	6	5	4	6	2	12	67
	視 聴 覚	4	4	5	4	0	0	4	4	0	0	0	0	25
大学・専門 図書館	図 書	52	42	70	49	48	54	77	85	88	65	43	16	689
	雑 誌	11	21	8	19	13	37	17	24	5	5	7	2	169
	視 聴 覚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	図 書	467	469	534	621	627	561	530	537	484	506	636	578	6,550
	雑 誌	67	58	71	68	49	69	78	78	32	41	42	56	709
	視 聴 覚	11	4	5	4	0	4	8	6	0	0	0	0	42
総計		545	531	610	693	676	634	616	621	516	547	678	634	7,301

※町立図書館には公民館図書室を含む。

(3) レファレンス

(単位:件)

年・月		27 ・ 4	5	6	7	8	9	10	11	12	28 ・ 1	2	3	合計
書誌・文献・事実調査		346	423	589	450	463	548	530	503	370	360	484	459	5,525
(静岡県関係)		70	107	108	94	110	148	162	77	60	109	129	87	1,261
所蔵・所在調査		217	231	270	325	337	216	272	310	223	243	222	224	3,090
(静岡県関係)		33	41	51	82	76	50	51	63	41	20	58	50	616
合 計		563	654	859	775	800	764	802	813	593	603	706	683	8,615
(静岡県関係)		103	148	159	176	186	198	213	140	101	129	187	137	1,877

(4) 静岡県視聴覚ライブラリー貸出状況

(単位：点)

貸出先	年・月 区分	27									28			合計
		・ 4	5	6	7	8	9	10	11	12	・ 1	2	3	
社会教育 関係	16mmフィルム	6	5	6	4	6	8	18	12	13	6	6	0	90
	ビデオテープ	0	1	0	21	0	0	0	0	0	0	0	0	22
	DVD	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	6	6	6	25	6	8	18	12	13	6	6	0	112
学校教育 関係	16mmフィルム	4	0	0	0	0	0	0	4	5	0	0	0	13
	ビデオテープ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	3
	DVD	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	4	0	0	0	0	0	0	4	5	1	2	0	16
合計	16mmフィルム	10	5	6	4	6	8	18	16	18	6	6	0	103
	ビデオテープ	0	1	0	21	0	0	0	0	0	1	2	0	25
	DVD	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	10	6	6	25	6	8	18	16	18	7	8	0	128

(5) 歴史文化情報センター利用状況

年・月	27										28			合計
	・ 4	5	6	7	8	9	10	11	12	・ 1	2	3		
入室者数	36	20	30	24	27	40	36	35	44	45	47	44	428	
資料利用件数	8	15	10	22	18	29	17	27	28	14	24	37	249	
資料掲載等許可件数	3	5	12	10	5	5	6	5	2	9	13	7	82	
レファレンス件数	32	17	40	30	33	37	36	32	25	31	23	34	370	

3 図書館資料充実状況

(1) 図書資料

(単位：冊)

分類	平成26年度 末蔵書数	平成27年度中増減				平成27年度末蔵書数		
		受入数	払出数	類換数	増減数	蔵書数	比率(%)	
一般資料	0 総記	51,726	1,426	107	8	1,327	53,053	6.6
	1 哲学	29,913	558	3	0	555	30,468	3.8
	2 歴史	56,687	927	19	△3	905	57,592	7.2
	3 社会科学	138,865	2,553	33	△5	2,515	141,380	17.6
	4 自然科学	45,092	1,293	35	0	1,258	46,350	5.8
	5 技術	49,621	1,086	9	1	1,078	50,699	6.3
	6 産業	35,601	766	5	1	762	36,363	4.5
	7 芸術	36,752	1,012	11	△1	1,000	37,752	4.7
	8 言語	11,864	244	17	△3	224	12,088	1.5
	9 文学	57,307	621	19	△6	596	57,903	7.2
	小計	513,428	10,486	258	△8	10,220	523,648	65.3
児童資料	児童日本語	81,968	4,291	91	△2	4,198	86,166	10.7
	児童外国語	925	19	2	2	19	944	0.1
	小計	82,893	4,310	93	0	4,217	87,110	10.9
K	旧分類資料	40,677	0	0	0	0	40,677	5.1
S	地域資料	127,908	4,744	15	0	4,729	132,637	16.5
G	外国語資料	11,251	83	1	8	90	11,341	1.4
特別集書	葵文庫	3,586	0	0	0	0	3,586	0.4
	葵文庫複製本	225	0	0	0	0	225	0.0
	久能文庫	2,454	1	0	0	1	2,455	0.3
合計		782,422	19,624	367	0	19,257	801,679	100.0

*比率(%)の小計及び合計は、端数処理のため合わないことがある。

〈受入数の内訳〉

(単位：冊)

区分	購入	寄贈	分類換	区分換	管理換	合計
一般資料	9,425	1,021	15	0	25	10,486
児童資料	4,236	74	0	0	0	4,310
地域資料	1,330	2,639	766	9	0	4,744
外国語資料	39	44	0	0	0	83
合計	15,030	3,778	781	9	25	19,623

※H26年度から静岡県発行の刊行物は「分類換」とした。

〈除籍数の内訳〉

(単位：冊)

区分	内訳	冊数	除籍理由
児童資料	複本資料	27	複本であるため
児童資料	汚損資料	66	閲覧不能であるため
一般資料	複本資料	25	複本であるため
一般資料	不明資料	132	所在不明であるため
一般資料	国立国会図書館目録他	97	電子資料等他の媒体で情報が得られる資料もしくは、更新整備により、既存資料が不要となった資料
一般資料	汚破損資料	5	閲覧不能であるため
地域資料	不明資料	15	所在不明であるため
合計		367	

(2) 視聴覚資料・電子資料・マイクロフィルム等

(単位：点)

区分	平成26年度末 所蔵数	平成27年度受入数						平成27年度末 所蔵数
		購入	寄贈	分類換	払出	類換	合計	
視聴覚資料	3,523	105	38	0	0	0	143	3,666
内 訳	ビデオテープ	1,828	0	0	0	0	0	1,828
	DVD	1,446	79	38	0	0	117	1,563
	朗読CD	249	26	0	0	0	26	275
電子資料	618	6	21	17	0	0	44	662
内 訳	一般	152	6	3	0	0	9	161
	新聞雑誌	5	0	0	0	0	0	5
	地域資料	251	0	18	17	0	35	286
	貴重書	210	0	0	0	0	0	210
小計	4,141	111	59	17	0	0	187	4,328
マイクロフィルム	9,874	113	0	0	0	0	113	9,987
内 訳	新聞雑誌	9,870	113	0	0	0	113	9,983
	地域資料	4	0	0	0	0	0	4
合計	14,015	224	59	17	0	0	300	14,315

*例規集のCD-ROMへの変更は、CD-ROMに含めた。

*H26年度から静岡県発行の刊行物は「分類換」とした。

4 図書係

(1) 図書資料の充実

一般資料については、資料課・調査課・企画振興課の全職員を0・1類、2類、3類、4・5類、6・7類、8・9類の類別担当に割り振り、それぞれ選書を実施し、類別代表者による選書会議を週1回行い、発注、受入業務の効率化に努めた。本年度の一般資料受入冊数は、10,486冊で、購入資料の平均単価は約4,243円（前年度は約4,032円）であった。資料費の増額に伴い購入冊数は1,437冊増加となった。

児童資料については、全点購入（コミック、ゲーム攻略本及び学習参考書を除く）の継続と、「えほんのひろば」排架用の絵本を128冊購入した。児童資料の今年度の受入冊数は4,291冊で、購入資料の平均単価は、児童日本語は約1,632円、児童外国語は約2,932円であった。

外国語資料は83冊を受入した。言語別の受入冊数は、英語41冊、中国語39冊、フランス語1冊、朝鮮語1冊、その他1冊である。購入の主な内訳は、ピューリッツァー賞等の受賞図書である。中国語資料の内訳は、当館と友好提携を結んでいる浙江図書館からの交換資料である。

(2) 視聴覚資料の充実

一般視聴覚資料の受入数は143点で、内訳は下表のとおりである。購入資料の内容は、継続的に収集しているシリーズのほか、健康医療情報関連、富士山関連、防災関連等である。

(単位：点)

	平成26年度末 所蔵数	平成27年度				平成27年度末 所蔵数
		購入	寄贈	払出	合計	
ビデオテープ	1,828	0	0	0	0	1,828
D V D	1,446	79	38	0	117	1,563
朗読CD	249	26	0	0	26	275
合計	3,523	105	38	0	143	3,666

(3) 図書館利用状況

ア 入館者数

平成27年度の本館入館者数は193,242人、グランシップ県立図書館コーナー「えほんのひろば」の入館者数は14,240人であり、両者を併せた総入館者数は207,482人となった。業務システム更新に伴う本館閉館期間（平成27年4月24日～5月10日）の影響を受け、前年度と比較して、11,076人の減少となった。

イ 登録者数

平成27年度の本館新規登録者数は2,343人、「えほんのひろば」は234人であった。両者を併せた合計は2,577人で、前年度と比較して、138人の増加となった。

ウ 貸出状況

平成27年度の個人利用者への貸出点数は、p73の表のとおりである。

業務システム更新に伴う本館閉館期間（平成27年4月24日～5月10日）の影響を受け、本館での貸出状況は、前年度と比較して、人数では924人、冊数では6,460冊減少した。

また「えほんのひろば」での貸出状況は、前年度と比較して人数では320人、冊数では3,876冊増え、一人当たりの貸出冊数も増加した。

(4) 予約・リクエスト・相互貸借（含協力貸出）

ア 予約・リクエストの状況

予約・リクエスト冊数は、7,140冊（前年度5,965冊）であった。そのうちWeb予約は6,341冊（前年度5,312冊）で、大幅に増加した。

平成27年度 予約・リクエスト受付数

	予 約	借 受	購 入
図書・雑誌	6,930冊 (6,161冊)	415冊	30冊
視 聴 覚	210点 (180点)	0点	6点
合計	7,140 (6,341) 冊／点	415冊	30冊／6点

※予約の（ ）内は、Web予約の数

イ 相互貸借状況

県内市町立図書館への協力貸出は、7,301冊（前年度8,591冊）と減少した。

県外図書館への貸出は823冊（前年度713冊）と増加した。例年通り地域資料や専門書の依頼が多かった。公共機関貸出については、本年度は1件9冊であった。

県内外の図書館からの借受については、410冊（前年度307冊）と増加した。本年度は、国立国会図書館からの借受は5件5冊であった。（前年度2件3冊）

平成27年度 相互貸借件数／冊数

	貸 出	借 受
国立国会図書館	—	5件／5冊
県 外 図 書 館	503件／823冊	91件 /193冊
県内市町立図書館等	(協力貸出) 7,301冊・点 図書・雑誌 7,259冊 視聴覚資料 42点	127件／217冊
県内公共機関等	1件 /9冊	—

(5) 子ども図書研究室

当館では、平成13年度から児童書の収集を始め、平成15年度から児童書全点（コミック、ゲーム攻略本、学習参考書等を除く）収集をしている。子ども図書研究室は、子どもの読書活動推進のために、市町立図書館や児童書研究者等へのサービス支援を目的として平成16年6月18日に開室し、現在に至っている。平成24年度にリニューアルオープンし、一部複本資料の直接貸出を開始した。

なお、平成26年に続き平成27年7月19日から11月8日までの日曜日10時～16時において、子ども図書研究室の一部を15才以下の子どもにも開放した。開放は17回、延べ455人の利用があった。

ア 収集状況

児童書蔵書数 87,110冊（平成28年3月31日現在）

イ 利用状況

年度	開室日数	入室者数	火・水・木・金 (担当者入室)	土・日 (不在)	月 (不在)
平成26年度	316日	1,698人	995人	653人	50人
平成27年度	306日	2,124人	1,250人	717人	157人

ウ 利用内容

- ・学校関係者：大型絵本の貸出、学校図書館での資料購入のための選書等。
- ・図書館関係者：大型絵本の貸出、仕掛け絵本購入のための選書、新刊書の内容確認、見学等。
- ・その他：所蔵資料を利用した自主的な勉強会、資料展示のための相談、おはなし会等で使用する資料の選書、新刊書の検討等。
- ・個人の利用者に対しては継続してアンケートを行い、利用動向の把握に努めている。

エ 子ども図書研究室講演会（6月25日）

子どもの読書活動を支援するために、子どもと本を結びつける活動をしているボランティア、学校図書館関係者、公立図書館職員、教員等から広く一般県民（中学生を除く15歳以上）までを対象として、年1回、講演会を実施している。今年度は、東京学芸大学教授、一橋大学大学院連携教授の石井正己氏を講師にお迎えし、「日本の昔話の変遷—桃太郎を中心に—」というテーマでお話を伺った。

なお、本講演会は静岡県子ども読書アドバイザー養成講座の研修及び、修了生のフォローアップ研修を兼ねており、今年度の講座生と修了生が参加した。講師には昔話の変遷の説明とともに、図書館や学校での読み聞かせや、子どもに与える効果についてもお話しいただいた。

日 時	平成27年6月25日（木） 13:00～15:00
会 場	静岡県立中央図書館 講堂
講 師	石井 正己 氏（東京学芸大学教授、一橋大学大学院連携教授）
参加人数	208人

オ 新刊児童図書巡回展示研修会

『静岡県子ども読書活動推進計画（後期計画）』に基づき、県内市町立図書館及び学校図書館の選書業務を支援し、児童図書資料の充実及び選書に携わる職員の資質の向上を図る目的で、静岡県立中央図書館が全点購入している新刊児童図書のうち約1,000冊を研修会場で現物展示するとともに、選書に関する研修を行い、参加者からの選書に関する相談に応じた。

平成26年度までは県内1か所の開催であったが、平成27年度は西部地区（主に公共図書館向け）と東部地区（主に学校図書館向け）の2か所で開催した。それぞれの地域で各講義対象者の参加があり、総参加人数は昨年より増えた。

期日	平成27年11月18日（水）	平成27年11月20日（金）
会場	掛川市立中央図書館	三島市立図書館
講師	松本 なお子 氏 （ストーリーテラー・大学非常勤講師・ 元浜松市立中央図書館長）	夏目 香織 氏 （県総合教育センター指導主事 学校図書 館担当）
参加者	44人	39人

日程

時 間	11/18・掛川	11/20・三島
12:30～13:00	受付	
13:00～13:30	新刊児童図書紹介（当館職員）	
13:30～14:45	新刊児童図書の選書について —公共図書館の視点から— （松本 なお子 講師）	学校図書館機能充実のための選書の在 り方 （夏目 香織 講師）
15:00～16:00	新刊児童図書の閲覧及び資料相談等（助言者：各日講師、当館職員） ※閲覧は午後4時30分まで可	

カ 子ども図書研究室だより No. 75 (H27. 6)～No. 78 (H28. 3) 発行

配布先: 県内市町教育委員会、県内小中高等学校、県内市町立図書館、県教育機関(三ケ日青年の家等)、
図書館協議会委員、読み聞かせネットワーク役員他

キ テーマ絵本貸出

「えほんのひろば」にある絵本の利用促進を目的とし、県内市町立図書館及び県内学校図書館等に対し、テーマ別に組んだ絵本の貸出しを、平成23年7月より実施している。イベント等での展示や貸出しなど、実際に子どもが手にとって利用することを想定した、テーマ別のセット単位での貸出しである。1セットは20冊とし、各セットの絵本は重複しないようにしている。具体的なテーマは、現在22ある。(読み継がれてきた絵本、食べもの、お菓子、日本の昔話、世界の昔話、グリム、犬、猫、ねずみ、くま、虫、夜、月、友だち、兄弟姉妹、誕生日、山、遊び、おえかき、音楽、服、字のない絵本)

利用実績

依頼団体	依頼団体数	依頼件数	貸出セット数	貸出冊数
市町立図書館	1	1	3	60
県立学校図書館	0	0	0	0
学校図書館	1	1	2	40
幼稚園・保育園	0	0	0	0
その他団体	1	12	60	1,200
計	3	14	65	1,300

ク 視察・見学等

見学日	団体名	参加人数
平成27年5月22日	県・市町子どもの読書活動推進担当者連絡会・研修会施設見学	45人

ケ 運営相談・講師等依頼

団体名又は研修会	内 容
静岡県私立幼稚園振興協会第2回初任者研修会	講師
職場体験学習(中学生・高校生)	講師
静岡県読み聞かせネットワーク中部地区研修会	講師
賀茂地区図書館研修会	講師

コ 新刊サロン

子どもの読書活動関係者に情報交換、交流の場を提供するため、新刊児童図書について自由に語り合う会を平成24年度から偶数月第三水曜日の午前中に開催している。なお、12月は土曜日に開催した。

回次	1	2	3	4	合計
実施日	6/17	8/19	10/21	12/12	
参加者	6人	7人	6人	10人	29人

サ 団体利用

県内小中学校、幼稚園、保育所、ボランティアグループ等の団体からの予約を受け付け、全点収集資料を利用して行う選書会等の会場として提供している。

利用団体数	11団体
利用人数	203人

シ その他

- ・ 県・市町子どもの読書活動推進担当者連絡会・研修会
担当者として連絡会・研修会に出席したほか、施設見学と利用説明を行った。
- ・ 静岡県子ども読書アドバイザー養成講座企画認定委員会兼静岡県における子どもの読書活動推進検討委員会参加
子ども読書アドバイザー養成講座の内容、すでに認定されたアドバイザーの利活用及びフォローアップ研修について協議した。また、「本とともだち（幼年版）」の作成に携わった。
- ・ 静岡県子ども読書アドバイザー養成講座
静岡県子ども読書アドバイザー企画認定委員会の委員として参加し、グループワークの際に助言を行った。

(6) グランシップ県立図書館コーナー「えほんのひろば」

「えほんのひろば」は、静岡県コンベンションアーツセンターグランシップの2階に位置し、絵本を約5,000冊配架している。平成15年4月のオープンから12年経過した現在では、絵本のコーナーとして定着している。「展示コーナー」では、季節の行事やグランシップのイベントに合わせたテーマで展示を行うとともに、絵本架を利用して、簡易展示も実施している。著名な絵本作家が亡くなられた際には、随時、追悼展示を行なっている。

おはなしかいは、毎週火・木曜日、第3日曜日の午前10時30分からと木曜日午後3時から行っている。火曜日の午前は0～1歳に、木曜日の午後は2～3歳に、それぞれの対象年齢層を想定して行っている。不定期には、ボランティアグループによる絵本の読み聞かせと歌や楽器演奏を行う「おはなしかいスペシャル」を開催した。

ゴールデンウィーク（5月3～6日）には、グランシップで行われたイベント「グランシップこどものくに～すいすいざぶーン！～」に合わせて、「えほんのひろばを海の中にしよう！」というイベントを行った。えほんのひろばに来てくれた子どもたちに、魚や船の形に切り抜いた色上質紙に色えんぴつでサインや絵などを書いてもらい、壁面に掲示してある海を模したダンボール紙にのりで貼ってもらうことで、共同製作する楽しさを味わってもらった。

ア おはなしかい活動実績（平成27年4月～平成28年3月）

活動日	回数	参加者人数		備考
		総数	1回平均	
毎週火曜日10：30～	40	1,303人	32.6人	非常勤職員が実施
毎週木曜日10：30～	33	526人	15.9人	4つのボランティアグループが交代で実施
毎週木曜日15：00～	42	328人	7.8人	本館職員が実施
第3日曜日10：30～	10	142人	14.2人	ボランティアグループが実施
その他 (5/23, 7/25, 9/26, 12/19, 3/5)	5	113人	22.6人	<おはなしかいスペシャル> ボランティアの1グループによる絵本の読み聞かせ、歌、芝居など

イ 展示一覧

	テーマ展示	簡易展示
4月	ともだちの絵本	はるのえほん
5月	海の絵本／のりものの絵本	おかあさんのえほん
6月	のりものの絵本／科学・工作の絵本	おとうさんのえほん／あめのえほん

7月	科学・工作の絵本／花の絵本	あめのえほん／たなばたのえほん／なつのえほん
8月	花の絵本／音楽の絵本	なつのえほん
9月	音楽の絵本／おじいちゃんおばあちゃんの絵本	たぬきのえほん／あきのえほん
10月	おじいちゃんおばあちゃんの絵本／色の絵本	あきのえほん／静岡市美術館「絵本をひらくと」関連の絵本
11月	色の絵本／クリスマスの絵本	静岡市美術館「絵本をひらくと」関連の絵本／くまのえほん
12月	クリスマスの絵本／サルと十二支の絵本	クリスマスのえほん／おしょうがつのえほん
1月	サルと十二支の絵本／鬼と豆の絵本	おしょうがつのえほん／ふゆのえほん
2月	鬼と豆の絵本／日本の昔話	ふゆのえほん
3月	日本の昔話	はるのえほん

(7) 静岡県視聴覚ライブラリー

平成27年度の視聴覚資料の受入数は0点であり、内訳は下表のとおりである。

ア 資料所蔵数

(単位：点)

	平成26年度末 所蔵数	平成27年度受入数			平成27年度末 所蔵数
		購入	寄贈	合計	
16ミリフィルム	1,466	0	0	0	1,466
ビデオテープ	3,333	0	0	0	3,333
D V D	72	0	0	0	72
その他※	295	0	0	0	295
合計	5,166	0	0	0	5,166

※その他 (スライド・8ミリフィルム・カセットテープ等)

イ 貸出数

	社会教育関係	学校教育関係	合計
16ミリフィルム	90点	13点	103点
ビデオテープ	22点	3点	25点
D V D	0点	0点	0点
その他	0点	0点	0点
合計	112点	16点	128点

(8) その他

ア 書庫開放

図書館資料の有効な提供のために書庫開放日を設け、通常利用者が入ることのできない書庫（一般資料書庫、雑誌書庫）に入る機会を設けた。3回開催し、参加者数は延べ9人であった。

イ 特集展示

隣接する美術館の展覧会テーマや当館での実施行事にあわせての展示をした。平成27年度は、家康公顕彰400年記念にあわせて家康公に関連する資料を4回にわたり展示した。

展 示 期 間	テ ー マ
平成27年 3月31日～6月 8日	写真家 篠山紀信の世界
平成27年 6月10日～6月29日	徳川家特集① 三河松平氏時代
平成27年 7月 1日～8月30日	スイス・ブランドと日本
平成27年 9月 1日～9月29日	世界文化遺産 富士山
平成27年10月 1日～10月29日	徳川家特集② 家康公の生涯
平成27年10月31日～11月29日	版画と写真／西欧から東洋～東海道
平成27年12月 1日～12月27日	徳川家特集③ 幕政時代の静岡県
平成28年 1月 5日～2月28日	ハプスブルク朝と西洋美術
平成28年 3月 1日～3月29日	徳川家特集④ 幕末維新时期～そして現代

ウ 時事的な展示

展 示 期 間	テ ー マ
平成27年 3月31日～4月 6日	発達障害・自閉症
平成27年 4月 8日～4月23日	燃料電池車
平成27年 5月11日～5月28日	A I I B 日本の選択
平成27年 5月30日～6月29日	安保法制関連法案
平成27年 7月 1日～7月30日	消えた年金 そして 漏れた年金
平成27年 8月 1日～8月30日	追悼：大竹省二
平成27年 9月 1日～9月15日	追悼：鶴見俊輔
平成27年 9月16日～10月29日	すぐ避難！気象災害
平成27年10月31日～11月29日	耐震・免震偽装
平成27年12月 1日～12月27日	マイナンバー制度開始
平成28年 1月 5日～1月25日	インフラ老朽化
平成28年 2月 5日～2月28日	食品不正流用
平成28年 3月 1日～3月29日	新聞離れ加速

エ 平成27年度に取り組んだこと

- ・市町立図書館等受取サービスの開始に伴い、郵送による利用者登録申込を開始した。(9/1～)
- ・視聴覚資料の請求記号において、地域資料分類(S)の使用を始めた。

5 新聞雑誌係

(1) 逐次刊行物の充実

(単位：点)

分類	総タイトル数			左記のうち平成27年度継続受入タイトル数								
				購入			寄贈			合計		
	雑誌	新聞	合計	雑誌	新聞	合計	雑誌	新聞	合計	雑誌	新聞	合計
0 総記	2,452	23	2,475	77	13	90	564	10	574	641	23	664
1 哲学	152	0	152	14	0	14	36	0	36	50	0	50
2 歴史	573	2	575	26	0	26	152	2	154	178	2	180
3 社会科学	2,530	11	2,541	170	3	173	507	5	512	677	8	685
4 自科科学	542	0	542	66	0	66	129	0	129	195	0	195
5 技術	1,080	3	1,083	125	1	126	151	1	152	276	2	278
6 産業	1,021	3	1,024	33	3	36	112	0	112	145	3	148
7 芸術	379	1	380	56	0	56	84	0	84	140	0	140
8 語学	76	0	76	8	0	8	11	0	11	19	0	19
9 文学	814	0	814	44	0	44	160	0	160	204	0	204
計	9,619	43	9,662	619	20	639	1,906	18	1,924	2,525	38	2,563

※平成17年度から改題誌もタイトル数に含む

新聞・雑誌は、所蔵総タイトル9,662タイトルで、内2,563タイトル（購入639、寄贈1,924）を継続して収集し保存している。そのうち、新聞は43タイトル（内38タイトルを継続）である。分類別の構成比は表のとおりである。改題誌をタイトル数に加えているものもあり、所蔵総タイトル数は増加している。

寄贈雑誌は62タイトルを新規に受入れた。地域雑誌では静岡県及び県内広域行政関係機関が発行したタイトルは積極的に受入れている。

新聞マイクロフィルムは、静岡新聞静岡版と県内版替分、中日新聞東海本社版と地方版、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、日本経済新聞の各静岡版を継続受入した。

(2) 提供情報の充実

ア 特集記事、地域雑誌の目次、静岡県関係記事・論文の電算入力

平成10年5月から特集記事の電算入力をしているが、それにより利用者端末や当館Webサイトから、キーワードで特集記事やその掲載誌、巻号を検索できるようになっている。平成27年度に目立った特集記事は、「戦後70年」「安保法・安保法制」などであった。

イ 特集展示

レファレンスサービスカウンター横と総合案内カウンター前の二か所で行っている。レファレンスサービスカウンター横では、季節や社会情勢に関連したテーマを設け、それについて特集している雑誌を集めて展示している。総合案内カウンター前では、主に新規受入雑誌や県内で発行している地域雑誌等を紹介している。平成27年度の展示テーマは以下のとおりであった。「バラ」「絵本」「温泉」などの特集展示や『D - s p o r t』『げんきのカプセル』『日本の祭り』『m i

c r i (ミクリ)』などの雑誌紹介は、利用者の興味・関心度が高く、手にとって眺めたり、借りたりする姿が多く見られた。

時期	レファレンスサービスカウンター横	総合案内カウンター前
4月	県内市町村広報	新規受入雑誌『FLIGHT PATH』
5月	お茶	新規受入雑誌『むらのおと』
6月	バラ	新規受入地域雑誌『D - s p o r t 』
7月		新規受入雑誌『げんきのカプセル』
8月	熱中症・食中毒	
9月	徳川家康	新規受入雑誌『日本の祭り』
10月		
11月	温泉	新規受入地域雑誌『シアワセのレンサ』
12月		
1月	震災 (阪神大震災、東日本大震災当時)	新規受入雑誌『地域防災』
2月		
3月		

ウ 地域雑誌の利用促進

地域雑誌の利用を促進するとともに利便性を高めるために、現在は28タイトルの地域雑誌の目次の電算入力を行っている (総タイトル数46)。目次を入力した地域雑誌はそれぞれの巻号ごとの目次一覧を見ることもでき、入力されていないものに比べて書庫出納が多く、レファレンスサービスにも利用されている。最新情報が得られるので、豊富な所蔵タイトルが更に活用されるよう今後もこれらの電算入力に努めたい。

エ 静岡県内新聞雑誌総合目録

平成16年からウェブ公開が始まった、県内公立図書館の新聞・雑誌の所蔵情報を載せた「静岡県内新聞雑誌総合目録」は、県内で初めて所蔵する雑誌の書誌データは当館で入力し、県内各市町図書館 (室) が自館の所蔵情報を更新するようになっている。各図書館の担当者が共通認識のもとに情報更新ができるように、平成27年度も所蔵情報の入力方法等の操作研修を5月に当館で行った。当目録は、①「おうだんくんサーチ」に参加していない図書館の所蔵状況もわかり、②共通データベースを使用しているので検索スピードが格段に速いなどの利点がある。また、県内図書館の雑誌所蔵状況を把握できるため、レファレンスに活用するとともに、資料の購入・廃棄の際の情報源としても活用できる。各館毎で取り扱いが雑誌か図書かで異なる場合があるので、検索に注意を要するが、当目録の利便性がより理解され、更に広く活用されることを期待する。

(3) その他

平成27年6月より貸出開始が可能になった雑誌の「貸出開始日シール」の日付に取消線を引くことで、貸出可能であることを利用者に分かり易くした。

劣化の進んだマイクロフィルムの放酸処理を、昨年度に引き続き特別整理期間中に行った。

6 一般調査係

(1) レファレンスサービス

ア 平成27年度レファレンスサービスの概要

平成27年度のレファレンス総件数は8,615件で、平成26年度の9,373件から減少したが、システム更新のために4月24日から5月10日まで休館した影響もあったと考えられる。質問に15分未満で回答した「クイックレファレンス」や、回答までに1時間以上を要したレファレンスが減少している一方、回答に15分以上30分未満を要したレファレンスが大きく増加した。質問形式の割合では来館が増加し、電話、文書、FAXが減少している。来館者がより気軽に職員に質問できる環境づくりに一層努力する必要がある。

レファレンスサービスに関するアンケート調査では、88.9%の利用者がレファレンスサービスに満足しており、今後とも利用者に満足していただけるよう職員全体のレファレンススキルの向上を目指したい。

調査種別では、所蔵・所在調査が35.9%、書誌・文献・事実調査は64.1%となった。書誌・文献・事実調査の質問内容では、静岡県に関する質問が全体の約1/4近くを占め、分類別では、多い順に7類（芸術・スポーツ）、2類（歴史・人物・地理）、0類（叢書・新聞）、3類（社会科学）となり、これらで全体の77.7%を占めた。昨年度に比べ、0、2、8類の質問割合が増加傾向にあり、3類の割合が減少傾向にある。

市町立図書館からの問い合わせに関しては、毎年度、減少しているが、市町立図書館職員に対するレファレンス研修の成果が上がっているためとも考えられる。今後とも個々の利用者のみならず、市町立図書館に対する支援も含め、県内全体のレファレンスサービスの向上に努めていきたい。

平成27年度レファレンス件数

(単位：件)

①書誌・文献・事実調査件数	5,525	うち静岡県に関するもの	1,261
②所蔵・所在調査件数	3,090	うち静岡県に関するもの	616
③調査件数合計(①+②)	8,615	うち静岡県に関するもの	1,877

イ レファレンスツールの整備

利用者が知りたいことを自分で調べられるように、有用な資料やデータベースを紹介した「本の道しるべ」と題したパスファインダーの作成を行っている。これは主に当館の来館利用者に向けたもので、自由に持ち帰ることができるように閲覧室内に配置しているほか、当館Webサイトでも公開している。館内の配置については、閲覧室入ってすぐにあるケースの他、オンラインデータベース付近やビジネスコーナー、健康医療情報コーナーに置くなど、利用者が手に取りやすいように工夫している。平成27年度も既刊のパスファインダーについて内容を見直し、改訂を行った。

ウ オンラインデータベースの充実

(ア) 導入オンラインデータベース

静岡新聞記事データベースplus日経テレコン、聞蔵IIビジュアル、ヨミダス歴史館、近代新聞検索、第一法規法情報総合データベース、官報情報サービス、CiNi、医中誌、ルーラル電子図書館、地方公共団体総覧の10種類のデータベースを導入している。オンラインデータベース利用促進のため、関連資料の書架等にオンラインデータベースの紹介を掲示したり、オンラインデータベース活用講座等を開催している。

(イ) オンラインデータベース利用実績

年/月	27/4	5	6	7	8	9	10	11	12	28/1	2	3	計
ログイン数	152	405	289	304	218	193	232	324	308	565	348	395	3733

※ログイン数は、静岡新聞記事データベースplus日経テレコン（検索件数77,002回）、ヨミダス歴史館（検索回数1,602回）、ルーラル電子図書館（閲覧件数16件）、近代新聞検索、官報情報サービス、地方公共団体総覧を除いたもの。

(ウ) オンラインデータベース活用講座の実施

「ビジネス」「法律・判例」「健康・医療」に関する3講座を実施した。「ビジネス」講座では日本経済新聞社デジタルメディア局から講師を招いて行った。

実施日	講座名	受講者数
9月5日(土)	静岡新聞データベース plus 日経テレコンをビジネスに!	9人
12月20日(日)	生活に役立つ 法律・判例情報の探し方	11人
2月27日(土)	生活に役立つ 健康・医療情報の探し方	10人

(2) 市町立図書館などへの支援

市町立図書館などにおけるレファレンス業務の充実を図るため、レファレンス業務に関する情報提供、研修として次の事業を実施した。

ア レファレンス研修の実施

静岡県教育委員会と静岡県図書館協会が主催する図書館職員研修のうち、基礎研修(レファレンス研修)及び、専門研修(レファレンス応用研修)を一般調査係が担当した。

基礎研修は、主に図書館勤務3年目までの職員を対象にした研修で、「初級レファレンス 基礎と演習」と題し、「レファレンス概論」、「参考図書を紹介」、「インターネットで資料を調べる」の講義とレファレンス演習を行った。会場は、東部は三島市立図書館、中部は当館、西部は静岡県総合教育センターで、平成27年度も参加申込の多かった中部を2グループに分け2回行ったため、計4回の実施となった。また、平成27年度も中部会場では県内学校職員も参加対象とし、教員・事務職員合わせて9人の参加があった。

専門研修のレファレンス応用研修は、主にレファレンス業務の経験者を対象にした研修である。平成27年度は午前中に「レファレンスインタビューの理論と演習」の講義を、午後にレファレンス演習「レファレンスの回答・記録・共有」を行った。平成27年度も参加申込が多かったため2グループに分け2回行った。

基礎研修「初級レファレンス」実施状況

実施日	地区	受講者人数	実施日	地区	受講者人数
5月20日(水)	中部	35人	6月4日(木)	東部	24人
5月28日(木)	中部	14人	6月11日(木)	西部	22人

応用研修 実施状況

実施日	会場	受講者人数
10月22日(木)	静岡県立中央図書館	32人
10月28日(水)	静岡県立中央図書館	21人

イ 出前研修の実施

図書館職員向け研修への講師派遣の要望に応えるため、平成26年度に引き続き、県内各地区図書館等による「レファレンス業務に係る研修」に一般調査係員を講師として派遣し、基礎的な内容の講義ならびに演習を行う「出前講座」を企画し、派遣先を募集した。テーマとして「レファレンス概論」「参考図書で調べる」「資料をインターネットで探す」「図書館サービスと著作権」の4つのテーマから選択可能とした。27年度は5会場で研修を行い、総受講者数は129人（延べ数）となった。

出前研修の実施状況

実施日	会場	延べ受講者数	実施日	会場	延べ受講者数
11月27日（金）	焼津市立図書館	15人	1月28日（木）	浜松市立図書館	35人
1月12日（火）	袋井市立図書館	21人	2月26日（金）	三島市立図書館	23人
1月22日（金）	富士市立図書館	35人			

(3) 特別取扱資料等の保存と公開

ア 特別取扱資料について

当館では「葵文庫」や「久能文庫」をはじめ、地域関係の古文書などの貴重な資料を多数所蔵している。これらの特別取扱資料は、収蔵庫と貴重書庫で保管し、温度20℃、湿度50%に設定した空調設備により管理している。また、害虫対策として、平成27年度も8月にブンガノンとライセントを使用して、収蔵庫と貴重書庫の薫蒸を実施した。

虫食いや劣化等破損の見られる資料については、平成23年度から計画的に修復を進めている。平成27年度は平成29年度以降の貴重書修理計画を策定するとともに、修理計画の前倒しにより『駿河志料』（S220/7）5冊・『趙松雪文集』（AC13）・『English and Dutch dictionary, Nederduitsch en Engelsch woorden boek』（AN91）・『煩鍔全書圖』（AN282）の計8冊について、専門業者に依頼し修復及び中性紙箱作成を行った。

イ 貴重書の閲覧・利用状況について

平成27年度は、延べ71人が計441点を閲覧した。状態の悪い資料については引き続き利用の制限をしつつ、貴重資料のデジタル化、マイクロ化を推進し、それらの複製物を活用することによって資料の保存と公開の両立を図っていく。

ウ 貴重書のマイクロフィルム化について

平成24年度より、国文学研究資料館が当館の貴重書を撮影し作成・所蔵しているマイクロフィルムを借用して、複製フィルムを作成している。平成24年度に久能文庫分の複製を行い、平成25年度は休止したが平成26年度からは久能文庫以外の貴重書の複製を行っている。平成27年度は29本を借用し、複製フィルム（ポジ）を作成した。資料の保存と公開の両立のため、そして将来のデジタル化、デジタルライブラリーでの画像公開を視野に入れ、今後も順次、貴重書のマイクロフィルム化を進めていく予定である。

エ 掲載・放映許可、特別取扱資料館外貸出等について

平成27年度は、当館所蔵資料の掲載（翻刻掲載を含む）または放映の申請が116件あり、前年度の115件とほぼ同件数であった。その内訳は掲載82件（前年度75件）、放映34件（同40件）であった。また、複製許可に際して、デジタルライブラリーを通じた画像データ提供は86件（前年度は89件）であった。特に徳川家康関係資料（浮世絵「元龜三年十二月味方ヶ原戦争之図」や『駿府城御本丸御天主台跡之図』等）の申請が多数あり、徳川家康没後四百年のイベント等で当館の資料が活用されたと思われる。

なお、展示等による館外貸出については10件（190点）を許可した。うち、特別取扱資料（貴重書など）は次の6件（108点）であった。

施設	催事名等	資料名
国立歴史民俗博物館	企画展示「ドイツと日本を結ぶもの —一日独修好150年の歴史—」	『官版独逸単語篇』(AG019) 他5点
静岡市役所 市民ギャラリー	第2回さきがけ企画展 「武SHOW 徳川慶喜」	『駿河資料〔18〕』(S220/7) 他1点
静岡県立美術館 ・ 山梨県立博物館	世界遺産登録記念特別展 「富士山—信仰と芸術—」	『浅間大宮司富士家文書』 (S091.4/6) 5点
藤枝市郷土博物館・文学館	藤枝市郷土博物館特別展 「徳川家康公と駿河～大御所家康が 愛した田中城とゆかりの人びと」	『駿州府中御城』(S520/172)
清水港湾博物館 (フェルケール博物館)	企画展 「蘭字と印刷—お茶ラベルの変遷—」	『上村翁旧蔵浮世絵集(21)』 (K915-108-21-61) 「静岡市蓬萊楼女中張見世之図」
	企画展「徳川将軍家の図書館」	『論語』(AC2) 他92点

オ 貴重書展示

平成23年1月に閲覧室内に開設した貴重書常設展示コーナー「『しずおか』の貴重書」を、平成27年度も継続して実施した。総合カウンター前の縦型ケースとブラウジング入口付近の横型ケースの2つを使用して、毎回3～10数点の資料を展示した。所蔵する貴重資料を毎月入れ替え、多くの利用者に親しみをもってもらえるよう、わかりやすい内容紹介パネルの作成を心掛けた。また、内容解説と関連図書の紹介を掲載したパンフレット『温故知新』を作成・配布し、併せて関連図書を展示・配架した。このコーナーは地域調査係と協力し、調査課全体の企画として実施した。展示期間及び展示品は以下の通り。この常設展示は平成28年度も継続していく。

実施日	企画名	展示品
平成27年 3月1日～4月23日	19世紀の先端技術	『煩鉄全書圖』他
5月11日～8月3日	千代田の大奥	『千代田大奥歌合』他
8月4日～8月30日	妖怪	『白須賀十右衛門と猫石の怪』他
9月1日～9月29日	家康の駿河版	『群書治要』他
10月1日～10月29日	大久保長安	『静岡古地図』他
11月4日～11月29日	小林清親	『御入国御人数町宿帳』他
12月1日～平成28年 1月25日	静岡県立葵文庫	『春秋公羊伝』他
2月6日～3月9日	富士山	『富嶽百景』他
3月10日～5月15日	大井川	『大井川川越の図』他

カ 貴重書講座・見学

(ア) 貴重書講座

平成27年10月31日（土）、葵文庫の会会員である田中文雄氏（元静岡県立中央図書館職員）に講師を依頼し、貴重書講座を実施した。「静岡県立葵文庫の大正と昭和」と題し、静岡県立葵文庫の誕生から、文化の中心としての様々な活動や貴重な資料が戦禍を逃れたいきさつ等の話があり、現在の静岡県立中央図書館に至るまで流れがよく分かる講演だった。詳しい内容についてはp7～10を参照されたい。参加者は61人、アンケート結果では「大変満足・満足」という回答がほとんどであった。これらから、文化的な講座を求める県民へのアピールが進んだと考えられ、図書館資料と利用者をつなぐという意味でも有意義な講座となった。

(イ) 貴重書紹介講座（図書館見学）

随時実施される図書館見学のうち、特に大学生の授業の一環として簡単な貴重書紹介講座を行っている。葵文庫・久能文庫等の解説、『論語』（葵文庫）などの展示を行い、間近で見ることによって、将来を担う学生・生徒に見聞を広めてもらうことを目的としている。平成27年度の実施状況は以下の通り。

実施日	会場	受講者数
5月26日（火）	会議室	静岡県立大学（学生23人 引率1人）
		静岡大学（生徒35人 引率1人）

(4) その他の関連事業

ア 音訳奉仕員養成講習会

静岡県点字図書館が主催する音訳奉仕員養成講座のプログラムの1つとして「調査・レファレンス講習会」を一般調査係で担当している。音訳や点訳に不可欠な「読み」の調査方法を、人名・地名、書名・作品名などの読みを調べる基本参考図書を紹介しながら、例題や演習問題を交えて解説した。受講者は県内各地で音訳・点訳ボランティアとして活躍する方々で、大変熱心に取り組んでいただいた。実施日、受講者数は次のとおりである。

実施日	会場	受講者数
9月29日（火）	静岡県立中央図書館	10人

イ 静岡県子ども読書アドバイザー養成講座

社会教育課が主催する静岡県子ども読書アドバイザーの養成講座において、著作権基礎、図書館における複製、学校における複製について講義を行った。実施状況は次のとおりである。

実施日	会場	受講者数
9月3日（木）	三島市民生涯学習センター	41人

ウ 関係機関との連携など

「葵文庫の会」会員との連絡会を平成27年10月31日（土）、平成28年2月20日（土）に実施した。図書館からは、デジタルライブラリーの現状、貴重書の常設展示、貴重書の利用状況等について報告した。その後、貴重書講座で扱う資料の範囲に関する協議、貴重資料についての意見交換、役員改選、来年度の貴重書講座の予定及び講師依頼等について協議を行った。

7 地域調査係

(1) 地域資料の充実

当館では、静岡県に關係する全分野の資料及び静岡県出身者・在住者の著作物を積極的に収集している。平成27年度の地域資料の受入・蔵書冊数は以下のとおりである。地域資料の収集にあたっては、新刊書、古書のほか、通常の流通ルートでは入手しにくい個人・団体の出版物や県・市町の行政刊行物等についても、発行者に入手方法の問い合わせや寄贈依頼を行うなどして、収集に漏れないよう努めている。受入冊数は、1資料につき2冊を原則とし、1冊を貸出閲覧用、1冊を永久保存用としている。

(単位：冊)

分類	平成26年度末蔵書数	平成27年度受入冊数（増減数）						平成27年度末蔵書数		
		購入	寄贈	分類換	区分換・管理換	類換	除籍数	計	蔵書数	比率(%)
0 総記	10,290	236	321	28				585	10,875	8.2
1 哲学	1,461	39	22	1				62	1,523	1.1
2 歴史	25,309	263	431	18			4	708	26,017	19.6
3 社会科学	43,107	182	739	396			8	1,309	44,416	33.5
4 自然科学	5,896	22	320	80			1	421	6,317	4.8
5 技術	9,159	53	255	88				396	9,555	7.2
6 産業	13,757	46	178	129		△4		349	14,106	10.6
7 芸術	6,742	103	200	18	9			330	7,072	5.3
8 言語	413	3	27			4		34	447	0.3
9 文学	11,774	383	146	8			2	535	12,309	9.3
計	127,908	1,330	2,639	766	9		15	4,729	132,637	100

(2) 提供情報の充実

ア 目次情報の入力

地域資料の書誌データ作成に際し、目次情報が検索キーワードとして有効と考えられるものについては、目次情報の入力も行っている。当館のレファレンス件数の約1/4が静岡県に関する質問であり、この目次データはレファレンス時の有用なツールとして活用されている。また、旧目録システム下で入力した目次データについては、当時の目録システムの入力文字数制限により不完全な状態となっているものがあるため、遡及データの整備も継続的に行っている。

イ 二次資料の作成

当館所蔵『静岡県の絵葉書』の検索を容易にするために、昨年度に引き続き『第二期静岡県の絵葉書目録』の改訂版を作成した。また、当館の検索システムではヒットしない当館所蔵の古文書、貴重資料をWebサイトから探し出せるように『静岡県立中央図書館所蔵古文書目録』、『静岡県立中央図書館久能文庫目録（増補改訂版）』などの目録をWebサイトに公開した。

(3) 資料展示

ア 貴重書常設展示

貴重書常設展示および展示内容については、一般調査係の項（p90）を参照されたい。

イ 地域資料の展示

新たに受け入れた地域資料は、新着地域資料コーナーに展示し、来館者への周知を図っている。また、「地域資料のちいさな紹介コーナー」では、概ね1か月ごとにテーマを設定し、時事に合わせたテーマや、これまであまり使われなかった資料などの紹介をして利用促進を図っている。平成27年度の展示内容は以下のとおりである。

期 間	内 容	期 間	内 容
2月28日～4月29日	静岡県市町の要覧	10月1日～29日	芸術の秋
5月1日～6月29日	静岡県の絵葉書	10月31日～11月29日	自費出版大賞受賞作品
7月1日～30日	韮山反射炉	12月1日～27日	御参りに行こう
8月1日～30日	夏だ！出かけよう	1月5日～25日	挑戦してみよう
9月1日～29日	徳川家康公顕彰400年	2月5日～28日	静岡県の伝統芸能
		3月1日～31日	誰にも借りられていない本

(4) 市町立図書館への支援

ア 地域資料MARCの提供

県内各市町立図書館における地域資料の書誌作成業務の軽減化と県内地域資料の書誌データの標準化を図るため、当館で作成した地域資料の書誌データを地域資料MARCとして提供している。地域資料MARCは作成後、ただちに図書館Webサイトに公開されるようになっており、各図書館をはじめ個人でもダウンロードすることが可能である。書誌データとともに目次データもダウンロードできるため市町のレファレンス補助、地域資料の選書などにも活用することができる。

平成27年度は、市町立図書館からのアンケートをもとに書誌の作成規則を一部改訂した。

イ 運営相談等

県内各市町立図書館等からの地域資料の収集・整理方法に関する相談に対応している。

また、地域資料の保存図書館として、各館等の事情で不要となった地域資料のうち、当館未所蔵資料の受け入れを行っている。

(5) 地域資料のデジタル化

地域資料のデジタル化は、当館の重点施策として積極的に推進している。平成27年度は、行政資料の電子化に対応するため、県発行の行政資料PDFファイルを収集し、公開を開始した。他にも第二期静岡県の絵葉書や静岡市史編さん資料等の大規模なデジタル化を行った。資料の内訳は以下のとおりである。

	点数	内 訳
自館作成分	3,030点	一般の地域資料（25点）…静岡県郷土史写真集、山梨稲川集他
		当館刊行物（16点）…葵、文化の丘、古文書目録他
		第二期静岡県の絵葉書（2,989点）
業務委託分	394点	貴重書類（219点）…町村誌（田方郡、富士郡、庵原郡、浜名郡）、静岡士族名簿、絵図・古地図他
		マイクロフィルムスキャン（175点）…萬留帳、駿府町方文書絵図類他
行政資料	276点	静岡県発行の行政資料PDFファイルを静岡県公式サイトから収集
計	3,700点	

*第二期静岡県の絵葉書と業務委託分については平成28年度に公開予定

8 企画係

(1) 図書館職員研修

ア 基礎研修

(ア) 基礎研修（基礎理論・実務）

期日・会場	平成27年5月1日（金）・静岡県立中央図書館 会議室
参加人数	99人
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・「図書館職員の基礎知識」 静岡県立中央図書館 企画振興課長 渡邊 二三彦 ・「図書館サービスと著作権」 静岡県立中央図書館 調査課長 所 康俊 ・「～気持ちよく図書館をご利用いただく～接遇とコミュニケーション」 コミュニケーションハウス 代表 坂倉 裕子 氏

(イ) レファレンス基礎研修

期 日	平成27年5月20日（水）	平成27年5月28日（木）	平成27年6月4日（木）	平成27年6月11日（木）
会 場	静岡県立中央図書館 会議室		三島市立図書館 （生涯学習センター） 研修室・パソコン教室	静岡県総合教育センター （あすなろ） 情報研修室1
参加人数	35人	14人	24人	22人
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・「レファレンス概論」 ・「参考図書の紹介」 ・「インターネットで資料を調べる」 静岡県立中央図書館 調査課 一般調査係職員			

イ 専門研修

(ア) 児童・青少年サービス研修

期日・会場	平成27年7月10日（金）・静岡県立中央図書館 会議室 中集会室
参加人数	60人
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・「ストーリーテリングの魅力」 ちいさなおなべの会 河田 紀子 氏 ちいさなおなべの会の皆さん ・「荒川区立図書館のティーンズサービスについて」 荒川区立図書館職員 木藤 由香 氏

(イ) 情報サービス研修

期日・会場	平成27年9月16日（水）・静岡県立中央図書館 中集会室
参加人数	25人
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・「図書館推奨力 -シティプロモーションの知見から-」 公共コミュニケーション学会会長理事 東海大学文学部広報メディア学科 教授 河井 孝仁 氏

(ウ) 図書館運営研修

期日・会場	平成27年9月25日（金）・静岡県立中央図書館 中集会室
参加人数	29人
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・「町田市立図書館における図書館の自由委員会の活動」 町田市立図書館 石井 一郎 氏 新藤 直美 氏 ・「障害者差別解消法と図書館」静岡県立大学 国際関係学部教授 石川 准 氏

(エ) レファレンス応用研修

期 日	平成27年10月22日 (木)	平成27年10月28日 (水) (予備日)
会 場	静岡県立中央図書館 会議室	
参加人数	32人	21人
内 容	・「レファレンスインタビューの理論と演習」 ・「レファレンスの回答・記録・共有」 静岡県立中央図書館 調査課一般調査係職員	

(オ) 総合研修

期日・会場	平成27年11月26日 (木)・沼津市立図書館 講座室	
参加人数	29人	
内 容	・「図書館での防災をイメージしてみよう」 静岡県地震防災センター 中村 晋也 氏 ・「図書館の危機管理」 草津町立温泉図書館 中沢 孝之 氏	

(カ) 大学・専門図書館研修

期日・会場	平成28年2月17日 (水)・静岡大学附属図書館浜松分館	
参加人数	26人	
内 容	・会場図書館事例報告「S-Portが目指すこと」 静岡大学附属図書館浜松分館長 高松 良幸 氏 ・「大学図書館の新たな役割：学習支援，研究支援のあり方をめぐって」 千葉大学 副学長兼附属図書館館長 竹内比呂也 氏	

ウ 特別研修

(ア) 視察研修

期 日	平成28年2月25日 (木)	
視 察 館	島田市立川根図書館、ふじのくに地球環境史ミュージアム	
参加人数	26人	

エ その他

(ア) 静岡県図書館ネットワーク研修

ネットワーク初心者研修

期日・会場	平成27年5月8日 (金)・静岡県立中央図書館 会議室		
参加人数	41人		
内 容	・「全体概要、おうだんくんポータル、おうだんくんコミュについて」 静岡県立中央図書館 企画振興課 企画係職員 ・「相互貸借と協力貸出について・宅配の発送について」 静岡県立中央図書館 企画振興課 振興係職員 ・「おうだんくんサーチについて」 静岡県立中央図書館 企画振興課 企画係職員 ・「おうだんくんILLについて」 静岡県立中央図書館 資料課 図書係職員		

おうだんくん研修

期日・会場	平成27年5月14日（木）・静岡県立中央図書館 会議室		
参加人数	31人		
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・「全体概要、おうだんくんポータル、おうだんくんコミュについて」 静岡県立中央図書館 企画振興課 企画係職員 ・「おうだんくんサーチについて」 静岡県立中央図書館 企画振興課 企画係職員 ・「静岡県の図書館について」 静岡県立中央図書館 企画振興課 振興係職員 ・「静岡県地域資料書誌提供システムについて」 静岡県立中央図書館 調査課 地域調査係職員 ・「静岡県新聞雑誌総合目録について」 静岡県立中央図書館 資料課 新聞雑誌係職員 ・「おうだんくんILLについて」 静岡県立中央図書館 資料課 図書係職員 		

(イ) 臨時研修

「静岡新聞データベース＋日経テレコン」活用セミナー

期日・会場	平成27年10月7日（水）・静岡県立中央図書館 会議室		
参加人数	37人		
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・レファレンスで使える新聞講座（静岡新聞） 静岡新聞社読者プロモーション局企画管理部 土屋 英也 氏 ・レファレンスで使える新聞講座（日本経済新聞） 日本経済新聞社 デジタルメディア局テレコン事業本部営業部 佐藤 亮 氏 ・データベースの基本講座 静岡新聞社総合メディア局メディア事業部 幸田 広志 氏 ・データベースの活用講座 日経テレコンスクール講師 三輪さと子 氏 		

(2) 利用者からの意見

ア 提案ボックス

「提案ボックス」を設置することによって、利用者からの意見・要望をいち早く収集し、利用者が必要とする情報の提供や、利用者の声を図書館運営に反映するよう努めた。

「提案ボックス」件数統計

(単位：件)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
提案件数	6	7	4	5	6	1	2	2	2	4	3	2	44
回答件数 (改善件数)	6 (1)	7	4 (1)	5	5	1	1 (1)	2	2	3	3	2	41

平成27年度は、平成26年度に比べて提案件数が6件増加した（26年度38件）。提案の内容は、施設設備や情報システム、職員の対応等に関するものが多かった。施設に関する要望等、実現困難なものもあるが、幾つかの提案は図書館サービスの改善に繋げることができた。

イ 利用者実態調査

(ア) 調査の概要

調査対象	有効回答数
来館者 (閲覧室・学習コーナー利用者、イベント参加者等を含む)	285
※ 上記のうち、当館Webサイトからの回答：8	
協力貸出・市町立図書館等受取サービス利用者	106
[計]	391

※1 平成19年度からは、当館が提供するサービスについての認知度及び満足度調査を行っている。

※2 平成22年度から、従来の利用者アンケートを継続しつつ、事業仕分け等で県立図書館が厳しい評価を得たことを受け、今後の図書館運営の参考となる基礎データを新たに追加し調査した。

(イ) 調査期間

来館者用：平成27年11月1日（日）～11月7日（土）7日間 ※Webサイト上での実施も同期間

協力貸出・市町立図書館等受取サービス利用者用

：平成27年11月11日（水）・18日（水）・25日（水）発送分

(ウ) 分析結果

【付属資料】

「平成27年度『静岡県立中央図書館利用者アンケート』（来館者用・Web用）集計結果」（p106）

「平成27年度『静岡県立中央図書館利用者アンケート』（協力貸出・市町立図書館等受取サービス利用者用）集計結果」（p111）

(3) イベント等

ア 図書館講座、講演会

※平成24年度から図書館講座を「葵レク」と総称し実施した。（表中＊印）

(ア) 「貴重書講座」

日時	講師	内容	募集	応募	参加
10月31日（土） 13:30～15:00	田中 文雄 氏 （葵文庫の会）	* 静岡県立葵文庫の大正と昭和	70人	66人	61人

(イ) 「子ども図書研究室講演会・講座」

日時	講師	内容	募集	応募	参加
6月25日（木） 13:00～15:00	石井 正己 氏 （東京学芸大学 教授、一橋大学 大学院連携教 授）	日本の昔話の変遷 — 桃太郎を中心に —	200人	217人	208人

(ウ) 「オンラインデータベース講座」

日時	講師	内容	募集	応募	参加
9月5日（土） 14:00～15:30	松吉 裕太 氏 （日本経済新聞 社 デジタルメ ディア局テレコ ン事業部）	静岡新聞データベースplus日経テレ コンをビジネスに！	20人	13人	9人
12月20日（日） 14:00～15:30	当館職員	生活に役立つ法律・判例情報の探し方	20人	12人	11人
2月27日（土） 14:00～15:30	当館職員	生活に役立つ健康・医療情報の探し方	20人	11人	10人

(エ)「健康医療情報講演会」

日時	講師	内容	募集	応募	参加
9月11日(金) 14:00～15:30	一般財団法人家電製品協会消費者部職員 静岡県中部県民生活センター職員	*家電製品を安全に使うために	40人	12人	15人
2月20日(土) 14:00～16:00	亀井 雄一 氏 (国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター睡眠障害センター長)	*女性の睡眠障害について	40人	84人	72人

(オ)「その他」

日時	講師	内容	募集	応募	参加
4月19日(日) 13:30～16:00	小濱 朋子 氏 (静岡文化芸術大学准教授)	『手作り絵本教室』	20人	14人	9人
5月17日(日) 10:00～11:30 14:00～15:30	對比地 信夫 氏 (日本茶インストラクター、日本茶アドバイザー専任講師)	*大人のための呈茶講座	15人	25人	19人
		*親子お茶教室	8組	7組	6組
6月11日(木) 13:30～16:00	当館職員	*書庫開放①	15人	1人	1人
8月29日(土) 13:30～16:00		*書庫開放②	15人	5人	3人
11月3日(火・祝) 9:30～12:00		*書庫開放③	15人	5人	5人
6月17日(水) 10:30～12:00	当館職員	*新刊サロン①	10人	3人	6人
8月19日(水) 10:30～12:00		*新刊サロン②	10人	2人	7人
10月21日(水) 10:30～12:00		*新刊サロン③	10人	1人	6人
12月12日(土) 10:30～12:00		*新刊サロン④	10人	6人	10人
8月30日(日) 14:00～15:30	加藤 理文 氏 (公益財団法人日本城郭協会学術委員会副委員長)	* 戦国時代の城址講座 「徳川幕府の城 ー天下政権の築城ー」	100人	143人	135人
9月12日(土) 14:00～15:30	小林 一哉 氏 (久能山東照宮博物館副館長)	「エンペラー家康の駿府外交」	200人	144人	112人
10月18日(日) 14:00～15:30	小和田 哲男 氏 (静岡大学名誉教授)	本を読んで天下を取った家康 ー家康の読書遍歴を追うー	600人	500人	370人

10月25日(日) 14:00～16:00	菊地 倫太郎 (当館職員)	*『音楽講座』「簡単！はじめての作曲講座 初級編」	30人	33人	31人
12月6日(日) 14:00～16:00		*『音楽講座』「簡単！はじめての作曲講座 実践編」	30人	27人	16人
11月3日(火・祝) 14:00～15:30	池谷 裕二氏 (東京大学薬学部教授)	「脳を知って、脳を活かす」	200人	200人	178人
12月13日(日) 10:00～11:30	鈴木 雄介氏 (伊豆半島ジオパーク研究員)	*伊豆半島ジオパーク講座	30人	53人	41人
12月13日(日) 14:00～15:30	橋本 敬之氏 (伊豆学研究会)	*伊豆歴史講座 — 韮山反射炉と江川家 —	30人	45人	32人
1月17日(日) 14:00～15:30	中村 勝芳氏 (県立天竜高等学校春野校舎教諭)	*歴史絵本講座 古代編 ～『富士山のかぐや姫』伝説と、高校生と作る絵本制作舞台裏～	30人	23人	20人

イ 展示

期間	展示会名称	連携機関等	開催場所
5月11日 ～6月29日	大竹省二写真展 ～昭和の巨星 (GOD&STAR) ～		インフォメーションホール
5月30日 ～7月27日	世界遺産展	県富士山世界遺産課	展示室
8月1日 ～8月30日	大竹省二追悼写真展		閲覧室
8月1日 ～9月7日	龍勢花火展	草薙神社龍勢保存会	展示室
8月6日 ～9月10日	統計グラフコンクール作品展	県統計利用課	インフォメーションホール
10月1日 ～10月28日	ふじのくに環境史ミュージアム連携展「静岡県の哺乳類」	ふじのくに地球環境史ミュージアム	展示室
10月17日 ～11月26日	静岡の公文書展「史料でたどる静岡県の歴史」	県法務文書課	インフォメーションホール
10月17日 ～11月26日	ひつじの昔話	県読み聞かせネットワーク	インフォメーションホール
11月24日 ～12月27日	昭和ノスタルジー ～栓抜きコレクション展～		展示室
12月1日 ～12月24日	伊豆半島ジオパーク展	伊豆半島ジオパーク推進協議会	インフォメーションホール
1月5日 ～1月9日	お楽しみ福ぶつくる		閲覧室
1月9日 ～1月25日	県立学校連携展	県立科学技術高等学校 県高等学校長協会静岡地区校長会	展示室 インフォメーションホール
2月5日 ～2月28日	富士山写真展 静岡&山梨	山梨県富士河口湖町	インフォメーションホール
2月19日 ～3月24日	静岡発！「昭和の幼児指導絵本『あそび』展」	静岡大学チームこんぺいとう 千代田保育園	展示室
3月1日 ～3月14日	さくら写真コンクール作品展	県さくらの会	インフォメーションホール
3月24日 ～4月21日	JICAボランティア写真展	独立行政法人国際協力機構中部国際センター	インフォメーションホール

ウ 図書館特別企画

(ア) 夏休み子ども図書ウィーク (※子ども1人に対して1組)

日時	講師等	内容	募集	応募	参加	開催場所
8月6日(木) 14:00~15:00	当館職員	初めての英検Jr. 講座	20人	7人	6人	中集会室
8月6日(木) 10:00~11:00 15:30~16:30	当館職員	子ども図書館ツアー	20人	15人	15人	中集会室
			20人	6人	8人	
8月7日(金) 14:00~15:30	当館職員	親子マジック講座	15組	16組	12組 21人	中集会室
8月7日(金) 15:30~16:30	草薙龍勢保存会	企画展「龍勢花火展」フロア レクチャー	—	—	9組 14人	展示室
8月8日、9日 10:00~15:30	NPOホールしずおか ベストコミュニティ	ふれあいカフェ「とも」	—	—	—	インフォメー ションホール
8月9日(日) 10:00~12:00	読み聞かせネッ トワーク	谷田山親子自然観察講座	10組	9組	10組 18人	会議室
8月11日(火) 14:00~15:30	県統計利用課職 員	ふじっぴーの親子グラフ教室	15組	9組	6組 9人	中集会室

(イ) ふじのくに文化の丘フェスタ2015

日時	講師・出展	内容	募集	応募	参加	開催場所
10月1日(木) ~10月28日(水)	ふじのくに地球 環境史ミュージ アム	静岡県の哺乳類	—	—	展示	展示室
10月17日(土) ~11月26日(木)	歴史文化情報セ ンター 県法務文書課	史料でたどる静岡県の歴史	—	—	展示	インフォメー ションホール
10月17日(土) ~11月26日(木)	※県読み聞か せネットワーク共 催事業	ひつじの昔話	—	—	展示	インフォメー ションホール
10月25日(日) 14:00~16:00	菊地 倫太郎 (当館職員)	簡単! はじめての作曲講座 初級編	30人	33人	31人	会議室
10月31日(土) 13:30~15:00	田中 文雄氏 (葵文庫の会)	* 静岡県立葵文庫の大正と 昭和	70人	66人	61人	会議室
11月3日(火・ 祝) 9:30~12:00	当館職員	* 書庫開放③	15人	5人	5人	小集会室 書庫
11月3日(火・ 祝) 14:00~15:30	池谷 裕二氏 (東京大学薬 学部教授)	「脳を知って、脳を活かす」	200人	200人	178人	講堂
11月8日(日) 14:00~16:00	北川 吉隆氏 (小学館) 中村 悠子氏 (福音館書店) 関谷 裕子氏 (こぐま社) 千葉 美香氏 (偕成社)	講演会「すべての子どもた ちに読書の喜びを~点字つ き絵本ができるまで~」 ※県読み聞かせネットワ ーク共催事業	70人	104人	120人	会議室

11月7日(土) ～11月8日(日) 10:00～15:30	NPO法人オールし ずおかベストコミュ ニティ	ふれあいカフェ「とも」	—	—	販売	インフォメー ションホール
10月24日(土) ～11月8日(日)	ムセイオン	文化の丘スタンプラリー (参加賞及び後日抽選)	—	—	242通	インフォメー ションホール

エ その他 オリジナルブックカバー

(ア) 夏休み子ども図書ウィーク開催記念

夏休み子ども図書ウィーク（8月6日～11日）の開催を記念し、当館所蔵の浮世絵をモチーフにしたブックカバーを作製・配布。

- ・配布期間 平成27年8月6日（木）～ 8月11日（火）
- ・印刷枚数 500枚
- ・図 柄



【応需芳年画『於御浜御殿徳川大樹御船手西瓜合戦上覧之図』】

(イ) 静岡県立中央図書館創立90周年・徳川家康公顕彰400年記念

文化の丘フェスタ（10月24日～11月8日）の開催を記念し、当館所蔵の浮世絵をモチーフにしたブックカバーを作製・配布。

- ・配布期間 平成27年10月18日（日）
平成27年10月24日（土）～ 11月8日（日）
- ・印刷枚数 1,000枚
- ・図 柄



【孟齋画『元龜三年十二月三方ヶ原戦争之図』】

(ウ) 富士山写真展開催記念

富士山写真展（平成28年2月5日～2月28日）の開催を記念し、富士山デジタルライブラリーの資料をもとに作製・配布

- ・配布期間 平成28年2月5日（金）～ 2月28日（日）
- ・印刷枚数 500枚
- ・図 柄



【葛飾北斎画『富岳百景』】

(4) 大人の読書推進事業

ア ふじのくにブックレクチャー

(ア) 演題 「本を読んで天下を取った家康一家康の読書遍歴を追う」

(イ) 日時 平成27年10月18日(日) 午後2時～3時30分

(ウ) 講師 小和田 哲男 氏(静岡大学名誉教授)

静岡県静岡市出身。早稲田大学大学院文学研究科博士課程修了。

現在、静岡大学名誉教授、文学博士、徳川みらい学会理事。

専門は日本中世史、特に戦国時代史で、主著「後北条氏研究」「近江浅井氏の研究」のほか、「小和田哲男著作集」などの研究書の刊行で、戦国時代史研究の第一人者として知られている。

(エ) 内容 読書魔であった家康がどのような本をどう読んでいたのか等

(オ) 会場 静岡県立大学 大講堂

イ 図書館講座(大人のたしなみセミナー)

(ア) 小林 一哉氏講演会

静岡県出身。早稲田大学政治経済学部卒業後、静岡新聞社入社。政治部、文化部記者などを経た後に退社。現在、久能山東照宮博物館副館長、雑誌「静岡人」編集長などを務める。家康公顕彰四百年記念事業実行委員会事務局長。著作「家康、真骨頂：『狸おやじ』のすすめ」平凡社刊。

a 演題 「エンペラー家康の駿府外交」

b 日時 平成27年9月12日(土) 午後2時～3時30分

c 内容 16世紀末から17世紀初頭の世界情勢や家康のキリスト教容認策、「歴史の証人」としての西洋時計の評価等

d 定員 200人(先着順)

e 会場 静岡県立中央図書館 講堂

(イ) 池谷 裕二氏講演会

静岡県藤枝市出身。東京大学大学院薬学系研究科博士課程生命薬学修了。東京大学薬学部教授。

専門分野は神経生理学、システム薬理学。海馬の研究を通じて、脳の健康や老化について探求している。2006年第6回日本神経科学学会奨励賞、2008年文部科学大臣表彰若手科学者賞などを受賞されている。

a 演題 「脳を知って、脳を活かす」

b 日時 平成27年11月3日(火・祝) 午後2時～3時30分

c 内容 脳の仕組み、脳を活かすためのコツ等

d 定員 200人(先着順)

e 会場 静岡県立中央図書館 講堂

(5) 図書館サポーター

ア 登録状況(過去3年)

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
環境	—	—	1人
館内サービス	—	—	3人
読み聞かせ	26人	20人	17人

イ 活動内容

環境：生け花や手工芸品の展示による館内装飾など。平成27年12月から募集開始。

館内サービス：生涯学習等の発表。平成27年12月から募集開始。

読み聞かせ：グランシップにおける「おはなしかい」の実施など。平成27年度までは「読み聞かせボランティア」。

ウ 活動実績

- 環 境（平成27年12月～平成28年3月）
 - ：バルーンアートを2回実施
- 館内サービス（平成27年12月～平成28年3月）
 - ：呈茶サービスを4回実施
 - ：資料紹介POP作成展示を1回実施
- 読み聞かせ（平成27年5月～平成28年3月）
 - ：おはなしかい実施 活動実績p82参照

(6) 職場体験学習等

当館では、社会教育施設での社会教育活動体験を促し、学校との連携を図るため、積極的に生徒・学生、教職員の受入れを行った。

平成20年度からは、「職場体験学習」（生徒）・「社会体験研修（10年研修等）」（教職員）として、日程を設定しての形態で、募集・実施をした。平成26年度は、前年度に引き続き、作業的な内容よりも研修・実習的な内容を多く盛り込んだ。

なお、平成24年度から、教職員10年経験者研修の社会体験活動は、「社会教育施設を除く民間企業で実施する」と変更になったため、平成24年度から受入れは行っていない。

また、平成25年度から、教職員初任者研修の社会体験研修の募集と実施を行っている。

ア 職場体験学習（当館主催）

校種	7月29日（水） ～7月30日（木）	8月4日（火） ～8月5日（水）	計
中学生	27人	0人	27人
高校生	6人	43人	49人
計	33人	43人	76人

イ インターンシップ（大学生）

(ア) 図書館主催

期 間	大学・学部名	性別	人数
9月2日（水）～9日（水）	常葉大学 教育学部	女	1人
9月2日（水）～16日（水）	筑波大学 情報学群	女	1人
9月2日（水）～16日（水）	筑波大学 情報学群	男	1人
合 計			3人

(イ) 県主催

期 間	大学・学部名	性別	人数
9月2日（水）・3日（木） 2日間	名古屋商科大学 経済学部	男	1人
	静岡文化芸術大学 文化政策学部	男	1人
	新潟県立大学 国際地域学部	男	1人
合 計			3人

ウ 社会体験研修（教職員初任者研修（課題研究））

学校名	教科等	性別	人数
県立高等学校	国語	女	1人
県立高等学校	国語	女	1人
県立高等学校	国語	女	1人
県立高等学校	保健体育	女	1人
県立高等学校	外国語（英語）	男	1人
合計			5人

エ 施設見学・視察

校種	校数・団体数	人数（引率者含む）
小学校	4	19人
中学校	2	252人
高等学校	4	195人
大学・短大	4	74人
専門学校	—	—
一般	—	—
図書館関係	2	10人
計	16	550人

(7) 図書館広報

ア 静岡県立中央図書館だより（文化の丘）

より手に取られ、読まれる図書館だよりとするため、22年度から副題「文化の丘」を付した。
No. 346（H27. 6）～No. 349（H28. 3）発行 各3,000部
配布先：県内教育委員会、県内小中高等学校、県内市町立図書館等

イ 当館Webサイトの運用等

平成27年5月	第5期電算システム更新。クラウドやハウジングにほぼ全面的に移行。
平成27年5月	デジタルライブラリーのトップ画面をリニューアル、メニューボタン追加
平成27年10月	インターネット予約による市町立図書館等受取サービス先行導入
平成28年2月	無料Wi-Fi「FREESPOT」導入
平成28年2月	小山町立図書館がおうだんくんサーチ参加、合計100館
平成27年度	地域資料・貴重書等の電子化及び公開 静岡県郷土史写真集、静岡県の絵葉書、貴重書類、古地図・絵図、静岡県行政資料等

(8) ムセイオン静岡

ア 趣旨

平成18年5月22日、草薙地域の4機関（静岡県立中央図書館、静岡県立大学、静岡県立美術館、（財）静岡県埋蔵文化財調査研究所※現県埋蔵文化財センター）で「谷田サミット」を設立。相互協力と、施設、人材等を活用した地域貢献の在り方を検討する。平成21年12月、上記4団体に東静岡地域のグランシップと舞台芸術センター（SPAC）を加え、全県に情報発信するため「ムセイオン静岡」と改称した。平成25年10月には「ムセイオン」6機関による正式な協定書が締結された。「ムセイオン」は、“Museum”（博物館、美術館）の語源で、「学堂」を意味する。

「ムセイオン静岡」は静岡県立大学が事務局となり、年3回の会議を開き①協力体制の構築②

地域との連携方法等について意見交換を行う。また、機関連携による情報発信、事業実施も推進する。

イ 平成27年度事業

(ア) 会議開催

回	開催日	会場	協議内容
1	平成27年7月6日	グランシップ	ムセイオン静岡連携事業計画等について
2	平成28年1月7日	静岡県立大学	文化の丘フェスタ事業等について
3	平成28年3月3日	静岡県立大学	ムセイオン静岡の運営について

(イ) 「連続講座 静岡×徳川時代」(全8回)の実施

(ウ) 「ふじのくに文化の丘フェスタ2015」の共同実施

(エ) 各機関実施事業での連携協力

ウ 今後の展望と課題

平成27年度は「ふじのくに文化の丘フェスタ」を各機関共通で期間設定し、相互広報の推進、スタンプラリー実施等、ムセイオン静岡としての一体感を持った事業展開を試みた。

なお、平成28年3月に、文化教育機関である「ふじのくに地球環境史ミュージアム」が新規開館したことから、今後「ムセイオン静岡」への加盟を働きかけ、連携の拡大を図っていく予定である。

(9) 浙江図書館友好提携

ア 経緯

平成4年、静岡県・浙江省友好提携10周年を機に浙江省から静岡県に図書が寄贈され、寄贈図書は静岡県立中央図書館に所蔵されている。その後、県内図書館職員等の有志が浙江図書館を訪れ、親交を結んできた。さらに、浙江省からの技術研修員受入れや本館の調査団派遣等を経て、平成21年2月、浙江省教育交流訪日団来静を機に、「静岡県立中央図書館と浙江省図書館との友好提携書」を締結。平成21年度以降の図書交換等の交流事業について定めた。

イ 平成27年度の展開

(ア) 上記の友好提携に基づく図書交換(静岡県、浙江省の生活・文化が理解できる写真やイラストが豊富に含まれた資料を中心に交換)

(イ) 寄贈図書の特別展示

(10) 市町立図書館等受取サービス

ア 目的：当館の資料を全県民が活用しやすい環境を整備し、県民の学習活動及び文化の向上に寄与することを目的として、インターネット予約による市町立図書館等受取サービスを先行導入した。

イ 時期：平成28年10月1日(木)から

ウ 受取館：富士宮市立中央図書館、函南町立図書館、磐田市立中央図書館、浜松市立城北図書館

エ 実績

区分	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
延べ利用者数(人)	53	48	50	41	56	95	343
資料数(点)	191	158	173	200	245	388	1,355

平成27年度「静岡県立中央図書館利用者アンケート」（来館者用・Web用）集計結果

実施：平成27年11月1日（日）～7日（土）【7日間】 有効回答数：285（来館者277・Web8）



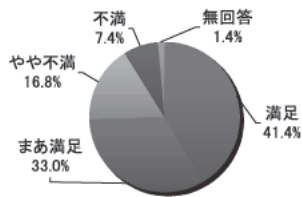
【質問1】当館利用についての満足度

①サービス別満足度

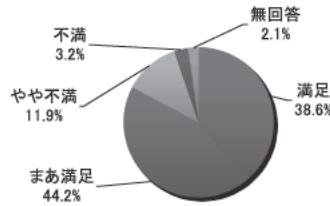
	満足	まあ満足	やや不満	不満	合計	満足+まあ満足	昨年度傾向	平成26年度	平成25年度	
(1) 利用しやすい場所にあるか	118	94	48	21	281	75.4%	4.0%	↑	71.4%	72.0%
(2) 開館日数と開館時間	110	126	34	9	279	84.6%	3.8%	↑	80.8%	81.9%
(3) 読書・調べ物・学習スペース	133	111	28	8	280	87.1%	-3.9%	↔	91.0%	84.1%
(4) 貸出冊数・期間	194	70	10	2	276	95.7%	1.5%	↑	94.2%	96.7%
(5) 目的の資料の 見つけやすさ	95	141	36	4	276	85.5%	1.7%	↑	83.8%	82.7%
(6) 蔵書冊数・構成	89	134	45	7	275	81.1%	4.7%	↑	76.4%	76.7%
(7) ホームページの機能	87	135	29	4	255	87.0%	1.8%	↑	85.2%	84.9%
(8) 職員の対応	145	116	13	4	278	93.9%	-4.4%	↔	98.3%	94.5%
(9) 職員の業務知識	123	133	7	4	267	95.9%	-0.9%	↔	96.8%	94.7%
(10) 本日の来館目的 達成度	165	99	8	3	275	96.0%	-2.7%	↔	98.7%	95.5%
(11) 総合的満足度	106	144	24	2	276	90.6%	-4.2%	↔	94.8%	93.7%
平均						88.4%	0.1%	↔	88.3%	87.0%

※以前のデータと比較するため、「無回答」は上記表の集計に含めていません。
※以下のグラフには「無回答」を含めたため、表とグラフの数値は一致しません。

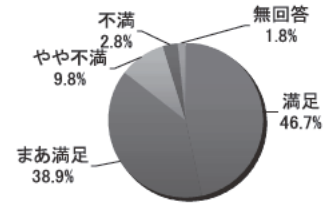
(1) 利用しやすい場所にあるか



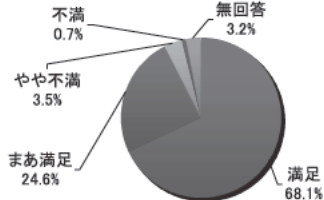
(2) 開館日数と開館時間



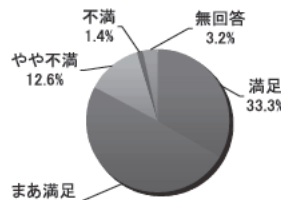
(3) 読書・調べもの・学習スペース



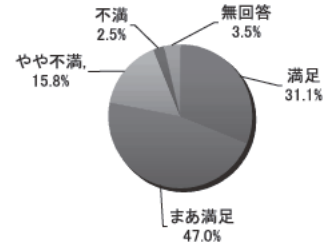
(4) 貸出冊数・期間



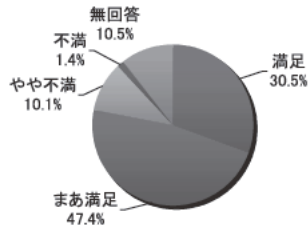
(5) 目的の資料の見つけやすさ



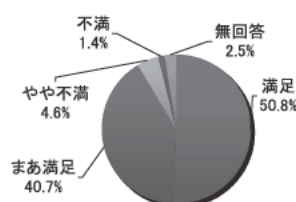
(6) 蔵書冊数・構成



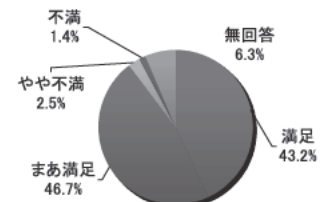
(7) ホームページの機能



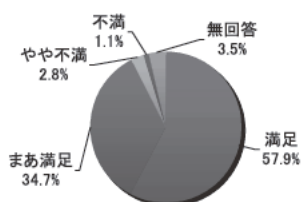
(8) 職員の対応



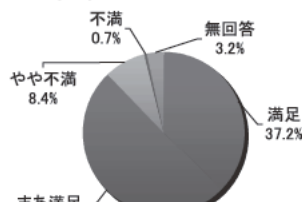
(9) 職員の業務知識



(10) 来館目的の達成度

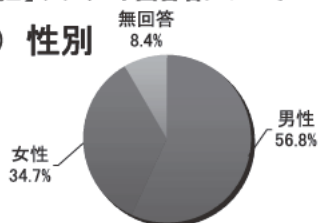


(11) 総合的満足度



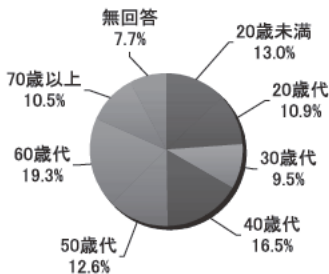
【質問2】アンケート回答者について

① 性別



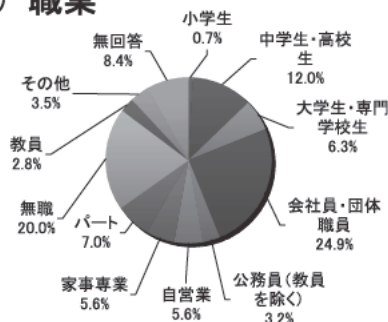
	回答数	割合	昨年比傾向	平成26年度	平成25年度
男性	162	56.8%	-11.3%	68.1%	65.5%
女性	99	34.7%	7.8%	26.9%	29.7%
無回答	24	8.4%	3.4%	5.0%	4.8%
合計	285	100.0%			

② 年齢



	回答数	割合	昨年比傾向	平成26年度	平成25年度
20歳未満	37	13.0%	-0.9%	13.9%	9.6%
20歳代	31	10.9%	0.4%	10.5%	8.7%
30歳代	27	9.5%	-2.3%	11.8%	12.7%
40歳代	47	16.5%	0.9%	15.5%	17.5%
50歳代	36	12.6%	-2.5%	15.1%	17.9%
60歳代	55	19.3%	2.1%	17.2%	14.8%
70歳以上	30	10.5%	0.0%	10.5%	13.1%
無回答	22	7.7%	2.3%	5.5%	5.7%
合計	285	100.0%			

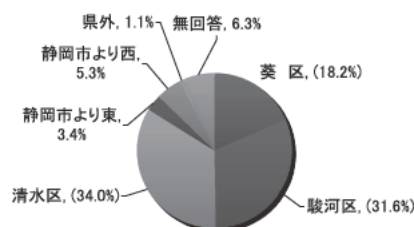
③ 職業



	回答数	割合	昨年比傾向	平成26年度	平成25年度
小学生	2	0.7%	0.3%	0.4%	7.4%
中学生・高校生	34	12.0%	-1.4%	13.4%	0.9%
大学生・専門学校生	18	6.3%	1.3%	5.0%	4.3%
会社員・団体職員	71	24.9%	1.8%	23.1%	28.8%
公務員(教員を除く)	9	3.2%	-2.3%	5.5%	5.3%
自営業	16	5.6%	-0.3%	5.9%	4.3%
家事専業	16	5.6%	1.0%	4.6%	5.3%
パート	20	7.0%	3.2%	3.8%	4.8%
無職	57	20.0%	-7.7%	27.7%	26.2%
教員	8	2.8%	-0.6%	3.4%	3.5%
その他	10	3.5%	2.2%	1.3%	3.9%
無回答	24	8.4%	2.5%	5.9%	5.3%
合計	285	100.0%			

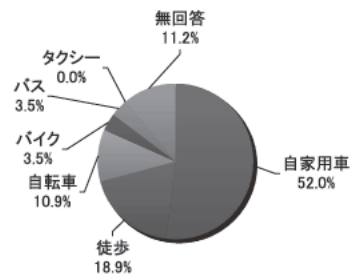
※25年度までは「小・中学生」「高校生」

④ 利用者の住所



	回答数	割合	昨年比傾向	平成26年度	平成25年度
静岡市計	239	83.9%	0.7%	83.2%	79.5%
葵区	52	(18.2%)	2.2%	16.0%	
駿河区	90	(31.6%)	0.5%	31.1%	
清水区	97	(34.0%)	-2.1%	36.1%	
静岡市より東	10	3.4%	-0.8%	4.2%	3.9%
静岡市より西	15	5.3%	-0.6%	5.9%	8.3%
県外	3	1.1%	-0.6%	1.7%	0.4%
無回答	18	6.3%	1.3%	5.0%	7.9%
合計	285	100.0%			

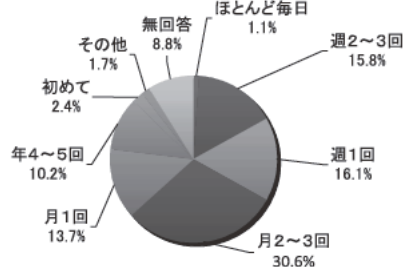
⑤ 来館方法



	回答数	割合	昨年比傾向	平成26年度	平成25年度
自家用車	148	52.0%	-5.5%	57.5%	60.3%
徒歩	54	18.9%	2.5%	16.4%	16.2%
自転車	31	10.9%	2.9%	8.0%	10.1%
バイク	10	3.5%	-4.1%	7.6%	5.2%
バス	10	3.5%	-2.0%	5.5%	3.5%
タクシー	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%
その他	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%
無回答	32	11.2%	6.2%	5.0%	3.9%
合計	285	100.0%		100.0%	100.0%

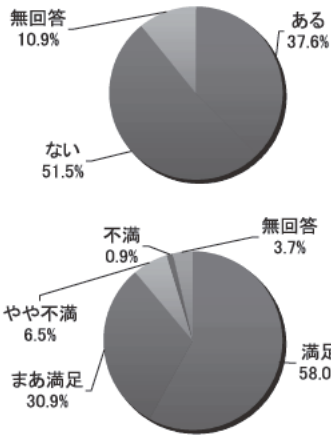
※「徒歩」には、最寄駅まで電車を利用した場合も含む。

⑥ 利用頻度



	回答数	割合	昨年比傾向	平成26年度	平成25年度
ほとんど毎日	3	1.1%	-3.5%	4.6%	1.3%
週2~3回	45	15.8%	1.1%	14.7%	17.9%
週1回	46	16.1%	-2.0%	18.1%	20.1%
月2~3回	86	30.2%	-0.9%	31.1%	23.6%
月1回	39	13.7%	0.7%	13.0%	14.0%
年4~5回	29	10.2%	1.4%	8.8%	11.3%
初めて	7	2.4%	1.1%	1.3%	3.1%
その他	5	1.7%	-1.7%	3.4%	3.5%
無回答	25	8.8%	3.8%	5.0%	5.2%
合計	285	100.0%			

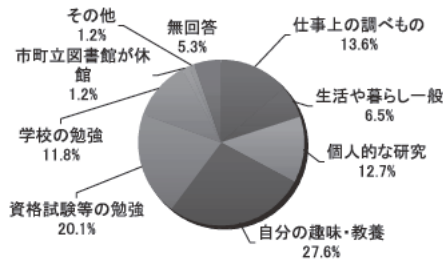
【質問3】当館のレファレンス・サービスの利用経験について



①	回答数	割合	昨年比傾向	平成26年度	平成25年度
ある	107	37.6%	0.6%	37.0%	32.3%
ない	147	51.5%	-3.9%	55.4%	60.7%
無回答	31	10.9%	3.3%	7.6%	7.0%
合計	285	100.0%			

②	「ある」人	割合	昨年比傾向	平成26年度	平成25年度
満足	62	58.0%	-1.1%	59.1%	50.0%
まあ満足	33	30.9%	-3.2%	34.1%	39.1%
やや不満	7	6.5%	-0.3%	6.8%	2.7%
不満	1	0.9%	0.9%	0.0%	4.1%
無回答	4	3.7%	3.7%	0.0%	4.1%
合計	107	100.0%			
満足度		88.9%			

【質問4】来館目的について



	回答数	割合	昨年比傾向	平成26年度	平成25年度
仕事上の調べもの	44	13.6%	-0.7%	14.3%	14.0%
生活や暮らし一般	21	6.5%	1.5%	5.0%	3.1%
個人的な研究	41	12.7%	2.6%	10.1%	12.2%
自分の趣味・教養	89	27.6%	1.5%	26.1%	24.4%
資格試験等の勉強	65	20.1%	-2.2%	22.3%	25.8%
学校の勉強	38	11.8%	-0.4%	12.2%	10.9%
市町立図書館が休館	4	1.2%			
その他	4	1.2%	-3.8%	5.0%	3.5%
無回答	17	5.3%	0.3%	5.0%	6.1%
合計	323	100.0%			

【質問5】利用資料数

(人)	資料数	昨年比傾向	平成26年度	平成25年度
回答人数	228		195	180
無回答	57		43	49
合計	285		238	229

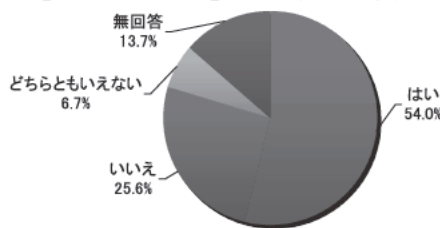
平均点数	5.5点	6.7点	8.5点
うち館内のみ	3.7点		

【質問6】滞在時間

(人)	入館時刻	退館時刻	滞在時間	平成26年度	平成25年度
回答人数	245	241	245	207	207
無回答	40	44	40	31	22
合計	285	285	285	238	229

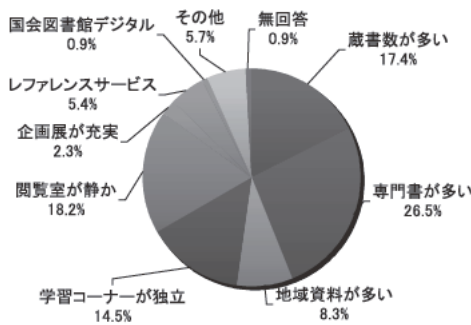
平均	11:52	14:39	2時間47分	3時間13分	3時間26分
----	-------	-------	--------	--------	--------

【質問7】「市町立図書館」と「当館(県立中央図書館)」の利用について



①市町立図書館との使い分け

	回答数	割合	昨年比傾向	平成26年度	平成25年度
はい	154	54.0%	-5.2%	59.2%	59.4%
いいえ	73	25.6%	-3.0%	28.6%	28.4%
どちらともいえない	19	6.7%	0.4%	6.3%	3.5%
無回答	39	13.7%	7.8%	5.9%	8.7%
合計	285	100.0%			



②市町立図書館との違い

①「はい」の人: 154人

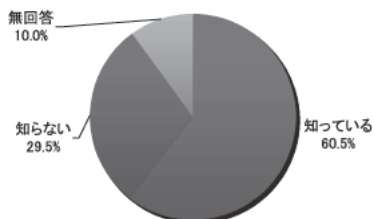
蔵書数が多い	61
専門書が多い	93
地域資料が多い	29
学習コーナーが独立	51
閲覧室が静か	64
企画展が充実	8
レファレンスサービス	19
国会図書館デジタル	3
その他	20
無回答	3
合計	351

(複数回答可)
※表の数値は回答数、%はグラフを参照。

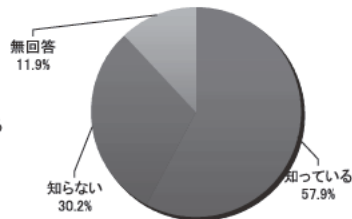
【質問8】県立中央図書館のサービス認知度について

	知っている	知らない	無回答	合計	「知っている」昨年比増減	平成26年度	平成25年度
(1) 貸出点数(20点) 貸出期間(22日)	172 60.5%	84 29.5%	29 10.0%	285 100.0%	0.6% →	59.9%	57.7%
(2) 貸出延長(期限内で 予約のない資料)	165 57.9%	86 30.2%	34 11.9%	285 100.0%	-0.3% →	58.2%	58.1%
(3) 市町立図書館での返却 (静岡市は蒲原のみ)	144 50.5%	112 39.3%	29 10.2%	285 100.0%	0.5% →	50.0%	48.5%
(4) パスワードの登録による HPサービスの拡大	130 45.6%	124 43.5%	31 10.9%	285 100.0%	-1.0% →	46.6%	38.0%
(5) 「子ども図書研究室」	116 40.7%	136 47.7%	33 11.6%	285 100.0%	-3.4% ↶	44.1%	41.0%
(6) 音読パソコン「ヨメール」 ・拡大読書機	79 27.7%	175 61.4%	31 10.9%	285 100.0%	-5.9% ↶	33.6%	30.6%
(7) オンラインデータベースの 無料利用	119 41.8%	134 47.0%	32 11.2%	285 100.0%	-7.8% ↶	49.6%	46.7%
(8) デジタルライブラリーを HPで公開している	60 21.1%	191 67.0%	34 11.9%	285 100.0%	-2.0% ↶	23.1%	(25年度質問無)
(9) 無料講座の開催	141 49.5%	110 38.6%	34 11.9%	285 100.0%	-6.4% ↶	55.9%	46.3%
(10) 学術専門書・研究書の収集	156 54.8%	97 34.0%	32 11.2%	285 100.0%	3.5% ↗	51.3%	53.3%
(11) 地域(郷土)資料・行政資料 の積極的収集	155 54.4%	94 33.0%	36 12.6%	285 100.0%	-3.6% ↶	58.0%	58.1%
(12) 書庫出納	148 51.9%	103 36.2%	34 11.9%	285 100.0%	-6.5% ↶	58.4%	60.3%
(13) 「おודんくん」 (県内図書館資料の一括検索)	111 39.0%	140 49.1%	34 11.9%	285 100.0%	-6.0% ↶	45.0%	44.1%
(14) 市町立図書館で県立 図書館の本が借りられる	95 33.3%	157 55.1%	33 11.6%	285 100.0%	-2.0% ↶	35.3%	45.0%
(15) グランシップ 「えほんのひろば」	143 50.2%	111 38.9%	31 10.9%	285 100.0%	3.1% ↗	47.1%	50.2%
(16) 「えほんのひろば」での 絵本の貸出	98 34.4%	155 54.4%	32 11.2%	285 100.0%	3.5% ↗	30.9%	34.1%
(17) インターネット予約 市町図書館受取	78 27.4%	174 61.0%	33 11.6%	285 100.0%			
(18) 郵送による利用者登録	32 11.2%	220 77.2%	33 11.6%	285 100.0%			
平均	43.0%	45.7%	11.4%		-2.1%	46.7%	47.5%

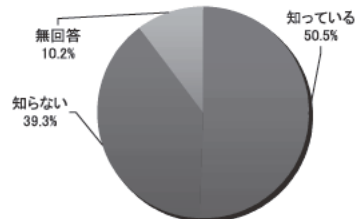
(1) 貸出点数と貸出期間



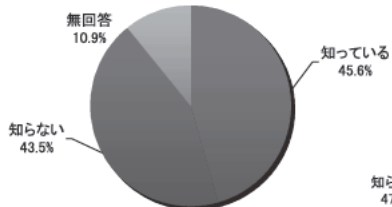
(2) 貸出延長



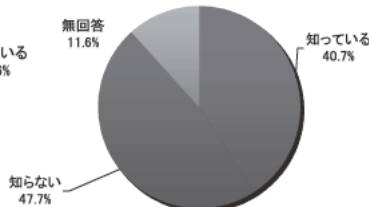
(3) 市町立図書館での返却



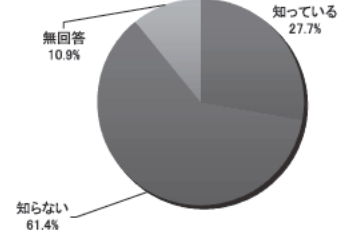
(4) パスワード登録によるHPサービスの拡大



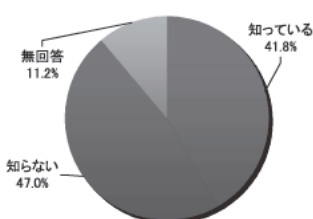
(5) 「子ども図書研究室」



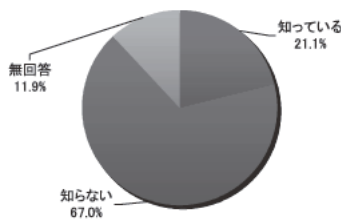
(6) 音読PC「ヨメール」と拡大読書機



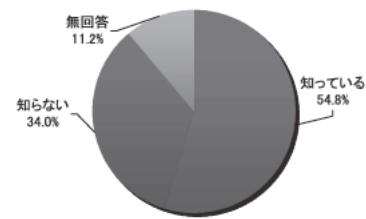
(7) オンラインデータベースの無料利用



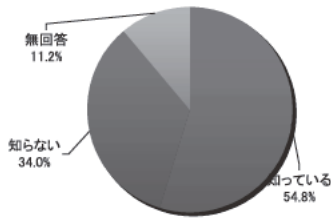
(8) デジタルライブラリーの公開



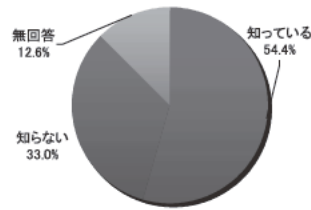
(9) 無料講座の開催



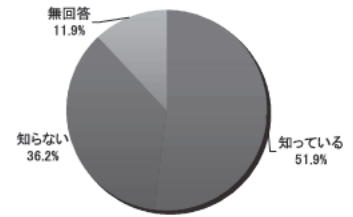
(10) 学術専門書・研究書の収集



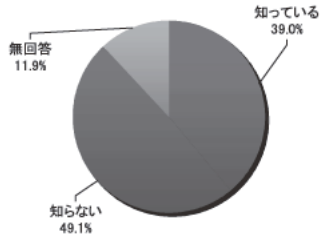
(11) 地域資料・行政資料の積極的収集



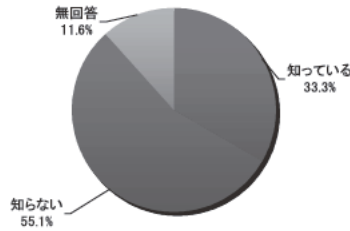
(12) 書庫出納



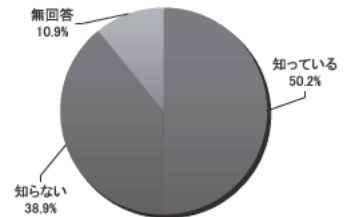
(13) 「おうだんくん」



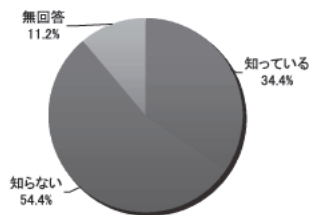
(14) 市町立で県立の本を借受可能



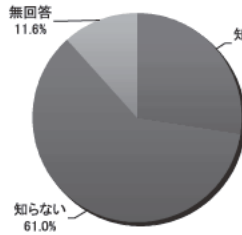
(15) グランシップ「えほんのひろば」



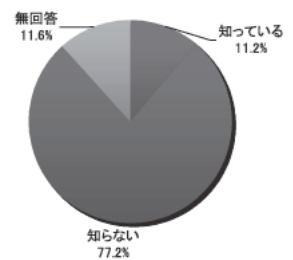
(16) 「えほんのひろば」での絵本貸出



(17) インターネット予約と市町立図書館受取



(18) 郵送申込による利用者登録



【運営に関する質問項目より】

〈健康医療情報コーナーの利用〉

- 1 利用した (25票) … 8.8%
- 2 利用しない (92票) … 32.3%
- 3 知らなかった・無回答 (168票) … 58.9%

〈当館のイベントの情報収集方法〉

- 1 館内の掲示物 (132票)
- 2 ホームページ (57票)
- 3 県民だより (18票)

〈その他〉

- ・50代になって医療学の国家試験を取得しました。その際の参考書、勉強スペースが役に立ちました。
- ・機械操作が不可のためレファレンスサービスが大変助かる。
- ・蔵書、特に県内の郷土誌に助けられました。あまり読まれない資料も置いてあってよかった。
- ・職場の課題や資格取得のための勉強の場を与えてくれた。買うのには高額、又は買うほどではないと思っている本を気軽に読めた。

〈今後強化すべきコンテンツ・資料〉…複数回答可

- 1 研究書・専門書 (73票)
- 2 一般図書 (59票)
- 3 雑誌(専門誌) (51票)
- 4 参考図書 (43票)
- 5 貴重書・デジタル (36票)
- 6 新書・文庫 (34票)



県立中央図書館

【お問い合わせ】企画振興課企画係

☆☆ご協力ありがとうございました☆☆

**平成27年度「静岡県立中央図書館利用者アンケート」
(協力貸出・市町立図書館等受取サービス利用者用) 集計結果**
 11月11日(水)・18日(水)・25日(水) 発送 (有効回答数: 106…1月15日市町立図書館到着分で締切)
 ※平成26年度は実施なしのため比較は一昨年度

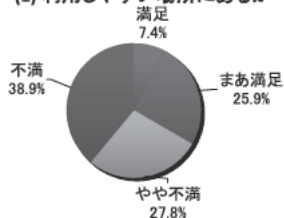
【質問1】当館利用についての満足度

①サービス別満足度

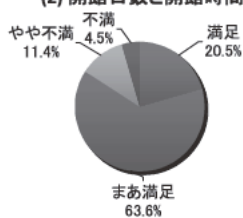
	満足	まあ満足	やや不満	不満	無回答※	合計	満足+まあ満足	一昨年比傾向	平成25年度
(1) 利用しやすい場所にあるか	4 7.4%	14 25.9%	15 27.8%	21 38.9%		54 100.0%	33.3%	-0.5%	33.8%
(2) 開館日数と開館時間	9 20.5%	28 63.6%	5 11.4%	2 4.5%		44 100.0%	84.1%	10.6%	73.5%
(3) 読書・調べ物・学習スペース	9 22.0%	30 73.2%	2 4.9%	0 0.0%		41 100.1%	95.2%	7.8%	87.4%
(4) 貸出冊数・期間	32 56.1%	20 35.1%	5 8.8%	0 0.0%		57 100.0%	91.2%	-6.4%	97.6%
(5) 目的の資料の 見つけやすさ	9 20.0%	30 66.7%	6 13.3%	0 0.0%		45 100.0%	86.7%	0.0%	86.7%
(6) 蔵書冊数・構成	7 13.7%	35 68.6%	8 15.7%	1 2.0%		51 100.0%	82.3%	7.0%	75.3%
(7) ホームページの機能	11 22.0%	30 60.0%	9 18.0%	0 0.0%		50 100.0%	82.0%	-3.6%	85.6%
(8) 職員の対応	12 28.6%	27 64.3%	3 7.1%	0 0.0%		42 100.0%	92.9%	-2.2%	95.1%
(9) 職員の業務知識	11 26.2%	28 66.7%	3 7.1%	0 0.0%		42 100.0%	92.9%	0.3%	92.6%
(10) 総合的な満足度	9 17.3%	36 69.2%	6 11.5%	1 1.9%		52 99.9%	86.5%	4.5%	82.0%
						平均	82.7%	1.8%	81.0%

※答えにくい質問「当館に来館したことがない」と分からない質問等は飛ばして回答することとしており、当質問は無回答比率が顕著に高かったため、無回答を除外して満足度を算出した(比較用のH25も同条件で再計算している)。

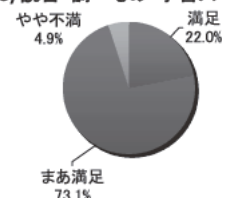
(1) 利用しやすい場所にあるか



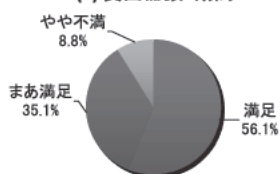
(2) 開館日数と開館時間



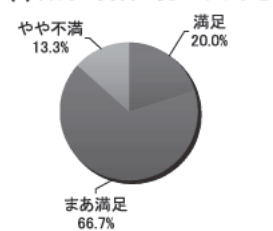
(3) 読書・調べもの・学習スペース



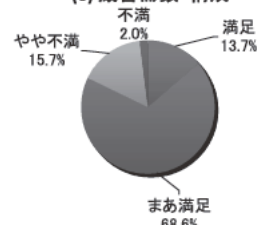
(4) 貸出冊数・期間



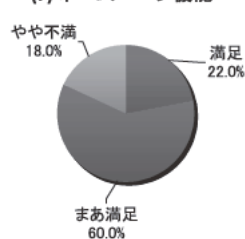
(5) 目的の資料の見つけやすさ



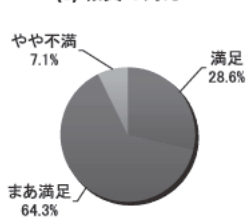
(6) 蔵書冊数・構成



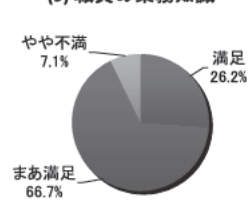
(7) ホームページ機能



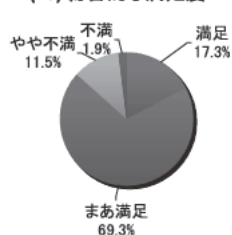
(8) 職員の対応



(9) 職員の業務知識

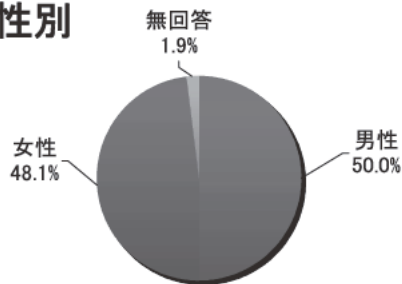


(10) 総合的な満足度



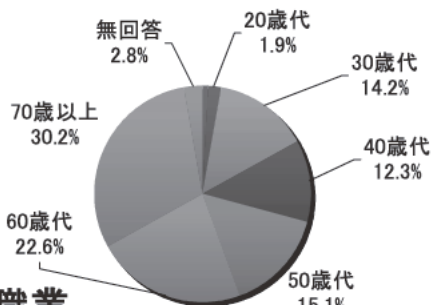
【質問2】 アンケート回答者について

① 性別



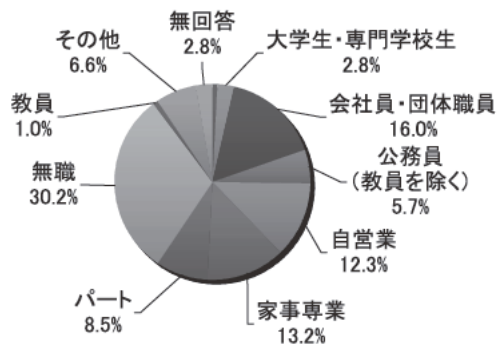
	回答数	割合	一昨年比傾向	平成25年度
男性	53	50.0%	4.4%	45.6%
女性	51	48.1%	-1.9%	50.0%
無回答	2	1.9%	-2.5%	4.4%
合計	106	100.0%		

② 年齢



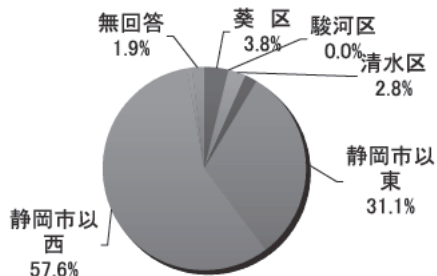
	回答数	割合	一昨年比傾向	平成25年度
20歳未満	1	0.9%	0.9%	0.0%
20歳代	2	1.9%	-9.5%	11.4%
30歳代	15	14.2%	-1.6%	15.8%
40歳代	13	12.3%	-4.4%	16.7%
50歳代	16	15.1%	-0.7%	15.8%
60歳代	24	22.6%	2.4%	20.2%
70歳以上	32	30.2%	16.2%	14.0%
無回答	3	2.8%	-3.3%	6.1%
合計	106	100.0%		

③ 職業



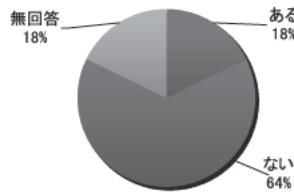
	回答数	割合	一昨年比傾向	平成25年度
小・中学生	1	0.9%	0.9%	0.0%
高校生	0	0.0%	0.0%	0.0%
大学生・専門学校生	3	2.8%	-1.6%	4.4%
会社員・団体職員	17	16.0%	-10.3%	26.3%
公務員(教員を除く)	6	5.7%	-5.7%	11.4%
自営業	13	12.3%	7.0%	5.3%
家事専業	14	13.2%	9.7%	3.5%
パート	9	8.5%	-3.7%	12.2%
無職	32	30.2%	6.5%	23.7%
教員	1	1.0%	-2.5%	3.5%
その他	7	6.6%	1.3%	5.3%
無回答	3	2.8%	-1.6%	4.4%
合計	106	100.0%		

④ 利用者の住所

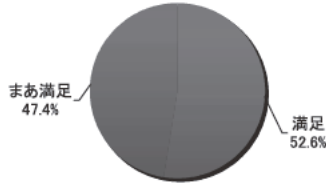


	回答数	割合	一昨年比傾向	平成25年度
静岡市計	7	6.6%	-17.1%	23.7%
葵区	4	(3.8%)		
駿河区	0	(0.0%)		
清水区	3	(2.8%)		
区名無回答	2	(1.9%)		
静岡市以東	33	31.1%	-4.0%	35.1%
静岡市以西	61	57.6%	22.5%	35.1%
県外	1	0.9%	0.9%	0.0%
無回答	2	1.9%	-4.2%	6.1%
合計	106	100.0%		

【質問3】当館のレファレンス・サービスの利用経験について

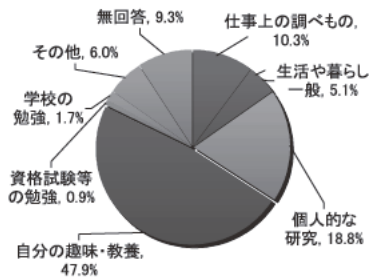


①	回答数	割合	一昨年比傾向	平成25年度
ある	19	17.9%	-6.7%	24.6%
ない	68	64.2%	1.9%	62.3%
無回答	19	17.9%	4.8%	13.1%
合計	106	100.0%		



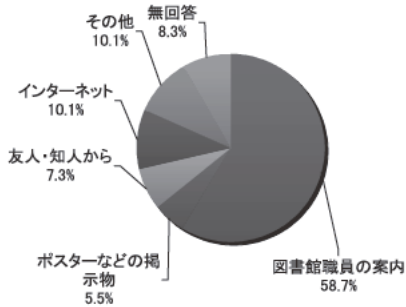
②	「ある」人	割合
満足	10	52.6%
まあ満足	9	47.4%
やや不満	0	0.0%
不満	0	0.0%
無回答	0	0.0%
合計	19	100.0%
満足度		100.0%

【質問4】資料の利用目的について



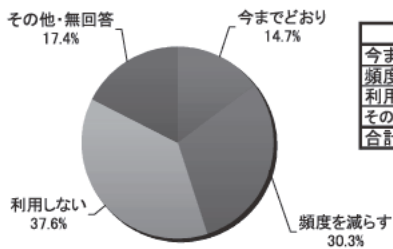
	回答数	割合	一昨年比傾向	平成25年度
仕事上の調べもの	12	10.3%	-8.1%	18.4%
生活や暮らし一般	6	5.1%	1.6%	3.5%
個人的な研究	22	18.8%	-1.4%	20.2%
自分の趣味・教養	56	47.9%	14.6%	33.3%
資格試験等の勉強	1	0.9%	-0.9%	1.8%
学校の勉強	2	1.7%	-1.8%	3.5%
その他	7	6.0%	-1.9%	7.9%
無回答	11	9.3%	-2.1%	11.4%
合計	117	100.0%		

【質問5】他館資料を利用できることを知った理由



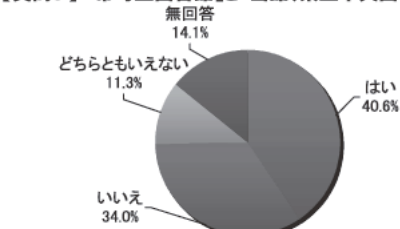
	回答数	割合
図書館職員のご案内	64	58.7%
ポスターなどの掲示物	6	5.5%
友人・知人から	8	7.3%
インターネット	11	10.1%
その他	11	10.1%
無回答	9	8.3%
合計	109	100.0%

【質問6】送料が自己負担になった場合、他館資料の利用の有無

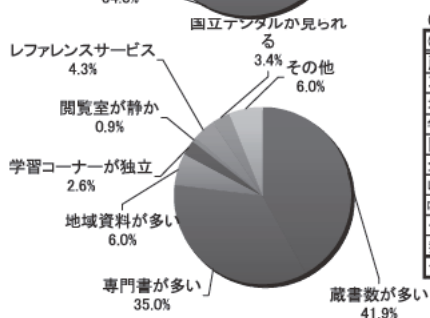


	回答数	割合
今までどおり	16	14.7%
頻度を減らす	33	30.3%
利用しない	41	37.6%
その他・無回答	19	17.4%
合計	109	100.0%

【質問7】「市町立図書館」と「当館(県立中央図書館)」の利用について



①市町立図書館との使い分け	
	割合
はい	40.6%
いいえ	34.0%
どちらともいえない	11.3%
無回答	14.1%
合計	106

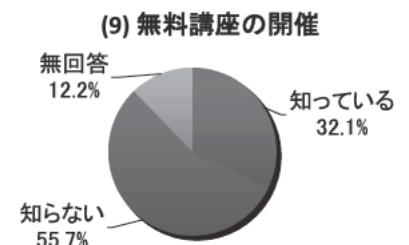
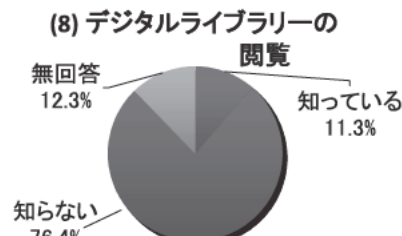
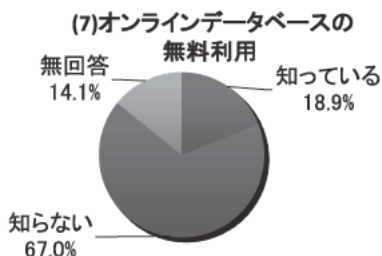
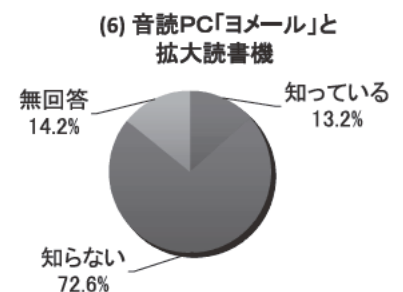
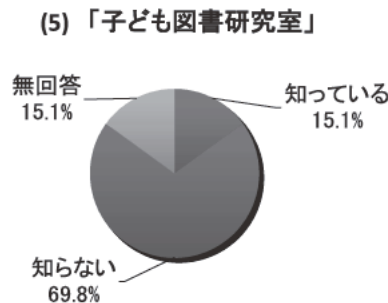
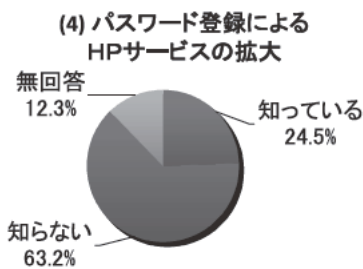
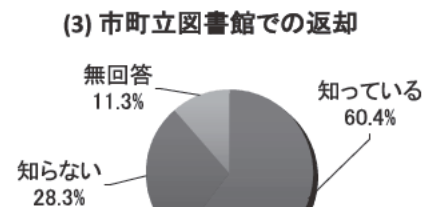
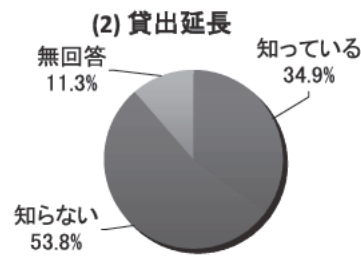
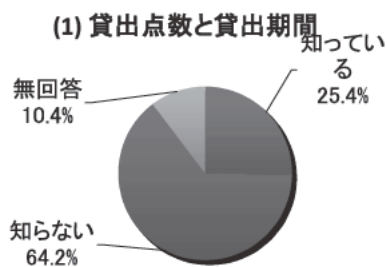


②市町立図書館との違い	
②「はい」の人:41人	
	割合
蔵書数が多い	49
専門書が多い	41
地域資料が多い	7
学習コーナーが独立	3
閲覧室が静か	1
企画展示が充実	0
レファレンスサービス	5
国立デジタルが見られる	4
その他	7
無回答	37
合計	154

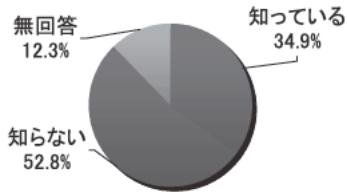
※表の数値は回答数、%はグラフを参照。

【質問8】 県立中央図書館のサービス認知度について

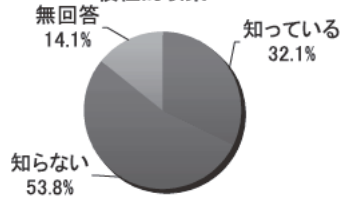
	知っている	知らない	無回答	合計	「知っている」-昨年比傾向	平成25年度
(1) 貸出点数(20点) 貸出期間(22日)	27 25.4%	68 64.2%	11 10.4%	106 100.0%	-14.1% ↶	39.5%
(2) 貸出延長 (期限内で 予約のない資料)	37 34.9%	57 53.8%	12 11.3%	106 100.0%	-17.7% ↶	52.6%
(3) 市町立図書館での返却 (静岡市は蒲原のみ)	64 60.4%	30 28.3%	12 11.3%	106 100.0%	4.3% ↷	56.1%
(4) パスワードの登録による HPサービスの拡大	26 24.5%	67 63.2%	13 12.3%	106 100.0%	-7.1% ↶	31.6%
(5) 「子ども図書研究室」	16 15.1%	74 69.8%	16 15.1%	106 100.0%	-9.5% ↶	24.6%
(6) 音読パソコン「ヨメール」 ・拡大読書機	14 13.2%	77 72.6%	15 14.2%	106 100.0%	-3.5% ↶	16.7%
(7) オンラインデータベース の無料利用	20 18.9%	71 67.0%	15 14.1%	106 100.0%	-9.2% ↶	28.1%
(8) デジタルライブラリーの 閲覧	12 11.3%	81 76.4%	13 12.3%	106 100.0%	- -	-
(9) 無料講座の開催	34 32.1%	59 55.7%	13 12.2%	106 100.0%	-13.5% ↶	45.6%
(10) 学術専門書・研究書の 収集	37 34.9%	56 52.8%	13 12.3%	106 100.0%	-12.5% ↶	47.4%
(11) 地域資料・行政資料の 積極的収集	34 32.1%	57 53.8%	15 14.1%	106 100.0%	-14.4% ↶	46.5%
(12) 書庫出納	31 29.2%	60 56.6%	15 14.2%	106 100.0%	-29.6% ↶	58.8%
(13) 「おうだんくん」(県内 図書館資料の一括検索)	44 41.5%	49 46.2%	13 12.3%	106 100.0%	-20.8% ↶	62.3%
(14) 市町立図書館で県立 図書館の本が借りられる	86 81.1%	9 8.5%	11 10.4%	106 100.0%	0.4% ↷	80.7%
(15) グランシップ 「えほんのひろば」	20 18.9%	72 67.9%	14 13.2%	106 100.0%	-11.8% ↶	30.7%
(16) 「えほんのひろば」での 絵本の貸出	19 17.9%	71 67.0%	16 15.1%	106 100.0%	-4.9% ↶	22.8%
(17) 市町受取サービス	36 34.0%	55 51.9%	15 14.1%	106 100.0%	- -	-
(18) 郵送による利用者登録	12 11.3%	78 73.6%	16 15.1%	106 100.0%	- -	-
平均	32.0%	55.2%	12.8%		-10.9% ↶	42.9%



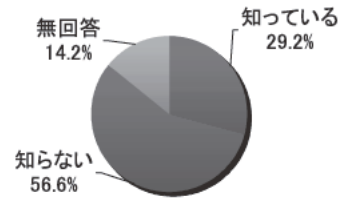
(10) 学術専門書・研究書の収集



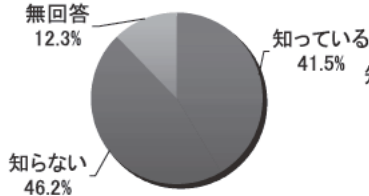
(11) 地域資料・行政資料の積極的収集



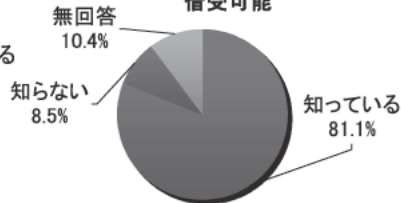
(12) 書庫出納



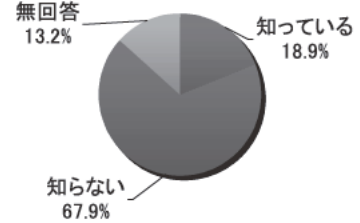
(13) おうだんくん



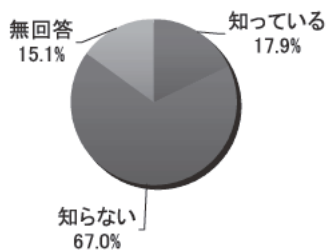
(14) 市町立で県立の本を借受可能



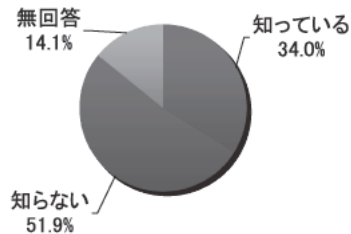
(15) グランシップ「えほんのひろば」



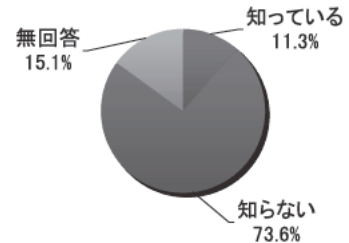
(16) 「えほんのひろば」での絵本貸出



(17) 市町受取サービス



(18) 郵送による利用者登録



【運営に関する質問項目より】

〈健康医療情報コーナーの利用〉

- 1 利用した (2票) … 1.9%
- 2 利用しない (40票) … 37.7%
- 3 知らなかった・無回答 (64票) … 60.4%

〈今後強化すべきコンテンツ・資料〉…複数回答可

- 1 研究書 (31票)
- 2 地域(郷土)資料 (26票)
- 3 雑誌(専門誌) (22票)
- 4 参考図書 (15票)
- 5 一般図書 (14票)

〈当館のイベントの情報収集方法〉

- 1 ホームページ (26票)
- 2 当館外の掲示物 (10票)
- 3 県民だより (13票)

〈その他〉

- ・市町立図書館にない本が借りられて助かっている。
- ・さらなる蔵書の充実を希望する。(特に専門書、研究書、地域資料)
- ・協力貸出の利便性向上を望む。(手配の時間短縮、貸出期間を長く)

9 振興係

(1) 市町立図書館振興

ア 市町立図書館運営の支援・協力

(ア) 市町立図書館運営の支援

a 図書館活動振興に関わる運営相談

協力車で訪問した際や電話等で受けた市町立図書館等からの問い合わせに対して、図書館活動の振興の面から様々な助言や情報提供を行った。相談は、図書整理業務に関するものから、コンピュータシステムに関するもの、利用者サービスに関するもの、相互貸借に関するものなど、内容は多岐にわたっている。相談には他課と連携して対応し、協力車訪問での聞き取りによる各図書館の状況も報告した。この1年間の相談と調査結果は「運営相談一覧」にまとめ、市町立図書館等に配布している。

また、賀茂地区研修への講師派遣を依頼され、企画振興課職員・資料課職員各1人を派遣した。

b 唯一図書館が未設置の川根本町では、現在2か所ある図書室の図書館活動の活性化に向けて、今年度に臨時職員を増員し、図書室の資料や利用規定等の整備に取り組んでいる。職員が6月9日と3月8日に川根本町を訪問し、図書室や自動車図書館の視察を行い、運営相談にも応じた。また、11月17日と12月15日には川根本町の依頼により、図書室職員が県立中央図書館において見学及び研修を行った。

(イ) 協力車の定期運行による資料・情報の提供等

市町立図書館等への協力車の定期運行（協力車事業の統計 p117 参照）を実施し、情報交換及び収集、図書館運営に関連する資料の提供、事務連絡等を行い、各館との連携を図った。

協力車事業は、協力車による月に1度の定期運行8コースと、年に1度の分館・地域館訪問及び宅配による資料の搬送を実施した。

(ウ) 参考資料・二次資料の作成と提供

「図書館協力ハンドブック PLUM2015」、「静岡県図書館情報メールマガジン（第282号～第302号）」を発行した。

イ 職員研修（別項一覧表 p94～96 参照）

ウ 図書館活動の振興・奨励

(ア) 静岡県図書館大会の開催（平成27年度静岡県図書館大会 p118～119 参照）

(イ) 読書活動の広報

(ウ) 読み聞かせグループ活動との連携

(2) 関係団体との連携

ア 大学・専門図書館との連携

宅配による静岡県立中央図書館資料（協力貸出）の搬送を実施した。11月からは、静岡大学附属図書館が相互貸借の資料搬送に参加することとなり、これまで、県内の市町立図書館とは宅配便による送料借受館負担で相互貸借を行っていたが、送料の負担なく相互貸借サービスができることとなった。

研修では、静岡大学附属図書館浜松分館において、静岡県図書館協会と共催で大学・専門図書館研修を行った。

イ 静岡県図書館協会

県内図書館の連携を図り、情報交換するとともに図書館の振興を図った。

(ア) 平成27年度静岡県図書館大会の開催

(イ) 職員研修（別項一覧表 p94～96 参照）

(ウ) 「職員名簿」の発行

(エ) 「静岡県図書館協会 会報」(66号)発行

ウ 静岡県読書推進運動協議会

県内優良読書グループを表彰するなど、県民の読書活動の推進を図った。

(ア) 優良読書グループ表彰

(イ) 「静岡県 読書活動だより」の発行

(ウ) 静岡県読み聞かせネットワーク主催の「静岡県読み聞かせネットワーク全体研修会」への共催

11月8日(日)「ふじのくに文化の丘フェスタ 2015」の期間中、静岡県立中央図書館において、講演会「すべての子どもたちに読書の喜びを～点字つき絵本ができるまで～」を開催した。小学館から北川吉隆氏、福音館から中村悠子氏、こぐま社から関谷裕子氏、偕成社から千葉美香氏に講師として御出席いただき、それぞれの出版社における点字つき絵本の出版までの道のりや制作エピソード、「点字つき絵本の出版と普及を考える会」が発足した経緯などをお話しいただいた。(参加者 120 人)

(エ) 静岡県立中央図書館との共催による読書推進のための講演会の開催

2月13日(土)、静岡県立中央図書館を会場として、「人生を絵本とともに～大人にこそ絵本を！～」と題し、常葉大学短期大学部日本語日本文学科助教の宮本 淳子氏による講演が行われた。(参加者 101 人)

エ 静岡県読み聞かせネットワーク

事務局の連絡先として、問い合わせに対する案内、情報交換等を行った。また、静岡県読み聞かせネットワーク主催の、東部・中部・西部地区合同研修会「子どもを知る 本を知る 図書館を知る ～子どもと本を学ぶ講座～」の第3回「図書館を知る」の講師を資料課職員が担当した。

(3) 協力車事業

ア 平成 28 年 4 月現在訪問館数 (各館毎月 1 回の訪問・休止月あり) (単位：館)

市立図書館 (中央館)	市立図書館 (分館)	町立図書館	専門図書館	合計
23	1	11	1	36

イ 平成 27 年度協力車運行状況

コース名	訪問館数	訪問回数	コース名	訪問館数	訪問回数
県 央	4	9	駿 豆	4	9
岳 駿	4	9	伊 豆	9	9
中 部	4	9	東 部	3	9
遠 州	4	9	西 部	4	9
合 計	72 回 (延べ日数 81 日)				

ウ 協力車巡回と宅配による資料搬送数 (過去 3 年)

(ア) 県立資料搬送数 (単位：点)

	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年
市立図書館	13,930	13,234	11,368
町立図書館	2,212	2,268	1,502
その他	1,526	1,680	1,732
合計	17,668	17,182	14,602

(イ) 市町等資料搬送数 (単位：点)

	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年
市立図書館	39,602	38,444	39,488
町立図書館	4,246	4,766	4,738
その他	502	556	606
合計	44,350	43,766	44,832

(ウ) 県立個人貸出資料の市町図書館等窓口返却資料搬送数

(単位：点)

各窓口	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	開始日
市町立図書館	5,777	5,222	5,507	H11. 5. 1
総合教育センター “あすなろ”	11	19	28	H11. 5. 1
県民サービスセンター (ブックポスト)	1,627	1,561	1,712	H11. 11. 1
男女共同参画センター “あざれあ”	850	670	813	H13. 2. 15
グランシップ	4,207	2,179	3,099	H14. 8. 13
静岡大学	1,025	1,451	1,065	H18. 4. 1
合 計	13,497	11,102	12,224	

(4) 平成 27 年度 静岡県図書館大会

会期・会場：平成 27 年 11 月 9 日(月) 9:45～15:45 グランシップ中ホールほか

総合テーマ：「伝えよう図書館の力 広げよう新たな可能性」(参加者 887 人)

ア ライブトーク

テーマ	「人とまちの未来のために ～図書館でできること、図書館ができること～」
講師	パネリスト 神代 浩 氏 (文部科学省科学技術・学術総括官兼政策課長) 松本 茂章 氏 (公立大学法人静岡文化芸術大学文化政策学部 教授) コーディネーター 岡本 真 氏 (アカデミック・リソース・ガイド株式会社 代表取締役)

イ 分科会

第1分科会	図書館サービス (参加者 132 人) 「図書館の魅力を上手に伝える ～PR (パブリックリレーションズ) による味方づくり戦略入門～」 講 師 仁上 幸治 氏 (図書館サービス計画研究所 代表)
第2分科会	YAに対するサービス (参加者 204 人) 「YAのための読書環境づくり ～魅力ある本を作り、若者が本と出会うためにやってきたこと～」 講 師 西村 安曇 氏 (西村書店総合企画部・ヤングアダルト出版会広報グループ)
第3分科会	大人の読書活動 (参加者 229 人) 「世界は言葉でつながっている ～翻訳現場の最前線～」 講 師 阿部 賢一 氏 (立教大学文学部 准教授・翻訳家)
第4分科会	図書館資料 (参加者 114 人) 「これで解決！？地域資料 ～地域の記憶を集める・活かす～」 発表者 大川 英子 氏 (富士市立中央図書館 (図書担当 統括主幹)) 発表者 資料専門委員会
第5分科会	学校図書館 (参加者 96 人) 「学校図書館をデザインする ～空間演出に学ぶ、子どもたちをひきつけるアイデア～」 講 師 尼川 ゆら 氏 (空間演出コンサルタント)

第 6 分 科 会	大学図書館（参加者 42人） 「電子書籍の普及と大学図書館の役割 ～導入・提供・活用の事例から～」 講師 入江 伸 氏（慶應義塾大学メディアセンター本部 課長（電子情報環境担当）） 講師 餌取 直子 氏（お茶の水女子大学 図書・情報課係長（学習研究支援担当））
-----------------------	---

ウ 表彰(敬称略)

「読書県しずおか」づくり優秀実践校・団体（者）表彰			
・小学校の部	浜松市立中ノ町小学校		
・中学校の部	函南町立函南中学校		
・高等学校の部	静岡県立磐田南高等学校		
・特別支援学校の部	静岡県立沼津視覚特別支援学校		
・団体（者）の部	おはなしジャングル		（静岡市）
	小山町立図書館ボランティアおはなしポケット		（小山町）
全国公共図書館協議会表彰			
高塚 恵子	（静岡県立中央図書館）		
藤澤 全	（三島市立図書館協議会）		
佐野 清	（富士宮市立中央図書館）		
山口 美和子	（浜松市立城北図書館）		
静岡県図書館協会表彰			
青山 滋乃	（静岡県立中央図書館）		
木本 千珠子	（三島市立図書館）		
志村 典子	（三島市立図書館中郷分館）		
白井 由美子	（三島市立図書館協議会）		
段 千恵子	（三島市立図書館協議会）		
藤澤 全	（三島市立図書館協議会）		
廣瀬 裕紀子	（沼津市立図書館）		
福島 紀子	（富士市立中央図書館）		
松下 恵子	（掛川市立大東図書館）		
江間 利枝	（浜松医科大学附属図書館）		
増田 るい子	（東海大学短期大学部図書館）		
優良読書グループ表彰			
・（公社）読書推進運動協議会長賞			
朗読グループ かざぐるま	（焼津市）	代表	西岡 いつ子
・静岡県読書推進運動協議会長賞			
おむすびクラブ	（富士市）	秋山	恵子
東小とんことり	（富士宮市）	渡辺	亜矢子
しろやま読み聞かせクラブ	（島田市）	杉本	章子
おはなしクラブ	（牧之原市）	大石	尚美
おはなしの会赤いローソク	（袋井市）	小島	康代
小山町立図書館ボランティア おはなしポケット	（小山町）	湯山	峯子

10 総務係

(1) 図書館協議会

<委員>

職名	氏名	現職
会長	小林みどり	静岡県立大学附属図書館長（静岡県立大学教授）
副会長	鈴木 通代	静岡放送（株）ラジオ局 編成制作部 部長
委員	松林 孝範	静岡県教育研究会学校図書館研究部長（静岡市立清水駒越小学校長）
委員	原田 猛一	浜松市立城北図書館長
委員	久永 公子	磐田北小学校・磐田市立城山中学校 読み聞かせボランティア
委員	大井 喜子	島田市立大津小学校学習指導支援員、子ども読書アドバイザー
委員	光林 恵子	沼津市門池小学校放課後子ども教室運営委員
委員	青野 全宏	社会福祉法人ピロス 福祉ホームピロスのいえ施設長
委員	江崎 直利	(株)藤枝江崎書店代表取締役、(株)藤枝江崎新聞店専務 静岡県書店商業組合理事長
委員	工藤 達朗	沼津市教育委員会教育長

<第1回>

日時：平成27年9月15日（火）午後2時00分～4時00分

場所：静岡県立中央図書館 会議室

出席者：委員9人

議事：1 報告事項

- (1) 平成27年度基本方針と現状について
- (2) 特色ある企画や展示について
- (3) 書庫狭隘化について
- (4) 児童サービスについて
- (5) 地域資料デジタル化の状況、デジタル化推進WGの協議内容等報告

2 協議事項

平成27年度静岡県立中央図書館の運営について

<第2回>

日時：平成28年2月16日（火）午後2時00分～4時00分

場所：静岡県立中央図書館 会議室

出席者：委員9人

議事：1 報告・協議事項

- (1) 平成27年度事業及び利用状況について
- (2) 「平成27年度静岡県立中央図書館利用者」アンケート」及び「第16回県政インターネットモニターアンケート」について
- (3) 平成28年度事業計画及び年間行事予定について

11 管理係

(1) 施設設備の維持管理

図書館利用者の安全で快適な環境整備を図るため、下記の修繕及び施設設備の維持管理業務を行った。

ア 修繕関係

(ア) 資料棟外壁修繕工事

資料棟外壁のタイルやモルタル、コンクリートの欠損や浮き、ひび割れ等を補修した。

(イ) 屋上防水補修・トップライトシーリング工事

インフォメーション棟3階展示室が雨漏りしたため、屋上の防水及びトップライトのシーリングを補修した。

(ウ) 加湿用蒸気バルブ交換工事

展示室No. 1、会議室、ブラウジング系統の加湿用蒸気バルブから蒸気漏れが発生したため、バルブを交換した。

(エ) 書庫照明器具安定器交換工事

書庫1、書庫2の照明器具の安定器交換を行い、不点個所を改善した。

イ 設備関係

(ア) 1階事務室網戸取付工事

1階事務室に網戸を取付けた。

(イ) アクセスポイント設置に伴う通信工事

閲覧室の無線LAN設備導入に伴い、電話交換室のONUから閲覧室までUTPケーブルを這わせる通信工事を行った。

(ウ) 事務室入口間仕切りカーテン設置工事

事務室の空調効率を上げるため、書庫エリアとの境に、間仕切りカーテンを設置した。

(エ) 集密書架設置

書庫狭隘化対策のため、書庫10と館外奉仕室に集密書架を設置した。あわせて館外奉仕室を書庫11、県史保管庫を書庫12と改め収納スペースを拡充した。

(2) 施設利用状況

各種研修・会議・文化教養の場として、会議室・講堂・展示室の利用促進を図った。主な利用団体、利用目的としては、社会教育並びに図書館関係団体主催による研修会、連絡者会議、NPO法人や市民サークル等による会議、講習会等に利用された。

展示室にて静岡県埋蔵文化財センターによる常設展を継続して実施した(4/1～3/31)。

各施設の外部利用人数(展示室は貸出日数)は以下のとおりである。

	講 堂	会議室	中集会室	小集会室 A	小集会室 B	合 計 (人)	展示室 (日)
上半期	758	429	238	285	625	2,335	183
下半期	743	1,248	304	286	835	3,416	183
合 計	1,501	1,677	542	571	1,460	5,751	366

12 健康医療情報サービス

当館では平成23年7月に健康医療情報コーナーを開設し、健康医療情報サービスを開始した。

コーナーからの情報発信を中心に、Webサイト上でも当館のサービスへ関心を寄せていただくために情報提供を行っている。本年度も、静岡県看護協会の「まちの保健室」実施や健康医療情報講座を開催し、来館の方々に直接健康医療情報を届ける役割を果たした。

(1) サービス内容

ア 健康医療情報コーナー

- ・特集展示

月	テーマタイトル	月	テーマタイトル
3・4月	アレルギー・花粉症・PM2.5	10月	依存症
5月	健康診断	11月	糖尿病
6月	食育	12月	耳・鼻
7月	血液	1月	インフルエンザ・ノロウイルス
8月	熱中症・食中毒	2月	睡眠
9月	家電製品・家庭内事故	3・4月	アレルギー・花粉症

- ・新聞記事切抜き情報と関連資料展示
- ・健康医療参考資料（医学辞典・患者会資料等）
- ・がん関連資料 約200冊（6種別区分）
- ・健康医療系雑誌 約10タイトル（『がんサポート』『公衆衛生』他）
- ・県内医療機関等パンフレット 約70点（病院だより・相談窓口情報他）

イ オンラインデータベースコーナー

*インターネット上で有料公開されている医療情報を無料で利用できる。

- ・医学論文検索 医中誌Web（国内外の医学・薬学などに関する論文や解説記事）
- ・医療関連新聞記事検索 静岡新聞データベースplus日経テレコン（日経新聞・静岡新聞）
聞蔵IIビジュアル（朝日新聞） ヨミダス歴史館（読売新聞）

(2) 関連事業

ア 講座

- ・健康医療情報講座 平成27年9月11日（金） 14:00～15:30 参加:15人
「家電製品を安全に使うために」
講師：一般財団法人家電製品協会消費者部職員 静岡県中部県民生活センター職員
- ・健康医療情報講座 平成28年2月20日（土）14:00～16:00 参加:72人
「女性の睡眠障害について」
講師：国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター睡眠障害センター長 亀井雄一氏

イ その他

- ・まちの保健室 年2回実施 *県看護協会による健康相談会 参加：延べ36人
- ・医学情報キホン勉強会（県立こども病院と共催） 参加：60人
平成27年7月13日（月）13:00～17:00 会場：静岡県立こども病院
- ・「バクバクの会2015年度定期総会・講演会・交流会 in 静岡」内での出前図書館
平成27年8月2日（日）12:00～15:00 会場：城東保健福祉センター3階
*県立図書館所蔵資料（主に医療情報）展示、新規利用者カード登録、貸出処理等

13 歴史文化情報センター

(1) 県史編さん資料の保存・整理・公開

ア 保存・整理

当センターは『静岡県史』編さん事業の過程で集められた県内外の古文書類等の複製資料や明治以降の県内発行新聞各紙など約 16 万点以上の資料と他県史・県内市町村史を中心とする刊本を保管している。現在、保管する古文書資料等の目録作成及びデータベースへの登録を継続して行っている。

イ 公開

刊本・新聞は閲覧できるが、貸出はしていない。古文書類については、目録作成が終了したものから原所蔵者に対し順次資料利用公開の許可申請を行い、公開許可の回答が得られたもののみを公開している。

また、Web での公開許可が得られた資料については、平成 20 年 4 月から目録公開を開始した。平成 22 年 5 月の新システム稼働に伴い、所蔵者から公開許可をいただいている資料の画像登録と公開も新たに始め、情報発信を充実させた。

平成 27 年度も引き続き古文書目録及び画像資料を Web 公開した。また、布達及び新聞紙情報の目録も公開している。

(2) 利用状況

平成 27 年度当センターの開館日数は 243 日、来所者人数 384 人、利用内訳は新聞閲覧点数 49 点 (350 件)、古文書閲覧点数 69 点 (549 件)、複写申請 94 点 (712 件)、資料掲載等許可申請 75 点 (152 件)、レファレンス 336 件であった。

レファレンスの内訳は下記の表の通りである。

ア レファレンス受付方法

方法	割合 (%)
電話	57.14
来室	32.14
その他	10.72

イ レファレンス内容

内容	割合 (%)
県史の内容等	0.89
歴史・民俗について	34.82
資料利用について	32.15
その他	32.14

ウ レファレンス対象

対象	割合 (%)
一般(県内)	24.40
一般(県外)	11.61
県庁内	18.45
研究者・学生	8.93
自治体	14.29
新聞社・出版社等	18.75
その他	3.57

14 資料紹介 戦前の静岡県史資料等（その2）

歴史文化情報センター

はじめに

大正15年（1926年）から昭和19年（1944年）まで実施された静岡県史編纂事業（以下「戦前の県史編さん」という。）については、織田元泰氏が『予算及委員会関係綴』を基に詳しく考察されている（注1）。しかし、第3巻まで刊行したものの戦争により事業は中断され、以降どのような資料を掲載する予定であったか具体的には不明である。2014年偶然、県立中央図書館内の未整理資料箱中から戦前の県史編さんに係る資料が発見されたため、その概要を平成27年度『葵』第49号に「資料紹介 戦前の静岡県史資料等（その1）」（以下「資料紹介1」という）として紹介した（注2）。今回はその中で、戦争で未完となった第4巻以降に掲載予定であった県内小字調査に関わる資料について述べてみたい。

1 昭和8年度の小字名調査に係る依頼書及び回答集計簿について

今回発見された県史に係る資料は、上記「資料紹介1」に表3として35点の目録を掲載した（注3）。以下では、この表3に掲載された資料を紹介するが、便宜的に「資料番号〇」という名称で示す。当該の県内小字調査に関わる資料は29点である。今回は紙面の都合上、小字調査資料のなかでも所謂「行政文書」を紹介し、その成果である「小字一覧表」については次回以降の『葵』で記述する。

(1) 昭和8年度の依頼書（資料番号7）

字名調査に係る資料には、昭和8年度のものと同昭和11年度のものがある。昭和8年度の依頼書は同年11月30日付、教第二三七〇号で学務部長名から市町村長に出された「土地小字名調査二関スル件依頼」がある（資料番号7）。趣旨は「全国から集められた小字名が関東大震災により焼失し、復元することが難しい。小字名は地方史、地誌の研究の重要な資料であるため、県史編さん史料として小字名台帳作成を依頼する。」というものである。さらに依頼書には県指定用紙に漏らさず記載し、特殊な読み方をする小字にはフリ仮名をつけるよう要望している。締め切りは同年12月20日まで、回答先は「静岡市追手町 県立葵文庫内県史編纂係」となっている。

下記(2)で述べる回答集計簿には「(依頼書) 発信月日」が11月21日ものと11月30日のものがある。安倍郡及び志太郡へ11月21日に送付し、その他の市町村へは11月30日に発送したのであろう。ただ、今回発見の送付書に11月21日付のものはない。

写真1（資料番号9）昭和8年11月21日付回答集

(2) 昭和8年度の小字調査に係る回答集計簿（資料番号8、9）

上記依頼に対する回答集計簿が「小字名調査二関スル控」（資料番号8、9）である。写真1（資料番号9）は安倍郡及び志太郡の回答集計簿である。昭和8年11月21日の日付と「小字名調査二関スル控」の題名が手書きされている。縦書きの静岡県公用紙を横線で5段に区切り、最上段に安倍郡15町村名及び志太郡28町村名を記載し、次の段に（依頼書）発信月日、回報到着月日、督促状発信月日、備考の順に全て手書きで記載されている。11月21日付の依頼書に対し安倍郡梅ヶ島村と清沢村以外の町村は12月20日までに回答しており、「回報到着月日」欄に到着日と赤色で二重丸印が打たれている。最も遅い清沢村も昭和9年5月18日には回答しているため、この時点で志太郡、安倍郡の回答は全て揃ったことになる。

写真2（資料番号8）は県内全ての市町村の回答集計簿で、県公用紙に「小字名調査二関スル控え」の手書き題字がある。横線により上下5段に区切られ、静岡市、浜松市、沼津市、清水市に続き県内各郡の町村名が最上段に印刷されている。下段には（依書）発信月日、回報到着月日、督促発信月日、備考の欄が手書き記載されている。安倍郡、志太郡の町村に対し昭和8年11月21日に依頼書発信した後、県下全ての市町村に11月30日付で依頼書を発信している。安倍郡及び志太郡については「発信月日」欄に記載があるのみで、「回報到着月日」以下の欄には記載がない。おそらく上述した「昭和8年11月21日 小字名調査二関スル控」（写真1）を作成していたため、あえて記載しなかったのであろう。

回答状況（写真2）を見ると、そのほとんどが12月20日までに到着し、遅れた町村に対しては昭和9年1月11日付で督促状が発信されている。督促を受けた町村の多くは、遅くとも昭和9年5月18日までに回答したようであるが、賀茂郡城東村、田方郡北狩野村、對島村、周智郡熊切村、磐田郡十束村、岩田村の「到着月日」欄は空欄で○印も打たれていない。最後まで回答がなかったのであろう。

町村以外では、沼津市の「回報到着月日」、「督促発信月日」欄も空欄になっており、○印も打たれていない。沼津市もおそらく回答がなかったものと思われる。また、昭和9年3月16日に回答した小笠原郡倉真村のように「備考」欄に「当管内には小字ナシ」と記している村もある。この昭和8年度依頼に対する各市町村の回答原紙も今回見つからない。

写真2（資料番号8）昭和8年度回答集計簿

2 昭和 11 年度の大字名小字呼名調査に係る依頼書及び回答集計簿について（資料番号 10～14）

(1) 昭和 11 年度の依頼書（資料番号 10、11）

昭和 11 年度の依頼書は昭和 12 年 2 月 23 日付で学務部教育課県史編纂係から市町村長に出された「大字名小字名呼名調査二関スル件依頼」である（資料番号 10）。趣旨は「昭和 8 年度の小字名調査で回答のあった小字の呼称が難解であることから、全ての字名にフリ仮名をつけてほしい。」というものである。文章中に「御送付附申上候用紙ノ各字名ノ漢字」とあることから見て、昭和 8 年度の依頼に対し回答があった小字名を県公用紙に漢字（タイプ打）で記載し、これを各市町に送付したものである。

依頼書に記載されていないが、今回発見の資料中に「書名五十音排列基準」の標題が付けられた 1 枚の紙がある（資料番号 11）。紙の上段にタイプで「アイウエオ～ラリルレロワ」とカタカナが打たれ、「三ツ穴 遠江」などの用例が記されている。下段には「一、発音假名遣による」、「二、濁音及半濁音は静音と見做す」などフリ仮名記載についての注意点が列記されている。これも所定用紙とともに発送されたのであろう。

(2) 昭和 11 年度の大字小字名呼名調査に関わる回答集計簿（資料番号 12～14）

上記依頼に対する回答集計簿が写真 3～5（資料番号 12～14）である。

写真 3（資料番号 12）は、縦書きの静岡県公用紙を横線で 4 段に区切り、最上段に「充名」欄を設け郡名と町村名を記載し、次の段に「(依頼書) 発送月日」、「返着月日」、「備考」欄が順に記載されている。全て手書きで、昭和 12 年 2 月 23 日から 3 月 31 日までに依頼書を発送した町村をほぼ発送月日順に記載している。

この間に発送した町村は、浜名郡 38 町村（浜松市に合併された曳馬村も含む）、引佐郡 10 町村（引佐郡を磐田郡と誤記しているもの 1 村、志太郡と誤記しているもの 1 村含む）、磐田郡 35 町村、周智郡 10 町村、小笠原郡 37 町村（名称不明村 1 含む）、榛原郡 11 町村、志太郡 26 町村、安倍郡 1 村である。町村の記載順はまちまちで、有度村を除く安倍郡以東の郡へは、昭和 12 年 4 月以降に依頼書を送付したため当資料に記載がなく、また市へ送付した記載もない。

充名		発送月日	返着月日	備考
浜名郡	磐田郡	二月二十五日	三月四日	
磐津	雄略		三月五日	
新所	舞坂	二月廿五日	三月七日	
一宮	三倉	三月十日	三月十三日	
大方	園田	三月十四日	三月十六日	
飯田村	大森	三月十八日	三月二十日	
森町		三月二十一日	三月二十三日	

写真 3（資料番号 12）昭和 11 年度手書き回答集計簿

写真4（資料番号13）は県内全ての町村の回答集計簿で、縦書き県公用紙を横線により上下4段に区切り、静岡市、浜松市、沼津市、清水市に続き県内各郡の町村名が最上段に印刷されている。下段の欄に項目名はないが、手書きで依頼書発送日と回答到着日が記されている。最下段の余白は所謂「備考」であろう。上述の写真3（資料番号12）の町村についても当資料に記載しているが、発送日または回答日を書き漏らしているものがある。

依頼書発送日を見ると写真3（資料番号12）のとおり2月23日を初日に県西部地域から東部地域へと送付し、昭和12年7月16日賀茂郡の町村で完了している。回答到着日もほぼこれに沿う形で同年12月までにほとんどの町村から回答が寄せられているが、安倍郡機織村のように昭和13年2月4日回答のものもある。回答年月日から見て、当該回答集計簿は昭和12年度内に回答があった町村を集計したのであろうが、市に関する記載はない。

回答状況をみると、依頼書送付したが同年度内に回答のないものが浜名郡2村（積志村、飯田村）、周智郡1村（水窪村）、小笠郡1村（朝比奈村）、榛原郡3村1町（地頭方村、管山村、勝間田村、川崎町）、志太郡1村（東川根村）、安倍郡2村（玉川村、中藁科村）、賀茂郡4村（南崎村、三坂村、三浜村、中川村）の計15町村ある。さらに写真3（資料番号12）及び写真4（資料番号13）にも依頼書送付日及び回答書返送日が記されていない町村がある。

磐田郡1村（十束村）、周智郡1村（熊切村）、小笠郡倉1村（眞村）、榛原郡5村（白羽村、五和村、下川根村、中川根村、上川根村）、志太郡1村（笹間村）、田方郡2村（北狩野村、對馬村）、賀茂郡2村（城東村、稲梓村）の計13村がこれである。このなかで十束村には「台帳ナシ」、熊切村には「台帳未着」と書かれている。この「台帳未着」の文字に注目すると、磐田郡岩田村の回答欄に「4月5日」の日付が記載されているにも関わらず「台帳ナシ」と書かれているものがある。

おそらく、上述した昭和8年度の小字調査に関し、最後まで回答がなかったのが賀茂郡城東村、田方郡北狩野村、對島村、周智郡熊切村、磐田郡十束村、岩田村であることから、「台帳ナシ」、「台帳未着」とは昭和8年度に作成依頼した小字台帳が未だ（昭和12年度内）県に届いていないことを意味するのであろう。小笠郡倉眞村は昭和8年の調査に対し「当管内には小字ナシ」と回答しているので依頼書を送付しなかったのであろうが、榛原郡白羽村、五和村、下川根村、中川根村、上川根村、志太郡笹間村、賀茂郡稲梓村へは、この時期になっても依頼書が送付されていなかった可

写真4（資料番号13）昭和11年度回答集計簿

能性が高い。

不思議なことに、写真4（資料番号13）には送付日及び回答日の記載がないにも関わらず、「送付日」欄に「了」と記されている町村が14箇所ある。磐田郡2村1町（豊浜村、佐久間村、見付町）、周智郡1村1町（久努西村、山梨町）、小笠郡4村（東山村、岩滑村、土方村、千浜村）、富士郡1村1町（白糸村、鷹岡町）、駿東郡1町（原町）、田方郡1村1町（内浦村、網代町）である。これ以外にも浜名郡和田村に「了」の記載がある。写真3（資料番号12）を見ると、和田村の村名を二重線で消したうえで「発送月日」欄に3月1日と記している。これら「了」字は全て依頼書送付欄に記されており、そのほとんどの回答欄には、回答済の町村と同じく赤○印が記載されている。この赤○印については、当該資料に赤字で「スミノ印○」と注記されている箇所があることから、「了」の文字は依頼書及び回答書を送付完了したと言う意味であろう。

写真5（資料番号14）は県内全ての市町村の回答集計簿で、フリガナ付けに関する小字名調査の最終集計簿である。県公用紙を横線により上下6段に区切り、静岡市、浜松市、沼津市、清水市に続き最上段に県内各郡の町村名が印刷されている。町村名の下段には手書きで、「原簿」、「フリガナ原簿」、「カード記入済」、「印を押す欄(項目なし)」、「督促状発信」、「回答到着日(項目なし)」が続いている。督促状発信日及び回答到達日付からみて、昭和13年4月から9月14日までの間に記載されはじめ、昭和14年7月14日を過ぎてその成果がまとめられたのであろう。記載内容を見ると「原簿」とは、昭和8年度の小字調査に対して市町村から回答のあった小字原簿のことであり、「フリガナ原簿」とは昭和11年度の大字小字調査に対して市町村から回答のあったフリガナが付けられた小字原簿のことであり、「カード記入」とはこの原簿をカード化する作業のことであろうが、該当物は発見されていない。

「原簿」欄の記載内容をみると、提出のあった町村には鉛筆で○印が付けられているが（○印を省略し空欄としている町村も多い）、周智郡熊切村、小笠郡倉真村、田方郡北狩野村、對馬村、賀茂郡城東村には「無し」と記載され、さらに「フリガナ原簿」欄にも「無し」の記載がある。小笠郡倉真村は昭和8年の調査で「字ナシ」としているので、これ以外の村は昭和13年8月末(推定)に至っても、昭和8年度の小字回答及び昭和11年度のフリガナ付け小字回答をしていなかったのであろう。これらの村と同じく原簿未提出であった磐田郡岩田村と十束村を見ると、岩田村は「原簿」及び「フリガナ原簿」ともに提出済（「原簿」欄空欄は

写真5（資料番号14）昭和11年度最終回答集計簿

○印省略。フリガナ原簿欄に○印あり) になっており、十束村は原簿を提出したものの「フリガナ原簿」欄は「未着」となっている。十束村の最下段に「十三年十月二十七日原簿用紙封入依頼 三月二十七日到着」とあることから、両村ともにこれに回答したのであろう。

上記の他に「フリガナ原簿」欄の記載を見ると、「未着」となっているものが浜名郡 2 村（積志村、飯田村）、周智郡 1 村（水窪村）、小笠村 1 村（朝比奈村）、榛原郡 8 村 1 町（地頭方村、管山村、川崎町、勝間田村、吉田村、五和村、下川根村、中川根村、上川根村）、志太郡 1 村（東川根村）、安倍郡 1 村（中藁科村）、田方郡 1 村（西浦村）、賀茂郡 4 村（稲梓村、三坂村、美浜村、中川村）の計 20 箇所（十束村除く）ある。昭和 8 年度原簿未提出町村を含めフリガナ原簿未提出の町村に対して、昭和 13 年 9 月 14 日に督促状が出され、遅くとも昭和 14 年 7 月 14 日までに全ての町村から回答が届いている。これまで作成された回答集計簿の督促状と異なり、「督促状発信」欄の直上段に割印状のものが押されている。回答を受けたこと又は督促状を発送したことを確認する最終の印であろう。原印は大型楕円形を呈していると思われ、印の上半分が原簿に押されている。原印の文字は不明であるが、「契」文字の上半分のようにも見える。

注目すべきは当該資料の最後に「沼津市」、「清水市」へも督促状を送付しており、沼津市には 9 月 14 日に原簿提出（おそらくフリガナ原簿も含む）の依頼状を送付している。沼津市からは昭和 13 年 9 月 22 日に回答があり、清水市からは昭和 14 年 2 月 23 日に回答が寄せられている。つまり、昭和 14 年 7 月 14 日に県内すべての市町村からフリガナ付き原簿が提出されたことになる。昭和 8 年 11 月 21 日に小字調査を開始後 5 年以上の歳月をかけフリガナの付いた小字名簿が完成したわけである。

3 小字調査に係る依頼書及び回答集計簿のまとめ

上述したとおり昭和 8 年度及び昭和 11 年度に実施した県内小字調査について、成果物である小字一覧表除く、所謂「行政資料」に関わるものを 8 点紹介した。昭和 8 年度調査に関わるもの 3 点、昭和 11 年度調査に関わるもの 5 点である。内訳は昭和 8 年 11 月 30 日付けで各市町村に送付した小字調査依頼状 1 点、当該依頼に対する（依頼書）送付状況・回答状況を集計したもの 2 点（写真 1、2）、昭和 12 年 2 月 23 日付けで各市町村に送付したフリガナ付きの小字名簿作成依頼状 1 点、表記方法記載例 1 点、当該依頼に対する（依頼書）送付状況・回答状況を集計したもの 3 点（写真 3～5）である。各年度の依頼結果は、昭和 8 年度の調査で小字原簿（小字一覧表）を提出しなかった市町村が 7 か所（沼津市、磐田郡 2 村、周智郡 1 村、田方郡 2 村、賀茂郡 1 村）である。昭和 11 年度にはこの小字台帳（小字一覧表）に記されている小字にフリガナを依頼がなされ、最終的には昭和 14 年 7 月 14 日までに全ての市町村からフリガナの付いた小字台帳（小字一覧表）が提出されている。

このフリガナの付いた小字原簿（小字一覧表）の一部は、現在、静岡県立中央図書館で保管・公開されているが、所在不明になったものもある。このことについては次回『葵』で述べたい。

注 1 「静岡県史編纂事業覚書」『葵』17 号 昭和 58 年 2 月 静岡県立中央図書館

注 2 「資料紹介 戦前の静岡県史資料等（その 1）」『葵』49 号 平成 27 年度 静岡県立中央図書館

注 3 上記の注 2 の文献中に「表 3 戦前の県史資料目録」として掲載した。今回の文中に（資料番号 ○）として記されている番号は、当該表 3 に記されている資料番号と同じものである。

Ⅲ 施設及びサービス案内

1 図書館配置図



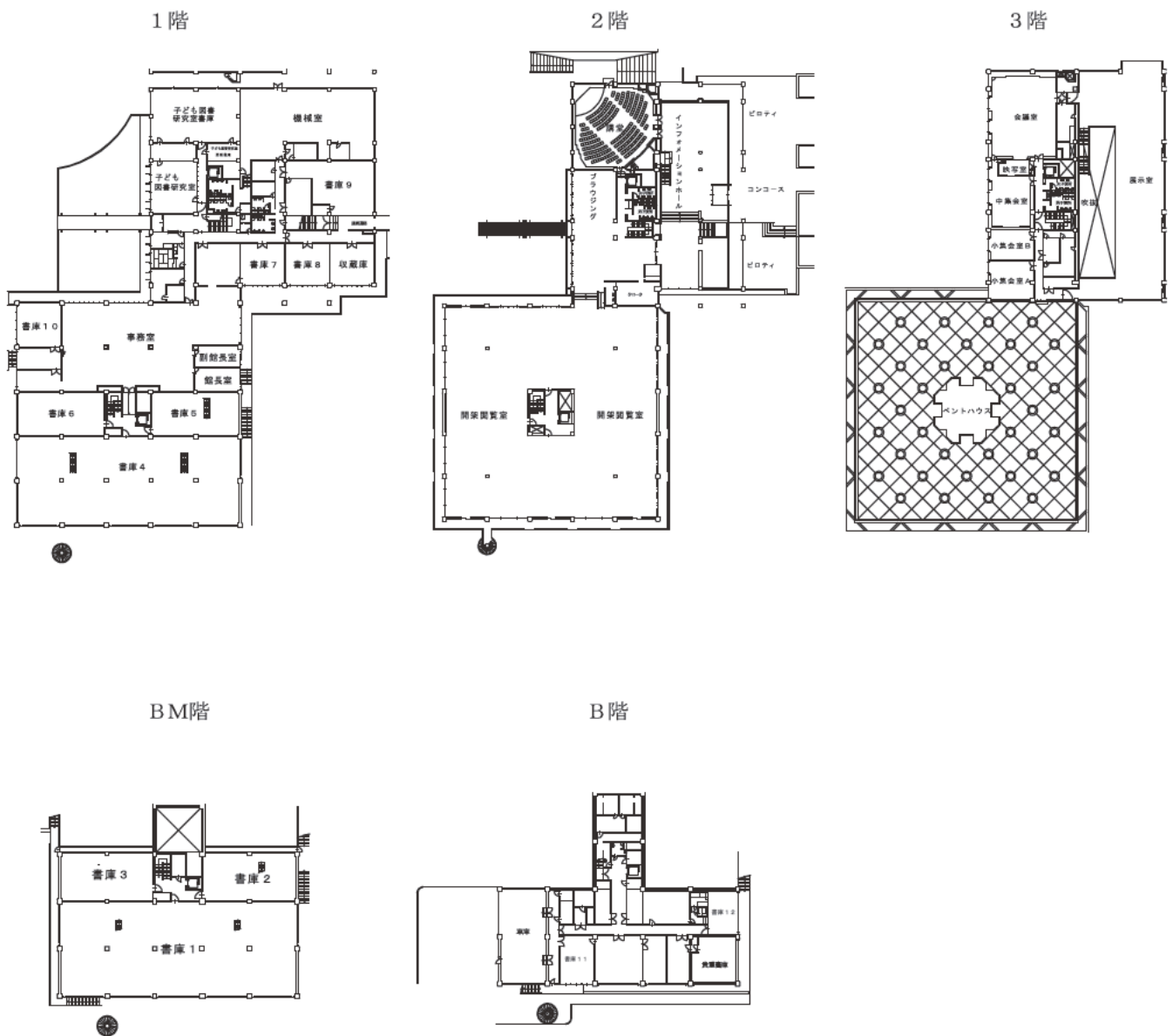
2 施設の概要

- ・鉄筋コンクリート 地上3階 地下1階
- ・延面積 8,816.64 m²
- ・主な施設 閲覧室 (1,522.56 m² 188席) 書庫 (延2,515.56 m²) 子ども図書研究室 (92.00 m²)
事務室 (593.60 m²) 電算室 (96.00 m²)

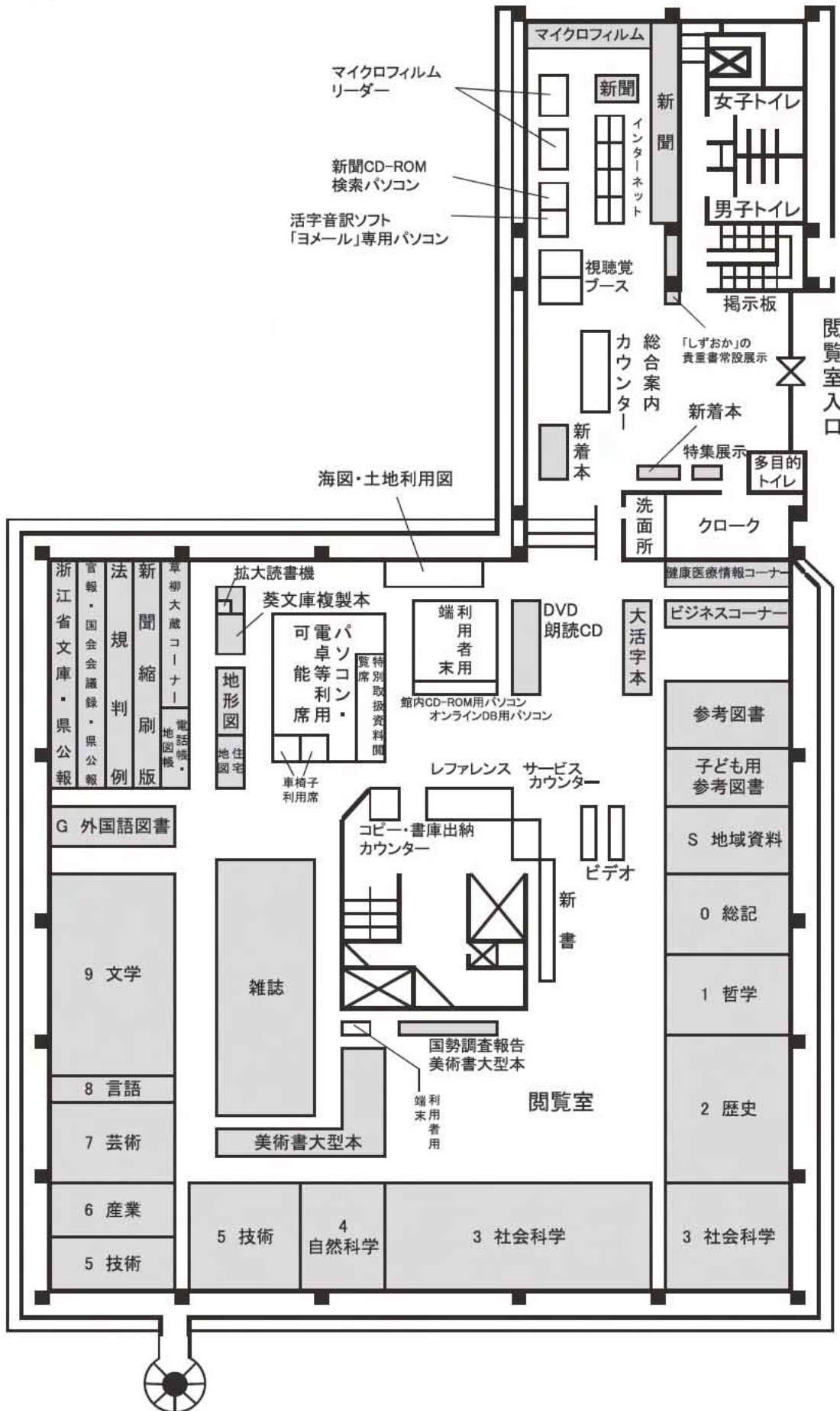
.....

講堂 (276人) 会議室 (120人)
中集会室 (50人) 小集会室A (30人) 小集会室B (20人)
展示室 (延壁90 m²)

- ・平面図 (下記のとおり)



3 閲覧室案内図



4 利用案内（平成 28 年度）

＝静岡県立中央図書館＝

◆開館時間

午前 9 時～午後 5 時

（水、木、金曜日（祝日を除く）は午前 9 時～午後 7 時）

◆休館日

館内整理日（毎月の末日（平日）、第 1・3・5 月曜日（祝日の場合は翌日））

特別整理期間

年末年始（12 月 28 日～1 月 4 日）

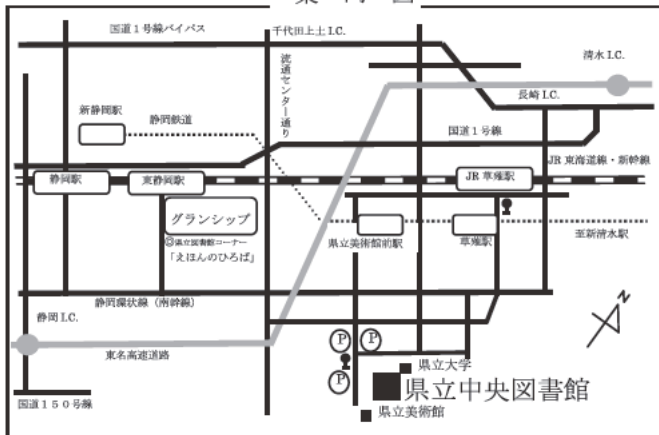
◆資料

- 一般資料・児童資料・外国語資料・地域資料など
- 新聞・雑誌・マイクロフィルム
- DVD・ビデオテープ・朗読 CD
- 特別取扱資料（葵文庫、久能文庫など）
原本の閲覧を希望する場合は事前の申込みが必要。
問合せ先 調査課一般調査係（TEL 054-262-1244）

◆閲覧・貸出・複写

- 閲覧室には 19 万冊の資料が開架になっており、閲覧室は約 190 席
- 図書、雑誌、付録の貸出しは合わせて一人 20 冊、22 日以内
視聴覚資料の貸出しは一人 3 点まで、22 日以内。
初めての方は、住所等の確認できるものが必要（身分証明書、運転免許証）
- 資料は著作権法などの許す範囲で複写可能

案内図



◆総務課（TEL 262-1242、1265）

- 図書館運営に関すること。
- 図書館協議会に関すること。
- 予算、決算及び会計に関すること。
- 職員のサービス及び福利厚生に関すること。
- 施設等の管理及び運営に関すること。
- 財産及び物品の管理に関すること。
- 講堂、会議室の利用に関すること。

◆企画振興課（TEL 262-1246）

- 図書館業務の企画、調査及び広報に関すること。
- 図書館職員の研修に関すること。
- 図書館講座・展示会の開催に関すること。
- 公共図書館運営の支援及び協力に関すること。
- 電算システムの管理、運用及び調整に関すること。
- 関係団体に関すること。

◆資料課（TEL 262-1243）

- 一般資料、外国語資料、児童資料、視聴覚資料、逐次刊行物の受入れ及び整理に関すること。
- 資料の相互貸借・協力貸出に関すること。
- 寄贈資料に関すること。
- 閲覧業務に関すること。
- グランシップ県立図書館コーナー「えほんのひろば」、子ども図書研究室に関すること。
- 静岡県視聴覚ライブラリーの資料に関すること。
- 静岡駿河区教科書センターに関すること。

◆調査課（TEL 262-1244、1245）

- レファレンスに関すること。
- 特別取扱資料に関すること。
- 資料の掲載等に関すること。
- 地域資料の収集、整理、保存に関すること。

所在地 〒422-8002

静岡市駿河区谷田 53-1

TEL 054-262-1242(代)

FAX 054-264-4268

＝グランシップ県立図書館コーナー＝
「えほんのひろば」

◆開館時間

午前9時30分～午後6時

◆休館日

静岡県コンベンションアーツセンターが全館休館日として指定する日

国民の祝日（5月3日～5日を除く）

年末年始（12月28日～1月4日）

県立中央図書館長が指定する日

◆業務内容

- 児童図書（絵本）の閲覧、貸出、返却
- 本館資料の貸出・返却
- レファレンスサービス

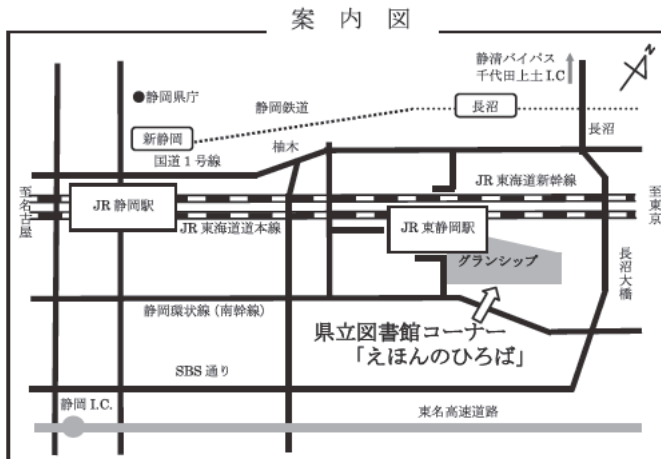
所在地 〒422-8005

静岡市駿河区池田79-4

（静岡県コンベンションアーツセンター
「グランシップ」2階）

TEL 054-202-2131

FAX 054-202-2131



＝歴史文化情報センター＝

◆開館時間

午前9時～午後5時

◆休館日

土曜日

日曜日

国民の祝日

年末年始（12月29日～1月3日）

◆資料

- 静岡県史・静岡県史研究・静岡県史だよりなど
- 明治時代以降の県内発行の新聞
- 他府県史・他都道府県の市町村史
- 古文書、新聞等の複写及びマイクロフィルム

◆業務内容

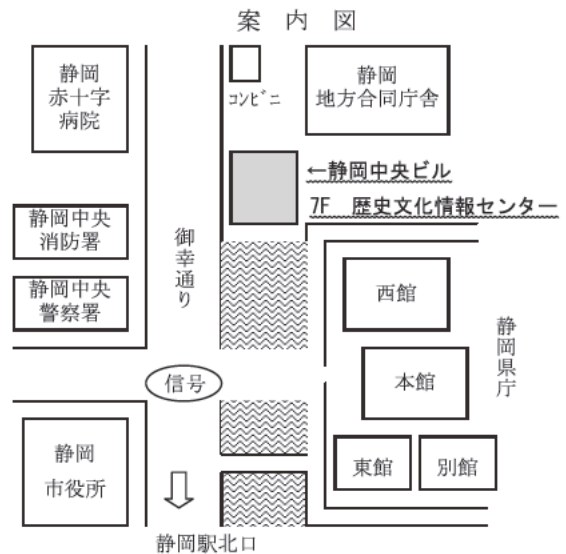
- 県史編さんの収集資料の保存・整理・公開に関すること。
- 刊行物及び県内の歴史・民俗等に関する問い合わせへの回答。
- 開架図書・資料の公開

所在地 〒420-0853

静岡市葵区追手町9-18（静岡中央ビル7F）

TEL 054-221-8228

FAX 054-255-3988



総目次 (41号 (平成19年5月31日発行) ~49号 (平成27年6月1日発行))

注：40号までの目次については、「葵」40号 (平成18年5月31日発行) に収録しています。

平成18年度 (41号)

巻頭言 静岡県立中央図書館長 天野 忍	1
I 静岡県図書館界の動き	2
II 事業報告	
1 図書係	6
(1) 資料の充実 (2) 視聴覚資料の充実	
(3) 図書館利用状況	
(4) 予約・リクエストおよび相互貸借	
(5) 静岡県視聴覚ライブラリー	
(6) 子ども図書研究室	
(7) グランシップ県立図書館コーナー「えほんのひろば」	
(8) 書庫開放 (9) 利用案内 (10) その他	
2 新聞雑誌係	15
(1) 逐次刊行物の充実	
(2) 特集記事の電算入力	
(3) 郷土雑誌の目次、静岡県関係記事・論文の電算入力	
(4) 静岡県内新聞雑誌総合目録	
(5) 新規受入雑誌の新着棚展示 (6) その他	
3 一般調査係	18
(1) レファレンスサービスについて	
(2) 市町立図書館などへの支援	
(3) 特別取扱資料等の保存と公開	
(4) その他の関連事業	
4 地域調査係	22
(1) 地域資料の充実 (2) 提供資料の充実	
(3) 郷土資料MARC提供	
(4) 市町立図書館への援助 (5) その他	
5 企画係	24
(1) 図書館職員研修 (2) 利用者からの声	
(3) イベント等	
(4) 施設見学・視察、職場体験、図書館実習など	
(5) 図書館だよりの発行・当館ホームページの運用	
(6) 数値目標および達成状況 (7) その他	
《付録資料1》平成18年度『県立中央図書館利用者アンケート』集計結果	
6 振興係	37
(1) 市町立図書館振興	
(2) 関係団体との連携	
(3) 平成18年度協力車事業の統計	
(4) 平成18年度静岡県図書館大会	
7 総務係	42
(1) 図書館協議会	
8 管理係	44
(1) 施設設備の維持管理 (2) 施設利用状況	
9 歴史文化情報センター	45
(1) 県史編さん資料の保管・整理・公開	
(2) 利用状況 (3) レファレンス	
10 ビジネス支援	47
11 その他 図書館文化祭	49
III 特集	50
(1) 館蔵『大法炬陀羅尼経』巻第十八について	
(2) 関口隆吉と図書館構想	
IV 資料紹介	
鯨の大漁時における湊内の収支について	65
表紙……「関口隆吉書簡」(勝海舟宛)	

平成19年度 (42号)

巻頭言 静岡県立中央図書館長 天野 忍	1
I 静岡県図書館界の動き	2
II 事業報告	
1 図書係	5
(1) 資料の充実 (2) 視聴覚資料の充実	
(3) 図書館利用状況	
(4) 予約・リクエストおよび相互貸借	
(5) 静岡県視聴覚ライブラリー	
(6) 子ども図書研究室	
(7) グランシップ県立図書館コーナー「えほんのひろば」	
(8) 書庫開放 (9) 利用案内	
2 新聞雑誌係	13
(1) 逐次刊行物の充実	
(2) 特集記事の電算入力	
(3) 郷土雑誌の目次、静岡県関係記事・論文の電算入力	
(4) 静岡県内新聞雑誌総合目録	
(5) 新規受入雑誌の新着棚展示 (6) その他	
3 一般調査係	16
(1) レファレンスサービスについて	
(2) 市町立図書館などへの支援	
(3) 特別取扱資料等の保存と公開	
(4) その他の関連事業	
4 地域調査係	20
(1) 地域資料の充実 (2) 提供資料の充実	
(3) 郷土資料MARC提供	
(4) 市町立図書館への援助 (5) その他	
5 企画係	22
(1) 図書館職員研修 (2) 利用者からの声	
(3) イベント等	
(4) 施設見学・視察、職場体験、図書館実習など	
(5) 図書館だよりの発行・当館ホームページの運用	
(6) 数値目標および達成状況 (7) その他	
《付録資料1》平成19年度『県立中央図書館利用者アンケート』集計結果	
《付録資料2》『県立中央図書館に関するアンケート (県内市町立図書館で実施)』集計結果	
6 振興係	37
(1) 市町立図書館振興	
(2) 関係団体との連携	
(3) 平成19年度協力車事業の統計	
(4) 平成19年度静岡県図書館大会	
7 総務係	42
(1) 図書館協議会	
8 管理係	43
(1) 施設設備の維持管理 (2) 施設利用状況	
9 歴史文化情報センター	44
(1) 県史編さん資料の保管・整理・公開	
(2) 利用状況 (3) レファレンス	
(4) 「資料に学ぶ静岡県の歴史」編さん事業	
10 ビジネス支援	46
11 その他	47
(1) 図書館文化祭	
(2) 静岡県立中央図書館代表团による浙江図書館等調査報告書	
III 特集	55
1 「魯西亜國都ノ図」について	
2 ナポレオン1世勅令編纂『中国語・フランス語・ラテン語対訳辞典』と補遺版の伝来小考	
3 館蔵「口絵」の紹介	
4 静岡県での研修報告	
IV 資料紹介	94
『横須賀惣庄屋覚帳』(掛川市教育委員会蔵)	
表紙……「静岡県立中央図書館と浙江図書館」	

平成20年度 (43号)

巻頭言 静岡県立中央図書館長 天野 忍	1
I 静岡県図書館界の動き	2
II 事業報告	
1 図書係	5
(1) 資料の充実 (2) 視聴覚資料の充実	
(3) 図書館利用状況	
(4) 予約・リクエストおよび相互貸借	
(5) 静岡県視聴覚ライブラリー	
(6) 子ども図書研究室	
(7) グランシップ県立図書館コーナー「えほんのひろば」 (8) 書庫開放	
(9) 特集棚の展示 (10) その他	
2 新聞雑誌係	13
(1) 逐次刊行物の充実	
(2) 特集記事の電算入力	
(3) 郷土雑誌の目次、静岡県関係記事・論文の電算入力	
(4) 静岡県内新聞雑誌総合目録	
(5) 新規受入雑誌の新着棚展示 (6) その他	
3 一般調査係	16
(1) レファレンスサービスについて	
(2) 市町立図書館などへの支援	
(3) 特別取扱資料等の保存と公開	
(4) その他の関連事業	
4 地域調査係	21
(1) 地域資料の充実 (2) 提供情報の充実	
(3) 郷土資料MARCの提供	
(4) 市町立図書館への援助 (5) その他	
5 企画係	23
(1) 図書館職員研修 (2) 利用者からの声	
(3) イベント等 (4) ボランティアの受入	
(5) 職場体験学習・インターンシップ・社会体験研修、施設見学・視察	
(6) 図書館だよりの発行・当館ホームページの運用	
(7) 数値目標および達成状況 (8) その他	
《付録資料》平成20年度『県立中央図書館利用者アンケート』集計結果	
6 振興係	37
(1) 市町立図書館振興	
(2) 関係団体との連携	
(3) 平成20年度協力車事業の統計	
(4) 平成20年度静岡県図書館大会	
7 総務係	42
(1) 図書館協議会	
8 管理係	43
(1) 施設設備の維持管理 (2) 施設利用状況	
9 歴史文化情報センター	44
(1) 県史編さん資料の保管・整理・公開	
(2) 利用状況 (3) レファレンス	
(4) 「資料に学ぶ静岡県の歴史」編さん事業	
(5) 歴史文化情報センターの情報発信	
10 その他	46
(1) ビジネス支援 (2) 図書館文化祭	
(3) 浙江図書館との友好提携の締結	
III 特集	49
(1) 山梨稲川と『淳化閣帖』 天野 忍	
(2) 木村芥舟旧蔵書について (追加)、赤松範一氏寄贈赤松則良氏所蔵図書について	
IV 資料紹介	
鷺沢村袴田家文書～旗本金指近藤氏の御用炭について～	
表紙……「蒸気機関論完全論説」	

平成 22 年度 (44 号)

巻頭言 静岡県立中央図書館長 土屋 光永 1
I 当館の概要 2
1 沿革 2 平成 22 年度静岡県立中央図書館基本方針・事業体系
3 組織図 4 職員 5 予算 6 資料
II 事業報告 (平成 21 年度)
1 静岡県の図書館をめぐるこの 1 年 10
(1) 図書館界をめぐる動き
(2) 県立中央図書館の動き
(3) 県内市町立図書館 (室) の新館と市町村合併
(4) 県図書館大会、関係団体関係事業等の開催
2 利用状況統計 13
(1) 県立中央図書館利用状況
(2) 協力貸出 (3) レファレンス
(4) 静岡県視聴覚ライブラリー貸出状況
(5) 歴史文化情報センター利用状況
3 図書館資料充実状況 16
(1) 図書資料
(2) 視聴覚資料・電子資料・マイクロフィルム等
4 図書係 18
(1) 図書資料の充実 (2) 視聴覚資料の充実
(3) 図書館利用状況
(4) 予約・リクエストおよび相互貸借
(5) 子ども図書研究室
(6) グランシップ県立図書館コーナー「えほんのひろば」
(7) 静岡県視聴覚ライブラリー
(8) その他
5 新聞雑誌係 24
(1) 逐次刊行物の充実
(2) 情報提供の充実 (3) その他
6 一般調査係 26
(1) レファレンスサービス
(2) 市町立図書館などへの支援
(3) 特別取扱資料等の保存と公開
(4) その他の関連事業
7 地域調査係 30
(1) 郷土資料の充実 (2) 提供情報の充実
(3) 郷土資料 MARC の提供
(4) 市町立図書館への援助 (5) その他
8 企画係 32
(1) 図書館職員研修
(2) 利用者意見・アンケート
(3) イベント等 (4) ボランティアの受入
(5) 職場体験学習・インターンシップ・社会体験研修、施設見学・視察
(6) 図書館だよりの発行・当館ホームページの運用
(7) 国民文化祭協力事業「江戸から明治へ初代知事関口隆吉と静岡の貴重書」
(8) 谷田サミット (ムセイオン静岡) の展開
(9) 浙江図書館との友好提携
付録資料 平成 21 年度「静岡県立中央図書館利用者アンケート」集計結果
9 振興係 44
(1) 市町立図書館振興
(2) 関係団体との連携
(3) 協力車事業
(4) 平成 21 年度 図書館大会
10 総務係 48
(1) 図書館協議会
11 管理係 49
(1) 耐震補強工事の実施
(2) 書架の整備
(3) 施設設備の維持管理
(4) 施設利用状況
12 歴史文化情報センター 51
(1) 県史編さん資料の保管・整理・公開
(2) 利用状況 (3) 「関口隆吉関係簡集」刊行
(4) 県内古文書資料の把握
13 資料紹介 52
県令の交代をめぐる新聞記事
～ 2 代奈良原繁から 3 代関口隆吉～
III 施設及びサービス案内 54
1 図書館配置図 2 施設の概要
3 閲覧室内図
4 利用案内 (平成 22 年度)
表紙 < 上村翁旧蔵浮世絵集第 37 集 >
右 月百姿 曹操南屏山昇月
左 月百姿 孫悟空玉兔

平成 23 年度 (45 号)

巻頭言 静岡県立中央図書館長 谷野 純夫 1
I 当館の概要 2
1 沿革 2 平成 23 年度静岡県立中央図書館基本方針・事業体系
3 組織図 4 職員 5 予算
6 資料 (1) 収集基本方針 (2) 資料概要
II 事業報告 (平成 22 年度)
1 静岡県の図書館をめぐるこの 1 年 10
(1) 図書館をめぐる社会情勢
(2) 県立中央図書館の動き
(3) 県内市町立図書館の動き
(4) 県図書館大会、関係団体関係事業等の開催
2 利用状況統計 12
(1) 県立中央図書館利用状況
(2) 協力貸出 (3) レファレンス
(4) 静岡県視聴覚ライブラリー貸出状況
(5) 歴史文化情報センター利用状況
3 図書館資料充実状況 15
(1) 図書資料
(2) 視聴覚資料・電子資料・マイクロフィルム等
4 図書係 17
(1) 図書資料の充実 (2) 視聴覚資料の充実
(3) 図書館利用状況
(4) 予約・リクエストおよび相互貸借
(5) 子ども図書研究室
(6) グランシップ県立図書館コーナー「えほんのひろば」
(7) 静岡県視聴覚ライブラリー (8) その他
5 新聞雑誌係 23
(1) 逐次刊行物の充実
(2) 情報提供の充実 (3) その他
6 一般調査係 25
(1) レファレンスサービス
(2) 市町立図書館などへの支援
(3) 特別取扱資料等の保存と公開
(4) その他の関連事業
7 地域調査係 30
(1) 名称の変更 (2) 地域資料の充実
(3) 情報提供の充実 (4) 資料展示の充実
(5) 地域資料 MARC の提供
(6) 市町立図書館への援助
8 企画係 32
(1) 図書館職員研修
(2) 利用者意見・アンケート
(3) イベント等 (4) ボランティアの受入
(5) 職場体験学習・インターンシップ・社会体験研修、施設見学・視察
(6) 図書館だよりの発行・当館ウェブサイトの運用
(7) 谷田サミット (ムセイオン静岡) の展開
(8) 浙江図書館との友好提携
付録資料 平成 22 年度「静岡県立中央図書館利用者アンケート」集計結果
9 振興係 48
(1) 市町立図書館振興
(2) 関係団体との連携 (3) 協力車事業
(4) 平成 22 年度 図書館大会
10 総務係 52
(1) 図書館協議会
11 管理係 53
(1) 施設設備の維持管理 (2) 施設利用状況
12 歴史文化情報センター 54
(1) 県史編さん資料の保存・整理・公開
(2) 利用状況
(3) 県内古文書資料の本格調査
13 「国民読書年 2010! しずおか」 55
(1) 「国民読書年 2010! しずおか」連携企画
(2) 各月館内企画展示及び関連講演会
(3) ブックカフェ、呈茶サービス等
(4) その他共催事業等
「国民読書年を 1 年で終わらせてはならない」前静岡県立中央図書館長 土屋光永
14 資料紹介 明治 20 年代前半の新聞『曉鐘新報』～東伊豆町大川区有資料～ 57
III 施設及びサービス案内 60
1 図書館配置図 2 施設の概要
3 閲覧室内図
4 利用案内 (平成 23 年度)
表紙 < 上村翁旧蔵浮世絵集第 31 集 >
千代田の大奥観菊

平成 24 年度 (46 号)

巻頭言 静岡県立中央図書館長 谷野 純夫 1
I 当館の概要 2
1 沿革 2 平成 24 年度静岡県立中央図書館基本方針・事業体系 3 組織図
4 職員 5 予算
6 資料 (1) 収集基本方針 (2) 資料概要
II 事業報告 (平成 23 年度)
1 静岡県の図書館をめぐるこの 1 年 10
(1) 図書館をめぐる社会情勢と本県の対応
(2) 県立中央図書館における行事の実施
(3) 県内市町の新図書館設置の動き
(4) 県図書館大会、関係団体関係事業等の開催
2 利用状況統計 13
(1) 県立中央図書館利用状況 (2) 協力貸出
(3) レファレンス
(4) 静岡県視聴覚ライブラリー貸出状況
(5) 歴史文化情報センター利用状況
3 図書館資料充実状況 16
(1) 図書資料
(2) 視聴覚資料・電子資料・マイクロフィルム等
4 図書係 18
(1) 図書資料の充実 (2) 視聴覚資料の充実
(3) 図書館利用状況
(4) 予約・リクエストおよび相互貸借
(5) 子ども図書研究室
(6) グランシップ県立図書館コーナー「えほんのひろば」
(7) 静岡県視聴覚ライブラリー (8) その他
5 新聞雑誌係 25
(1) 逐次刊行物の充実 (2) 情報提供の充実
(3) その他
6 一般調査係 27
(1) レファレンスサービス
(2) 市町立図書館などへの支援
(3) 特別取扱資料等の保存と公開
(4) その他の関連事業
7 地域調査係 32
(1) 地域資料の充実 (2) 情報提供の充実
(3) 資料展示の充実
(4) 地域資料 MARC の提供
(5) 市町立図書館への支援
(6) 書庫の狭隘化への対応
8 企画係 34
(1) 図書館職員研修
(2) 利用者意見・アンケート
(3) イベント等 (4) ボランティアの受入
(5) 職場体験学習・インターンシップ・社会体験研修、施設見学・視察
(6) 図書館だよりの発行・当館ウェブサイトの運用
(7) ムセイオン静岡
(8) 浙江図書館との友好提携
付録資料 平成 23 年度「静岡県立中央図書館利用者アンケート」集計結果
9 振興係 54
(1) 市町立図書館振興
(2) 関係団体との連携 (3) 協力車事業
(4) 平成 23 年度 静岡県図書館大会
10 総務係 58
(1) 図書館協議会
11 管理係 59
(1) 大規模改修工事の実施
(2) 書架等備品の整備 (3) 施設利用状況
12 平成 22 年度補正予算「住民生活に光をそそぐ交付金」事業 60
(1) 予算の状況 (2) 事業概要
13 歴史文化情報センター 63
(1) 県史編さん資料の保存・整理・公開
(2) 利用状況
14 健康医療情報 64
(1) 7 月 22 日正式オープン (2) 内容
(3) 平成 23 年度関連事業
15 資料紹介『駿府風土記』の「富士山禪定図」
16 資料紹介富士山宝永噴火絵図～御厨地方(御殿場・小山)の状況を中心として～
III 施設及びサービス案内 74
1 図書館配置図 2 施設の概要
3 閲覧室内図
4 利用案内 (平成 24 年度)
表紙 < 煩鉄全書図

平成 25 年度 (47 号)

巻頭言 静岡県立中央図書館長 谷野 純夫 1
I 当館の概要 2
1 沿革
2 平成 25 年度静岡県立中央図書館基本方針・事業体系
3 組織図 4 職員 5 予算
6 資料 (1) 収集基本方針 (2) 資料概要
II 事業報告 (平成 24 年度)
1 静岡県の図書館をめぐるこの 1 年 10
(1) 図書館をめぐる社会情勢と本県の対応
(2) 県立中央図書館の今後の在り方をめぐって
(3) 県内市町の新図書館設置の動き
(4) 県図書館大会、関係団体事業等の開催
2 利用状況統計 13
(1) 県立中央図書館利用状況 (2) 協力貸出
(3) レファレンス
(4) 静岡県視聴覚ライブラリー貸出状況
(5) 歴史文化情報センター利用状況
3 図書館資料充実状況 16
(1) 図書資料
(2) 視聴覚資料・電子資料・マイクロフィルム等
4 図書係 18
(1) 図書資料の充実 (2) 視聴覚資料の充実
(3) 図書館利用状況
(4) 予約・リクエストおよび相互貸借
(5) 子ども図書研究室
(6) グランシップ県立図書館コーナー「えほんのひろば」
(7) 静岡県視聴覚ライブラリー (8) その他
5 新聞雑誌係 25
(1) 逐次刊行物の充実 (2) 情報提供の充実
(3) その他
6 一般調査係 27
(1) レファレンスサービス
(2) 市町立図書館等への支援
(3) 特別取扱資料等の保存と公開
(4) その他の関連事業
7 地域調査係 32
(1) 地域資料の充実 (2) 情報提供の充実
(3) 資料展示の充実
(4) 市町立図書館への支援
8 企画係 34
(1) 図書館職員研修
(2) 利用者意見・アンケート
(3) イベント等 (4) 大人の読書推進事業
(5) ボランティアの受入
(6) 職場体験学習・インターンシップ・社会体験研修、施設見学・視察
(7) 図書館だよりの発行・当館ウェブサイトの運用
(8) ムセイオン静岡の展開
(9) 浙江図書館との友好提携
付録資料「平成 24 年度「静岡県立中央図書館利用者アンケート」集計結果
9 振興係 51
(1) 市町立図書館振興
(2) 関係団体との連携 (3) 協力車事業
(4) 平成 24 年度 静岡県図書館大会
10 総務係 55
(1) 図書館協議会
11 管理係 56
(1) 施設設備の維持管理 (2) 施設利用状況
12 健康医療情報サービス 57
(1) サービス内容 (2) 関連事業
13 歴史文化情報センター 58
(1) 県史編さん資料の保存・整理・公開
(2) 利用状況
14 資料紹介 安政の大地震 59
III 施設及びサービス案内 62
1 図書館配置図 2 施設の概要
3 閲覧室内図
4 利用案内 (平成 25 年度)
表紙 「太平の御恩沢に云々鯉絵」

平成 26 年度 (48 号)

巻頭言 静岡県立中央図書館長 谷野 純夫 1
I 当館の概要 2
1 沿革
2 平成 26 年度静岡県立中央図書館基本方針・事業体系
3 組織図 4 職員 5 予算
6 資料 (1) 収集基本方針 (2) 資料概要
II 事業報告 (平成 25 年度)
1 静岡県の図書館をめぐるこの 1 年 10
(1) 図書館をめぐる社会情勢と本県の動き
(2) 県立中央図書館の今後のあり方をめぐって
(3) 県内市町の新図書館設置の動き
(4) 県図書館大会、関係団体関係事業等の開催
2 利用状況統計 13
(1) 県立中央図書館利用状況 (2) 協力貸出
(3) レファレンス
(4) 静岡県視聴覚ライブラリー貸出状況
(5) 歴史文化情報センター利用状況
3 図書館資料充実状況 16
(1) 図書資料
(2) 視聴覚資料・電子資料・マイクロフィルム等
4 図書係 19
(1) 図書資料の充実 (2) 視聴覚資料の充実
(3) 図書館利用状況
(4) 予約・リクエスト・相互貸借 (含協力貸出)
(5) 子ども図書研究室
(6) グランシップ県立図書館コーナー「えほんのひろば」
(7) 静岡県視聴覚ライブラリー (8) その他
5 新聞雑誌係 26
(1) 逐次刊行物の充実 (2) 情報提供の充実
(3) その他
6 一般調査係 28
(1) レファレンスサービス
(2) 市町立図書館などへの支援
(3) 特別取扱資料等の保存と公開
(4) その他の関連事業
7 地域調査係 33
(1) 地域資料の充実 (2) 情報提供の充実
(3) 資料展示 (4) 市町立図書館への支援
(5) 地域資料のデジタル化
8 企画係 35
(1) 図書館職員研修
(2) 利用者意見・アンケート
(3) イベント等 (4) 大人の読書推進事業
(5) ボランティアの受入
(6) 職場体験学習・インターンシップ・社会体験研修、施設見学・視察
(7) 図書館だよりの発行・当館ウェブサイトの運用
(8) ムセイオン静岡の展開
(9) 浙江図書館との友好提携
付録資料「平成 25 年度「静岡県立中央図書館利用者アンケート」集計結果
9 振興係 56
(1) 市町立図書館振興
(2) 関係団体との連携 (3) 協力車事業
(4) 平成 25 年度 静岡県図書館大会
10 総務係 60
(1) 図書館協議会
11 管理係 61
(1) 施設設備の維持管理 (2) 施設利用状況
12 健康医療情報サービス 62
(1) サービス内容 (2) 関連事業
13 歴史文化情報センター 63
(1) 県史編さん資料の保存・整理・公開
(2) 利用状況
14 資料紹介 狩野川台風 64
III 施設及びサービス案内 68
1 図書館配置図 2 施設の概要
3 閲覧室内図
4 利用案内 (平成 26 年度)
表紙 「富士山詣案内図」(『駿府風土記』)

平成 27 年度 (49 号)

巻頭言 静岡県立中央図書館長 河原崎 全 1
I 当館の概要 2
1 沿革
2 平成 27 年度静岡県立中央図書館基本方針・事業体系
3 組織図 4 職員 5 予算
6 資料 (1) 収集基本方針 (2) 資料概要
II 事業報告 (平成 26 年度)
1 静岡県の図書館をめぐるこの 1 年 10
(1) 図書館をめぐる社会情勢と本県の動き
(2) 静岡県立中央図書館の今後のあり方をめぐって
(3) 県内市町の新図書館設置の動き
(4) 静岡県図書館大会、関係団体関係事業等の開催
2 利用状況統計 13
(1) 静岡県立中央図書館利用状況
(2) 協力貸出 (3) レファレンス
(4) 静岡県視聴覚ライブラリー貸出状況
(5) 歴史文化情報センター利用状況
3 図書館資料充実状況 16
(1) 図書資料
(2) 視聴覚資料・電子資料・マイクロフィルム等
4 図書係 18
(1) 図書資料の充実 (2) 視聴覚資料の充実
(3) 図書館利用状況
(4) 予約・リクエスト・相互貸借 (含協力貸出)
(5) 子ども図書研究室
(6) グランシップ県立図書館コーナー「えほんのひろば」
(7) 静岡県視聴覚ライブラリー (8) その他
5 新聞雑誌係 25
(1) 逐次刊行物の充実 (2) 提供情報の充実
(3) その他
6 一般調査係 27
(1) レファレンスサービス
(2) 市町立図書館などへの支援
(3) 特別取扱資料等の保存と公開
(4) その他の関連事業
7 地域調査係 32
(1) 地域資料の充実 (2) 提供情報の充実
(3) 資料展示 (4) 市町立図書館への支援
(5) 地域資料のデジタル化
8 企画係 34
(1) 図書館職員研修
(2) 利用者意見・アンケート
(3) イベント等 (4) 大人の読書推進事業
(5) ボランティアの受入
(6) 職場体験学習・インターンシップ・社会体験研修、施設見学・視察
(7) 図書館だよりの発行・当館 Web サイトの運用
(8) ムセイオン静岡の展開
(9) 浙江図書館との友好提携
(10) インターネット予約による市町立図書館等受取サービスの試行
付録資料「平成 26 年度「静岡県立中央図書館利用者アンケート」集計結果
9 振興係 51
(1) 市町立図書館振興
(2) 関係団体との連携 (3) 協力車事業
(4) 平成 26 年度 静岡県図書館大会
10 総務係 55
(1) 図書館協議会
11 管理係 56
(1) 施設設備の維持管理 (2) 施設利用状況
12 健康医療情報サービス 57
(1) サービス内容 (2) 関連事業
13 歴史文化情報センター 58
(1) 県史編さん資料の保存・整理・公開
(2) 利用状況
14 資料紹介
戦前の静岡県史資料等 (その 1) 59
III 施設及びサービス案内 62
1 図書館配置図 2 施設の概要
3 閲覧室内図
4 利用案内 (平成 27 年度)
表紙 「駿河國御城圖」

表紙の写真 『静岡県立葵文庫記念写真帖』より「開館式記念ノ一」

当館請求記号：S010/17 28×37 c m 1冊
大正 14 年（1925 年）

『静岡県立葵文庫記念写真帖』は、当館の前身である静岡県立葵文庫の開館を記念して編纂された写真帖で、当時撮影された当館の写真 73 枚が台紙に貼付されている。

表紙の写真について、詳細は不明だが、キャプションに「開館式記念ノ一」とあることから、大正 14 年に行われた当館の開館式の様子であると思われる。開館式の会場は、当時の講堂で、昭和 20 年 6 月の静岡大空襲で焼失してしまったものである。

また、巻頭グラビアには、『静岡県立葵文庫記念写真帖』を出典とする写真が 5 枚掲載されている。いずれも当館の開館当時の様子を表している。

葵 50 号

平成 28 年 6 月 1 日発行

編集・発行 静岡県立中央図書館

〒422-8002 静岡市駿河区谷田 53-1

電話 (054) 262-1242(代)

FAX (054) 264-4268

<http://www.tosyokan.pref.shizuoka.jp>

